

講義要綱

2019 年度

経営学部

経営学科

2016 年度入学生用

< 4 年生用 >

東京富士大学



SYLLABUS 2019

講 義 要 綱

SYLLABUS

2019年度

経営学部経営学科

< 4年生 >

東京富士大学

－ シラバスの利用について －

このシラバスは、2019年度の春学期・秋学期に経営学部経営学科（4年生）で開講する全授業についてその概要を示してあります。学生の皆さんが1年間の学修計画を立てるための手助けとなるはずです。

シラバスには、授業内容とその達成目標、授業で使用するテキストや参考書、さらに成績評価法、履修条件、授業計画などを記してあります。

履修の際には必ず、「学生要覧」と「授業時間割表」とあわせて参照するようにしてください。また、授業期間中は、「授業計画」のどの部分を学習しているのかを常に確認して、復習および予習の参考にしてください。

※シラバス (syllabus) は、ギリシャ語の *sittuba* すなわち「羊皮紙製の書籍のラベル」または「標題紙」という意味の言葉が語源です。

目 次

履修対象：経営学部経営学科＜4年生＞

《教養科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
基礎演習Ⅰ（再履修）	4	2	半期	浮谷 秀一	1
基礎演習Ⅱ（再履修）	4	2	半期	浮谷 秀一	3
総合英語Ⅰ（再履修）	3～4	2	半期	阿部 牧子	5
総合英語Ⅱ（再履修）	3～4	2	半期	阿部 牧子	7
英会話Ⅰ（留学生対象）	4	1	半期	木村 直樹	9
英会話Ⅰ（再履修）	4	1	半期	木村 直樹	11
英会話Ⅱ（留学生対象）	4	1	半期	木村 直樹	13
英会話Ⅱ（再履修）	4	1	半期	木村 直樹	15
キャリアデザイン	4	2	半期	志塚 昌紀	17
日本語Ⅰ（留学生科目）	4	2	半期	糸川 優 小林 寛典 塩谷由美子	19 21 23
日本語Ⅱ（留学生科目）	4	2	半期	糸川 優 小林 寛典 塩谷由美子	25 27 29
日本語Ⅲ（留学生科目）	4	2	半期	糸川 優 小林 寛典 塩谷由美子	31 33 35
英語Ⅰ	4	1	半期	阿部 牧子	37
英語Ⅱ	4	1	半期	阿部 牧子	39
英語Ⅲ	4	1	半期	阿部 牧子	41
英語Ⅳ	4	1	半期	阿部 牧子	43
TOEICⅠ	4	2	半期	宍戸カール	45
TOEICⅡ	4	2	半期	宍戸カール	47
フランス語Ⅰ	4	1	半期	野口 恵子 三富 祐子	49 51
フランス語Ⅱ	4	1	半期	野口 恵子 三富 祐子	53 55
中国語Ⅰ	4	1	半期	井上 良雄	57
中国語Ⅱ	4	1	半期	井上 良雄	59
韓国語Ⅰ	4	1	半期	黄 美貞	61
韓国語Ⅱ	4	1	半期	黄 美貞	63
日本語Ⅳ（留学生科目）	4	2	半期	糸川 優 小林 寛典 塩谷由美子	65 67 69

履修対象：経営学部経営学科＜4年生＞

《教養科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
社会学Ⅰ	4	2	半期	宋 愛	71
社会学Ⅱ	4	2	半期	宋 愛	73
法学Ⅰ（憲法含む）	4	2	半期	坂入 遼	75
				長岐 郁也	77
法学Ⅱ	4	2	半期	坂入 遼	89
				長岐 郁也	81
心理学	4	2	半期	浮谷 秀一	83
				松田美登子	85
哲学	4	2	半期	休講	—
現代思想	4	2	半期	隅田 浩司	87
文化人類学	4	2	半期	休講	—
文学	4	2	半期	網本 尚子	89～98
文章表現法	4	2	半期	網本 尚子	99～106
芸術論	4	2	半期	休講	—
生命科学	4	2	半期	古田 玲子	107
国際関係論	4	2	半期	黒澤 愛美	109
異文化コミュニケーション	4	2	半期	清水 俊樹	111
				藤本 学	
経営数学	4	2	半期	松本 勇樹	113
マネジメント入門	4	2	半期	休講	—
コンピュータリテラシー	4	2	半期	萩野 弘道	115
ビジネスコンピューティング	4	2	半期	鬼木 一直	117
就職特講Ⅰ	3～4	2	半期	野沢 牧子	119
				宮地 由夏	121
就職特講Ⅰ（留学生対象）	3～4	2	半期	塩谷由美子	123
就職特講Ⅱ	3～4	2	半期	休講	—
健康と運動Ⅰ	4	1	半期	井上 航人	125
				田島外志美	127
				西村 卓二	129
健康と運動Ⅱ	4	1	半期	井上 航人	131
				田島外志美	133
				西村 卓二	135
健康と運動Ⅲ	4	1	半期	井上 航人	137
				田島外志美	139
健康と運動Ⅳ	4	1	半期	井上 航人	141
				田島外志美	143

履修対象：経営学部経営学科<4年生>

《教養科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
日本事情（留学生科目）	4	2	半期	糸川 優	145
				小林 寛典	147
インターンシップⅠ	4	1	認定	高橋 哲也	149
インターンシップⅡ	4	1	認定	高橋 哲也	151
インターンシップⅢ	4	1	認定	高橋 哲也	153
インターンシップⅣ	4	1	認定	高橋 哲也	155
自己開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	4	各1	認定		157

履修対象：経営学部経営学科〈4年生〉

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
経営学概論	4	4	通年	石川 勝 円城寺敬浩 藤森 大祐 山口 善昭	159 161 163 165
経営学概論（留学生対象）	4	4	通年	小川 達也	167
経済学概論	4	4	通年	清水 良樹 松田 岳	169 171
会計学概論	4	4	通年	石塚 一彌 土井 充 光澤 美芽	173 175 177
マーケティング概論Ⅰ	4	2	半期	花尾由香里 日野 隆生 広瀬 盛一	179 181 183
マーケティング概論Ⅱ	4	2	半期	花尾由香里 日野 隆生 広瀬 盛一	185 187 189
企業論Ⅰ	4	2	半期	円城寺敬浩 清水 太陽	191 193
企業論Ⅱ	4	2	半期	円城寺敬浩 清水 太陽	195 197
経営管理論	4	2	半期	渡辺 康宏	199
経営組織論Ⅰ	4	2	半期	山口 善昭 渡辺 泰宏	201 203
経営組織論Ⅱ	4	2	半期	山口 善昭 渡辺 泰宏	205 207
経営戦略論Ⅰ	4	2	半期	小川 達也	209
経営戦略論Ⅱ	4	2	半期	小川 達也	211
近代経済学	4	2	半期	清水 良樹	213
経営史	4	2	半期	清水 太陽	215
会社法	4	2	半期	休講	—
中小企業論	4	2	半期	青山 和正 山岡淳一郎 山川 悟	217 219 221
中小企業経営論	4	2	半期	青山 和正 山岡淳一郎	223 225
経営情報学	4	2	半期	鬼木 一直	227
人的資源管理論Ⅰ	4	2	半期	高橋 哲也	229

履修対象：経営学部経営学科＜4年生＞

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
人的資源管理論Ⅱ	4	2	半期	高橋 哲也	231
マーケティングプランニングⅠ	4	2	半期	山川 悟	233
マーケティングプランニングⅡ	4	2	半期	山川 悟	235
広告論Ⅰ	4	2	半期	荒井 充	237
				広瀬 盛一	239
広告論Ⅱ	4	2	半期	広瀬 盛一	241
ブランドマーケティング論	4	2	半期	山川 悟	243
入門簿記Ⅰ	4	2	半期	北井不二男	245
				土井 充	247
				福山 倫基	249
				光澤 美芽	251
				村上 翔一	253
入門簿記Ⅱ	4	2	半期	北井不二男	255
				土井 充	257
				福山 倫基	259
				光澤 美芽	261
				村上 翔一	263
財務会計Ⅰ	4	2	半期	小森 秀人	265
財務会計Ⅱ	4	2	半期	小森 秀人	267
管理会計Ⅰ	4	2	半期	福山 倫基	269
管理会計Ⅱ	4	2	半期	福山 倫基	271
専門演習Ⅰ	4	4	通年	土井 充	273
				日野 隆生	275
				松田 岳	277
				渡辺 泰宏	279
専門演習Ⅱ	3～4	4	通年	石塚 一彌	281
				小川 達也	283
				鬼木 一直	285
				隅田 浩司	287
				土井 充	289
				日野 隆生	291
				広瀬 盛一	293
				藤森 大祐	295
				松田 岳	297
				山川 悟	299
				渡辺 泰宏	301

履修対象：経営学部経営学科〈4年生〉

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
専門演習Ⅲ	4	4	通年	石塚 一彌	303
				小川 達也	305
				鬼木 一直	307
				隅田 浩司	309
				土井 充	311
				日野 隆生	313
				広瀬 盛一	315
				藤森 大祐	317
				松田 岳	319
				山川 悟	321
渡辺 泰宏	323				
専門特別演習Ⅰ	4	4	通年	休講	—
専門特別演習Ⅱ	4	4	通年	休講	—
卒業論文	4	2	通年		325
環境経営学	4	2	半期	藤森 大祐	327
経営倫理	4	2	半期	休講	—
コンピュータ概論	4	2	半期	休講	—
情報システム	4	2	半期	休講	—
情報処理Ⅰ	4	2	半期	休講	—
情報処理Ⅱ	4	2	半期	休講	—
ベンチャービジネス	4	2	半期	青山 和正	329
				片山源治郎	331
				金 弘宗	333
新事業創造論	4	2	半期	片山源治郎	335
				金 弘宗	337
銀行論	4	2	半期	清水 太陽	339
証券論	4	2	半期	清水 太陽	341
生活金融論	4	2	半期	清水 良樹	343
流通論Ⅰ	4	2	半期	深澤 琢也	345
流通論Ⅱ	4	2	半期	深澤 琢也	347
商品論	4	2	半期	田口 冬樹	349
経済法	4	2	半期	隅田 浩司	351
労働法	4	2	半期	黒岩 容子	353
消費者法	4	2	半期	隅田 浩司	355
財政学	4	2	半期	休講	—
経済政策	4	2	半期	清水 太陽	357
消費者行動論Ⅰ	4	2	半期	中嶋 励子	359

履修対象：経営学部経営学科〈4年生〉

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
消費者行動論Ⅰ	4	2	半期	花尾由香里	361
消費者行動論Ⅱ	4	2	半期	中嶋 励子 花尾由香里	363 365
販売管理論Ⅰ	4	2	半期	深澤 琢也	367
販売管理論Ⅱ	4	2	半期	深澤 琢也	369
コンテンツビジネス論Ⅰ	4	2	半期	山川 悟	371
コンテンツビジネス論Ⅱ	4	2	半期	山川 悟	373
経営心理学	4	2	半期	佐藤 恵美	375
イベント学	4	2	半期	奥 正孝	377
サービス産業論	4	2	半期	日野 隆生	379
経理実務入門Ⅰ	4	2	半期	休講	—
経理実務入門Ⅱ	4	2	半期	休講	—
商業簿記Ⅰ	4	2	半期	村上 翔一	381
商業簿記Ⅱ	4	2	半期	村上 翔一	383
工業簿記Ⅰ	4	2	半期	福山 倫基	385
工業簿記Ⅱ	4	2	半期	福山 倫基	387
経営分析	4	2	半期	坂入 遼	389
監査論	4	2	半期	休講	—
財務諸表論	4	2	半期	光澤 美芽	391
租税概論Ⅰ	4	2	半期	三関 公雄	393
租税概論Ⅱ	4	2	半期	三関 公雄	395
税務会計Ⅰ	4	2	半期	石塚 一彌	397
税務会計Ⅱ	4	2	半期	石塚 一彌	399
法人税	4	2	半期	我妻 純子	401
所得税	4	2	半期	我妻 純子	403
ビジネス英語Ⅰ	4	2	半期	宍戸カール	405
ビジネス英語Ⅱ	4	2	半期	宍戸カール	407
経営学特講Ⅰ	4	2	半期	石渡 正人	409
経営学特講Ⅱ	4	2	半期	原 晶子	411
経営学特講Ⅲ	4	2	半期	大山 利栄 堀口 弘治	413 415
経営学特講Ⅳ	4	2	半期	岡崎 正一	417
経営学特講Ⅳ	4	2	半期	林 倬史	419
簿記技能Ⅰ（日商3級）	4	2	集中	福山 倫基	421
簿記技能Ⅱ（日商2級）	4	2	集中	光澤 美芽	423
ビジネス実務法務	4	2	集中	休講	—
販売技術	4	2	集中	休講	—

科目末尾の表記（Ⅰ・Ⅱ）について

Ⅰ：基本的にⅡの科目と連携しており、Ⅱの科目の基礎になります。

Ⅰ・Ⅱの科目を履修することが望ましい。

Ⅱ：基本的にⅠの科目と連携しており、Ⅰの科目の履修を前提とする（Ⅰの上級レベル）。

Ⅰの科目を履修した学生、もしくは同程度の知識を持つ学生が履修することが望ましい。

(注)「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」、「日本語Ⅳ」、「日本事情」は、留学生科目です。

教 養 科 目

2019年度

経営学部経営学科

< 4年生用 >

東京富士大学

基礎演習 I (再履修)	ウキヤ シユウイチ 浮谷 秀一
Foundational Seminar I	必修科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

この授業は、高校とは異なる大学での学び方、たとえば、授業をどのように受ければいいのか、そして授業の内容を理解するためにはどのようにすればいいのか、そしてレポートや自分の研究成果を発表するプレゼンテーションの方法等について学びます。

とくに、大学では、いろいろな知識を組み合わせ、自分で情報を整理し、それを分析することが求められます。そこで必要となるのが「考える力（思考力）」です。今後、生きていく上で最も大切なこの考える力を身につけること、これがこの授業の目標です。そして、大学の授業では、一人で勉強するだけでなく、同級生や先輩などと一緒に勉強するグループ学習も重要です。しかし、最初は、あまりよく知らない人と一緒に勉強することが苦手だな、と思う人も多いと思います。そこで、演習では、グループで一緒に作業するやりかたについても学習します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
心を整える3つの実務IQをどの程度、理解し実践できたか？	「心を整える3つの実務IQ」とは、「突破力」（物事に前向きに取り組む力）、「自制力」（自分をコントロールする力）そして「忍耐力」（失敗してもあきらめず、努力する力）です。 授業では、演習や課題に前向きに取り組む姿勢や、自分をコントロールして難しい課題に対しても簡単にあきらめない姿勢、そして課題でうまくいかないことがあっても、それを学びとして前進する姿勢を評価します。	30%
個性を伸ばす2つの実務IQをどの程度、理解し実践できたか？	個性を伸ばす2つの実務IQとは「思考力」と『創造性』です。この2つは課題やレポート、そして授業の発言の中で、適切に考え、安易な結論に飛びついていないかどうか、いろいろな情報を整理し、それを組み合わせて新しい発想を生み出しているかどうかを評価します。	30%
仲間や組織で活かす2つの実務IQをどの程度、理解し実践できたか？	仲間や組織で活かす2つの実務IQとは、「協働力」と「主張力」です。この2つは、グループ学習での学習姿勢を通じて、グループ学習に前向きに取り組む、周囲に良い影響を与えているか、自分の意見が他の人の意見と違っていてもきちんと自己主張できているかどうかを評価します。	30%
社会常識を身につけることができたか？	授業を受けるに際しての最低限のマナー、社会常識を身につけているか、あるいは授業を通じて、そのような社会常識やマナーを身につけることができたかどうかを評価します。	10%
評価の方法 課題、レポート、授業への参加姿勢を総合的に評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	大学での学びとは？	入学式後のフレッシュマン・オリエンテーションへ参加
2	学び方、考える力を身につける	・成果の出る学び方（学習方法）について学びます
3		・適切な思考法として、論理の基礎を学びます
4		・意見を述べる際の議論の組み立て方について学びます
5		・意見を整理する方法について学びます
6	レポートを書く	・レポート作成の基本である文章執筆について学びます
7		・レポート作成の基本技術、アウトライン作成を学びます
8		・参考文献リストと文献の活用方法について学びます
9		・計画的な執筆について学びます
10		・効率的なレポートの書き方について学びます
11	プレゼンテーションをする	・プレゼンテーションとは何か、について学びます
12		・自分の意見を伝える技術について学びます
13		・プレゼン資料の作成方法について学びます
14		・プレゼンテーションを体験する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：初回の授業で指示する。

◇参考図書：狩野光伸著『論理的な考え方 伝え方：根拠に基づく正しい議論のために』
慶應義塾大学出版会、2015年（1,944円）

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回、予習課題が提示されますので確実に予習課題をこなしてください。

【その他の注意事項】

1) 入学式直後に行われるフレッシュマン・オリエンテーションから講義がスタートします。

基礎演習Ⅱ（再履修）	ウキヤ シユウイチ 浮谷 秀一
Foundational Seminar II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義は、自分の将来設計、すなわち「キャリア・デザイン」の基本的な考え方について学びます。講義では、キャリアとは何か、そして、職業を選択すること、組織や企業で働くことの意味を考え、その上で、最終的には自分のキャリアをデザインすることができるようになるよう指導します。この講義を受講することによって、自分のキャリア・デザインを踏まえて、大学で何をどのように学ぶべきかがはっきりと理解できるようになり、大学での学びが深まります。そして、さらには、将来への準備に早期に取りかかることができるので、4年生の時の就職活動にも役立ちます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己分析、職業興味、価値観、自身の強みなどについて理解する	実際にいくつかの自己分析のワークシートに取り組んでもらう。授業時に行う課題への取り組みの姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
業界分析・企業分析の基礎について理解し、興味のある分野を探索する	興味関心のある業界や企業について調べ、分析をする。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
自己分析と企業分析を基にして自身の自己ピーアールを作成する	それまでに行ってきた課題の内容を踏まえて、自身の自己ピーアールを作成する。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
多様な働き方について理解をする。また自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける	キャリア・デザインをしていく上で必要になる考え方について理解をしているか確認するため、自由記述型の論述試験を行う自身のキャリアを真摯に考え記述しているかどうかについて評価をする	25%
評価の方法 授業時の課題75点（受講態度含む）、期末課題25点		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	キャリア・デザイン総論	講義の概要について解説
2	大学生活を充実させる①	大学生活に目標やスケジュール。PDCAサイクルを考える
3	大学生活を充実させる②	海外留学・インターンシップについて解説
4	ライフプラン	大学卒業後の進路選択、30歳までのライフプラン
5	働くとは何か	できること、やりたいことを基礎に働くことを考える
6	働く人の権利	労働法の基礎について解説
7	労働と収入	給与とは何か。奨学金と生涯賃金について解説
8	自己分析	価値観と雇用のミスマッチについて
9	資格取得	キャリア形成と資格取得の意義について解説
10	大学生活を充実させる③	ゼミ発表大会に参加しレポートを作成
11	企業分析・業界分析	キャリア・デザインに必要となる企業分析調査
12	就職試験総論	SPI試験など就職に関する試験について解説と体験
13	就職試験体験	内定者報告会：4年生による内定報告とレポート作成
14	就職試験体験	ビジネスマナー（服装・ビジネス文書など）について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しません。

【履修条件等】

◇授業中に行う課題に真剣に取り組むこと。

◇提出課題の期日を守れること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料のキャリアに関するキーワードについて調べること。

◇キャリア・雇用に関する時事問題について指示された内容を新聞・雑誌等で調査する
事前課題が出る場合があります。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

総合英語 I (再履修)	アベ マキコ 阿部 牧子
Integrated English I	必修科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は15ユニットに渡って、アメリカに留学中の日本人学生の日常生活を描いています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音指導を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きについて区別できる	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。なるべく英語で直接考えるようにする	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
各章に配されている単語と派生語の意味を覚え、書けるようにする	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声CDで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法 本試験50%、語彙テスト20%、授業での発言など30%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明、自己紹介他
2	品詞と語順	名詞、動詞、形容詞、副詞の文中での役割を理解する
3	be 動詞	First Day of Class
4	一般動詞の現在形	I Love Bread
5	可算名詞/不可算名詞	Pizza Time
6	代名詞	Not Just a Baker
7	一般動詞の過去形	What's Wrong With Hitomi?
8	中間試験	試験と解説
9	進行形	It Won't Hurt
10	時と場所を表す前置詞	I Feel Healthy Already
11	未来形	Small Talk
12	現在完了形	Weight Down, Power Up
13	総まとめ	演習問題と解説
14	総まとめ	演習問題と解説
15	本試験	試験（60分）と解説

【使用教材】

◇ ENGLISH Aid

Robert Hickling / Misato Usukura 著 金星堂

【副教材】

◇ A Shorter Course in English Grammar Check

Seishi Sato 著 南雲堂

【履修条件等】

◇総合英語は必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示されたホームワークをやってくこと。

【その他の注意事項】

◇教材なしで出席した日の平常点は0（ゼロ）点になります。

◇入学時に配布された iPad を使うことがあります。

総合英語Ⅱ（再履修）	アベ マキコ 阿部 牧子
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は15ユニットに渡って、アメリカに留学中の日本人学生の日常生活を描いています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音指導を行います。

使用教材は年度の始めに購入しておくようにしてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きについて区別できる	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。なるべく英語で直接考えるようにする	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
各章に配されている単語と派生語の意味を覚え、書けるようにする	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声CDで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法 本試験50%、語彙テスト20%、授業での発言など30%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	比較級/最上級	It's Nice ... And
2	接続詞	Hitomi Wants a New Look
3	動名詞/不定詞	Shopping for Clothes
4	疑問詞	I'm Meeting a Friend
5	助動詞	Date Night
6	受動態	It's Party Time
7	中間試験	試験と解説
8	関係代名詞	レポートの提出
9	関係代名詞	演習問題
10	仮定法	宝くじが当たったらなあ
11	仮定法	演習問題
12	音読	未定。1回目の講義時に指示する
13		
14	総まとめ	演習と解説
15	本試験	試験(60分)と解説

【使用教材】

◇ ENGLISH Aid

Robert Hickling / Misato Usukura 著 金星堂

【副教材】

◇ A Shorter Course in English Grammar Check

Seishi Sato 著 南雲堂

【履修条件等】

◇総合英語は選択必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示されたホームワークをやってくること。

【その他の注意事項】

◇入学時に配布された iPad を使うことがあります。

◇使用教材を必ず準備してください。

英会話 I (留学生)	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation I	選択科目 / 半期 / 1 単位

【授業概要】

この講座では、英語の基本表現を使いこなし、海外旅行や出張先でのさまざまな場面において、自信を持って適切に話せるようになることを目的としています。「英会話」となると身構えてしまうことも多いかとは思いますが、実際には非常に限られた表現を組み合わせるだけでも、自分の意図は十分相手に伝わる人が多いです。この授業では、そのような基本フレーズを学習し、そのフレーズの使い方を授業内で練習した後で、さらに海外での会話のバリエーションを増やすためのコツを解説します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
相手の意図を理解し、簡単な英語表現で応答できるようになる	講師と学生の間でロールプレイを行い、その英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
会話の鍵となる単語や語句を聞き取り、書いて表現できるようになる	授業中のリスニング課題で評価します。	25%
英会話に頻繁に用いる定型表現と語彙を学ぶ	期末試験および小テストによって評価します。	25%

評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、そこにそれ以外の平常点（課題や発表、授業での積極性など30%を加え、計100%として評価する。
授業への出席は3分の2以上を前提とする（『学生要覧』参照）。

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit 1 : In-Flight Announcements	空港から航空機内での表現を学ぶ
3	(continued)	(続き)
4	Unit 2 : At Customs	入国手続きに必要な表現を学ぶ
5	(continued)	(続き)
6	Unit 3 : Getting to a Hotel	空港からホテルへの移動時に使う表現を学ぶ
7	(continued)	(続き)
8	Unit 4 : Checking into a Hotel	ホテルのチェックイン時の表現を学ぶ
9	(continued)	(続き)
10	Unit 5 : Check-in w/o Reservation	予約なしでチェックインする際の表現を学ぶ
11	(continued)	(続き)
12	Unit 6 : At a Restaurant	レストランでの注文方法や支払いについて学ぶ
13	(continued)	(続き)
14	春学期のまとめと復習	復習および達成度テストへの準備
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Shimada, Takuji & Benfield, Bill. (2019). Travel English at Your Fingertips. 成美堂

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること（ない場合は携帯で代用可）。詳細は初回の授業で指示します。

英会話 I (再履修)	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation I	必修科目 / 半期 / 1 単位

【授業概要】

この講座では、英語の基本表現を使いこなし、海外旅行や出張先でのさまざまな場面において、自信を持って適切に話せるようになることを目的としています。「英会話」となると身構えてしまうことも多いかとは思いますが、実際には非常に限られた表現を組み合わせるだけでも、自分の意図は十分相手に伝わる人が多いです。この授業では、そのような基本フレーズを学習し、そのフレーズの使い方を授業内で練習した後で、さらに海外での会話のバリエーションを増やすためのコツを解説します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
相手の意図を理解し、簡単な英語表現で応答できるようになる	講師と学生の間でロールプレイを行い、その英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
会話の鍵となる単語や語句を聞き取り、書いて表現できるようになる	授業中のリスニング課題で評価します。	25%
英会話に頻繁に用いる定型表現と語彙を学ぶ	期末試験および小テストによって評価します。	25%
評価の方法	上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、そこにそれ以外の平常点（課題や発表、授業での積極性など30%を加え、計100%として評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする（『学生要覧』参照）。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit 1 : In-Flight Announcements	空港から航空機内での表現を学ぶ
3	(continued)	(続き)
4	Unit 2 : At Customs	入国手続きに必要な表現を学ぶ
5	(continued)	(続き)
6	Unit 3 : Getting to a Hotel	空港からホテルへの移動時に使う表現を学ぶ
7	(continued)	(続き)
8	Unit 4 : Checking into a Hotel	ホテルのチェックイン時の表現を学ぶ
9	(continued)	(続き)
10	Unit 5 : Check-in w/o Reservation	予約なしでチェックインする際の表現を学ぶ
11	(continued)	(続き)
12	Unit 6 : At a Restaurant	レストランでの注文方法や支払いについて学ぶ
13	(continued)	(続き)
14	春学期のまとめと復習	復習および達成度テストへの準備
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Shimada, Takuji & Benfield, Bill. (2019). Travel English at Your Fingertips. 成美堂

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してこること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること（ない場合は携帯で代用可）。詳細は初回の授業で指示します。

英会話Ⅱ（留学生）	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座では、英語の基本表現を使いこなし、海外旅行や出張先でのさまざまな場面において、自信を持って適切に話せるようになることを目的としています。「英会話」となると身構えてしまうことも多いかとは思いますが、実際には非常に限られた表現を組み合わせるだけでも、自分の意図は十分相手に伝わることが多いです。この授業では、そのような基本フレーズを学習し、そのフレーズの使い方を授業内で練習した後で、さらに海外での場面で会話のバリエーションを増やすためのコツを解説します。（この講座は「英会話Ⅰ（留学生・再履修）」の続きです）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
相手の意図を理解し、簡単な英語表現で応答できるようになる	講師と学生の間でロールプレイを行い、その英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
会話の鍵となる単語や語句を聞き取り、書いて表現できるようになる	授業中のリスニング課題で評価します。	25%
英会話に頻繁に用いる定型表現と語彙を学ぶ	期末試験および小テストによって評価します。	25%
評価の方法	上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、そこにそれ以外の平常点（課題や発表、授業での積極性など30%を加え、計100%として評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする（『学生要覧』参照）。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス&前期の復習	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit 7 : Taking the Subway	地下鉄での切符の買い方や乗り換えの表現を学ぶ
3	(continued)	(続き)
4	Unit 8 : At a Fast-Food Restaurant	ファストフードの注文、持ち帰りの方法を学ぶ
5	(continued)	(続き)
6	Unit 9 : Hotel Service	ホテルのフロントに問い合わせる表現を学ぶ
7	(continued)	(続き)
8	Unit10 : Booking a Tour	現地でのツアーの申し込み方法について学ぶ
9	(continued)	(続き)
10	Unit11 : Health Care	薬の購入や病院にかかる際の表現を学ぶ
11	(continued)	(続き)
12	Unit12 : Shopping	買い物の際に店員と話す表現を学ぶ
13	(continued)	(続き)
14	秋学期のまとめと復習	復習および達成度テストへの準備
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Shimada, Takuji & Benfield, Bill. (2019). Travel English at Your Fingertips. 成美堂

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること（ない場合は携帯で代用可）。詳細は初回の授業で指示します。

英会話Ⅱ（再履修）	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation II	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座では、英語の基本表現を使いこなし、海外旅行や出張先でのさまざまな場面において、自信を持って適切に話せるようになることを目的としています。「英会話」となると身構えてしまうことも多いかとは思いますが、実際には非常に限られた表現を組み合わせるだけでも、自分の意図は十分相手に伝わることが多いです。この授業では、そのような基本フレーズを学習し、そのフレーズの使い方を授業内で練習した後で、さらに海外での場面で会話のバリエーションを増やすためのコツを解説します。（この講座は「英会話Ⅰ（留学生・再履修）」の続きです）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
相手の意図を理解し、簡単な英語表現で応答できるようになる	講師と学生の間でロールプレイを行い、その英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
会話の鍵となる単語や語句を聞き取り、書いて表現できるようになる	授業中のリスニング課題で評価します。	25%
英会話に頻繁に用いる定型表現と語彙を学ぶ	期末試験および小テストによって評価します。	25%
評価の方法	上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、そこにそれ以外の平常点（課題や発表、授業での積極性など30%を加え、計100%として評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする（『学生要覧』参照）。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス&前期の復習	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit 7 : Taking the Subway	地下鉄での切符の買い方や乗り換えの表現を学ぶ
3	(continued)	(続き)
4	Unit 8 : At a Fast-Food Restaurant	ファストフードの注文、持ち帰りの方法を学ぶ
5	(continued)	(続き)
6	Unit 9 : Hotel Service	ホテルのフロントに問い合わせる表現を学ぶ
7	(continued)	(続き)
8	Unit10 : Booking a Tour	現地でのツアーの申し込み方法について学ぶ
9	(continued)	(続き)
10	Unit11 : Health Care	薬の購入や病院にかかる際の表現を学ぶ
11	(continued)	(続き)
12	Unit12 : Shopping	買い物の際に店員と話す表現を学ぶ
13	(continued)	(続き)
14	秋学期のまとめと復習	復習および達成度テストへの準備
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Shimada, Takuji & Benfield, Bill. (2019). Travel English at Your Fingertips. 成美堂

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してこること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること（ない場合は携帯で代用可）。詳細は初回の授業で指示します。

キャリアデザイン	シヅカ マサノリ 志塚 昌紀
Career Design	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義では、「キャリア」の基本的な考え方の理解を目的として授業を行っていきます。まず「キャリアとは何か」について考えてきます。さらには、「職業とは何か」「企業とは何か」について考えていきます。最終的には自身のキャリアをデザインすることが可能になることを目標としていきます。講義は配布レジュメに沿って進めていきます。また、映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己分析、職業興味、価値観、自身の強みなどについて理解する	実際にいくつかの自己分析のワークシートに取り組んでもらう。授業時に行う課題への取り組みの姿勢や結果を参考にしながら評価をする。	25%
業界分析・企業分析の基礎について理解し、興味のある分野を探索する	興味関心のある業界や企業について調べ、分析をする。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする。	25%
自己分析と企業分析を基にして自身の自己ピーアールを作成する	それまでに行ってきた課題の内容を踏まえて、自身の自己ピーアールを作成する。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする。	25%
多様な働き方について理解をする。また自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける	キャリアデザインをしていく上で必要になる考え方について理解をしているか確認するため、自由記述型の論述試験を行う。自身のキャリアを真摯に考え記述しているかどうかについて評価をする	25%
評価の方法 授業時の課題75点（出席点含む）、期末課題25点		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と進路などについて
2	学生生活を充実させる①	海外留学のメリットと本学の留学制度
3	学生生活を充実させる②	自身の価値観と職業興味から選択肢を広げる
4	学生生活を充実させる③	大学での学び方とゼミナール活動
5	ライフプランの検討①	大学生活と社会人生活の違いを理解する
6	ライフプランの検討②	20代、30代を見据えたキャリアプラン
7	ライフプランの検討③	お金の視点でキャリアプランを考える。
8	社会人としての基礎スキル①	社会人マナーとしての電子メールの出し方、受け方
9	社会人としての基礎スキル②	服装・ビジネスマナー
10	社会人としての基礎スキル③	自己分析から雇用のミスマッチを防止
11	社会人としての基礎スキル④	働く人の権利～労働法初歩について
12	就職試験を意識する①	S P I 試験とは何か？
13	就職試験を意識する②	エントリーシートの考え方と書き方
14	就職試験を意識する②	面接試験におけるプレゼンテーションスキル
15	まとめ・テスト	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書指定なし。

※レジュメを配付して進めていきます。

【履修条件等】

◇授業中に行う課題に真剣に取り組むこと。

◇提出課題の期日を守れること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料のキャリアに関するキーワードについて調べること。

◇雇用に関する時事問題について新聞・雑誌などで理解をしておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

日本語 I (留学生科目)	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language I	必修科目 / 半期 / 2 単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、考えたことを論理的構成で文章にまとめる方法など、レポート作成にも役立つ基礎知識を身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論文などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
考えたことを論理的に文章にまとめる方法を身につける	課題に対して、さまざまな角度から思考し、データを使って根拠を示しながら考えを論理的にまとめることができるかどうかを評価する。	40%
<p>評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	基本的な文章作法(1)	文章の基本(1)
3	基本的な文章作法(2)	文章の基本(2)
4	文体	文体と表現レベル
5	文章	文章構成
6	段落	段落構成
7	意見文	意見文と事実文の区別
8	意見文	意見文の構成と練習
9	説明文	説明文の構成
10	説明文	説明文の練習
11	論理的文章	論理的文章構成
12	論理的文章	データ活用と根拠の提示
13	論理的文章	論理的文章作文
14	まとめ	復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考図書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』

くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。

課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

日本語 I（留学生科目）	コバヤシ ヒロノリ 小林 寛典
Japanese Language I	
必修科目／半期／2単位	

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、考えたことを論理的構成で文章にまとめる方法など、レポート作成にも役立つ基礎知識を身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論文などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
考えたことを論理的に文章にまとめる方法を身につける	課題に対して、さまざまな角度から思考し、データを使って根拠を示しながら考えを論理的にまとめることができるかどうかを評価する。	40%
<p>評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	基本的な文章作法(1)	文章の基本(1)
3	基本的な文章作法(2)	文章の基本(2)
4	文体	文体と表現レベル
5	文章	文章構成
6	段落	段落構成
7	意見文	意見文と事実文の区別
8	意見文	意見文の構成と練習
9	説明文	説明文の構成
10	説明文	説明文の練習
11	論理的文章	論理的文章構成
12	論理的文章	データ活用と根拠の提示
13	論理的文章	論理的文章作文
14	まとめ	復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考図書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』

くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。

課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

日本語 I (留学生科目)	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Japanese Language I	必修科目 / 半期 / 2 単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、考えたことを論理的構成で文章にまとめる方法など、レポート作成にも役立つ基礎知識を身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論文などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
考えたことを論理的に文章にまとめる方法を身につける	課題に対して、さまざまな角度から思考し、データを使って根拠を示しながら考えを論理的にまとめることができるかどうかを評価する。	40%
<p>評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	基本的な文章作法(1)	文章の基本(1)
3	基本的な文章作法(2)	文章の基本(2)
4	文体	文体と表現レベル
5	文章	文章構成
6	段落	段落構成
7	意見文	意見文と事実文の区別
8	意見文	意見文の構成と練習
9	説明文	説明文の構成
10	説明文	説明文の練習
11	論理的文章	論理的文章構成
12	論理的文章	データ活用と根拠の提示
13	論理的文章	論理的文章作文
14	まとめ	復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考図書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』

くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。

課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

日本語Ⅱ（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の 50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の 50%
<p>評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	社内メール
3	ビジネス日本語の基礎	会議準備
4	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び1
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び2、お知らせ文書1
6	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書2
7	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
8	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
9	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
10	ビジネス日本語の基礎	営業1
11	ビジネス日本語の基礎	営業2、売上
12	ビジネス日本語の基礎	売上2
13	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
14	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集－聴く・読む・話す・書く』ジャパントイムズ

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
◇意欲を持って学習に取り組むこと。
◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎課小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅱ（留学生科目）	コバヤシ ヒロノリ 小林 寛典
Japanese Language II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の 50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の 50%
<p>評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	社内メール
3	ビジネス日本語の基礎	会議準備
4	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び1
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び2、お知らせ文書1
6	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書2
7	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
8	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
9	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
10	ビジネス日本語の基礎	営業1
11	ビジネス日本語の基礎	営業2、売上
12	ビジネス日本語の基礎	売上2
13	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
14	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集－聴く・読む・話す・書く』ジャパンタイムズ

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎課小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅱ（留学生科目）	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Japanese Language II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の 50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の 50%
<p>評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	社内メール
3	ビジネス日本語の基礎	会議準備
4	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び1
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び2、お知らせ文書1
6	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書2
7	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
8	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
9	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
10	ビジネス日本語の基礎	営業1
11	ビジネス日本語の基礎	営業2、売上
12	ビジネス日本語の基礎	売上2
13	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
14	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集－聴く・読む・話す・書く』ジャパントイムズ

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
◇意欲を持って学習に取り組むこと。
◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎課小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅲ（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language III	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、BJTビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
<p>評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%</p> <p style="text-align: center;">学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	個人情報 1
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報 2
4	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 1
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 2、出張 1
6	ビジネス日本語の基礎	出張 2
7	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
8	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 1
9	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 2
10	ビジネス日本語の基礎	日程調整
11	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
12	ビジネス日本語の基礎	展示会
13	ビジネス日本語の基礎	業務フローチャート
14	ビジネス日本語の基礎	B J T ビジネス日本語テスト準備
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』ジャパントイムズ

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
◇意欲を持って学習に取り組むこと。
◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅲ（留学生科目）	コバヤシ ヒロノリ 小林 寛典
Japanese Language III	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、BJTビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
<p>評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	個人情報 1
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報 2
4	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 1
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 2、出張 1
6	ビジネス日本語の基礎	出張 2
7	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
8	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 1
9	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 2
10	ビジネス日本語の基礎	日程調整
11	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
12	ビジネス日本語の基礎	展示会
13	ビジネス日本語の基礎	業務フローチャート
14	ビジネス日本語の基礎	B J T ビジネス日本語テスト準備
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』ジャパントイムズ

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
◇意欲を持って学習に取り組むこと。
◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅲ（留学生科目）	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Japanese Language III	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、BJTビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
<p>評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	個人情報 1
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報 2
4	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 1
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 2、出張 1
6	ビジネス日本語の基礎	出張 2
7	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
8	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 1
9	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 2
10	ビジネス日本語の基礎	日程調整
11	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
12	ビジネス日本語の基礎	展示会
13	ビジネス日本語の基礎	業務フローチャート
14	ビジネス日本語の基礎	B J T ビジネス日本語テスト準備
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』ジャパントイムズ

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
◇意欲を持って学習に取り組むこと。
◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

英語 I	アベ マキコ 阿部 牧子
English Reading & Writing (Basics) I	
選択科目 / 半期 / 1 単位	

【授業概要】

この授業では、300語前後の題材を、なるべく日本語を介さず読み進める練習をします。わからない単語は文脈からの推測を試みます。それでも意味がわからない場合は、必ず辞書で確認することが大切です。ライティングは、文構造、基本的文法事項を理解し、理解を定着させるための練習問題をくり返します。各章の最後では文をつなげて1つのパラグラフを書き上げることができるようになります。

また、音読にも時間をかけて、正確に読む練習をする予定です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
300語程度の読み物の主旨、大意を把握できる	授業での発言、提出物によって評価。わからない単語は文脈から推測できるか。提出物の場合、辞書で調べて正確に理解しているかどうか。	30%
本文でとり上げられたトピックについて意見交換をする	ペア、グループ、またはクラスでの発言によって評価。発言は英語と日本語が混在していても可。発言内容を評価する。	20%
文の語順、品詞、時間表現などについて理解している	教科書の練習問題、パラグラフライティングによって評価。パラグラフライティングは、A（優） / B（良） / C（可）で評価。	30%
外国人が聞いても理解できる発音で英文が読める	自分の発音を録音し、聞き取りにくいと思われる音を確認できる。確認できた音の修正をして音読練習を繰り返す。	20%
評価の方法 発表60%、本試験20%、課題他20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業概要説明、読解力確認テスト
2	READING[Brasilia]	Vocabulary / 内容理解問題/音読練習
3	READING	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
4	WRITING	Adjective (形容詞) パラグラフライティング
5	パソコン(WORD)を使って清書	パソコンルームでパラグラフライティングの原稿を清書し、プリントアウトして提出する
6	READING[Tiger Woods]	Vocabulary / 内容理解問題/音読練習
7	READING	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
8	WRITING	Writing about time
9	READING[Sleep]	Vocabulary / 内容理解問題 / 音読練習
10	READING	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
11	WRITING	Using when / Writing about sleep habits
12	READING	題材は未定 Vocabulary / 内容理解問題 / 音読練習
13	READING	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
14	パソコン(WORD)を使って清書	パソコンルームでパラグラフライティングの原稿を清書し、プリントアウトして提出する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Weaving It Together

著者：Milanda Broukal 編著：関口智子 出版社：松柏社

【履修条件等】

◇入学時に配布された iPad を授業で使います。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示された教科書部分を読み、大意を把握して授業に臨んでください。

【その他の注意事項】

◇初回の授業で読解力をみるため簡単なテストを行います。

◇円滑なグループ学習・ペア読みのため、座席を指定することがあります。

英語Ⅱ	アベ マキコ 阿部 牧子
English Reading & Writing (Basics) II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、300語前後の題材を、なるべく日本語を介さず読み進める練習をします。わからない単語は文脈からの推測を試みます。それでも意味がわからない場合は、必ず辞書で確認することが大切です。iPadの辞書機能を授業で活用することもあります。

ライティングは、文構造、基本的文法事項を理解し、理解を定着させるための練習問題をくり返します。各章の最後では文をつなげて1つのパラグラフを書き上げることができるようになります。

また、指定テキストとは別にプリント教材を使うことがあります。

本講義は「英語Ⅰ」の続きです。使用教材は年度の始めに購入するようにしてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
300語程度の読み物の主旨、大意を把握できる	授業での発言、提出物、本試験によって評価。わからない単語は文脈から推測できるか。提出物の場合、辞書で調べて正確に理解しているかどうか。	30%
本文でとり上げられたトピックについて意見交換をする	ペア、グループ、またはクラスでの発言によって評価。発言は英語と日本語が混在していても可。発言内容を評価する。	20%
文の語順、品詞、時間表現などについて理解している	教科書の練習問題、パラグラフライティング、本試験によって評価。パラグラフライティングは、A（優）／B（良）／C（可）で評価。	30%
外国人が聞いても理解できる発音で英文が読める	自分の発音を録音し、聞き取りにくいと思われる音を確認できる。確認できた音の修正をして音読練習を繰り返す。	20%
評価の方法 発表60%、本試験20%、課題他20%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要説明、読解力確認テスト
2	READING[Iceland]	Vocabulary / 内容理解問題 / 音読練習
3	READING[Iceland]	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
4	WRITING	Comparing things (比較) パラグラフライティング
5	パソコン(WORD)を使って清書	パソコンルームでパラグラフライティングの原稿を清書し、プリントアウトして提出する
6	READING[Amy Van Dyken]	Vocabulary / 内容理解問題 / 音読練習
7	READING Amy Van Dyken]	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
8	WRITING	Telling about someone's life
9	パソコン(WORD)を使って清書	パソコンルームでパラグラフライティングの原稿を清書し、プリントアウトして提出する
10	READING[Laughter]	Vocabulary / 内容理解問題 / 音読練習
11	READING[Laughter]	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
12	WRITING	Adverbs (副詞)
13	READING	題材は未定 Vocabulary / 内容理解問題 / 音読練習
14	READING	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Weaving It Together (fourth edition)

著者：Milanda Broukal 編著：関口智子 出版社：松柏社

【履修条件等】

◇入学時に配布された iPad を授業で使います。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示された教科書部分を一読し、大意を把握して授業に臨んでください。

【その他の注意事項】

◇円滑なグループ学習・ペア読みのため、座席を指定することがあります。

◇教科書は年度の始め（4月）に購入しておくようにしてください。

英語Ⅲ	アベ マキコ 阿部 牧子
English Reading & Writing (Intermediate) III	
選択科目／半期／1単位	

【授業概要】

この授業では、300字程度の英文を読んで、内容の大意をつかむ練習をします。英文から1つのパラグラフに焦点を当て、英語らしく読むことを目標に、音読の練習を繰り返します。音読に慣れてきたら、次は読んだ内容を相手に伝えることに挑戦してみます。自分の言葉で内容を再現するにはどうすればよいか、学んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英文を読むために必要な文法、単語についての知識を習得する	小テスト、提出物によって評価する。 中間試験、本試験によって評価する。	30%
300字程度の英文の内容を、初見でおおよそ把握できる	授業中の応答、発言によって評価する。 中間試験と本試験で評価する。	30%
なめらかに読む。相手に伝わる英語音読を習得する	意味のまとまりを意識しているか。音のつながりを意識し、子音を読むときは母音が入らないように読めるか。授業中の音読練習で評価する。	20%
単純な内容であれば、論理的な短い英文で表現できる	学期始めと学期終わりに書いた英文を比べ、どの程度作文力が向上したかによって評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、小テスト、平常点（提出物を含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明など
2	ラナプラザ・ビルの悲劇	教科書の問題を解きながら内容を理解する
3	ラナプラザ・ビルの悲劇	音読練習 内容を自分の言葉で再現してみる
4	ビジネスリーダー孫正義と鈴木敏文	教科書の問題を解きながら内容を理解する
5	ビジネスリーダー孫正義と鈴木敏文	音読練習／リピート&ルックアップ 内容を自分の言葉で再現してみる／英作文
6	世界のフードロス	教科書の問題を解きながら内容を理解する
7	世界のフードロス	音読練習／内容語と機能語を意識して、強弱をつける内容を自分の言葉で再現してみる／英作文
8	中間試験	学習達成度の確認
9	The English Haiku	教科書の問題を解きながら内容を理解する
10	The English Haiku あるいはプリント教材	音読練習／弱い子音の読み方 英作文
11	顔認証技術とプライバシー	教科書の問題を解きながら内容を理解する
12	顔認証技術とプライバシー あるいはプリント教材	音読練習／つながる音の読み方 英作文
13	ウラジオストクー日本に近い都市	教科書の問題を解きながら内容を理解する
14	ウラジオストクー日本に近い都市	音読練習／リピート&ルックアップ 英作文
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Pleasure in Reading Aloud and Retelling

著者：Anthony P. Newell, Takane Yamaguchi 出版社：KINSEIDO

【履修条件等】

◇英語に対する学習意欲があり、課題（ホームワーク）に取り組むことを優先することができる。

◇音読に積極的に取り組めること。聞き取ってもらえる流暢な英語を話したいと思う人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックについての知識がテキストだけでは不足な場合、各自で調べることが必要になります。

◇授業中あるいはホームワークとして、iPad を使う予定です。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけてください。

英語IV	アベ マキコ 阿部 牧子
English Reading & Writing (Intermediate) IV	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、300字程度の英文を読んで、内容の大意をつかむ練習をします。英文から1つのパラグラフに焦点を当て、英語らしく読むことを目標に、音読の練習を繰り返します。音読に慣れてきたら、次は読んだ内容を相手に伝えることに挑戦してみます。自分の言葉で内容を再現するにはどうすればよいか、学んでいきます。

「英語IV」は「英語III」と同じ教材を使います。使用教材は年度の始めに購入しておくようにしてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英文を読むために必要な文法、単語についての知識を習得する	小テスト、提出物によって評価する。 中間試験、本試験によって評価する。	30%
300字程度の英文の内容を、初見でおおよそ把握できる	授業中の応答、発言によって評価する。 中間試験と本試験で評価する。	30%
なめらかに読む。相手に伝わる英語音読を習得する	意味のまとまりを意識しているか。音のつながりを意識し、子音を読むときは母音が入らないように読めるか。授業中の音読練習で評価する。	20%
単純な内容であれば、論理的な短い英文で表現できる	学期始めと学期終わりに書いた英文を比べ、どの程度作文力が向上したかによって評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、小テスト、平常点（提出物を含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業概要説明
2	音楽が精神に与える効能	教科書の問題を解きながら内容を理解する
3	音楽が精神に与える効能	音読練習／リピート&ルックアップ 英作文／自分の言葉で再現してみる
4	国際化とおもてなし文化	教科書の問題を解きながら内容を理解する
5	国際化とおもてなし文化	音読練習／数字情報をはっきりと伝える 英作文／自分の言葉で再現してみる
6	未定	問題を解きながら内容を理解する
7	未定	音読練習 英作文
8	中間試験	学習達成度の確認
9	未定	問題を解きながら内容を理解する
10	未定	音読練習 英作文
11	未定	問題を解きながら内容を理解する
12	未定	音読練習 英作文
13	未定	問題を解きながら内容を理解する
14	未定	音読練習 英作文
15	総括・達成度の確認	これまでの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Pleasure in Reading Aloud and Retelling

著者：Anthony P. Newell, Takane Yamaguchi 出版社：KINSEIDO

【履修条件等】

◇英語に対する学習意欲があり、課題（ホームワーク）に取り組むことを優先することができる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックについての知識がテキストだけでは不足な場合、各自で調べることが必要になります。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけてください

◇受講生の興味関心を踏まえ、使用教材以外のプリントを教材として使うことがあります。

TOEIC I	シシド カール 宍戸 カール
TOEIC I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

このクラスは、実用的な英語を身につけてコミュニケーション力をアップしたいと考えている学生、いずれは TOEIC テストに挑戦したいと考えている学生を対象に、TOEIC の基礎的な部分のトレーニングを中心に授業を進めていきます。

TOEIC はリスニング45分、リーディング75分の試験です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
TOEIC テストに出題される頻度の高い単語を習得する	おもに単語テストによって評価する。語彙問題のパターンを把握し、頻出語彙をマスターする。	30%
TOEIC テストに必要なとされる英文読解力を養う	本試験その他によって評価。文法事項の基本パターンを把握し、読解問題の基本的な設問を理解し、解答できること。	30%
TOEIC テストに必要な「聴き取り」ができる	本試験その他によって評価。パート1からパート3の各問題の設問の内容を理解し、正解に必要な情報を聞き取ることができること。	30%
模擬試験のスコアアップ	学期始めと学期末の本試験を比較して（難易度考慮）、評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、平常点（単語テストを含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の進め方、評価基準等の説明
2	Introduction	模擬テストと解説
3	Activity 1	Shopping (grammar, auxiliaries)
4	Activity 2	Shopping (grammar, auxiliaries)
5	Activity 3	Transportation (grammar, progressives)
6	Activity 4	Transportation (grammar, progressives)
7	Activity 5	Travel (grammar, verb)
8	Activity 6	Travel (grammar, verb)
9	Activity 7	Restaurant (grammar, perfect tenses)
10	Activity 8	Restaurant (grammar, perfect tenses)
11	Activity 9	Health (grammar, tense agreement)
12	Activity10	Health (grammar, tense agreement)
13	Activity11	In the Office (grammar, tag & negative questions)
14	Activity12	In the Office (grammar, tag & negative questions)
15	Examination	本試験および解説

【使用教材】

◇ Barron's ToEIC Bridge Test

【履修条件等】

◇将来的には TOEIC テストを受験したいと考えている人。

◇英語を聞いて理解できるようになるため、努力を惜しまない人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に自習用のCDが添付されているので、指示された部分を聴いてくる。

レッスンごとに単語テストをするので、その勉強。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

TOEIC II	シシド カール 宍戸 カール
TOEIC II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

このクラスは、実用的な英語を身につけてコミュニケーション力をアップしたいと考えている学生、いずれは TOEIC テストに挑戦したいと考えている学生を対象に、TOEIC の基礎的な部分のトレーニングを中心に授業を進めていきます。

TOEIC はリスニング45分、リーディング75分の試験です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
TOEIC テストに関する基礎的な単語力を身につける	おもに単語テストによって評価する。語彙問題のパターンを把握し、頻出語彙をマスターする。	30%
TOEIC テストに必要な英文読解力を養う	本試験その他によって評価。文法事項の基本パターンを把握し、読解問題の基本的な設問を理解し、解答できること。	30%
TOEIC テストに必要な「聴き取り」ができること	本試験その他によって評価。パート1からパート3の各問題の設問の内容を理解し、正解に必要な情報を聞き取ることができること。	30%
模擬試験のスコアが上がること	学期始めと学期末の本試験を比較して（難易度考慮）、評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、平常点（単語テストを含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の進め方、評価基準等の説明
2	Lesson 1	Business and Sales (grammar, negations)
3	Lesson 2	Business and Sales (grammar, negations)
4	Lesson 3	Media/News (grammar, infinitives & gerunds)
5	Lesson 4	Media/News (grammar, infinitives & gerunds)
6	Lesson 5	Economy (grammar, participles)
7	Lesson 6	Economy (grammar, participles)
8	Lesson 7	Advertisements (grammar, passive voice)
9	Lesson 8	Advertisements (grammar, passive voice)
10	Lesson 9	Politics (grammar, pronouns & adverbs)
11	Lesson10	Politics (grammar, pronouns & adverbs)
12	Lesson11;	Environment (grammar, subjective mood)
13	Lesson13	Environment (grammar, subjective mood)
14	Examination	本試験
15	Examination	本試験 (試験問題の解説)

【使用教材】

◇ Barron's ToEIC Bridge Test

【履修条件等】

◇将来的には TOEIC テストを受験したいと考えている人。

◇原則として、「TOEIC I」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に自習用のCDが添付されているので、指示された部分を聴いてくる。

レッスンごとに単語テストをするので、その勉強。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

フランス語 I	ノグチ ケイコ 野口 恵子
French I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

フランス語に慣れ親しむ。基礎的な語彙、表現、文法、発音を学んで、口頭および文章による自己紹介や、簡単な会話ができるようになることを目指す。入門期の外国語学習は、耳、口、目、手、そして頭も使う、いわば全身運動である。まずはフランス語を繰り返し聞き、声に出して言ってみよう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的なフランス語を聞いて理解する能力を身につける	数字、単語、表現の聞き取りテストを行う。 CD等で会話を聞き、大意を理解しているか問う。	30%
自己紹介をはじめ、身近な話題について話す能力を身につける	口頭表現において、基本的な発音、語彙、文法の知識が生かされているかを見る。会話形式の練習、会話テストを実施する。	30%
簡単なフランス語で書かれた文を読んで理解する能力を身につける	挨拶、自己紹介、日常会話を文字化したものを読み、まず、大意が取れているか、その後、さらに細かく理解しているか見る。	20%
書き取り、短文作成から始め、身近な話題について文章で表現する能力を身につける	文字・表記の正確さを問う書き取りテストを行う。 習った単語や表現を使って、自分のこと、自分が興味を持っていることに関して短い作文を書く。	20%
評価の方法 定期試験（聞き取り、書き取り、語彙、文法、作文等）50%、平常点（授業への参加度、宿題提出、音読テスト、ディクテーション）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	アルファベ、つづりと発音、日本語の中のフランス語
2	「私はマリーです」	つづり字記号、リエゾンとアンシェヌマン、名を名乗る
3	「お元気ですか」	挨拶、「はい」「いいえ」
4	「ありがとう」	お礼・お詫び、数字1～20
5	「コーヒー1つお願いします」	不定冠詞、名詞の性と数
6	「それはポールの本です」	定冠詞、部分冠詞
7	「音楽が好きです」	第1群規則動詞 (-er)
8	「ミシェルはテレビを見ません」	否定文
9	「私は学生です」	動詞 être、職業・国籍の言い方
10	「辞書を持っています」	動詞 avoir、数字20～60
11	「黒い上着を着ています」	疑問文、形容詞の位置・語尾変化
12	「今2時半です」	時刻の言い方
13	「パリに行きます」	動詞 aller、前置詞と定冠詞の縮約①、曜日と月の名前
14	「学校に来ます」	動詞 venir、前置詞と定冠詞の縮約②
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇松村博史他著『クロワッサン 基礎からわかるフランス語』朝日出版社、2016年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業に積極的に参加すること。

フランス語 I	ミトミ ユウコ 三富 祐子
French I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

全く初めてフランス語を学ぶ者を対象にゼロから始め、初対面を想定しての自己紹介や好みなどを尋ね合うことができることを目指します。教室では、VTR（インターネットでアクセス可能）で自然な会話に触れ、文法理解と練習問題等を行った後、ペア・グループで実践的な会話の練習をします。各課終了後、ポイントをまとめたプリントを使用し充分復習します。「フランス語Ⅱ」と合わせて履修することで、仏検5級受験に必要な知識を得ることができるようにします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
フランス語を読み、理解し、正しく発音できるようにする	授業中の音読、発話と学期末の口頭試験で評価。フランス語特有の発音や、綴り字の読み方、イントネーションの付け方等、フランス人に意思が伝わるフランス語であるか否かを評価基準とする。	20%
フランス語を聞き、理解できるようにする	授業中の質問に対する回答と小テスト、学期末の口頭試験で評価。数字（値段・年齢等）の聞き取り、学習した基本的なフランス語を耳で聞いて理解し返答ができるか否かを評価基準とする。	10%
基本的な文法を理解し、語彙を覚える	授業中の設問に対する回答と、学期末の筆記試験で評価。基本的な（仏検5級程度）文法と語彙を理解し暗記できているかを評価基準とする。	50%
フランス語でコミュニケーションをとる	授業中のペア練習への参加の積極性、学期末の口頭試験で評価。状況に即し、自然な流れで会話ができているか否かを評価基準とする。	20%
評価の方法	8割以上の出席と、口頭試験、筆記試験を受けることを前提に、筆記試験60%、口頭試験20%、課題（配布プリント）提出10%、平常点10%で評価します。詳細については初回授業で説明します。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	<フランスについて>	・アルファベ、綴り字の読み方
2	<フランス語の発音>	・フランス語10単語を覚える
3	Leçon 1 <自己紹介 1 > ・挨拶 ・名前、国籍を言う	・主語人称代名詞と動詞 être ・「はじめまして、私の名は～です」 ・「私は／彼（女）は～人です」 ・数 1～10
4	Leçon 2 <自己紹介 2 >	・規則動詞 habiter 住む
5	・職業を言う ・住んでいる所を言う	・「私は学生です」「彼は俳優です」 ・「私は～に住んでいます」 ・数11～20
6	Leçon 3 <カフェで>	・飲み物、食べ物の名と冠詞
7	・カフェで注文し、支払いをする	・否定形「私は～人ではない」
8	・何語を話すか言う	・規則動詞 parler 「話す」の活用 ・数30～60 ・～ユーロ
9	Leçon 7 <好みを言う>	・動詞 aimer
10	・好みを尋ねる ・何が好きか尋ねる ・Il y a ～ 「～がある」	「音楽・スポーツ・～料理が好きです」 程度を言う「大好きです」 「あまり好きではありません」 ・aimer の後の名詞につく定冠詞 ・「高田馬場には～がある」
11	Leçon 4 <兄弟姉妹について>	・動詞 avoir 「ペンを持っている？」 「兄がひとりいます」
12	・～を持っているか、尋ねる ・兄弟がいるかを言う ・年齢を言う	・avoir の否定形「持っていない」 ・疑問文 Est-ce que ～ 「～ですか？」 ・「私は～歳です」
13	口頭試験および解説	・授業中練習した自己紹介（名前、国籍、職業、言語）、音楽、スポーツの好みを尋ね合う
14	Leçon 1～4, Leçon 7 の総復習	復習プリントを使用
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Café Français カフェ・フランセ

著者：Nicolas Gaillard 他 出版社：朝日出版社

ホームページ <http://cafefrancais.cocolog-nifty.com/hp/>

【履修条件等】

◇フランスまたはフランス語に興味があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業での学習事項を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけること。

<h2>フランス語Ⅱ</h2>	<small>ノグチ ケイコ</small> 野口 恵子
French II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

「フランス語Ⅰ」に続き、基礎的な語彙や文法の知識を身につけるとともに、コミュニケーション能力をのばすことを目的とする。聞こえてきたフランス語を繰り返して言う練習、聞いて書き取る練習、テキストを声に出して読む練習を行う。身近な話題、興味のある話題について、口頭および文章での確に表現できるようにする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的なフランス語を聞いて理解する能力を身につける	語句の聞き取りテストを行う。CD等で会話を聞き、大意を理解しているか問う。	30%
身近な話題について話す能力を身につける	口頭表現において、基本的な発音、語彙、文法の知識が生かされているかを見る。会話形式の練習、会話テストを実施する。	30%
基本的なフランス語で書かれた文を読んで理解する能力を身につける	テキストの会話文を読み、まず、大意が取れているか、その後、さらに細かく理解しているか見る。	20%
身近な話題について文章で表現する能力を身につける	文字・表記の正確さを問う書き取りテストを行う。習った単語や表現を使って、自分のこと、自分が興味を持っていることに関して短い作文を書く。	20%
評価の方法 定期試験（聞き取り、書き取り、語彙、文法、作文）50% 平常点（授業への参加度、宿題提出、音読・ディクテーション・会話・和訳・仏訳小テスト）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「働くつもりです」	動詞 aller の復習、近接未来
2	「食べたばかりです」	動詞 venir の復習、近接過去
3	「ペンをお持ちですか」	疑問文の作り方
4	「私の姉は優しいです」	所有形容詞
5	「私は仕事を終えます」	第2群規則動詞 (-ir)、動詞 partir
6	「宿題を終わらせなさい」	命令形、数字60～
7	「なぜフランス語を勉強しているのですか」	疑問詞 quand、où、comment、pourquoi、qui、que
8	「全部でいくらですか」	動詞 faire、prendre、買い物をする
9	「何をしましたか」	直説法複合過去①（助動詞 avoir を使う動詞）
10	「映画に行きました」	直説法複合過去②（助動詞 être を使う動詞）
11	「どの季節が好きですか」	疑問形容詞 quel、動詞 préférer、vouloir、pouvoir
12	「5時にホテルに着かなくてはいけません」	動詞 devoir、電話をかける
13	「クレールはフランソワーズより背が高い」	比較級
14	「ジャンヌはクラスで一番活発な子です」	最上級、空港での会話
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇松村博史他著『クロワッサン 基礎からわかるフランス語』朝日出版社、2016年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業に積極的に参加すること。

フランス語Ⅱ	ミトミ ユウコ 三富 祐子
French II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

「フランス語Ⅰ」を修了、または相当のフランス語の知識のある者を対象とし、「フランス語Ⅰ」で学んだことを土台に、フランス人とのコミュニケーションに必要な基本的な会話の場面を広げ、基本的な表現を増やしながら文法事項を学んでいく。授業形態は「フランス語Ⅰ」同様、VTR教材を使用し、スキットの理解、文法解説、発音練習、会話練習を行う。本講座終了後、フランス人との最も基本的なコミュニケーションがとれること、いくつかの場面での実践的な会話ができることを到達目標とする。生きたフランス語に触れるという目的で、教材以外にVTRまたは映画を使用し既習の表現を聞き取る機会を設ける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
フランス語を読み、理解し、正しく発音できるようにする	授業中の音読、発話と学期末の口頭試験で評価。フランス人に意思が伝わるフランス語であるか否かを評価基準とする。	20%
フランス語を聞き、理解できるようにする	授業中の質問に対する回答と小テスト、学期末の口頭試験で評価。春学期に続き、数字の聞き取り、フランス語での質問に対し返答ができるか否かを評価基準とする。	10%
基本的な文法を理解し、語彙を覚える	授業中の設問に対する回答と、学期末の筆記試験で評価。基本的な（仏検5級程度）文法と語彙を理解し暗記できているかを評価基準とする。	50%
フランス語でコミュニケーションをとる	授業中のペア練習への参加の積極性、学期末の口頭試験で評価。状況に即し、自然な流れで会話ができているか否かを評価基準とする。	20%
評価の方法	8割以上の出席と、口頭試験、筆記試験を受けることを前提に、筆記試験60%、口頭試験20%、課題（配布プリント）提出10%、平常点10%で評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<春学期の復習> <天候の表現> Leçon 8 II ・天候を言う	・配布プリント使用 ・天候の非人称構文「良い天気です」 「寒く・暑くないです」
2 3	Leçon 9 ・どんなスポーツをするか言う ・朝食について述べる ・否定疑問文に対する「はい」「いいえ」の答え方	・「スポーツはしますか？」 スポーツの名称と部分冠詞 ・「朝食をとりますか?」「～をとります」 食品の名と部分冠詞 ・中性代名詞 <i>en</i> を使って答える
4 5	Leçon10<誘う> ・相手を昼食に誘う ・承諾する・理由を述べ誘いを断る ・場所へ行く手段を言う	・主語 <i>on</i> 「～行こう」 ・場所の名「カフェへ・美術館へ」と前置詞 +冠詞について ・「OK、行こう」「ごめん、授業があるんだ」 ・「何で行こうか?」「歩いて行こう」
6 7 8 9	Leçon11<一日の過ごし方> ・起床から就寝までの一日の主な 行動を言う	・時間の表し方 ・「起床する」「就寝する」(代名動詞) 「普段は、～時に起き、～時に家を出、 ～時に帰宅します」
10 11	Leçon13<レストランで(1)> ・食事の流れについて知る ・メニューを読む ・注文する	・主な食品の名と注文の仕方 ・前菜、主菜、デザート、飲み物を注文する ・複合過去(1)助動詞 <i>avoir</i> 「選びましたか?」
12	Leçon 13 <レストランで(2)> ・料理の感想を言う Leçon 14 ・過去について語る	・料理の感想を言う(半過去) 「美味しかったです」 ・複合過去(1)助動詞 <i>avoir</i> 「昨日何をしましたか?」
13	口頭試験および解説	授業中練習した会話(朝食、スポーツについて 尋ね合う、誘う)をペアで行う
14	Leçon14 ・過去について語る ・総復習	・複合過去(2)助動詞 <i>être</i> 「昨日～へ行きました」 ・復習プリントを使用して総復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度 の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇ Café Français カフェ・フランセ
著者：Nicolas Gaillard 他 出版社：朝日出版社
ホームページ <http://cafefrancais.cocolog-nifty.com/hp/>

【履修条件等】

- ◇「フランス語 I」を修了または相当のフランス語の知識のある者。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業での学習事項を復習すること。

【その他の注意事項】

- ◇全出席を心がけること。

中国語 I	イノウエ ヨシオ 井上 良雄
Chinese I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

日常会話の練習をします。初心者が対象ですから基礎知識はいりません。あまり文法的なことにはふれないで、授業中はどんどん声を出して体で覚えてもらいます。

中国語の学習を通して、中国文化や中国人の生活習慣に親しみ、国際的な視野を広げてほしいと思います。「聞く」授業ではなく、「参加する」授業です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
中国語の基本構造と発音の概要を理解し、発音の基本練習をする	授業中に指名し、回答から理解度を評価する。発音の巧拙は関係ない。発音練習への参加意欲や、集中度を評価する。	20%
自分の名前の中国語発音を発表し、互いに呼び合えるようにする	中国語の辞書で発音記号・意味・用例を調べ、レポートを提出させ評価する。 クラスメートの名前を中国語で呼び合う積極性を評価する。	20%
学生生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習をする	家族、学生生活、誕生日、年齢、住所、スポーツ、趣味などについて、一人ひとり発言させ評価する。 また、対話練習の積極性も評価する。 発音の巧拙は関係ない。	30%
試験として、1分間程度の自己紹介スピーチを皆の前で披露する	スピーチの標準形を示すが、オリジナリティーをプラス評価する。発音練習、矯正指導への取り組み姿勢、スピーチマナー、クラスメートの発表を聞く態度も評価する。	30%
評価の方法	上記のように、平常点およびレポート課題評価70%、試験（中国語による自己紹介）評価30%である。 欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（1回につき最大5%）する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	中国語について	共通語、文字、文の組み立て等
2	発音について(1)	発音の概説(音節、母音、子音、声調、ピンイン)
3	発音について(2)	発音練習(数字、あいさつ、身体、漢詩、自分の名前)
4	あいさつ	あいさつ言葉、人称代名詞、敬称
5	名前(1)	名前の聞き方の注意点、他の常用あいさつ言葉
6	名前(2)	自分の名前のピンイン発表、発音練習
7	家族	“有”の文、数量を尋ねる、人や物を数える単位
8	学生生活	“的”の用法、“是”の文
9	誕生日、年齢	月、日、曜日、西暦の言い方、年齢の聞き方、答え方
10	～に住んでいる	指示代名詞、場所や方向、r化
11	～ができる	“会”の用法、「肯定+否定」の疑問文
12	自己紹介(1)	趣味、～生まれの～育ち、学校名の言い方
13	自己紹介(2)	質問、個人指導、練習
14	自己紹介(3)	質問、個人指導、練習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇座席は指定制です。

中国語Ⅱ	イノウエ ヨシオ 井上 良雄
Chinese II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

「中国語Ⅰ」に引き続き、日常会話の練習をします。さまざまな場面を想定して、基本的な単語や簡単な文で受け答えの会話を楽しみましょう。

「中国語Ⅰ」と同様に、聴講型ではなく参加型の授業です。異文化への興味と関心を深め、国際センスを磨いてほしいと思います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
短い自己紹介を、とっさにでも流暢にできるよう練習する	「中国語Ⅰ」の復習として、一人ひとりが皆の前で披露する。話しぶりや表情、パフォーマンスも評価する。	10%
日本のアニメソングの中国語版を題材に、日中の歌詞を比較・分析する	各人が比較・分析の結果や感想を発表する。鑑賞の緻密さ、積極的な参加意欲を評価する。合唱もするが、歌の巧拙は関係ない。協調性を評価する。	10%
日常生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習する	再会、勧誘、時刻、経験、電話、決まり文句等について、対話形式でロールプレイングを行い、その積極性、正確性を評価する。発音の巧拙はそれほど重要ではない。	50%
試験として、各人10問の日常会話の口頭試問を行う	これまでに学んだ、30問の設問に対する解答を練習し、一人10問の口頭試問を行う。聴解の正確性、回答の妥当性、反応速度、面接態度等を評価する。	30%
評価の方法	上記のように、平常点評価70%、試験（中国語による口頭試問）評価30%である。 欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（1回につき最大5%）する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	「中国語 I」の復習	中国語での簡単な自己紹介
2	中国語で歌う	中国語の歌詞を題材に学習
3	再会	“了”の用法、動作の方向
4	～が好き	“得”の用法、“不太好”と“太不好”
5	どうですか？	同意、意向や様子を尋ねる、“上”“下”の特殊な用法
6	時刻・時間	時刻、時間、期間の言い方
7	～から～まで	～したことがある（経験）、出身地と住所地
8	電話をかける(1)	一般的な電話会話
9	電話をかける(2)	電話番号の聞き方、言い方
10	決まり文句(1)	対話での決まり文句
11	決まり文句(2)	ひと言決まり文句、外来語
12	口頭試問(1)	問題の解説、回答例練習
13	口頭試問(2)	問題の解説、回答例練習
14	口頭試問(3)	質問、個人指導
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。

◇原則として「中国語 I」を修得した学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇座席は指定制です。

韓国語 I	ファン ミジョン 黄 美貞
Korean I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

韓国語は、日本語と多くの共通性を持った言語であることから、日本人にとって最も親しみやすく、学びやすい外国語であるといわれています。この授業では、韓国語の文字であるハングルや基礎文法、会話文について体系的に学習していきます。

授業のスタイルは、一方的に教えるのではなく、学生同士で韓国語による自己紹介や挨拶文を交わすロールプレイを行ったり、作文・発言を促したりすることで文法を理解し、日常で使う表現を中心に楽しく学んでもらうことを心がけます。韓国語のみならず、授業を通じて、韓国の社会や文化についても理解を深めることを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
韓国語の特徴を理解し、文字を覚え、発音ができる	ハングル（文字）の「読み」、「書き」ができるか、自分の名前や日本の地名をハングルで表記できるかを評価する。	30%
自己紹介や挨拶文、疑問文、否定文などの簡単な文章が言える	自己紹介・挨拶などを韓国語で話すことができるかを評価する。	30%
基礎文法を身につけ、簡単な作文や読解、聞き取りができる	基礎文法を理解し、日常で良く使う語彙を覚え、応用でき、韓国語で発言し、聞き取りや作文ができるかを評価する。	20%
韓国の社会や文化を理解し、韓国語でコミュニケーションできる	韓国語を通じて韓国の社会や文化について理解し、韓国語でコミュニケーションができるかを評価する。	20%
評価の方法 授業参加度30%、課題10%、筆記試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	韓国語の特徴	文の構成、文字について
2	日本語との共通点	基本母音・基本子音、
3	ハングルの構成、発音	終声子音、複合母音、書き順、
4		発音、漢字の読み方、文字のまとめ
5	自己紹介、挨拶文、	自己紹介や挨拶文、基本文「～は ～です」、
6	基本文、疑問文	疑問文「～は ～ですか」、主語、述語
7	否定文、助詞、代名詞、	否定文、日本語のこそあど言葉、助詞、代名詞、
8	～する動詞	～する、します動詞
9		
10	一般動詞や形容詞の	～する動詞以外の一般動詞、基本動詞の語尾変換のルール、
11	語尾変換	形容詞、用言の丁寧文、語幹と語尾
12	ㄹ体の用法、漢数字	ㄹ体のルールや変化、体言のㄹ体、漢数字
13		
14	時間と時刻表現 春学期のまとめ	時間や時刻に関する表現、固有数字、これまでに習った文法や語彙のまとめ、試験について
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇木内明著『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』国書刊行会、2013年

【履修条件等】

◇韓国語や韓流ジャンル（K-POP、料理、ドラマなど）に興味を持っている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも習った文法や語彙を使い、作文に取り組むといった姿勢を評価します。

【その他の注意事項】

◇学ぶ心を持つこと。

◇授業のマナーを守ること。

◇遅刻、欠席をしないこと。

韓国語Ⅱ	ファン ミジョン 黄 美貞
Korean II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

「韓国語Ⅰ」で学んだ文法や語彙を復習・確認しながらステップ・アップし、日常表現を中心に基礎会話や基本文法・文型・語彙を身につけることができます。「韓国語Ⅰ」の表現を応用し、やや長めの文章や会話文を駆使することができ、韓国語検定試験の5級に合格できるレベルまで進むことができます。

「韓国語Ⅱ」を通してより深く韓国語や韓国文化に触れることができるよう、韓流音楽や食文化の紹介もしていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
各回で学習した内容を理解し、スムーズに「読み」、「書き」、「話す」ことができる	授業中の質疑応答や、授業への参加態度・発言・作文・課題で評価する。	30%
基本文法を身につけ、日常で使う表現を学び、初級レベルの韓国語ができる	授業中の質疑応答や、授業への参加態度・発言・作文・課題で評価する。	30%
語彙の習得や応用力をつけるためにテキストの練習問題を学習できる	テキストのほか、毎回の授業で紹介する語彙や表現を覚え、練習問題を自ら解くことができるかを評価する。	20%
授業を通じて韓国の社会や文化についてより深く理解し、韓国語で積極的にコミュニケーションできる	韓国語を通じて、韓国の社会や文化について理解し、韓国語でコミュニケーションができるかを評価する。	20%
評価の方法 授業参加度30%、課題10%、筆記試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	春学期の復習	「韓国語 I」の復習、試験の解説
2	敬語表現	尊敬形、敬語の過去形、敬語の特殊な例
3	用言の否定形	動詞や形容詞の否定文、仮定表現
4	まとめと復習	敬語表現、否定形のまとめ、応用編、復習
5	過去形(1)	用言の過去形とそのパターン
6	過去形(2)	過去形の応用パターン、過去形のまとめ
7	勧誘表現	動詞の勧誘形、位置関係の表現
8	現在進行形	用言の現在進行形、丁寧な命令表現、過去形、勧誘表現、現在進行形のまとめ、復習、韓国語のバースデーの歌紹介
9	まとめと復習	
10	可能・不可能形	「～できる、できない」といった可能・不可能を示す表現やパターン
11	意志表示の表現	願望の意志を示す表現
12	禁止を示す表現	禁止（～しないでください）表現、許諾を尋ねる際の表現
13	義務を示す表現	「～しなければならない」といった義務を示す表現
14	意志・推量を示す表現 秋学期のまとめ	用言の意志や推量に関する表現 これまでの学習を振り返って、まとめ、試験について
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇木内明著『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』国書刊行会、2013年

【履修条件等】

◇「韓国語 I」を履修した学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも習った文法や語彙を使い、作文に取り組むといった姿勢を評価します。

【その他の注意事項】

◇授業に対して熱意を持つこと。

◇遅刻、欠席をしないこと。

日本語Ⅳ（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language IV	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

就職活動を意識して、日本の言語文化を学び、自己表現を訓練する。

他人に与える印象も含め、自分を客観的にみること、さらにそれをどのように表現するかを考える。また、その中で、分析、統合、総括、表現へと、基本的な考え方を学んでいく。

語彙表現が与えるイメージを中心に、人物評価の語彙表現、日本人の考え方・感じ方を学ぶ。また、時間内に簡潔に述べるようになることを目指す。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
相手との関係で表現を考える。効果的な表現方法を学ぶ	書いたものを自分で客観的にチェックし、相手に与える効果を意識できているか、書いたものから評価する。	25%
性格等を表すための語彙・表現を学ぶ	語彙の意味・用法を知り、場に応じて使えるかどうか、小テストを実施予定。また、書いたものから評価する。	15%
分析したことをまとめ、表現する	自分の来し方を振り返り、自分を再評価、相手に伝わる表現となっているか、書いたものから評価する。	25%
就活に使える長所短所の述べ方を学ぶ	作文を暗記するのではなく、自然な話し言葉で、限られた時間の中で、必要十分な表現で口頭発表ができたかどうかを評価する。	25%
評価の方法	授業態度、参加度も評価の対象となる。 授業態度・参加度10%、客観的な表現25%、語彙表現の定着15%、的確な表現25%、口頭表現25% 出席が3分の2に満たない場合には単位は与えられない。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	自己紹介	なぜ自己紹介なのか、表現するとは
2	いい自己紹介	自己紹介の目的、就活とは
3	長所短所	短所についての表現
4	自己分析	自分を客観視する
5	語彙 1	性格についての表現
6	語彙 2	語の価値
7	語彙 3	自分を表現できる語彙
8	エピソード	自分の性格を裏付けるエピソード
9	ブレインマップづくり	長所短所とエピソード
10	アウトライン作成	内容の適否を検討、アウトライン作成
11	作文	400字程度の長所短所についての作文
12	フィードバック	書き直し
13	口頭発表の準備	アウトラインに基づいて口頭発表の準備をする
14	口頭発表	時間内での発表を目指す
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇適宜プリントを配布する。

【履修条件等】

◇出席するだけでなく、意欲を持って学習に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇あらかじめ配布されたものについては、予習をすること。

【その他の注意事項】

◇適宜小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

◇課題は必ず提出し、期限を厳守すること。

日本語Ⅳ（留学生科目）	コバヤシ ヒロノリ 小林 寛典
Japanese Language IV	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」で身につけたビジネス場面での基礎的な日本語を使って、日本語の運用能力の向上を図るとともに、基礎の定着と発展を図る。模擬的なビジネス場面を想定し、簡易な企画立案、プレゼンテーションの課題に取り組む。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス場面における日本語表現の習得	ビジネス場面における適切な表現を選択できるか否か、またビジネス場面における語彙を理解し使用できるかどうかを評価する。	30%
文書や音声情報の処理能力の向上	文書や音声など、外部からの情報を正確に理解し、対処できること。	40%
ビジネス課題の達成	簡単な企画立案、プレゼンテーションができること。	30%
<p>評価の方法 授業参加度30%、課題30%、本試験40%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	授業の説明	授業と評価の説明、授業計画、発表の日本語導入
2	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展 1－①
3	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展 1－②
4	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展 1－③
5	ビジネス日本語演習	演習 1－①
6	ビジネス日本語演習	演習 1－②
7	ビジネス日本語演習	演習 1－③
8	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展 2－①
9	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展 2－②
10	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展 2－③
11	ビジネス日本語演習	演習 2－①
12	ビジネス日本語演習	演習 2－②
13	ビジネス日本語演習	演習 2－③
14	ビジネス日本語演習	予備日
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇使用せず。必要に応じて資料を配布する。

【履修条件等】

◇欠席せず、意欲を持って学習に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

日本語Ⅳ（留学生科目）	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Japanese Language IV	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

卒業後の日本での就職、あるいは日本企業に関連した職場での仕事を想定して、ビジネス日本語の表現および日本のビジネスマナーやビジネス習慣を学ぶことを目的にした授業である。視聴覚教材を使用してビジネス場面特有の語彙・表現を学習しながら、ビジネスマナーや習慣についても悪い例・良い例を視覚的に見て具体的に学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
敬語の形式を習得し、場面ごとの適切な待遇表現が使えるようにする	授業中の小テストで評価する。	15%
日本のビジネスマナー・ビジネス習慣を学び、適切なビジネス日本語表現ができるようにする	提出された課題の完成度と本試験によって習熟度を評価する。	課題15% 本試験のうち 70%
日本のビジネスマナー・ビジネス習慣を学び、場面に合わせた適切な行動をとれるようにする	本試験によって習熟度を評価する。	本試験のうち 30%
<p>評価の方法 受講態度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	授業の説明	授業と評価の説明、授業計画
2	日本の就職活動①	日本の大学生の就職活動の具体的例（前半）
3	日本の就職活動②	日本の大学生の就職活動の具体的例（後半）
4	ビジネスマナーの基本	ビジネス習慣などの基本マナー
5	敬語①	敬語の種類と形
6	敬語②	場面ごとの待遇表現
7	ビジネス文書①	種類、文体、書式の基本
8	ビジネス文書②	いろいろなビジネス文書の形式
9	電話の受け方①	電話対応の基本と表現
10	電話の受け方②	電話取り次ぎ、伝言の方法
11	電話のかけ方	電話をかけるときの基本的表現とマナー
12	訪問のマナー	受付、名刺交換などのマナーと表現
13	応接のマナー	応接の習慣と表現
14	日本のビジネススタイル	ビジネス習慣の違い
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇必要に応じて資料を配付する。

◇参考図書：株式会社日本映像教育社編著（2004）『オフィスで使える！マナーもに身につく！ビジネス日本語 テキスト①内定者編』株式会社日本映像教育社
株式会社日本映像教育社編著（2004）『オフィスで使える！マナーもに身につく！ビジネス日本語 テキスト②新入社員編』
株式会社日本映像教育社

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇基本会話表現を想定した会話シートを完成してこること。

【その他の注意事項】

◇上記の授業計画は受講人数、大学内行事日程などを勘案して変更することがある。

社会学 I	ソウ アイ 宋 愛
Sociology I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

身近な現象を社会的に解説していく。身の回りの馴染みのあるような現象から、戦後社会の変容に迫り、さらに戦前、そして近代の起源に遡る。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	15%
小レポート	授業の内容についての小レポートを学期中に提出してもらいます（予定では3回）。	45%
期末レポート	授業の内容に関する資料を読み、レポートを作成してもらいます。提出は学期末。	40%
評価の方法 授業内での態度、小レポート、期末レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	社会学とは何か？
2	ロックフェスとは何か	ロックフェスの変容、カルチュラル・スターディズ
3	「かわいい」とは何か(1)	アイドル論、ファン文化論
4	「かわいい」とは何か(2)	盛り女子、インスタ映え、消費社会論
5	グローバル化とは何か(1)	移民、多文化共生
6	グローバル化とは何か(2)	「文明の衝突」、文化帝国主義、
7	情報社会とは何か(1)	地域メディア、インターネットの誕生
8	情報社会とは何か(2)	草の根のコミュニケーションは社会を変えるか
9	情報社会とは何か(3)	デジタル・デバイト、「フェイク・ニュース」
10	性別とは何か(1)	ジェンダー、セクシュアリティ
11	性別とは何か(2)	メディアにおける女性表象
12	家族とは何か(1)	性別役割分業、家族形態の変容、少子高齢化社会
13	家族とは何か(2)	家族内の自己形成
14	若者とは何か	若者論、1968論
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇必要な資料については教員が適宜準備して配布します。

◇教科書を指定しませんが、以下の書籍は参考にすると理解に役立つでしょう。

長谷川公一等（著）『社会学』有斐閣

友枝敏雄（編著）『社会学の力 最重要概念・命題集』有斐閣

見田宗介（著）『現代社会はどこに向かうか 高原のみばらしを切り開くこと』岩波新書

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表する。

【その他の注意事項】

◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

社会学Ⅱ	ソウ 宋 アイ 愛
Sociology II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

前近代社会から近代社会へ、そして近代社会からいわゆる「高度情報化社会」へ変容してきた過程を遡る。＜メディア＞を中心概念として、それぞれの社会形態の特徴を解説する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	15%
小レポート	授業の内容についての小レポートを学期中に提出してもらいます（予定では3回）。	45%
期末レポート	授業の内容に関する資料を読み、レポートを」作成してもらいます。提出は学期末。	40%
評価の方法 授業内での態度、小レポート、期末レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	「現代社会」とは何か
2	近代とは何か	マルクス、マックス・ウェーバー
3	国民国家とは何か	帝国の解体、ナショナリズムの世紀
4	民族とは何か	「民族という虚構」
5	ホロコーストとは何か	バウマン、ハンナ・アーレント
6	マス・メディアとは何か(1)	近代新聞の誕生、出版資本主義
7	マス・メディアとは何か(2)	映画、ラジオの登場
8	マス・メディアとは何か(3)	戦争宣伝、プロパガンダ
9	記憶とは何か(1)	「八月ジャーナリズム」
10	記憶とは何か(2)	現象学的社会学
11	市民社会とは何か(1)	国家と社会の分離、市民ジャーナリズム
12	市民社会とは何か(2)	デモの社会学
13	民主主義とは何か(1)	「社会の木鐸」としてのメディア、公共圏
14	民主主義とは何か(2)	劇場型政治、ポピュリズム
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇必要な資料については教員が適宜準備して配布します。

◇教科書を指定しませんが、以下の書籍は参考にすると理解に役立つでしょう。

津田正太郎（著）『メディアは社会を変えるのか メディア社会論入門』世界思想社
山腰修三（編著）『入門メディア・コミュニケーション』慶應義塾大学出版会

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表します。

【その他の注意事項】

◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

法学 I (憲法含む)	サカイリ リョウ 坂入 遼
Law I	選択科目 / 半期 / 2 単位

【授業概要】

法学の基本を理解し、そして身近な社会現象を法的に考える力を磨いてもらう。これが本授業の目的である。具体的に本授業では、まず、社会における法の役割、裁判の位置付け、法の解釈といった基本的な法学の要点を押さえることを目指す。そして、代表的な法分野について、身近な社会現象を法的に捉えていくことを通じて理解を深めていく。

社会には、さまざまな法的問題があふれている。複雑な世の中を自立して生きていく上では、法的思考力は重要であり、この基礎を身につけるための場が本授業となる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 法に関心をもち、法学の基本を理解する	社会における法の位置付け、裁判制度、法の解釈といった法学の基本を理解できているかを、授業中の議論への貢献度や定期試験の結果にもとづき評価する。	30%
2) 学習した各法分野の基本事項を説明できるようになる	定期試験において、半期を通じて学んださまざまな法分野に関し基本事項を説明できるかを問い、その結果にもとづいて評価する。授業中の議論での有意義な発言も評価上考慮される。	30%
3) 身近な問題を法的に考える	授業では、身近な社会現象を取り上げ、それらを法的に考えるトレーニングも行う。こうした実践への取り組み状況に加え、その到達度を図るための定期試験の結果も評価上考慮される。	30%
4) 国内法と国際法の基本的な違いを理解し、説明できるようになる	国内法と国際法の基本的な違いを理解することは、法の可能性と限界を把握することにもつながる。これに関する到達度も、授業中の議論への貢献度、定期試験の結果により評価する。	10%
評価の方法	成績評価に占める割合は、授業中の議論への貢献度が30%、期末の確認テスト（定期試験）の点数が70%である。ただし、出席回数が全回数の3分の2以上であることが、成績評価を受ける条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、成績評価方法に関し説明する
2	法とはなにか	社会における法の役割について学ぶ
3	法と裁判	裁判の役割、裁判制度、訴訟手続に関する原則について学ぶ
4	裁判の基準となるもの	法律、裁判例などの位置付けについて理解する
5	法の解釈	事実の認定と法の解釈、法の解釈の性質・方法について学ぶ
6	法の分類	公法と私法の関係、六法その他の役割について理解する
7	憲法(1)	日本国憲法の特徴、基本的人権に関する規定について学ぶ
8	憲法(2)	統治機構に関する規定について学ぶ
9	犯罪と法	刑法、刑事手続と刑事訴訟法について学ぶ
10	家族生活と法	家族関係に関する民法の規定について学ぶ
11	財産関係と法	財産関係に関する民法の規定について学ぶ
12	労働と法	労働に関する法分野について学ぶ
13	経済活動と法	独占禁止法を中心とした経済法について学ぶ
14	国際法と国内法の違い	国際法が国内法と異なる点、その理由を学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず、教員が配信する教材にもとづいて授業を進める。

◇ただし、自学自習の参考となる文献として次のものを挙げておく。

伊藤正己・加藤一郎編著『現代法学入門』（有斐閣、第4版、2005年）

奥田進一・高橋雅人・長友昭・長島光一編著『法学入門』（成文堂、2018年）

【履修条件等】

◇「法学Ⅰ」では、身近な社会現象を手掛かりにして、法を学ぶ上での基本、憲法を中心とする法の体系を広く理解してもらうことが中心となる。本授業で得た基本的理解をもとに、法学への理解を一層深めたい学生の皆さんには、「法学Ⅱ」をあわせて履修することをおすすめする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業では、身近なニュースなどを素材にして法的思考力を養うトレーニングを行う。

事前のアナウンスに応じて新聞などを読み、問題となる社会現象の基本的理解を得ておくこと。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。その他、授業態度は成績に影響することとなる。

法学 I (憲法含む)	ナガキ イクヤ 長岐 郁也
Law I	選択科目 / 半期 / 2 単位

【授業概要】

初めて法律学を学ぶ学生諸君に法律学に対する興味や関心を持ってもらい、基本的な法原則・法概念、そして法の適用（解釈）などを習得してもらうことが本講義の目的である。

法律学は、初めて勉強する人にとっては取っ付きにくい学問であり、勉強の最初の段階で違和感や苦手意識を感じてしまう学生も多い。

そこで本講義では、いくつかの身近で具体的な事例を出発点として法の基礎知識を学ぶとともに、法の解釈とはどのようなものかを学生諸君と考えていくこととしたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
法律学に対する興味・関心を持つこと	身近な事例を用いることで、まずは自身の感覚や勘を頼りに考えてもらいながら、徐々に法的思考に基づいた見方ができるかを講義中の発言に基づいて評価する。	20%
憲法を中心とした法体系を理解すること	定期試験において法の成立、公布、施行の一連の流れを踏まえて上で、法の役割を問うことで評価する。	20%
法に与えられている役割を理解すること	定期試験においてそれぞれの法律の分野に関する問題を設け、理解の程度を評価する	20%
日常において発生する法律に関わる問題に対して自らの考えを述べることができること	定期試験において、日常のニュースなどで多くの事件を知ることができるが、それらに対して法律の視点からどのように捉えることができるか、また通常の視点とはどのような差異が生じるのかを認識することができるかを評価する。	40%
評価の方法 定期試験の結果をもって評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	
2	法学	近代社会における法の意義
3	法学	国家による法の規制
4	憲法	憲法の役割と意義、帝国憲法と憲法
5	憲法	基本的人権（平等権、自由権）
6	憲法	基本的人権（社会権、受益権）
7	憲法	統治機構論（内閣、国会、裁判所）
8	憲法	統治機構論（内閣、国会、裁判所）
9	行政法	地方公共団体の法
10	民法	日常生活の中の法の役割、権利と義務の関係
11	民法	会社の組織、取引関係における法の役割
12	刑法	罪刑法定主義
13	刑法	刑罰について
14	訴訟法	裁判所の種類と役割及び裁判の手続き
15	まとめ	

【使用教材】

◇教科書は使用せず授業を進める。

なお、参考文献は以下のとおりです。

五十嵐清著『法学入門（第3版）』悠々社、2006年

星野英一著『法学入門』有斐閣、2010年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。

法学Ⅱ	サカイリ リョウ 坂入 遼
Law II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

本授業では、法学に関する基本的な理解にもとづき、経済活動と深く関係する法分野を中心に学ぶことを通じて法的思考力を磨いてもらう。

具体的に本授業では、民法（国内の取引の基本ルール）、国際取引法（私的取引に関する国際ルール）、経済法（経済の公法的規制）、国際経済法（国際経済についての公法的規制）を扱う。

ビジネスの世界では法的問題に直面することが常である。本授業を通じて、受講生は、経済活動との関わりがある法への理解を得るとともに、より深い法的思考力を身につけることができる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 学習した法分野に関する基本事項を説明できるようになる	民法、国際取引法、経済法、国際経済法を学習した上で、基本事項を説明できるようになったかどうかを問う。評価は、授業中の議論への貢献度、定期試験の結果にもとづいて行う。	20%
2) ビジネスに関する身近な問題を関連する法との関係で説明することができる	授業では身近なビジネス上の問題を取り上げ、それらを法的に考えるトレーニングも行う。こうした実践への取り組み状況に加え、その到達度を図るための定期試験の結果も評価上考慮される。	30%
3) 代表的な法的論点を裁判例などとの関係で理解し、説明することができる	学習した法分野の代表的な論点に対し、裁判例などとの関係を踏まえつつ、整理された説明ができるかを問う。評価は、授業中の議論への貢献度、定期試験の結果にもとづいて行う。	20%
4) 与えられた問題に対し法をどう適用できるかを説明することができる	代表的な裁判例を踏まえ、与えられた問題に対して法をどのように適用できるかを考え、決められた時間内に解答することができるかどうかを問う。授業中の議論への貢献度、定期試験の結果にもとづき評価する。	30%
評価の方法	成績評価に占める割合は、授業中の議論への貢献度が30%、期末の確認テスト（定期試験）の点数が70%である。ただし、出席回数が全回数の3分の2以上であることが、成績評価を受ける条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の内容、進め方、成績評価方法に関し説明する
2	民法(1)	契約をめぐる民法上の論点について学ぶ
3	民法(2)	物権をめぐる民法上の論点について学ぶ
4	民法(3)	不法行為をめぐる民法上の論点について学ぶ
5	国際取引法(1)	国際的な売買の取引条件に関するルールについて学ぶ
6	国際取引法(2)	貿易代金の決済に関するルールについて学ぶ
7	国際取引法(3)	国際取引紛争を解決するための裁判、仲裁の手続を学ぶ
8	経済法(1)	カルテルなど不当な取引制限に関する規制について学ぶ
9	経済法(2)	私的独占に関する規制について学ぶ
10	経済法(3)	企業の買収などに関する規制について学ぶ
11	経済法(4)	不公正な取引方法に関する規制について学ぶ
12	国際経済法(1)	関税、国内規制、数量制限に関する基本ルールを学ぶ
13	国際経済法(2)	貿易救済制度に関する規制について学ぶ
14	国際経済法(3)	世界貿易機関(WTO)の紛争解決制度について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用せず、教員が配信する教材にもとづいて授業を進める。
- ◇ただし、自学自習の参考となる文献については、適宜授業の中で紹介する。

【履修条件等】

- ◇本授業では、「法学Ⅰ」で学んだ基本的な内容にもとづき、より深く法学を理解するための取り組みが行われる。そのため、「法学Ⅰ」をあわせて履修することをおすすめする。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業では、身近なニュースなどを素材にして法的思考力を養うトレーニングを行う。事前のアナウンスに応じて新聞などを読み、問題となる社会現象の基本的理解を得ておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇講義中の私語は厳禁とする。その他、授業態度は成績に影響することとなる。

法学Ⅱ	ナガキ イクヤ 長岐 郁也
Law II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

日常生活を営む上では法律を意識する機会は多くないものの、多くの法律が関わるものである。とくにその中心には民法が置かれており、それに付随するさまざまな法律が存在している。本講義では、民法に定められる基本的なルールを学習するとともに、日常生活のトラブルにどのようにあてはめられ、解決が試みられるのかを学習する。時としてそのルールが修正されることもあるので、この点についても適宜触れていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活における法の関わりを理解すること	民法を中心とした私法が日常生活にどのように関わるのかをイメージすることができること。	20%
法律の制度の趣旨を理解すること	ルールを理解するためには法律に定められる制度の立法趣旨を理解することが必要であるため、これについて試験において評価する。	30%
法律に定められるルールを事実に当てはめることができること	実際の出来事にどのような法律の制度を当てはめることができ、その結果としてどのように処理することが可能であるのかを試験において確認する。	40%
日常において発生する法律が関わる問題に対して自らの考えを述べることができること	定期試験において、日常のニュースなどで多くの事件を知ることができるが、それらに対して法律の視点からどのように捉えることができるか、また通常の見点とはどのような差異が生じるのかを認識することができるかを評価する。	10%
評価の方法 定期試験の結果をもって評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業内容及び授業方針の説明
2	民法の概要	民法典についての説明
3	契約(1)	買った物が壊れていたら
4	契約(2)	スーパーで食品を買ったら
5	契約(3)	ネット通販で靴を買ったら
6	契約(4)	友人に貸した自転車を取り戻したい
7	契約(5)	お金を貸したら
8	不法行為(1)	バイクで人身事故を起こしたら
9	不法行為(2)	ネット上で中傷されたら
10	契約(6)	アパートを貸したら
11	契約(7)	親が家を新築したら
12	婚姻	友人の結婚
13	離婚	親が離婚したら
14	相続	家族が亡くなったら
15	まとめ	近代市民法の原則とその修正、民法改正

【使用教材】

- ◇教科書は使用せず授業は進める。
- ◇参考文献等については、講義中に適宜案内する。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇講義中の私語は厳禁とする。

<p>心理学</p>	<p>ウキヤ シュウイチ 浮谷 秀一</p>
<p>Psychology</p>	<p>選択科目 / 半期 / 2単位</p>

【授業概要】

科学として発展してきた心理学が、今日まで解明してきた人間の心理と行動の特徴についてわかりやすく解説し、身近な学問として正しく理解してもらうことをねらいとしています。そのねらいの実現のために、人間の心理を理解するために必要な基礎的な領域（発達心理・生理心理・認知心理・適応心理・学習心理）を解説します。主に講義形式で授業を進め、適切な時期に、必要に応じて各種心理検査などを紹介する実習などを組み込んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
発達心理とその特徴について理解すること	発達に影響する要因を理解することと発達段階の特徴を理解できているか評価する。	45%
生理心理のメカニズムを理解すること	生理心理のメカニズムを理解できているかで評価する。	10%
認知心理の特徴を理解すること	認知心理に関連する人間の特徴を理解できているかで評価する。	15%
適応心理の特徴を理解すること	適応するということがどのようなことかを理解できているかで評価する。	15%
学習心理の特徴を理解すること	学習するということがどうゆうことかを理解できているかを評価する。	15%
<p>評価の方法 出席は3分の2以上が単位認定の条件。 中間試験またはレポート40%、最終試験60%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	心理学の成立ち	(1)心理学とは
2	発達心理	(1)発達とは (2)発達の特徴
3	発達心理	(3)遺伝と環境[1]
4	発達心理	(3)遺伝と環境[2]
5	発達心理	(4)発達段階の特徴[1]
6	発達心理	(4)発達段階の特徴[2]
7	生理心理	(1)神経系について
8	認知心理	(1)感覚器官 (2)知覚の一般的特徴
9	適応心理	(1)欲求とは? (2)欲求五階層説 (3)葛藤
10	適応心理	(4)欲求不満 (フラストレーション)
11	中間試験	解説を含む
12	適応心理	(5)適応機制
13	学習心理	(1)学習とは (2)学習過程のメカニズム[1]
14	学習心理	(2)学習過程のメカニズム[2]
15	終了試験	解説を含む

【使用教材】

◇岡村一成（編）『心理学—行動の科学—』東京教学社

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次週に取り上げることを提示するので、教科書の該当箇所を読むこと。

【その他の注意事項】

◇必ず出席して積極的に学ぶこと。

心理学	マツダ ミトコ 松田 美登子
Psychology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

科学として発展してきた心理学の「人間の心理と行動」の法則や原理について詳しく解説し、身近な学問として理解することを目標とします。

「心理学」では、人間の心理を理解する上で必要となる以下のような基礎的な領域を中心に授業を進めます。(1)人間の発達の仕組みと発達的变化、(2)心と脳との関係、(3)人間の視知覚の不思議、(4)欲求と適応行動、(5)学習行動と記憶のメカニズムをテーマに学習します。

授業は、主に講義を形式を中心とします。適時に、課題や心理テストを取り入れて、授業の理解を深めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人間の発達の仕組みと発達的变化について理解する	レポートおよび試験により評価。人間の誕生から死までの一連の発達プロセスや発達段階のトピックスについて理解し設問に回答できること。	25%
心と脳との関連性を理解する	試験により評価。人間の心と行動に大きく関連する神経系や脳の構造や機能について知り得たことを回答できること。	15%
人間の視知覚の不思議について理解する	課題および試験により評価。知覚の中の視知覚を中心とする。視覚における錯覚（錯視）や人間の経験や環境が影響を及ぼす社会的知覚、運動視等について講義と課題を通じて学習した内容を説明できる。	20%
人間の欲求と適応行動について理解する	レポートおよび試験により評価。欲求と葛藤および欲求不満について正しく理解し、環境との適応について考察し答えることができる。	20%
学習行動と記憶のメカニズムについて理解する	課題および試験により評価。学習理論について学び、神経症や問題行動の理解に繋げる。記憶と忘却について課題を通じて理解し説明できる。	20%
評価の方法	①平常点：10%（リアクションペーパー・課題の提出、出席状況） ②レポートおよび宿題提出：30% ③定期試験60%（教科書・プリント類等、一切持込不可）。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の目的と進め方、成績評価基準等の説明 科学としての心理学とは？
2	発達心理	(1)発達とは？ (2)発達のしくみ
3	発達心理	(3)発達段階の特徴[1]乳児期～思春期
4	発達心理	(3)発達段階の特徴[2]青年期～老年期
5	生理心理	(1)神経系のはたらき (2)脳の構造
6	生理心理	(3)情動 (4)心身症
7	知覚心理	(1)知覚の成立 モノの見え方の不思議
8	知覚心理	(2)知覚の全体性 知覚におよぼす欲求や価値
9	知覚心理	(3)運動の知覚 動いていないのに動いて見える？
10	認知心理	(1)欲求とは？ (2)欲求5階層説 (3)葛藤と欲求不満
11	認知心理	(4)適応機制 (5)適応と不適応行動
12	学習心理	(1)学習とは？ (2)学習過程のメカニズム[1]
13	学習心理	(3)学習過程のメカニズム[2] (4)無気力は学習される？
14	学習心理	(5)記憶と忘却
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：岡村一成（編）『心理学—行動の科学—』東京教学社

【履修条件等】

◇心理学に興味を持ち、意欲がある学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指示した重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇課題やレポートは期限内に、必ず仕上げ提出すること。

現代思想	スミダ コウジ 隅田 浩司
Modern Thought	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業は、「考えることを考える」授業です。したがって、哲学の歴史を学ぶものではなく、哲学者の思想のキーワードだけ暗記させるようなことも行いません。この授業では、皆さんが、本格的な哲学的思考を身につけるための前提となる思考力、とくに論理的な思考力を鍛えることを最優先しています。論理的に考える思考こそ、人生を生き抜く上での最大の武器です。この武器を身につけるのがこの授業の目的です。従って、講義では、受講生の皆さんの思考を鍛えるため、ディスカッション形式による対話型の授業を取り入れます。対話型という以上は、学生は、授業で常に意見を求められます。座っているだけで単位が取れると思っている人はこの授業には向いていません。しかし、この授業を履修し、しっかり議論に参加するならば、必ず、今までとは違う世界が開けるはずです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
論理の構造をつかむ	文章のつながりから、論理を見だし、正確に文章の意味を読み取ることができるかどうかについて授業中の発言、期末試験の中で評価します。	20%
論証の基礎を学ぶ	自分の意見を論証することができるか、あるいは、他人の論証を構造的に理解し、その上で、その論証の問題点を指摘できるかどうかについて授業中の発言、期末試験の中で評価します。	30%
演繹法	演繹法について、その正確な運用、基本パターンを身につけることができているかどうかについて、授業中の発言、期末試験の中で評価します。	30%
文章構成本力	論理的に一貫した論文、レポートなどを書くことができるかどうかについて、授業中の発言、期末試験の中で評価します。	20%
評価の方法	授業中の授業態度や対話型授業への参加姿勢を70%、定期試験の成績評価30%の比率で成績評価を行います。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	導入講義を行います
2	論理とはなにか？	論理的思考の基礎理論を学びます
3	考えるとはなにか？	きちんと考えるための方法論を学びます
4	安易な出口のわな	すぐに結論に飛びつく思考を回避する方法を学びます
5	論証の基礎	論証の重要性について学びます
6	演繹法基礎	演繹法、特に三段論法について学びます
7	演繹法の実践	演繹法について条件構造について学びます
8	演繹法の応用	演繹法を使用した論理的な主張の構築について学びます
9	逆・裏・対偶	逆・裏・対偶について学びます
10	否定	否定の正確な活用について学びます
11	推論の基礎	推論の基礎理論について学びます
12	先入観	先入観、バイアスの与える影響について学びます
13	反証	反証について学びます
14	仮説・検証	仮説と検証について学びます
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しません。

◇授業の教材はすべて CoursePower からダウンロードできます。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義の中で、適宜、予習事項を指示します。

【その他の注意事項】

◇この授業は、日本語で文章の論理を分析することになります。そのため、かなり大量の日本語の文章を読むことになります。履修する際は、この点について、注意してください。

◇対話型の授業となりますので、参加意欲が乏しい場合は履修停止となります。

◇私語は厳禁です。違反者は履修停止となります。

文学（現代文学）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、日本の現代文学における何人かの重要な作家の作品を取り上げ、そこからどのような作者の思いが読み取れるかについて考える。それぞれの作者の文章の特徴や、表現の傾向を分析したり、作者の生活した土地や、交友関係、生い立ちなどが作風にどのように影響を与えているかについて考えたりしてみたい。また、お互いに、自分の好きな作家の作品を紹介し合い、各自の読書の世界を広げるような試みも行いたい。

この授業をきっかけに、読書の楽しみ方を学び、読書習慣を身につけてもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本文学の歴史	明治時代以降の日本文学の歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
芥川龍之介の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	芥川龍之介の作品の内容や、表現の特徴、芥川の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
太宰治の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	太宰治の作品の内容や、表現の特徴、太宰の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
村上春樹の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	村上春樹の作品の内容や、表現の特徴、村上の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文や発表の内容、受講態度等20%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	日本文学の歴史	明治以降の日本文学の歴史について。
3	さまざまな作家の作品	重要な作家とその作品の内容・特徴について。
4	芥川龍之介の文学	芥川龍之介の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深めるとともに、芥川 の生活環境や交友関係が作品に与えた影響について考える。
5	芥川龍之介の文学	
6	芥川龍之介の文学	
7	太宰治の文学	太宰治の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深めるとともに、太宰 の生活環境や交友関係が作品に与えた影響について考える。
8	太宰治の文学	
9	太宰治の文学	
10	村上春樹の文学	村上春樹の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深める。また、海外で起こった村上春樹ブームや、村上の政治や社会問題に関する発言などについても考える。
11	村上春樹の文学	
12	村上春樹の文学	
13	私の薦める作家・作品	他の人に薦めたい作家や作品について、お互い紹介し合い、意見を交換する。
14	私の薦める作家・作品	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇読書が好きな人、今は苦手でも読書してみたいと思っている人など、積極的に授業に参加できる学生に履修してもらいたい。

◇日本語で書かれた文学作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前回までに勉強したことは、きちんとノート整理し、理解した上で次の授業に臨むこと。

◇高校時代の教科書や、辞書、事典などで、授業で取り上げる作家や作品の概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇わからない言葉が出てきたら、積極的に辞書を使って調べること。

<p>文学（源氏物語）</p>	<p>アミモト ナオコ 網本 尚子</p>
<p>Literature</p>	<p>選択科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

『源氏物語』に描かれている女君たちのなかでもとくに印象深い、紫の上、葵の上、六条御息所、藤壺女御、そして光源氏の母である桐壺更衣らを取り上げ、それらの女性がどのように描かれているのかに着目しながら『源氏物語』の本文を読み進めていく。

古語や文語文法の知識を深めるというよりも、私たちと同じ日本人が、1000年前にはどのように生活し、どのような物の考え方をしていたのかを知り、現代日本の根底に横たわる、日本人としての共通認識や常識について理解を深めることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
『源氏物語』の作者や物語執筆の背景などについて理解する	歴史的な人物について答えられるだけでなく、漢字で正しく書けるようにすること。設問に対する回答、試験によって評価。	20%
授業で読むテキスト本文が、現代語訳のどの箇所にあたるかを理解し、正しく読む	テキストの音読を指名された時に、正しく読めるかどうか。	20%
本文に描かれている平安時代の風俗や習慣、考え方などについて理解を深める	授業で説明を受けた語句の意味等を正しく理解できているかどうか。また、漢字で正しく書けるかどうか。設問に対する回答、試験によって評価。	40%
『源氏物語』の登場人物について	本文に登場する人物について、お互いの関係を理解し、正しく系図にまとめられるかどうか。設問に対する回答、小テスト、試験によって評価。	20%
<p>評価の方法 3分の2以上の出席で、受講態度・小テスト等20%、試験80%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイドンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	桐壺更衣	「桐壺」の巻を中心に講読し、平安時代の後宮や平安貴族の考え方、当時の結婚観等について解説する。
3	桐壺更衣	
4	桐壺更衣	
5	藤壺女御	藤壺女御に関する記述をピックアップして読み、光源氏の生涯に藤壺が与えた影響について考察する。
6	藤壺女御	
7	葵の上	「葵」の巻を中心に講読する。とくに「車争い」前後の葵と六条の心理を読み取り、この悲劇の原因をさぐる。
8	葵の上	
9	六条御息所	車争いの後に六条御息所の身に起こった現象を考察し、平安時代の人々の思想について理解を深める。 光源氏と六条のその後を、テキストで読み味わう。
10	六条御息所	
11	六条御息所	
12	紫の上	紫の上に関する記述をピックアップして読み、紫の上を造形した作者の紫式部の意図を考察する。平安時代の結婚形態について解説し、女三の宮の悲劇が生じた原因を考察する。
13	紫の上	
14	紫の上と女三の宮	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇秋山虔他編『源氏物語読本』筑摩書房

【履修条件等】

- ◇日本語のテキストを音読する能力があること。
- ◇日本の伝統や歴史に興味があること。
- ◇日本の古い言葉で作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前回までに登場した人物について整理し、理解しておくこと。
- ◇前回までの授業で説明を受けた古語の意味を理解しておくこと。また習った漢字を読むようにしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇テキストを持参しない場合は欠席と見なすので、必ずテキストを購入し、毎時間持参すること。

<p>文学（歌舞伎）</p>	<p>アミモト ナオコ 網本 尚子</p>
<p>Literature</p>	<p>選択科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

江戸時代から演じられ続けている日本の伝統芸能、歌舞伎を取り上げ、ビデオ教材を用いながら、歌舞伎の成立や歴史、特徴、他の古典芸能との関連、鑑賞のポイントなどについて講義する。受講者全員で古典芸能を鑑賞に出かけることなどはしないが、個人的に鑑賞の機会を持ってくれることを期待する。

これからの国際化の時代、海外に出る機会もますます増えるだろう。諸外国の人々に、日本の伝統について堂々と説明できるようになってほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
歌舞伎の歴史について正しい知識を身につける	歌舞伎成立以前の芸能の歴史に始まり、江戸時代から近現代にいたるまでの歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
歌舞伎の特徴について正しい知識を身につける	歌舞伎が演じられる舞台の構造、歌舞伎の登場人物に見られる特徴、衣装、大道具・小道具、セリフなど、現代演劇と違う特徴を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
歌舞伎の演目について自分の意見や感想を述べる	ビデオで鑑賞した歌舞伎の演目について、あらすじや内容、鑑賞のポイントを理解しているかどうか。自分の言葉で感想や意見を述べることができるかどうか。集中してビデオを鑑賞できたかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
歌舞伎が現代とどのようにつながっているかについて考える	歌舞伎が現代まで演じ続けられていることに対して、その理由や、現代社会に与えている影響などについて、自分の言葉で意見を述べることができるかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文の内容、ビデオの鑑賞態度等20%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	歌舞伎の歴史	江戸時代から現代に至る歌舞伎の歴史について。
3	歌舞伎の特徴	歌舞伎と他の演劇との違い、歌舞伎らしさとは何か、等という点から、歌舞伎の特徴を学ぶ。
4	歌舞伎の特徴	
5	歌舞伎の登場人物	歌舞伎の登場人物の種類や特徴について。
6	歌舞伎の舞台	歌舞伎の演じられる舞台の構造と特徴について。
7	時代物と荒事	歌舞伎の時代物や荒事に見られる特徴や、代表的な演目の内容、鑑賞のポイントなどについて。
8	時代物と荒事	
9	時代物と荒事	
10	世話物	歌舞伎の世話物に見られる特徴や、代表的な演目の内容、鑑賞のポイントなどについて。
11	世話物	
12	歌舞伎の音楽	歌舞伎で演奏される音楽の特徴について。
13	能・狂言と歌舞伎	能・狂言から作られた歌舞伎演目について。能・狂言の演目と歌舞伎演目との演じ方の違いについて。
14	能・狂言と歌舞伎	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇古典芸能や、演劇、ダンス、音楽などに、少しでも興味を持っている学生に履修してもらいたい。

◇日本の古い言葉で演じられる芸能を、字幕なしで鑑賞するので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習の必要はないが、能楽堂や劇場などで実際に能、狂言、歌舞伎を鑑賞した人は、感想文を提出すること。提出された感想文は、成績評価に含める。

【その他の注意事項】

◇ビデオ鑑賞することが多い授業なので、遅刻をすると他の受講生に迷惑をかけることになる。気をつけること。

<p>文学（古典文学）</p>	<p>アミモト ナオコ 網本 尚子</p>
<p>Literature</p>	<p>選択科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

この授業では、現代に生きるわれわれにも少なからず影響を与えている代表的な古典文学作品や、古典文学の影響を受けて書かれた近現代の小説を取り上げ、あらすじを知るとともに、その一部については原文で読み味わう。さらに、そこに描かれる昔の風俗や考え方についての講義を通して、日本人としての常識を身につけ、教養を深めることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
和歌の歴史や用語について正しく理解する。和歌の現代語訳	和歌文学の歴史や用語を理解し、和歌を自分の言葉で現代語訳できるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
『今昔物語集』の特徴や説話の内容について正しく理解する	説話のあらすじや語句の意味、漢字の読み、説話のおもしろさのポイントなどについて正しく答えられるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
『平家物語』のあらすじを正しく理解する。『平家物語』をもとにした芸能の特徴について考察する	『平家物語』の主な登場人物や事件について正しく答えられるかどうか。『平家物語』と関連深い芸能である平曲や狂言などの特徴を説明できるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
江戸時代の文学作品のあらすじ、特徴を正しく理解する	江戸時代の文学の特徴や、あらすじ、登場人物について正しく答えられるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
<p>評価の方法 3分の2以上出席し、レポートを提出すること。 レポート30%、試験50%、感想文などの内容・受講態度20%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	言葉遊び	日本に伝わるさまざまな言葉遊びについて。
3	百人一首の恋歌	百人一首の恋歌を読み味わい、昔の人々と現代人との共通点や相違点について考察する。和歌を題材に作られた漫画や歌など、現代に与える影響について考える。
4	百人一首の恋歌	
5	百人一首の恋歌	
6	今昔物語集	『今昔物語集』の説話を読み、現代人との共通点や相違点について考察する。
7	今昔物語集	
8	今昔と芥川龍之介	『今昔物語集』所収話と、それをモチーフに書かれた芥川龍之介の小説『藪の中』を比較する。
9	今昔と芥川龍之介	
10	平家物語	『平家物語』のあらすじや人物関係を理解する。那須与一などの有名な場面をいくつか読み、さらに平家琵琶や『平家』の一場面を基にした狂言などの芸能を鑑賞する。
11	平家物語	
12	平家物語	
13	曾根崎心中	『曾根崎心中』のあらすじや人物関係を理解する。文楽の「曾根崎心中」をビデオで鑑賞する。
14	曾根崎心中	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇高校時代に古典を選択していなかった人も十分受講可能だが、少なくとも文学に興味関心のある人に履修してもらいたい。

◇日本の古い言葉で書かれた文学作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前回までに勉強したことは、きちんとノート整理し、理解した上で次の授業に臨むこと。

◇高校時代の教科書や、辞書、事典などで、授業で取り上げる作品の概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇レポートを一回課すが、何でもインターネットで調べて済ませようとせず、本で調べて勉強するようにしてほしい。

<p>文学（能・狂言）</p>	<p>アミモト ナオコ 網本 尚子</p>
<p>Literature</p>	<p>選択科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

600年以上前から演じられ続けている日本の伝統芸能、能・狂言を取り上げ、ビデオ教材を用いながら、能・狂言の成立や歴史、他の文学作品への影響、鑑賞のポイントなどについて講義する。受講者全員で古典芸能を鑑賞に出かけることなどはしないが、個人的に鑑賞の機会を持ってくれることを期待する。

これからの国際化の時代、海外に出る機会もますます増えるだろう。諸外国の人々に、日本の伝統について堂々と説明できるようになってほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
能・狂言の歴史について正しい知識を身につける	能・狂言以前の芸能の歴史に始まり、形成期、大成期、近現代にいたるまでの歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
能・狂言の特徴について正しい知識を身につける	能・狂言が演じられる能舞台の構造、能・狂言の登場人物に見られる特徴、衣装、大道具・小道具、セリフ、謡、舞など、現代演劇と違う特徴を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
能・狂言の演目について感想や意見を述べる	ビデオで鑑賞した能・狂言の演目について、あらすじや内容、鑑賞のポイントを理解しているかどうか。自分の言葉で感想や意見を述べることができるかどうか。集中してビデオを鑑賞できたかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
能・狂言が現代とどのようにつながっているかについて考える	能・狂言が現代まで演じ続けられていることに対して、その理由や、現代社会に与えている影響などについて、自分の言葉で意見を述べるができるかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文の内容、ビデオの鑑賞態度等20%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	能・狂言の歴史	能・狂言誕生以前の芸能から近現代にいたるまでの能・狂言の歴史と特徴を学ぶ。
3	能・狂言の特徴	
4	狂言の登場人物	狂言の登場人物の種類や特徴について。
5	狂言の笑いの特徴	狂言の笑いの特徴と分類について。
6	狂言面や小道具	狂言面や小道具の種類や使い方について。
7	狂言の分類	狂言の曲柄による分類について。
8	能の登場人物	能の登場人物の種類や特徴について。
9	能の謡と舞	能の謡と舞の特徴と種類について。
10	能面や小道具	能面や小道具の種類や使い方について。
11	能の分類	能の曲柄による分類について。
12	能の楽器	能の楽器の種類と特徴について。
13	能・狂言と歌舞伎	能・狂言から作られた歌舞伎演目について。能・狂言の演目と歌舞伎演目との演じ方の違いについて。
14	能・狂言と歌舞伎	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考図書：網本尚子訳『角川ビギナーズクラシックス 謡曲・狂言』角川文庫
『狂言ハンドブック』三省堂
野村萬斎著・網本尚子監修『What is 狂言?』檜書店
『能って何?』新書館

【履修条件等】

- ◇古典芸能や、演劇、ダンス、音楽などに、少しでも興味を持っている学生に履修してもらいたい。
- ◇日本の古い言葉で演じられる芸能を、字幕なしで鑑賞するので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習の必要はないが、能楽堂や劇場などで実際に能、狂言、歌舞伎を鑑賞した人は、感想文を提出すること。提出された感想文は、成績評価に含める。

【その他の注意事項】

◇ビデオ鑑賞することが多い授業なので、遅刻をすると他の受講生に迷惑をかけることになる。気をつけること。

文章表現法（基礎）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、「読む」、「書く」に関するさまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、読みやすく、正しい文章の書き方を練習したり、新聞に出てくるレベルの漢字を練習したり、敬語の使い方を実践練習したりといった、基礎的な内容の学習を行う。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
練習問題を解くことによって、正しい文章の書き方を学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せること。小テスト・宿題・試験で評価。	25%
日本語についての基礎知識を身につける	授業時間に、漢字や、語の正しい意味、語句の正しい用法などの練習問題に答えること。その答え方・小テスト・試験で評価。	25%
正しい敬語の使い方を覚える	尊敬語・謙譲語の正しい使い方を身につけること。生活のさまざまな場面で、正しい敬語を使いこなせるようになること。小テストと試験で評価。	25%
手紙の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式の手紙が書けること。提出した手紙で評価。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、課題提出や小テストの点数30%、受講態度20%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	正しい文章の書き方	書き言葉と話し言葉の違い、正しい文体の選び方、助詞の使い方、語句の対応のさせ方、明確な修飾語の書き方、正しい読点の打ち方など、文章を書く上での基本事項を、練習問題に取り組むことで学ぶ。
3	正しい文章の書き方	
4	正しい文章の書き方	
5	正しい文章の書き方	
6	日本語の知識	
7	日本語の知識	
8	日本語の知識	
9	敬語の使い方	敬語の種類や使い方の基本的な知識を、練習問題に取り組むことで学ぶ。さらに、具体的な日常の場面における敬語の使い方の実践的練習を行う。
10	敬語の使い方	
11	敬語の使い方	
12	敬語の使い方	
13	手紙の書き方	手紙の基本的な形式や、ルールについて学び、礼状や近況報告の手紙などを実際に書く。
14	手紙の書き方	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（実践）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、主に「書く」ことに重点を置き、さまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、読みやすく、正しい文章の書き方を練習問題を通して身につけ、その知識、技術を踏まえて、描写文、エッセイ、小論文、レポートなどを書いていく。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
読みやすい文章の書き方を身につける	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力しているかどうか。また、小テストや宿題の問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せるかどうか。小テスト、提出課題の内容、試験で評価する。	25%
明確な文章が書けるようになる	何を述べたいのかが、読者に明確に伝わるように文章が書けたかどうか。提出された課題の内容で評価する。	30%
それぞれの文章の特徴を踏まえた、適切な文章が書けるようになる	レポート、小論文、エッセイなどが、それぞれどのような目的で書かれる文章なのかが正しく理解できているかどうか。形式に適った文章が書けたかどうか。提出された課題の内容、試験で評価する。	30%
誤字脱字のない、正確で読みやすい文章が書けるようになる	下書き、推敲の手順を踏まえて課題を書いているかどうか。誤字脱字に気をつけて書けたかどうか。提出された課題の内容で評価する。	15%
評価の方法	3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験30%、レポート・手紙などの課題の評価50%、受講態度20%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	文章の書き方	練習問題に取り組み、文法的に正しく、読みやすく、明確な文章の書き方について学ぶ。
3	文章の書き方	
4	自己紹介文	読者に強くアピールできるような自己紹介文を書く。
5	メールの書き方	失礼のないメールの書き方を学ぶ。
6	さまざまな文章	エッセイや描写文など、さまざまな文章課題に取り組んで、文章力を磨く。
7	さまざまな文章	
8	小論文	小論文の基本的な構成や、書き方について学び、課題文型小論文とテーマ型小論文を書く。
9	小論文	
10	小論文	
11	レポート	レポートとは何かを正しく認識し、その基本的な形を身につけ、論理的な文章の書き方、用語について知識を深める。 与えられた課題について、自分で資料をさがし、実際にレポートを書く。
12	レポート	
13	レポート	
14	レポート	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇いわゆる留学生向けの日本語の授業ではなく、日本語を十分に習得できている人向けの応用的な内容であるので、とくに留学生は、自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。日本語の応用力が不足している留学生には、「文章表現法（基礎）」の履修をすすめる。また、提出課題の多い授業なので、日本人学生の場合も、国語力に自信のない人は、よく考えてから受講してほしい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。
指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。
◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

<h2 style="margin: 0;">文章表現法（総合）</h2>	<small>アミモト ナオコ</small> 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、ひとりひとりが「読む」、「書く」に関するさまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、練習問題を解いて添削指導を受けたり、与えられた課題について実際に自分で調査し、考えをまとめて短いレポートを作成したり、現実の場面に即した敬語の使い方を実践練習したり、といった学習を行う。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
練習問題を解くことによって、正しい文章の書き方を学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せること。	10%
日本語についての基礎知識を身につける	授業時間に、漢字や、語の正しい意味、語句の正しい用法などの練習問題に答えること。その答え方と試験で評価。	10%
レポート・小論文の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式のレポートが書けること。レポートと試験で評価。	30%
正しい敬語の使い方を覚える	尊敬語・謙譲語の正しい使い方を身につけること。生活のさまざまな場面で、正しい敬語を使いこなせるようになること。試験で評価。	30%
手紙の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式の手紙が書けること。提出した手紙と試験で評価。	20%
評価の方法 3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、レポート・手紙などの課題の評価30%、受講態度20%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	正しい文章の書き方	練習問題に取り組み、文法的に正しく、読みやすく、明確な文章の書き方について学ぶ。
3	正しい文章の書き方	
4	正しい文章の書き方	
5	日本語の基礎知識	難読漢字、四字熟語、慣用句、ことわざなどの練習問題に取り組む。
6	日本語の基礎知識	
7	レポートの書き方	レポートとは何かを正しく認識し、基本的な形を身につけ、論理的な文章の書き方、用語について知識を深める。 与えられた資料に基づいて、実際にレポートを書く。
8	レポートの書き方	
9	レポートの書き方	
10	レポートの書き方	
11	敬語の使い方	敬語の種類や使い方について、練習問題を用いて学び、身につける。
12	敬語の使い方	
13	手紙の書き方	手紙の基本的な形式や、ルールについて学び、礼状や近況報告の手紙などを実際に書く。
14	手紙の書き方	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇いわゆる留学生向けの日本語の授業ではなく、日本語を十分に習得できている人向けの応用的な内容であるので、留学生の受講希望者は、自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。
- ◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。
- ◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（漢検）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。そのためには、日常的に使う漢字に関する知識は絶対に必要なものと考えられる。本講義では、漢字検定2級の問題に取り組むことにより、大学生にとって必要な漢字の知識を身につけ、それを使いこなせるようになることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
準2級、2級に配当された漢字の読みを覚える	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	30%
出題予想漢字を分野別に学び、正しい知識を身につける	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	30%
特殊な読みや当て字など、難読漢字について学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	20%
模擬試験に取り組み、出題形式に慣れる	間違えた問題は何度も繰り返し復習し、知識が定着するよう努力すること。試験で評価。	20%
<p>評価の方法 3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験70%、小テストの点数、受講態度30%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	漢字の読み	漢字の音読みを中心に練習問題に取り組む。
3	漢字の読み	漢字の訓読みを中心に練習問題に取り組む。
4	漢字の部首	練習問題を解くことで、主な漢字の部首を覚える。
5	熟語の構成	熟語の構成のしかたを理解する。
6	熟語の構成	与えられた漢字を用いて、熟語を作れるようになる。
7	対義語・類義語	対義語、類義語の関係を理解する。
8	四字熟語	四字熟語の組み立てを理解する。
9	四字熟語	練習問題を解くことで、主な四字熟語を覚える。
10	送り仮名	送り仮名のルールを理解する。
11	同音同訓異字	練習問題を解くことで、同音同訓異字を覚える。
12	書き取り	正確に漢字が書けるようになる。
13	書き取り	誤字訂正ができるようになる。
14	模擬試験	本番の形式で模擬問題を解き、自分の弱点を理解する。
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇留学生向けの日本語の授業ではなく、日本人向けの「日本漢字能力検定（漢検）」2級合格を目指す授業なので、留学生にはかなり難しい内容である。自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に漢字を覚えることが勉強である。練習問題や宿題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

生命科学	フルタ レイコ 古田 玲子
Life Science	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

ヒトと他の生物との共通点と相違点、がん、若者に蔓延している Sexually Transmitted Infection（STI：性感染症）、人畜共通感染症、有害物質、生物毒、臓器移植、生殖医療および生物の多様性について学び、生命現象を理解し、健康を維持するために必要な知識を養うことを目的としています。最先端の研究成果や最近の話題を取り入れながら判りやすく解説していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
生物学的および医学的な基礎知識を学ぶ	本試験で評価する。人間と他の生物の共通点と相違点、人体の臓器と機能、細胞についての設問に答えられること。	30%
病気の原因、予防について基礎的な知識を学ぶ	本試験で評価する。がん、STI、人畜共通感染症、有害物質、有害生物について理解していること。実現可能な予防策についての知識が習得できていること。	40%
生命科学全般について理解を深め生命倫理、生物多様性についての意義を考える	本試験で評価する。生命科学に関する資料を読み、正確に理解し、意見が述べられるか。生命科学について、基礎的な知識を習得した上で、臓器移植、生殖医療および生物の多様性について、考えることができていること。	10%
生命科学に関する資料を正確に理解した上で、自分の意見を述べるができる	レポートで評価する。生命科学に関する興味のあるテーマについて、レポートにまとめる。正確に理解し、まとめることができていること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提とし、本試験80%とレポート20%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業内容の説明およびレポートの作成方法について学ぶ
2	人体の構造と機能	臓器、組織、細胞、遺伝子について学ぶ
3	ヒトと他生物の共通点と相違点	ヒトとイヌ、マウスなどの哺乳類、鳥類、爬虫類、魚類、両生類などの他の生物との共通点と相違点について学ぶ
4	腫瘍についての基礎的知識	腫瘍の発生と遺伝子異常、良性腫瘍と悪性腫瘍（がん）のちがい、原因と予防および検査法について学ぶ
5	早期がんと進行がん	がんの進行度と治療法、予後について学ぶ
6	各臓器のがんⅠ	肺がんについて学ぶ
7	各臓器のがんⅡ	胃がん、大腸がんなどの消化器がんについて学ぶ
8	各臓器のがんⅢ	乳がん、子宮がん（子宮頸がん、子宮体がん）について学ぶ
9	各臓器のがんⅣ	皮膚がんなど、その他のがんについて学ぶ
10	STIについてⅠ	エイズについて学ぶ
11	STIについてⅡ	ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症、梅毒、クラミジア感染症など、STIの原因、症状、予防および治療について学ぶ
12	STIについてⅢ	STIについて重要なポイントを確認する
13	有害物質と生物毒	タバコ、麻薬、アスベストなどの有害物質と毒のある生物について学ぶ
14	人畜共通感染症・動物が媒介する感染症	BSE、狂犬病、インフルエンザ、デング熱、エキノコックスなどの人畜共通感染症や動物が媒介する感染症について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考資料と用語集を配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇生命科学に関することで話題になっていることの情報収集。

【その他の注意事項】

◇授業に集中し、疑問点は積極的に質問してください。

国際関係論	クロサワ アイミ 黒澤 愛美
International Relations	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

まず、国際関係とは何かというところから始めて、国際関係論の基礎知識を身につけます。そして、その基礎知識を元に、現代の国際社会が抱える諸問題を議論します。現代の国際社会には数多くの問題がありますが、この授業は、日本で活動する国際人として知っておくべき問題を優先して扱います。問題の現状理解にとどまらず、経緯や今後の課題まで追究します。また、関連する時事ニュースも積極的に取り上げます。基本的に講義形式で進みますが、国際問題について自分なりに考える機会が頻繁に与えられます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
国際関係論の基礎知識がある	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した内容について、指定された用語を用いながら論理的に記述できること。	10%
国際関係史の大きな流れを理解している	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した内容について、重要事項を押さえながら簡潔に記述できること。	20%
国際問題の概要を理解している	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した国際問題について、重要事項を押さえながら論理的に記述できること。	20%
国際問題を議論することができる	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した国際問題について、自分の主張を論理的かつ説得的に記述できること。	50%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として授業中の課題50%、期末試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業ガイダンス、国際関係とは何か
2	国際関係論の基礎知識	国際関係の主体、グローバル化
3	国際関係史	第一次世界大戦、第二次世界大戦
4	国際関係史	冷戦期の国際社会
5	国際関係史	国共内戦、朝鮮戦争
6	国際関係史	冷戦後の国際社会
7	国際問題	歴史問題
8	国際問題	日韓歴史問題
9	国際問題	領土問題
10	国際問題	安全保障、軍事
11	国際問題	経済、貿易
12	国際問題	環境、エネルギー
13	国際問題	人権
14	国際問題	そのほかの国際問題、授業の補足
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇配布資料を使用します。

【履修条件等】

◇初回に必ず出席してください。

◇受講マナーを守り、ほかの受講者に迷惑を掛ける行動は慎んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段からインターネットやテレビで国際ニュースを見るように心掛けましょう。

【その他の注意事項】

◇国際情勢に鑑みて、授業計画を変更することがあります。

異文化コミュニケーション	<small>シミズ トシキ</small> 清水 俊樹 <small>フジモト マナブ</small> 藤本 学
Cross-Cultural Communication	選択科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

本講義では、文化・宗教・食習慣・金融ルールなどが異なる市場のなかで、昨今注目されているハラール／イスラム市場を中心とした市場の理解を深め、ビジネスを行う上で重要とされる「事業開発ノウハウ」の習得を目的とします。

年々人口が増加しているムスリム人口は、無視できない存在になっています。国内の市場が衰退する中、今後はハラール／イスラム市場が魅力的な市場となってきています。

本講義では、世界における最新の（とくにハラール／イスラム）市場環境を包括的に取り上げ、事業開発のエッセンスを学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) ハラール／イスラム市場に関する理解	本講義を通して得られるハラール／イスラム市場に関する多岐に渡る動向を十分に理解ができているか？ 評価方法は、各講義で提出するペーパー、期末試験での評価を前提とする。	35%
2) 同市場における事業アイデアの創造・独自性とその倫理的な整理	ハラール／イスラム市場における事業アイデアとその実現性や事業性を十分に整理、説明できているか？ 評価方法は、各講義で提出するペーパー、期末試験での評価を前提とする。（履修人数によってはグループワークの結果も反映される）	35%
3) 講義全体の理解と論理的な思考力	本講義を通して得られる情報を論理的に紐付けてアウトプットできるか？ 評価方法は期末の試験を中心に行います。	30%
評価の方法	この授業では、期末試験、各講義での授業への貢献、グループワークによる採点で評価します。単に、調べれば得ることのできる情報を求めるわけではなく、各講義で講師から提供される情報などを自分の頭で考え整理し、得られた各情報を有機的につなげる力が求められます。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	導入講義	本講義の全体構成と目的等の説明
2	事業開発のステップ	事業開発の概論に関する講義
3	世界の市場環境の把握	世界市場の現状および今後の見通しに関する講義
4	ムスリム市場の把握	ハラール／ムスリム市場の現状と今後の見通しの説明
5	イスラム教の理解	イスラム教の概念的な整理
6	前半の講義の振り返り	ここまでの講義を総括し、学生の理解力を把握
7	事例の紹介(1)	アウトバウンドに関連する先行企業の成功・失敗事例の紹介
8	事例の紹介(2)	インバウンドに関連する先行企業の成功・失敗事例の紹介
9	イスラム金融	イスラム金融の仕組みとイスラムビジネスのリスクの整理
10	事業考察の構成要件	グループワークのために必要なフレームワークの整理
11	グループワーク準備	ハラール／ムスリム市場参入の事業アイデアの立案
12	グループワーク	事業アイデアの発表、フィードバック
13	事業アイデアの事例	最新の取り組みに関する紹介
14	全体の総括	講義全体を通じた総括、質疑応答など
15	期末試験	学習達成度の確認を目的とした期末試験の実施

【使用教材】

◇教科書：とくにありません。毎講義、必要な資料は準備されています。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本講義では、多角的な視点が求められ、講義を通して紹介される参考文献などは時間を見つけて事前に学習してください。また、インターネットなどでもさまざまな事例が紹介されていますので、各講義の中で触れられた内容などに関しては各自で興味を持って調べるなりすることをお勧めします。

【その他の注意事項】

◇本講義では、答えがない分野における考察、検討を重要視します。そのために必要な情報などは講義を通して得られますが、講義で得られた情報を元にしたアイデア、その妥当性などの検討は自分の頭で考えることが求められます。講義で得られた情報を記憶する事しか行いたくない学生は、この講義には向かないと考えられます。一方で、さまざまな文化、宗教、歴史、価値観などに興味を持ち、自らの経験などを踏まえたアイデアを考えることが好きな学生にとっては、ハラール／イスラム市場における最先端の情報が得られると考えられ、履修をお勧めします。

経営数学	マツモト ユウキ 松本 勇樹
Industrial Mathematics	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

人間が生きていくうえではあらゆる局面で意思決定をしなければならない。経験やカンのみ頼って意思決定を行うと誤った意思決定を行う場合が多い。そこで客観的に測定された数値を用いることによって正しい意思決定を行うことができるようになる。本講義ではビジネスで使用する数字や統計の感覚を養うことを持徳的とする。概算や四捨五入などの基本から初めて、割合や変化の仕組みを学ぶ。その後、記述統計学と多変量解析の中から、身近なデータを使用して、統計の考え方について理解する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
数字の感覚を養う	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して正しい計算ができるかを評価する。	30%
データを整理する	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して決められた基準に従って、データを正しく分類することができるかを評価する。	20%
統計計算を行う	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して、正しい計算を行い、その結果からどのようなことが分かるかを評価する。	50%
評価の方法	50%以上の出席を前提として、授業内課題15%、小テスト15%、期末試験70%の合計点で評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	本講義のテーマ、目的・概要、講義方針等を確認する併せて、シラバスに基づく具体的な講義内容を説明する
2	概算と電卓の操作方法	電卓の操作方法を確認するとともに、データを概算で扱う感覚を養う
3	比率	数値を比較するための手法として比率の考え方を習得する
4	変化(1)	指数と倍率について理解する
5	変化(2)	変化率について理解する
6	度数分布	収集したデータを分類し、度数分布表とヒストグラムを作成する
7	代表値	平均とメディアンについて理解する
8	散らばりの代表値(1)	偏差の概念から、標準偏差について理解する
9	小テスト(1)	標準偏差の演習を行い、小テストを実施する
10	標準化・変動係数	平均・標準偏差が異なる2つの分布に属するデータを比較する
11	散布図	2つの変数にどのような関係があるのか散布図を用いて把握する
12	相関係数	2つの変数の関係を1つの数値で表す
13	小テスト(2)	相関係数の復習を行い、小テストを実施する
14	正規分布	代表的な分布である正規分布の性質とその利用法について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇配布資料を使用する。

【履修条件等】

◇継続して受講しないと理解度は高まらないので、休まず出席すること。

√機能がついている12桁以上の電卓を必ず持参すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配布資料に記載されている問題を必ず解くこと。

【その他の注意事項】

◇繰り返し解説を行うので、数学や計算に対しての過度な恐怖心や思い込みをしないで講義に参加してほしい。

<h1>コンピュータリテラシー</h1>	ハギノ ヒロミチ 萩野 弘道
Computer Literacy	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

高度情報化社会に対応し、また、本学においてさまざまな科目を学習していくための基礎としてコンピュータを理解し、操作する基礎的なスキルの習得を目指します。そのために、パソコン（Windows）の基本的な操作とその運用に関して必要な知識を学習した後、ワープロソフト（Microsoft Word）を利用した日本語文書の作成、表計算ソフト（Microsoft Excel）を利用した基本的な表計算処理やグラフの作成、プレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint）を利用した発表用資料の作成などについて実践的な実習をおこないます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータを活用するために必要な基礎知識を理解していること	実習中の習熟度によって評価。OSの扱い方やファイルやフォルダの管理等が適切におこなえること。 ブラウザや検索エンジンを使って、効率良く適切な情報を呼び出すことができること。	10%
ワープロソフトでビジネス文書やチラシを作成するためのスキルを身につけていること	実技試験によって評価。文字入力はもちろんのこととして、Microsoft Word の操作や設定作業を自分の思うままに操れること。表や画像を利用して効果的な文書をレイアウトすることができること。	30%
表計算ソフトの基本を理解し、関数を活用したデータ処理やグラフの作成ができること	実技試験によって評価。Microsoft Excel を操作してワークシートの編集をおこない、関数の利用や罫線を用いた作表ができること。データを効果的に表現するグラフを作成できること。	30%
プレゼンテーションソフトを使って効果的なプレゼン資料が作成できること	実習中の習熟度によって評価。プレゼンテーション用の発表資料を Microsoft PowerPoint を操作して、画像やアニメーションを効果的に導入して作成することができること。	10%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として、試験80%、授業参加度20% (授業参加度は授業中におこなう提出課題の評価も含む)。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、学内P Cの利用方法、タイピング実習
2	コンピュータの基本操作	Windows の基礎、インターネットの使い方と活用方法
3	Word の操作実習(1)	文字の入力方法、ファイル操作、ページ設定
4	Word の操作実習(2)	書式設定、編集、文字の装飾
5	Word の操作実習(3)	表（罫線）を活用した文書の作成
6	Word の操作実習(4)	画像等を活用した文書のアレンジ
7	Word の総合実習	ビジネス文書を使った Word の総合練習
8	Excel の操作実習(1)	データ入力、基本的なワークシート編集、関数の基本
9	Excel の操作実習(2)	罫線、グラフの作成
10	Excel の操作実習(3)	関数1（IF、RANK 等）、ソート
11	Excel の操作実習(4)	関数2（VLOOKUP、COUNTIF 等）、フィルタ
12	PowerPoint の操作実習(1)	プレゼンテーションの意味、文字や画像の入力方法
13	PowerPoint の操作実習(2)	図形やアニメーションを利用した視覚効果
14	総合練習	練習問題を使った習熟度の確認
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇『30時間でマスター Windows 7 対応 Office2010』実教出版

【履修条件等】

◇コンピュータの初心者を対象としているので、履修条件はとくにない。

ただし、この授業ではキーボード入力を速くするタイピング練習は行わないので、ローマ字入力だけはある程度できることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の予告をするので、教科書の該当ページに目を通しておいていただきたい。

【その他の注意事項】

◇実習授業であるので、授業に出席しないとコンピュータを操作できないので全出席が基本である。そのため、出席および遅刻に対しては厳格に扱う。遅刻は2回で欠席1回とし、全授業の3分の1（5回）欠席した場合は、本試験を受験停止にする。

ビジネスコンピューティング	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Business Computing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

企業で業務を遂行するにあたり、Microsoft社の『Excel』、『Word』、『PowerPoint』は必須アイテムともいえるソフトとなっています。これらのソフトを使いこなすためにパソコン一般知識、アプリケーション操作、情報モラル&セキュリティを学ぶことが必要です。本授業ではタイピングの練習、表計算、グラフ作成などを通じ、日常の企業活動で発生するさまざまなコンピュータ知識、スキルを習得します。また、授業の中で実際に準2級・3級等のP検（ICTプロフィシエンシー検定試験）を行い、資格の取得も可能です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
タイピング速度60文字／分以上を目標とする	毎授業の最初に5分間のタイピングテストを行いその点数および上達度を評価する。 また、授業時間の中でP検タイピング本試験を行いその結果を評価する。	20%
Microsoft Wordを活用し、簡単な文書の作成、編集ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft Wordの操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な非定型文書の編集をすることができること。	25%
Microsoft Officeを活用し、計算式や表などを含む定型フォーマットの作成ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft Excelの操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な表やグラフを含む文書の編集をすることができること。	25%
コンピュータ用語、ネットワークシステム、情報モラルを理解する	確認問題に対する解答によって評価。 コンピュータに関する知識、通信ネットワーク技術、ウィルス対策を含むセキュリティや法規に関する基本的な設問に解答できること。	30%
評価の方法	毎回行うタイピングテスト10%、授業時間内の演習30%、試験60%。 試験はP検タイピング試験・P検本試験（準2級または3級）の結果を勘案する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義内容、本試験の内容等についての説明
2	ワープロ(1)	タイピングの基本を学び、文書の編集などの演習を行う
3	ワープロ(2)	図の挿入や図形の作成、表の作成や編集などの演習を行う
4	表計算(1)	表計算ソフトの操作を学び、関数を利用した計算などの演習を行う
5	表計算(2)	グラフの編集、表データの並べ替えなどの演習を行う
6	表計算(3)	データの集計、シートの編集などの演習を行う
7	コンピュータ知識	コンピュータに関する一般的な技術用語を学ぶ
8	情報通信ネットワーク	情報通信システムに関する一般的な技術用語を学ぶ
9	情報モラルと情報セキュリティ	インターネットのセキュリティ対策、個人情報やプライバシーの保護について学ぶ
10	I C Tを活用した問題解決	フローチャート、データベースの活用法について学び、演習を行う
11	P 検タイピング本試験	本試験のタイピング試験免除対象となるP 検タイピング試験の合格を目指す
12	実技試験の対策	C B T方式（コンピュータ対話式）の実技試験を体験し慣れる
13	模擬試験	実際の検定試験と同じC B T方式での模擬試験を体験し、解答方法に慣れるとともに、弱点の克服を行う
14	P 検本試験	P 検本試験（準2級または3級）を行う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇材は教室に備え付けのものを使用するので購入は不要。
- ◇他に、検定試験の受験料が必要（昨年実績4,100円）。

【履修条件等】

- ◇ Microsoft Windows / Word / Excel の基本的な操作ができること。
- ◇ 「コンピュータリテラシー」を履修済み程度のパソコンスキルを習得していること。
- ◇ 授業時間内にP 検（準2級または3級）を受験すること。
- ◇ 基本的にP 検3級以上を取得しているものは履修できない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ タイピングの練習をしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇ 授業時間内にP 検タイピング試験、P 検（準2級または3級）の本試験を実施する。
- ◇ P 検（I C Tプロフィシエンシー検定試験）に関しては以下の WEB サイトを参照のこと。<http://www.pken.com/>（I C Tプロフィシエンシー検定協会）
- ◇ P 検に合格した場合は本授業単位の2単位に加え、さらに1単位を取得できる。（ただし、別途手続きが必要）

就職特講 I	ノザワ マキコ 野沢 牧子
Special Seminar for Job Seeking I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

長期化する厳選採用と働き方の多様化に伴い、大学生の就職環境は厳しい状況にあります。本講義では、履歴書やエントリーシートの書き方、業界・企業・職種研究、筆記試験・面接・グループワーク対策など、就職に直接役立つ知識の習得と演習を進めていきます。業界研究セミナーや内定者報告会等も実施し、臨場感ある準備講座を展開します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本企業における雇用慣行、就職活動の仕組み、基本的なワークルールについて理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
自己理解・自己分析を深めるとともに、数多くある選択肢の中から、自らの職業適性を知る	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
さまざまな就職試験に対応する力を身につける	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
<p>評価の方法 職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	就職活動の現状の理解	就職活動を始めるにあたって考えるべきこと（雇用環境とデータで見る学卒者就職の現状、正規・非正規雇用の生涯賃金等）
2	自己分析Ⅰ	自分史の作成、SPIについて
3	自己分析Ⅱ	自分の志向と適正を考える、学生時代に頑張ったこと
4	自己PRのしかたⅠ	社会人基礎力から強みを考える、自己PR
5	自己PRのしかたⅡ	自己紹介書の完成
6	キャリア情報交流会	OBOGの話から、仕事のやりがいや職業を知る
7	志望先の選定Ⅰ	就職の軸
8	志望先の選定Ⅱ	業界、職種理解
9	志望先の選定Ⅲ	業界情報の捉え方、情報の取捨選択について、求人票の見方
10	合同企業説明会	合同企業説明会
11	志望動機の完成	想定業界、企業での作成
12	選考への対策Ⅰ	多様なESへの対応
13	選考への対策Ⅱ	面接対策、マナー
14	選考への対策Ⅲ	グループディスカッション対策
15	活動計画策定・発表	履歴書・就職の軸・活動計画の策定最終確認

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇3年生で民間企業への就職を考えている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。

◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

◇本講義においては、知識や経験の蓄積や振り返りを重視するため、1度の欠席が大きなハンデとなることもあるので留意されたい。

就職特講 I	ミヤジ ユカ 宮地 由夏
Special Seminar for Job Seeking I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

長期化する厳選採用と働き方の多様化に伴い、大学生の就職環境は厳しい状況にあります。本講義では、履歴書やエントリーシートの書き方、業界・企業・職種研究、筆記試験・面接・グループワーク対策など、就職に直接役立つ知識の習得と演習を進めていきます。業界研究セミナーや内定者報告会等も実施し、臨場感ある準備講座を展開します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本企業における雇用慣行、就職活動の仕組み、基本的なワークルールについて理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
自己理解・自己分析を深めるとともに、数多くある選択肢の中から、自らの職業適性を知る	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
さまざまな就職試験に対応する力を身につける	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
評価の方法 職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	就職活動の現状の理解	就職活動を始めるにあたって考えるべきこと（雇用環境とデータで見る学卒者就職の現状、正規・非正規雇用の生涯賃金等）
2	自己分析Ⅰ	自分史の作成、SPIについて
3	自己分析Ⅱ	自分の志向と適正を考える、学生時代に頑張ったこと
4	自己PRのしかたⅠ	社会人基礎力から強みを考える、自己PR
5	自己PRのしかたⅡ	自己紹介書の完成
6	キャリア情報交流会	OBOGの話から、仕事のやりがいや職業を知る
7	志望先の選定Ⅰ	就職の軸
8	志望先の選定Ⅱ	業界、職種理解
9	志望先の選定Ⅲ	業界情報の捉え方、情報の取捨選択について 求人票の見方
10	合同企業説明会	合同企業説明会
11	志望動機の完成	想定業界、企業での作成
12	選考への対策Ⅰ	多様なESへの対応
13	選考への対策Ⅱ	面接対策、マナー
14	選考への対策Ⅲ	グループディスカッション対策
15	活動計画策定・発表	履歴書・就職の軸・活動計画の策定最終確認

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇3年生で民間企業への就職を考えている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。

◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

◇本講義においては、知識や経験の蓄積や振り返りを重視するため、1度の欠席が大きなハンデとなることもあるので留意されたい。

就職特講 I (留学生対象)	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Special Seminar for Job Seeking I	選択科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

卒業後に日本で就職したり、日本以外にある日本企業で働いたりすることを希望する留学生は年々多くなっています。しかし、皆が希望通りの仕事に就けるとは限りません。また就職してもすぐ転職する人も少なくありません。日本特有の就職事情を知らないこと、在留資格についての知識がないこと、また就職活動の準備開始が遅いことなどが問題になります。この授業では、日本の就職活動のしくみと流れを理解し、就職活動に役立つような準備をします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本の就職事情を学び、活動計画を立てる	日本の就職事情を学んで就職活動のしくみと流れを理解し、それに沿って今何をしなければならないかを考えて最終的に活動計画を立てることができるか、課題などをもとに評価する。	40%
日本の企業、業種、職種を研究する	日本の業種、職種を理解し、企業研究の方法を身につけているかどうかを、課題などをもとに評価する。	30%
具体的な就職活動の準備をする	就職活動のために何をしなければならないかを理解しその方法を身につけているかどうかを、課題などをもとに評価する。	30%
評価の方法 授業への参加姿勢、課題、期末課題を総合的に評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業内容と授業の進め方について
2	日本の就職慣習を学ぶ	・日本の就職活動のしくみと流れ ・就職とアルバイトの違い、インターンシップとは
3		
4	企業研究、職業研究をする	・日本の企業が求める人材 ・職種と業種、職業適正 ・企業の選び方、業界研究と企業研究 ・いろいろな資格と日本語能力
5		
6		
7		
8	就職活動の具体的な準備をする	・情報の探し方（求人票、ハローワーク、就活ナビ） ・敬語と面接、ビジネスマナー ・履歴書、エントリーシート、メールの書き方 ・自己PR、志望動機、「ガクチカ」
9		
10		
11		
12	就職活動の実際	・先輩の経験談を聞く「内定者報告会」 ・在留資格（ビザ）について ・活動計画確認
13		
14		
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する。

【使用教材】

◇とくになし。必要に応じて授業で指示します。

【履修条件等】

◇日本での就職を考えている外国人留学生は必ず履修してください。進路が未定でも、日本での就職の可能性がある場合も、履修を強く勧めます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇各学習項目を学ぶに際し、情報収集をしたり、活動計画を立ててまとめたりする課題が課されます。事前学習をしなければ、授業内容を十分に理解できないことがあるので、必ず準備をしてください。

【その他の注意事項】

◇上記の授業計画は、受講人数や大学内行事日程などを勘案して、変更することがあります。

健康と運動 I	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports I	選択科目 / 半期 / 1 単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボールやダブルダッチ等を題材
4	に学ぶ
5	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
6	
7	
8	講義：①運動と健康の関係について
9	②生活習慣病について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：バドミントンや卓球等を題材に学ぶ
12	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
13	
14	
15	

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動 I	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年若者に増加している性感染症などの疾病の理解と、予防するための知識を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につながる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康三原則（運動・栄養・休養）の理解し、健康を維持するための知識を有すること。	20%
現代社会で問題となっている疾病理解と、その予防について理解し、自己管理につながる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 若者で問題となっている性感染症（STD）に関する正しい知識と、その予防法についての知識を有すること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2	チームビルディング
3	）アダプテッドスポーツ
4	実技：集団型スポーツ①②
8	）集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット、フットサル等を題材に学ぶ
9	講義①：健康と運動の関係について（健康の三原則と運動）
10	）講義②：疾病から身体を守る（性感染症の現状把握、予防法について）
11	実技：ネット型スポーツ①～③
14	）小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動 I	ニシムラ タクジ 西村 卓二
Health and Sports I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

実技の卓球では、マシンと多球練習を導入し「正しいフォームづくり」をめざしてさらに、競技力を高めるために、総当たりリーグ戦（試合）を実施し、卓球競技の楽しさ、難しさを体得してもらう。他にバスケット、バドミントン競技も実施する。講義は健康維持や生涯にわたって健康な生活が実現できる知識を教授する（レポート提出）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
卓球競技における特性の理解度	卓球の各技術を紹介し、練習を通じて成長度をチェックし、とくにラリーが続けられることを評価ポイントとする。	30%
各技術を段階的にマスターしているか	マシン、多球練習等により、より正確に強く打球できるか（スピード・コントロール・コース・スピン）を計る。	30%
ゲーム（試合）	①試合における戦術、技術対応力を評価する。 ②試合における精神的強さ、闘争心の評価。	20%
①他の種目の取り組み ②レポート提出	バスケット、バドミントンなどからの身体能力をチェックする。 健康維持に関する知識の学習。	20%
評価の方法 マナー30%、試合成績30%、レポート提出40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス：授業方針の説明	卓球部選手による各技術の紹介演技
2	卓球競技の歴史、特性説明	「回転」、「スピード」、「コース」の特性を理解する。
3	ラケット、ラバー、グリップ、	腰のひねり、軸足、肘の角度を注意して何本続けら
4	スタンス、フリーハンドの効	れるか記録をとる。前後・左右の動き、足の運び方
5	用、フォアハンドストローク、	の注意点。動く側、動かす側の注意点とコースの打
6	スマッシュ、フットワーク（左	ち分け（ストレート、クロス、ミドル）。スピードと
	右・前後）	正確さを追求する。
7	ショート（ブロック）	肘の屈伸を使う。角度、打球点を注意して、スピー
8	ショートカット（ツツキ）	ドをあげる。手首を使い、ボールの真下をこする。
9		ナナメ回転、下回転、横回転をマスターする。
10	サーブ、レシーブ	回転の種類による返球方法、角度調整を工夫する。
11		多様な回転サーブを学習する（コース、速さ、種
		類）。
12	ゲーム（試合）	試合ルールの説明、審判法の説明。シングル3ゲー
13		ムのリーグ戦を実施。試合の組み立て、戦術の駆け
14		引き、間の取り方を教授する。
15	バドミントン・バスケット	卓球以外の競技種目を実施し、身体能力をチェック
		する。

【使用教材】

- ◇西村卓二著『確実に上達する卓球（改訂版）』実業之日本社
- ◇必要に応じて資料を配付する。

【履修条件等】

- ◇マナーを守れる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日常の体調管理を徹底して故障なく受講すること。

【その他の注意事項】

- ◇室内履き（シューズ）、運動のできる準備をして出席のこと。

健康と運動Ⅱ	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメットやフットサル等を題材に学
4	ぶ
5	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
6	
7	
8	講義：①基礎代謝について
9	②性感染症について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーやバドミントン等を題材に学ぶ
12	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
13	
14	
15	

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅱ	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年増加している生活習慣病の理解と、予防するための運動方法を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 基礎代謝を高め、太り難い身体を維持する知識を有すること。	20%
現代社会で問題となっている疾病理解と、その予防について理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病に関する正しい知識と、その予防法についての知識を有すること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的にとることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2	チームビルディング
3	）アダプテッドスポーツ
4	実技：集団型スポーツ①②
8	）集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット、フットサル等を題材に学ぶ
9	講義①：健康と運動の関係について（健康の三原則と運動）
10	）講義②：疾病から身体を守る（性感染症の現状把握、予防法について）
11	実技：ネット型スポーツ①～③
14	）小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅱ	ニシムラ タクジ 西村 卓二
Health and Sports II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

実技の卓球では、マシンと多球練習による「正しいフォームづくり」をめざしてさらに、競技力を高めるために、総当たりリーグ戦（試合）を実施し、卓球競技の楽しさ、難しさを体得してもらう。またダブルスのゲームを行い、パートナーとの協調性を高める。

他にバスケット、バドミントン競技も実施し身体能力をチェックする。講義は健康維持や生涯にわたって健康な生活が実現できる知識を教授する（レポート提出）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
卓球競技の特性を理解すること	卓球競技の各技術を紹介し、授業を通じて成長度をチェックし、特にラリーが続けられるかを評価のポイントとする。	30%
各技術を段階的にマスターしているか	スピード、回転、コースを正確にして相手コートに打球できるかを計る。	30%
ゲーム（試合）	①試合における戦術の理解度、対応力を評価する。 ②対戦相手に対する闘争心の評価。	20%
①他の種目の取り組み ②レポート提出	バスケット、バドミントンなどからの身体能力のチェックする。 健康維持に関する知識の習得。	20%
評価の方法 マナー30%、試合成績30%、レポート提出40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス：授業方針の説明	卓球部選手による各技術の紹介演技
2	卓球競技の歴史、特性説明	「回転」、「スピード」、「コース」の特性を理解する。
3	ラケット、ラバー、グリップ、	腰のひねり、軸足、肘の角度を注意して何本続けられるか記録をとる。動く側と動かす側の注意点。コースを打ち分けられるか、スピードを追求する。
4	スタンス、フリーハンドの効	
5	用、フォアハンドストローク、	
6	スマッシュ、フットワーク（左右・前後）	
7	ショート（ブロック）	肘の屈伸を使い、角度と打球点を注意する。
8	ショートカット（ツツキ）	手首を使い、ボールの真下をこする（切る）。
9		ナナ目、横、下回転をマスターする。
10	サーブ、レシーブ	多種多様な点を工夫する（速さ、コース変化に注意）。 回転の種類による返球方法の注意点。
11		
12	ゲーム（試合）	試合ルールの説明、審判法の説明。シングル3ゲームを実施する。試合の組み立て、戦術、駆け引き、間の取り方を教授する。
13		
14		
15	バドミントン・バスケット	卓球以外の競技種目を実施し、身体能力をチェックする。

【使用教材】

◇西村卓二著『卓球上達テクニック』実業之日本社

◇必要に応じて資料を配付する。

【履修条件等】

◇マナーを守れる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常の体調管理を徹底して故障なく受講することが望ましい。

【その他の注意事項】

◇室内履き、運動着の準備をして出席のこと。

健康と運動Ⅲ	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports III	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボールやダブルダッチ等を題材
4	に学ぶ
5	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
6	
7	
8	講義：①運動と健康の関係について
9	②生活習慣病について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：バドミントンや卓球等を題材に学ぶ
12	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
13	
14	
15	

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅲ	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports III	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、スポーツによる傷害（外傷・障害）の現状を理解し、傷害の起こしにくい「からだ作り」、予防するための知識を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が関係する傷害の発生メカニズムと対処法を学び、適切な行動ができる力を身につけること	講義後、提出されたレポートによって評価。 スポーツ傷害（外傷・障害）の理解、外傷が発生した際の対処方法の知識を有すること。	20%
傷害を起こしにくい「からだ作り」について学び、実践可能なトレーニングの知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 加齢とともに低下していく筋力・体力の維持に必要なトレーニングの必要性と、トレーニングに関する正しい知識を有すること	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2	チームビルディング
3	）アダプテッドスポーツ
4	実技：集団型スポーツ①②
8	）集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット、フットサル等を題材に学ぶ
9	講義①：健康と運動の関係について（健康の三原則と運動）
10	）講義②：疾病から身体を守る（性感染症の現状把握、予防法について）
11	実技：ネット型スポーツ①～③
14	）小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動IV	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports IV	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメットやフットサル等を題材に学
4	ぶ
5	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
6	
7	
8	講義：①基礎代謝について
9	②性感染症について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーやバドミントン等を題材に学ぶ
12	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
13	
14	
15	

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動IV	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports IV	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年話題になっているロコモティブシンドロームの理解と、予防するための運動方法を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動不足が身体におよぼす影響を学び、その予防方法を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 運動器の障害により移動機能が低下するロコモティブシンドロームとその予防法の正しい知識を有すること。	20%
自己に適した運動の強度や種類についての知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 運動処方のひとつの尺度である「心拍数」を使って、自己に適した運動強度を算出できること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2	チームビルディング
3	）アダプテッドスポーツ
4	実技：集団型スポーツ①②
8	）集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット、フットサル等を題材に学ぶ
9	講義①：健康と運動の関係について（健康の三原則と運動）
10	）講義②：疾病から身体を守る（性感染症の現状把握、予防法について）
11	実技：ネット型スポーツ①～③
14	）小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

日本事情（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Studies	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業ではディベートという手段を使って、大学での学習に必要な論理的口頭表現力を習得すると同時に、自ら情報を得て深く考え日本語で表現することを、特にグループ活動を通して完成することを目指す。他の学生と協力しながらディベートを体験し、他の人の意見を理解した上で自分の意見を論理的に筋道立てて述べる練習をする。また他の学生の陳述を論理性に照らし合わせて評価する能力も養う。このようなグループ活動を通して、日本の文化や日本人の考え方を学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業に積極的に参加し効果的にグループ活動を推し進める	授業内で個人作業およびグループ活動に積極的に参加し、授業外での作業も含め、円滑なグループ活動に貢献すること。	40%
日本文化を理解し、論理的発表のために資料検索、論理的構成の組み立てなどができる	準備段階でのグループ活動への参加の様子、ディベート発表の時に利用する資料などにより評価する。ディベートの準備に積極的に参加し、必要な資料を検索・選択し、論理を適切に組み立てることができるか否かにより評価する。	20%
適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる	適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる。	40%
<p>評価の方法 授業とグループへの貢献度40%、課題20%、表現・発表40% ただし、単位取得には最低3分の2以上の出席を必要とする。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ディベートについて	ディベートの概要とグループ形成
2	ディベート体験	ディベート体験
3	ディベート体験	ディベート体験、よりよいディベートのための対策
4	ディベートA	グループ準備
5	ディベートA	ディベートA
6	ディベートA	ディベートA
7	ディベートA	振り返り
8	ディベートA	グループ準備
9	ディベートA	ディベートB
10	ディベートB	ディベートB
11	ディベートB	振り返り
12	ディベートB	グループ準備
13	ディベートB	ディベートC
14	ディベートB	ディベートC
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括

【使用教材】

◇教科書は使用しない。必要に応じて資料を授業で配布する。

【履修条件等】

◇授業は学期を通じてグループの協働学習なので、遅刻欠席をしないこと。メンバーと協力し合って意欲的に準備や発表に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ディベートの準備として、必要に応じて、グループ内の相談・資料検索を授業外でもすることがある。

【その他の注意事項】

◇学期中の欠席が5回を越えた場合は、ディベート等に参加しても単位は認めない。

◇上記の授業計画は、グループ編成の都合などから、受講人数などを勘案して変更することがある。

<p>日本事情（留学生科目）</p>	<p>コバヤシ ヒロノリ 小林 寛典</p>
<p>Japanese Studies</p>	<p>選択科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

この授業では、グループディスカッションという手段を使って、自分の考えをまとめて発信する力、他者の考えを聞いて自分の考えと比較する力を身につけること、また、そこから考えを発展させ視野を広げることを目的とする。他の学生と協力しながらグループディスカッションを行い、他の人の意見を理解した上で自分の意見を論理的に筋道立てて述べる練習をする。このようなグループ活動と発表を通して、社会的なトピックについての知識も深めていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業に積極的に参加する	グループ活動に積極的に参加し、円滑なグループ活動に貢献すること。	30%
グループの意見をまとめて発表する	グループで出た意見をまとめ、発表する。	40%
小論文	ディスカッションの結果をクラス全体で共有し、気づきや感想を小論文にまとめる。	30%
<p>評価の方法 授業参加度（グループ貢献度）30%、発表40%、小論文30% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	授業の説明	授業と評価の説明、グループディスカッション導入
2	ディスカッション1	ディスカッション 1-①
3	ディスカッション2	ディスカッション 1-②
4	ディスカッション3	ディスカッション 1-③
5	ディスカッション4	発表1-①
6	ディスカッション5	発表1-②
7	ディスカッション6	発表1-③
8	ディスカッション7	ディスカッション 2-①
9	ディスカッション8	ディスカッション 2-②
10	ディスカッション9	ディスカッション 2-③
11	ディスカッション10	発表2-①
12	ディスカッション11	発表2-②
13	ディスカッション12	発表2-③
14	ディスカッション13	予備日
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。必要に応じて資料を配布する。

【履修条件等】

◇遅刻欠席をせず、意欲を持って学習に取り組むこと。

◇メンバーと協力しあうこと。

◇相手の意見を尊重する姿勢を持つこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇必要に応じて指示する。

【その他の注意事項】

◇学期中の欠席が5回を越えた場合は、単位は認めない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

<h1>インターンシップ I</h1>	<small>タカハシ テツヤ</small> 高橋 哲也
Internship I	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

実務的知識を深め、キャリアプランを考えていくことを目指します。実習型の講座になるため、自律性の高い学生の参加を望む。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構えを身につける	ウェブなどを用いて適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	20%
インターンシップで社会の現状を知り、自己のキャリアについて考える	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	60%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かす	報告会などの場で自らの体験を伝えることができるか。 自らの就業体験の結果を他者に伝えること。	20%
評価の方法	エントリーシート作成に始まり、就業体験、実習報告書の提出という一連の作業を無事に修了すること。	

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 } インターンシップ希望企業へのウェブでのエントリー
14	現場での就業体験（5日間＝30時間） インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇履修希望者は授業科目「就職特講Ⅰ」を必ず履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇ウェブ公募でのエントリーを行い、企業でのインターンを行ってもらう。

◇手続きに不慣れなものに対しては別途「インターンシップ説明会」を開催する。そこで一般的なインターンシップ参加の手続きを身につけてもらう。

◇実習の経過はキャリア支援部への報告・連絡・相談を行うこと。

◇長期インターンシップ（1ヶ月以上など）に参加する場合には、報酬発生することが予想されるため注意が必要。報酬のあるインターンシップでの単位認定はできない。

◇基本的には5日間（30時間）の就業体験にて1単位が付与され、最大4単位まで認定可能（インターンシップⅠ～Ⅳに相当）。

◇5日間の就業体験は同一企業であることを求めない（複数企業可）。

◇インターンシップは認定単位のため通常の履修とは別枠（40単位＋ α ）。

◇インターンシップに挑戦したい時に開始してもらって構わない（通年対応）。

<h1>インターンシップⅡ</h1>	<small>タカハシ テツヤ</small> 高橋 哲也
Internship II	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

実務的知識を深め、キャリアプランを考えていくことを目指します。実習型の講座になるため、自律性の高い学生の参加を望む。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構えを身につける	ウェブなどを用いて適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	20%
インターンシップで社会の現状を知り、自己のキャリアについて考える	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	60%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かす	報告会などの場で自らの体験を伝えることができるか。 自らの就業体験の結果を他者に伝えること。	20%
評価の方法	エントリーシート作成に始まり、就業体験、実習報告書の提出という一連の作業を無事に修了すること。	

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
	企業研究・業界研究
2	エントリーシート作成
	）インターンシップ希望企業へのウェブでのエントリー
14	現場での就業体験（5日間＝30時間）
	インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇履修希望者は授業科目「就職特講Ⅰ」を必ず履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇ウェブ公募でのエントリーを行い、企業でのインターンを行ってもらう。

◇手続きに不慣れなものに対しては別途「インターンシップ説明会」を開催する。そこで一般的なインターンシップ参加の手続きを身につけてもらう。

◇実習の経過はキャリア支援部への報告・連絡・相談を行うこと。

◇長期インターンシップ（1ヶ月以上など）に参加する場合には、報酬発生することが予想されるため注意が必要。報酬のあるインターンシップでの単位認定はできない。

◇基本的には5日間（30時間）の就業体験にて1単位が付与され、最大4単位まで認定可能（インターンシップⅠ～Ⅳに相当）。

◇5日間の就業体験は同一企業であることを求めない（複数企業可）。

◇インターンシップは認定単位のため通常の履修とは別枠（40単位＋α）。

◇インターンシップに挑戦したい時に開始してもらって構わない（通年対応）。

<h1>インターンシップⅢ</h1>	<small>タカハシ テツヤ</small> 高橋 哲也
Internship III	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

実務的知識を深め、キャリアプランを考えていくことを目指します。実習型の講座になるため、自律性の高い学生の参加を望む。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構えを身につける	ウェブなどを用いて適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	20%
インターンシップで社会の現状を知り、自己のキャリアについて考える	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	60%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かす	報告会などの場で自らの体験を伝えることができるか。 自らの就業体験の結果を他者に伝えること。	20%
評価の方法 エントリーシート作成に始まり、就業体験、実習報告書の提出という一連の作業を無事に修了すること。		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
	企業研究・業界研究
2	エントリーシート作成
	）インターンシップ希望企業へのウェブでのエントリー
14	現場での就業体験（5日間＝30時間）
	インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇履修希望者は授業科目「就職特講Ⅰ」を必ず履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇ウェブ公募でのエントリーを行い、企業でのインターンを行ってもらう。

◇手続きに不慣れなものに対しては別途「インターンシップ説明会」を開催する。そこで一般的なインターンシップ参加の手続きを身につけてもらう。

◇実習の経過はキャリア支援部への報告・連絡・相談を行うこと。

◇長期インターンシップ（1ヶ月以上など）に参加する場合には、報酬発生することが予想されるため注意が必要。報酬のあるインターンシップでの単位認定はできない。

◇基本的には5日間（30時間）の就業体験にて1単位が付与され、最大4単位まで認定可能（インターンシップⅠ～Ⅳに相当）。

◇5日間の就業体験は同一企業であることを求めない（複数企業可）。

◇インターンシップは認定単位のため通常の履修とは別枠（40単位＋ α ）。

◇インターンシップに挑戦したい時に開始してもらって構わない（通年対応）。

<h1>インターンシップⅣ</h1>	<small>タカハシ テツヤ</small> 高橋 哲也
Internship IV	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

実務的知識を深め、キャリアプランを考えていくことを目指します。実習型の講座になるため、自律性の高い学生の参加を望む。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構えを身につける	ウェブなどを用いて適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	20%
インターンシップで社会の現状を知り、自己のキャリアについて考える	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	60%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かす	報告会などの場で自らの体験を伝えることができるか。 自らの就業体験の結果を他者に伝えること。	20%
評価の方法	エントリーシート作成に始まり、就業体験、実習報告書の提出という一連の作業を無事に修了すること。	

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
	企業研究・業界研究
2	エントリーシート作成
	）インターンシップ希望企業へのウェブでのエントリー
14	現場での就業体験（5日間＝30時間）
	インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇履修希望者は授業科目「就職特講Ⅰ」を必ず履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇ウェブ公募でのエントリーを行い、企業でのインターンを行ってもらう。

◇手続きに不慣れなものに対しては別途「インターンシップ説明会」を開催する。そこで一般的なインターンシップ参加の手続きを身につけてもらう。

◇実習の経過はキャリア支援部への報告・連絡・相談を行うこと。

◇長期インターンシップ（1ヶ月以上など）に参加する場合には、報酬発生することが予想されるため注意が必要。報酬のあるインターンシップでの単位認定はできない。

◇基本的には5日間（30時間）の就業体験にて1単位が付与され、最大4単位まで認定可能（インターンシップⅠ～Ⅳに相当）。

◇5日間の就業体験は同一企業であることを求めない（複数企業可）。

◇インターンシップは認定単位のため通常の履修とは別枠（40単位＋α）。

◇インターンシップに挑戦したい時に開始してもらって構わない（通年対応）。

自己開発 I・II・III・IV	
Self-improvement I・II・III・IV	選択科目／認定／各1単位

【本科目の目的】

本学学生の自立心養成、キャリア形成を支援するための一環として、この科目を設置する。すなわち、学生が、本学での教育に立脚し、資格取得、ボランティアなど、学外で修得してきた一定の学習成果に対して単位を認定する。

【単位を認定する資格】

在学中に取得した資格。具体的には「技能審査の対象資格・検定表」に記載する資格を対象とする。ただし、取得後3か月以内に単位認定の申請をすることが必要（1月末までに届けたものについては当該年度の「自己開発」科目の単位として、それ以降の申請については、次年度の単位として認定する）。

例：公認会計士、税理士、中小企業診断士、情報システムITパスポート試験、実用英語技能検定、秘書技能検定、簿記検定、販売士、経営学検定試験、TOEIC等

【ボランティア】

担当教員宛に「参加申請書類」（受入先または仲介先の概要紹介書、活動計画書などを添付）を提出し、担当教員の承認を得たボランティア活動を「単位を認定するボランティア」とする。活動期間は、通算5日40時間以上とする。

承認を得たら、すみやかに「賠償責任保険」（340円。学生支援担当窓口扱）に加入し、活動終了後は、2週間以内に、「単位認定申請書」に受入先または仲介先の発行するボランティア活動修了証あるいは証明書（写しでも可）を添え、担当教員に届け出ることを要する。

◇本科目における「単位認定のプロセス」や「修得可能な単位数」「技能審査の対象資格・検定表」などについては『学生要覧』を参照してください。

専 門 科 目

2019年度

経営学部経営学科

< 4年生用 >

東京富士大学

経営学概論	イシカワ マサル 石川 勝
Introduction to Management	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

企業経営においては、まず「経営戦略」を立てて、企業の進むべき方向・目的の大枠を決め、分業と協業の枠組みである「経営組織」を構築します。次に経営戦略を実現するための具体的な経営計画を立案します。さらに組織内のメンバーを好ましい方向に動かしていく活動が必要であり、ヒトに加えてモノ・カネを、最も効率的に調達し使用しつつ利益を上げていく意思決定と実行、そのための「仕組み－プロセスの枠組み」を作り込み、機能させることが不可欠です。経営学では、これら一連の企業活動がどのように行われているかを理解することを目的とします。この講義では、会社とは何かという基本的な問題を理解することから始め、「人事」、「マーケティング」、「生産」、「財務」、さらに「情報」といった経営活動の基本的分野について、その機能と役割を理論とケーススタディを通じた事例の分析に基づいて理解します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
現代の企業の役割とその機能を理解する	毎回授業終了時に提出するリアクション・ペーパーと試験によって評価する。	20%
経営学の諸理論を理解する	毎回授業終了時に提出するリアクション・ペーパーと試験によって評価する。	30%
経営組織と経営機能の役割を理解する	毎回授業終了時に提出するリアクション・ペーパーと試験によって評価する。	30%
企業活動の実例から経営上の問題点を理解できるようになる	本講義の最後にケース課題を出し、それに対するレポートによって評価する。	20%
評価の方針	授業の最終評価はリアクション・ペーパー30%、試験50%、レポート20%の割合で評価する。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	授業の概要、進め方について	16	人的資源管理(1)
2	企業とはなにか?	17	人的資源管理(2)
3	株式会社の仕組み(1)	18	マーケティング(1)
4	株式会社の仕組み(2)	19	マーケティング(2)
5	経営者の機能と責任(1)	20	会計とファイナンス(1)
6	経営者の機能と責任(2)	21	会計とファイナンス(2)
7	経営学の理論(初期の管理論)	22	生産管理
8	経営学の理論(人間関係論)	23	情報管理(1)
9	経営学の理論(バーナード=サイモン理論)	24	情報管理(2)
10	経営学の理論(コンティンジェンシー理論)	25	環境経営
11	経営戦略論(1)	26	ケース・スタディ(1)
12	経営戦略論(2)	27	ケース・スタディ(2)
13	経営組織論(1)	28	ケース・スタディ(3)
14	経営組織論(2)	29	ケース・スタディ(4)
15	前期のまとめ	30	前・後期のまとめ

【使用教材】

- ◇井原久光『テキスト経営学—基礎から最新の理論まで』ミネルヴァ書房、2008年
- ◇その他、随時資料を配布します。

【履修条件等】

- ◇経営学を基礎からしっかり学びたいと考えている人。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇次回の授業で取り上げるテーマについてテキストを読んできておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇評価は試験やレポートによって厳格に行います。

経営学概論	エンジョウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
Introduction to Management	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

経営学にはさまざまな領域があります。例えば、管理論、組織論、戦略論、企業論、会計学や心理学などの領域があります。そのなかでも、管理論、組織論、戦略論、そして企業論は経営学の中核的な領域になります。したがって、これらの領域の基礎を学ぶことによって、経営学の基礎固めをすることができると同時に、経営学とはどのような学問なのか、あるいは経営学を学ぶ意義とは何か、を理解できるようになるでしょう。

経営学は他の学問と比べてまだ歴史は浅いですが、人類のさまざまな課題を克服するうえで重要な役割を果たしていく可能性を大いに秘めている学問です。換言すれば、経営学を学ぶことによって、皆さんが将来活躍する場は無限に広がることでしょう。

本講義は入門科目ですので、経営学をより本格的に学ぶには、上記に挙げた領域の専門科目をさらに履修する必要があります。本講義の使命は、専門科目を学ぶための橋渡しの役割を果たすことにあります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営学の基礎知識と理論の理解	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
経営学とは何かを理解する	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
経営学を学ぶ意義を理解する	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
経営学の応用可能性を理解する	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
評価の方針 本試験70%と小テスト等（出席点含む）30%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	春学期ガイダンス	16	秋学期ガイダンス
2	経営学とは何か	17	経営戦略論①
3	管理論①	18	経営戦略論②
4	管理論②	19	経営戦略論③
5	管理論③	20	経営戦略論④
6	管理論④	21	経営戦略論⑤
7	管理論⑤	22	経営戦略論⑥
8	管理論⑥	23	組織論①
9	企業論①	24	組織論②
10	企業論②	25	組織論③
11	企業論③	26	組織論④
12	企業論④	27	組織論⑤
13	企業論⑤	28	組織論⑥
14	企業論⑥	29	まとめ
15	総括・達成度の確認	30	総括・達成度の確認

【使用教材】

◇参考書：藤田誠著『経営学入門』中央経済社、2015年

風間信隆編著『よくわかるコーポレート・ガバナンス』ミネルヴァ書房
2019年

◇その他は適宜指示。

【履修条件等】

◇授業中の私語やスマホ等の使用は厳禁です。その他、担当教員の指示に従わない者は本試験の受験ができなくなる可能性があるので注意してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇参考書等、講義内容に関する領域を事前に読んでくることをお勧めします。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営学概論	フジモリ ダイスケ 藤森 大祐
Introduction to Management	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

初めて学ぶ者にとって、「経営学」というものは何かとつきにくい難しいもののように感じるかもしれない。学問である以上、そこで展開される学術的な議論は難解なものもあることは事実である。しかし、経営学は私たちにとって大変身近なことを学ぶものであり、また実際に役に立つものである。さらに、経営学は経営者のための学問であるだけでなく、広く「働く人」のための学問である。この講義では、経営学というものをなるべくわかりやすく学んでいくとともに、経営学に興味を持つきっかけとなることを第一の目標に据えて進めていく予定である。この講義が、履修する皆さんにとって、その後の経営学のより専門的な分野の扉を、楽しみに開くきっかけとなれば嬉しい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
会社制度の仕組みを理解し、その問題点や課題を考える基礎を養う	試験およびレポートによって評価する。 6割以上を合格とする。	20%
経営戦略やマーケティングの代表的な理論を理解し、現実の企業活動を説明する力を養う	試験およびレポートによって評価する。 6割以上を合格とする。	40%
組織や管理の代表的な理論を理解し、専門科目を学ぶための基礎力を身につける	試験およびレポートによって評価する。 6割以上を合格とする。	40%
評価の方法 試験50%、レポート30%、平常点20%で評価する。 平常点は講義内で書くコメントや質問、授業態度などで評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	経営戦略①
2	経営組織①	17	経営戦略②
3	経営組織②	18	経営戦略③
4	経営組織③	19	経営戦略④
5	経営組織④	20	マーケティング①
6	経営組織⑤	21	マーケティング②
7	経営組織⑥	22	国際経営
8	モチベーション①	23	生産管理
9	モチベーション②	24	品質管理
10	モチベーション③	25	製品開発
11	リーダーシップ①	26	イノベーション①
12	リーダーシップ②	27	イノベーション②
13	リーダーシップ③	28	イノベーション③
14	春学期の復習	29	秋学期の復習
15	試験および総括	30	試験および総括

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しない。随時必要な資料を配布する。また、授業内で参考文献を紹介する。

【履修条件等】

◇経営学を積極的に学ぶ意欲があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回、講義の最後に次回の内容を伝えるので、次週までにその内容についての基礎知識を得ておくこと。

【その他の注意事項】

◇経営学は自ら意欲を持って臨めば、とても刺激的なものである。しかし、それが感じられるまでにはそれなりの努力が必要である。わからないことを乗り越えて、楽しさを感じられるようになることを期待する。

経営学概論	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Introduction to Management	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

経営学といってもその内容はさまざまです。この授業は科目名が示すように、経営学が扱うさまざまな領域の中の主なものを概略的に見ていきます。扱う領域は、それぞれ2年次以降に、半期あるいは通年の授業として設定されています。したがって、この授業では細かい部分は扱わず中心的な部分だけを見ていくことになります。

授業は、講義と質問を交互に行います。経営学のさまざまな理論や学説を中心に講義をしますので、聞いているだけでは理解しにくいところがあるかもしれません。積極的に質問に応え、授業理解の助けにしてください。また、授業中わからないことがあったら、その場で積極的に質問してください。

大学に入って最初の専門科目の授業となりますので、大学における論述試験に慣れてもらうために春学期中間に「中間試験」を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営学の基礎的な内容を理解していること	設問に対する回答によって評価。基礎的な用語を理解していること。	20%
経営学の基本的なものの見方を理解していること	設問に対する回答によって評価。授業中の質問に対する回答によって評価。	20%
経営学の代表的な理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。代表的な理論を説明できること。	20%
経営学の理論を応用する力を備えていること	設問に対する回答によって評価。授業中の質問に対する回答によって評価。理論をもとに具体的な方法を提案できること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を必要条件として、試験95%、授業参加度5% 試験は、2回の定期試験と中間試験の結果とする。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	経営学とは：経営学はいつ始まった	16	企業倫理
2	テイラーの科学的管理法	17	組織形態(1)
3	ヴェーバーの官僚制	18	組織形態(2)
4	人間関係論	19	経営管理各論(1)
5	バーナードの組織論	20	経営管理各論(2)
6	サイモンの意思決定論	21	経営管理各論(3)
7	コンティンジェンシー理論	22	経営管理各論(4)
8	中間試験とその解説	23	日本的経営
9	企業論(1)	24	組織的意思決定
10	企業論(2)	25	経営戦略論(1)
11	所有と経営の分離	26	経営戦略論(2)
12	企業結合	27	経営戦略論(3)
13	国際経営論	28	経営戦略論(4)
14	企業目的	29	組織文化
15	総括・達成度の確認	30	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：大月、高橋、山口著『経営学－理論と体系－』同文館

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できる人。

◇経営学を学ぼうという意志の強い人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の対象範囲を前もって読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇出席日数が不足すると試験を受けられなくなるので注意してください。

経営学概論（留学生対象）	オガワ タツヤ 小川 達也
Introduction to Management	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

留学生の初学者を対象に企業経営の基礎的理論と実践的知識の理解を深め、現代企業が直面している諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を通して企業経営の実態を把握し、有用な経営理論をわかりやすく解説します。受講生一人ひとりの疑問や質問に向き合い、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営学の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営学の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた企業経営の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた企業経営の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営学の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。企業経営の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題をしっかりと論述できること。	20%
評価の方法	授業回数に対して出席回数が3分の2以上の受講生に限り評価します。成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	【重要】ガイダンス（授業概要・評価方法）	16	株式会社の統治 ①規模別の諸形態
2	経営学への招待 ①経営学はおもしろい！	17	〃 ②監査役設置会社
3	〃 ②企業の経営を考えよう	18	〃 ③指名委員会等設置会社
4	〃 ③マネジャーの仕事とは	19	〃 ④監査等委員会設置会社
5	〃 ④テイラーの科学的管理	20	企業の社会的責任 ①社会的責任の本質
6	〃 ⑤ファヨールの管理思想	21	〃 ②その内容と優先順位
7	〃 ⑥バーナードの組織理論	22	〃 ③企業の社会貢献活動
8	企業・会社の概念 ①企業・会社とは何か	23	〃 ④企業の反倫理的行動
9	〃 ②企業の諸形態	24	〃 ⑤コンプライアンス経営
10	〃 ③会社法の概要	25	企業価値創造 ①ステークホルダーと企業
11	〃 ④所有と経営の分離	26	〃 ②2つの企業価値創造経営
12	〃 ⑤合名・合資・合同会社	27	〃 ③米国型経営の教訓
13	〃 ⑥株式会社の特徴と役割	28	〃 ④企業の4つの価値創造
14	〃 ⑦企業統治の概念と目的	29	〃 ⑤企業価値創造経営の実践
15	中間試験（総括・達成度の確認）	30	期末試験（総括・達成度の確認）

【使用教材】

◇教科書：未定。

◇参考書：二神恭一編著『新版ビジネス・経営学辞典』中央経済社、2006年
そのほかの参考書は、授業中に紹介します。

【履修条件等】

◇この授業は、これから学ぶ経営学関連の科目を理解するのに必要な基礎的知識を養う
目的があります。多少難しいと感じても、常に向上心を持って授業に臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語への理解が大切
です。しかし、授業時間内にその都度、用語そのものの解説は行いません。そのため、
わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。
◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌を
よく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第1回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項
など重要な内容を説明をしますので、必ず出席してください。
◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく
使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

経済学概論	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Introduction to Economics	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

経済はわたしたちの生活に密着しています。経済現象は日常生活にあふれていますが、これに疑問をもったことはありませんか？ たとえば、商品には必ず価格がついていますが、そもそもこの価格というのは何でしょうか？ あなたならどう答えますか？ こうした疑問に答えるためには、経済学を学ばなければいけません。

本講義では経済学の基礎理論を学ぶことを通して、わたしたちが生活している社会の仕組み、そして現代の経済問題を分析していきます。経済問題を議論できるエコノミストの視点を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済学の基礎理論の習得 ・ 現代の経済問題に対する経済学的視点を養う 	定期試験の結果と課題等によって成績を評価する。	定期試験70%、課題およびリアクションペーパー等の平常点30%
<p>評価の方法 定期試験70%、課題やリアクションペーパー等の平常点30%により総合的に判断して成績を評価します。ただし、全講義の3分の1以上（5回以上欠席（考慮すべき理由のないもの）した場合、単位取得を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ、内容	回	テーマ、内容
1	ガイダンス	16	ガイダンス
2	経済主体と経済活動	17	需要と供給
3	消費	18	グラフの読み方
4	投資	19	価格
5	政府支出	20	価格変化に対する感応性
6	政府の役割①	21	働くということ
7	政府の役割②	22	国際収支
8	決済	23	資産市場
9	貿易と決済	24	市場分析
10	GDP	25	IS-LM分析
11	戦後日本経済史（前編）	26	IS-LM-BP分析
12	戦後日本経済史（後編）	27	経済危機①
13	景気指標	28	経済危機②
14	物価	29	国際経済の現在（いま）
15	総括・達成度の確認	30	総括・達成度の確認

【使用教材】

- ◇教科書：指定しない。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日頃から経済に関する新聞記事やニュースをチェックすること。経済学の入門書に目を通しておくと良い。

【その他の注意事項】

- ◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

経済学概論	マツダ タケシ 松田 岳
Introduction to Economics	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

企業経営は経済環境から大きな影響を受けており、社会で生きる私たちにとって経済の知識を身につけることは必要不可欠である。しかし、日々起こっている経済現象は複雑な要因が絡み合っており、そのままでは理解することが難しい。そのため絡み合った「糸」を解きほぐし、できるだけ単純化して理解する必要がある。「経済学」は経済現象を究極まで単純化・抽象化した上で体系化された学問である。抽象的なキーワードは馴染みが薄く、それゆえ敬遠されがちでもある。しかし、その意味は意外にも身近で、シンプルな疑問から解き明かすことができる。本講義では学生諸君が抱きそうな「素朴な疑問」を手掛かりとして、現実の経済問題への関心を高めるとともに、マクロ経済学の基礎の習得を目指す。「今を知る」ことに意欲的な学生の姿勢を求む。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マクロ経済政策の目標について理解できる	マクロ経済政策の目標を説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	23%
マクロ経済と財政政策の関係を理解できる	マクロ経済と財政政策の関係を説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	13%
マクロ経済と金融政策の関係を理解できる	マクロ経済と金融政策の関係を説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	13%
財政金融政策について理解できる	財政金融政策について説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	27%
貿易問題について理解できる	貿易問題について説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	12%
現代経済が抱える問題について理解できる	現代経済が抱える問題について説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	12%
評価の方法 試験点100%（質問等を通じて積極的に授業に参加した場合は加点あり）。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	春学期ガイダンス	16	秋学期ガイダンス
2	経済学	17	財政
3	分業	18	財政政策
4	市場	19	財政赤字
5	価格統制	20	お金と銀行
6	価格弾力性	21	日本銀行
7	労働市場	22	金融政策
8	資本市場	23	投資理論
9	競争と独占	24	自由貿易
10	外部性	25	保護貿易
11	市場経済	26	為替相場
12	ゲーム理論	27	バブル経済
13	行動経済学	28	人口減少
14	制度論	29	格差問題
15	総括・達成度の確認(1)	30	総括・達成度の確認(2)

【使用教材】

- ◇教科書：ガイダンス時に指示する。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇10回以上欠席すると評価対象外になる。
- ◇授業を妨害する行為（私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇コースパワーで配布する資料を授業前に参照し、ノートテイクしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇コースパワーで配布する資料を授業後に参照し、学修を深めること。
- ◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。
- ◇発言や質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢を持っていることが望ましい。
- ◇質問はコースパワーで受け付けている。

会計学概論	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Introduction to Accounting	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

企業活動に直接関係していない学生にとっては、理論としての会計学が実感としてはなじみの薄い学問となっている。このような会計学が“本来は”受講生に身近な領域であることを本講義を通じて感じてもらうことを最大の目標としたい。春学期は、まず、会計へのイメージづくりを眼目とし、会計の考え方（理論）を中心に、講義を進める。

秋学期は、春学期に培った会計の思考が、企業会計の数値の把握と計算にどのようにつながっているのかを検討する。講義では、受講生自らが、実際に問題を解き、計算することで、会計に対する知識を確実なものとすることを目標に置く。

【学習の到達目標と評価基準】

春学期

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の修得の有無	会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
会計に関する基礎的な理解の程度の確認	会計に関する基礎的な知識の修得の確認の如何について、予行試験の実施により確認する。	30%
会計に関する理解の深度の程度の確認	会計の意義、必要性、現状における問題点の把握とその解決のため素養を修得しているか否かにつき、本試験の実施により確認する。	40%

秋学期

基礎的前提に関する知識の修得の有無	会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
税務会計に関する基礎的な知識の修得の確認	会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
税務会計に関する理解の深度の確認	会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション1	16	計算問題1
2	帳簿の記録について	17	計算問題2
3	簿記と会計	18	計算問題3
4	企業活動の把握	19	計算問題4
5	会計の歴史と思考	20	計算問題5
6	企業会計の基準1	21	小括（理解度チェックテスト1）
7	企業会計の基準2	22	計算問題6
8	企業会計の基準3	23	計算問題7
9	企業会計の基準4	24	計算問題8
10	貸借対照表の検討1	25	計算問題9
11	貸借対照表の検討2	26	計算問題10
12	貸借対照表の検討3	27	計算問題11
13	貸借対照表の検討4	28	計算問題12
14	損益計算書の再検討	29	計算問題13
15	総括・達成度の確認	30	総括・達成度の確認

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし（むしろ復習中心の勉強が望まれる）。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

会計学概論	ドイ ミツル 土井 充
Introduction to Accounting	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

経営学科の諸科目を学習するための基礎となる、財務会計および管理会計などに関する入門的な領域を取り上げる。春学期は、会計情報の分析手法および財務諸表の作成方法の概要の学習を通じて、財務諸表の種類や現行の会計基準の特徴などを学ぶ。秋学期は、春学期に引き続き財務会計の個別テーマならびに管理会計や税務会計などの会計学の諸領域を学ぶ。そのため本講義では、配賦プリントを用いながら各テーマを説明し、必要に応じて、適宜ケースを用いながら理解を深めて行く。

【学習の到達目標と評価基準】

春学期

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基本ルールを正しく理解し、簿記一巡の手続きができること	設問に対する回答によって評価。 取引の仕訳・転記から貸借対照表・損益計算書の作成までのプロセスを理解していること。	20%
財務会計に関する法制度や基準等を理解していること	設問に対する回答によって評価。 会社法や金融商品取引法に基づく会計のはたらきや、制度上開示が求められる書類に関する基本的な用語や様式を理解していること。	30%
損益計算・資産評価などが国の会計基準の特徴を理解していること	設問に対する回答によって評価。 収益費用の認識・測定基準や資産評価基準など日本の現行会計の特徴を理解していること。	30%
財務諸表分析の手法を理解し、目的に応じた分析を行えること	設問に対する回答によって評価。 収益性や安全性など各指標の意味および計算方法、判断基準を理解し、数値の意味を適切に読み取ることができること。	20%

秋学期

財務会計の諸テーマに関する基本概念を理解していること	設問に対する回答によって評価。 キャッシュ・フロー計算書や連結財務諸表の作成・分析方法、ならびにその他諸領域（国際会計や中小企業会計、環境会計、監査、公会計など）の基礎概念を理解していること。	30%
管理会計の基本概念を理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上高、変動費、固定費、限界利益の相互関係に基づく損益分岐点分析、および計画、実行、比較検討、改善策というマネジメントサイクルを支える予算管理等を理解していること。	30%
税務会計の基本原則を理解していること	設問に対する回答によって評価。 税務会計の基本用語、ならびに課税所得の計算方法を理解していること。	20%
現行会計の概要を体系的に理解していること	設問に対する回答によって評価。 財務会計・管理会計・税務会計など会計の種類と当該分野における基本原則を理解するとともに、個々の会計の関係性を理解していること。	20%

評価の方法 3分の2以上の出席を前提として試験70%、レポートないし小テスト30%で評価する。
レポートないし小テストは、各テーマの理解の確認のため複数回課す。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	ガイダンス
2	会計の種類	17	キャッシュ・フロー計算書(1)
3	制度会計	18	キャッシュ・フロー計算書(2)
4	複式簿記の基本原則(1)	19	連結財務諸表(1)
5	複式簿記の基本原則(2)	20	連結財務諸表(2)
6	貸借対照表の読み方	21	国際会計基準(I F R S) (1)
7	棚卸資産の会計	22	国際会計基準(I F R S) (2)
8	金融資産の会計	23	中小企業の会計
9	有形固定資産の会計	24	監査
10	無形固定資産と繰延資産	25	税務会計(1)
11	損益計算書の読み方	26	税務会計(2)
12	期間損益計算の基本原則(1)	27	管理会計(1)
13	期間損益計算の基本原則(2)	28	管理会計(2)
14	財務会計の目的とルール	29	その他の諸領域
15	総括・達成度の確認	30	総括・達成度の確認

【使用教材】

- ◇教科書：使用せず。
- ◇参考書：必要に応じて演習中に配付します。

【履修条件等】

- ◇本講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。
予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

会計学概論	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Introduction to Accounting	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

日頃意識することは少ないが、私たちはさまざまな企業と関わりながら生活をしている。企業は種々の商品や製品およびサービスを私たちに提供してくれる。そして企業は、自身が営む経済活動を「会計」の手続きを通して記録・測定・報告する必要がある。

では、「会計」とはいったいどんなものだろうか。

本講義は、会計学の全般的な知識を習得するため、財務会計、管理会計、財務分析、財務諸表監査等の各分野に関する基礎概念について取り扱う。具体的には、まず会計学の基礎となる複式簿記の基本ルールを学習し、会計の意義や種類、機能、役割をはじめ、会計手続きのルール、財務情報の読み方などについて学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
簿記・会計に関する専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計の意義、会計の種類、会計に関する基礎的な用語や概念を理解し、会計の役割や機能を説明できること。	40%
複式簿記の基本ルールを正しく理解し、簿記一巡の手続きと財務諸表の関係を理解する	設問に対する回答によって評価。仕訳のルール、損益計算書や貸借対照表の意義および中身を理解し、説明ができること。	20%
会計上のルールである会計基準や、会計手続を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計公準や発生主義などの基礎概念、および棚卸資産の期末評価や、固定資産の減価償却、原価計算の方法など、それぞれの具体的な手続きについて、その意義および必要性を理解し説明できること。	40%
<p>評価の方法 確認テスト（小テスト）30%、本試験70%。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。</p>		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	ガイダンス
2	会計の意義と役割(1)	17	企業価値(1)
3	会計の意義と役割(2)	18	企業価値(2)
4	複式簿記の基礎原理と決算	19	財務分析(1)
5	決算書の体系	20	財務分析(2)
6	発生主義会計と会計処理	21	予算管理(1)
7	連結決算	22	予算管理(2)
8	確認テスト (小テスト)	23	確認テスト (小テスト)
9	税務会計(1)	24	原価計算(1)
10	税務会計(2)	25	原価計算(2)
11	内部統制	26	コスト・マネジメント(1)
12	財務諸表監査	27	コスト・マネジメント(2)
13	国際財務報告基準(1)	28	組織再編(1)
14	国際財務報告基準(2)	29	組織再編(2)
15	総括・達成度の確認	30	総括・達成度の確認

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

- ◇教科書：岩谷誠治『会計の基本』日本実業出版社
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇真摯な授業態度で授業に臨むことを履修条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

マーケティング概論 I	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Principles of Marketing I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、マーケティングの基本的な理論と戦略について学習する。企業の経営な活動の中で、マーケティングがどのような役割を担っているのかを学んだ後、戦略を立案する際に必要な分析方法や理論を中心に解説する。実在の企業や商品の例を取り上げ、マーケティングを現実的な問題として理解していくことも目的としている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティングの基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、マーケティングに関する用語を答えられること。	25%
マーケティング戦略立案のための環境分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な環境分析の手法について理解し、答えられること。	20%
マーケティング戦略立案のための市場分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な市場分析の手法について理解し、答えられること。	20%
マーケティング戦略立案のための競争分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な競争分析の手法について理解し、答えられること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	マーケティングとは	授業の内容とマーケティングの考え方
2	マーケティング・コンセプト	コンセプトの変遷、ニーズとウォンツ
3	マーケティングの範囲	事業領域の設定、マーケティング・マイオピア
4	マーケティングのプロセス	4 P 概念、マーケティングの実行プロセス
5	環境分析(1)	企業を取り囲む環境、機会と脅威
6	環境分析(2)	企業の強みと弱み、SWOT分析
7	市場細分化	市場細分化と細分化の切り口、ターゲットの選定
8	ポジショニング	ポジショニングマップによる分析、製品差別化
9	製品ライフサイクル	製品の寿命とライフサイクル、ライフサイクル別戦略
10	ポートフォリオ分析	ポートフォリオ・マトリックス、戦略的事業単位
11	製品・市場マトリックス	アンゾフの製品・市場マトリックスと成長ベクトル
12	競争分析	競争のファイブ・フォース、集中度の分析
13	競争優位戦略 1	競争の激しさを決める要因、参入障壁と参入阻止戦略
14	競争優位戦略 2	業界の競争戦略分析、競争の基本戦略
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇私語を慎み周囲に迷惑をかけること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

マーケティング概論 I	ヒノ タカオ 日野 隆生
Principles of Marketing I	基本科目 / 半期 / 2 単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能の1つであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

本科目では、マーケティング論の歴史から現代社会におけるマーケティングとは何か、そしてどのように活用するか、具体的事例とともに学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	授業内小レポートによって評価する。 講義内容の要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	40%
戦略としてのマーケティング論を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容の製品戦略、価格戦略、チャネル戦略、プロモーション戦略など、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	20%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	期末試験によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、記述内容によって評価する。	40%
評価の方法 授業内小レポート40%、レポート20%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	マーケティングとは	マーケティング・コンセプトの変遷
3	マーケティングの意義	マーケティングの必要性和手法
4	製品戦略①	マーケティング論における製品の概念
5	製品戦略②	製品ミックス戦略、新製品開発
6	ブランド戦略	ブランドの価値と構築
7	価格戦略	価格決定方法・価格戦略
8	チャネル戦略	流通チャネルの概念と類型
9	販売促進戦略①	プロモーションの概念
10	販売促進戦略②	プロモーションの手段
11	インターネット社会のコミュニケーション	インターネット社会におけるマーケティング
12	リテール・マーケティング	小売業のマーケティング
13	リレーションシップ・マーケティング	関係性マーケティング
14	リージョナル・マーケティング	地域のマーケティング
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇『マーケティングの理論・新展開』五絃舎、2019年

【履修条件等】

◇さまざまなメディアによってマーケティングに関するニュースを見つけてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当部分を読んでくる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

マーケティング概論 I	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principles of Marketing I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングの基礎知識から、マーケティングにおけるマネジメントの考え方、マーケティングの実際までを理解する。マーケティングは、商品やサービスの販売を促進する手段として捉えられがちであるが、企業の戦略や非営利組織の活動とも深く関わっている。製品を開発する企業、製品を消費者に届ける流通業、製品を購入し利用する消費者など、様々な視点からマーケティングを学習する。テキストだけでなく、事例なども用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的な用語について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。マーケティングの定義、コンセプトの変遷、マーケティング・ミックス、マーケティングの範囲について答えられること。	25%
市場環境の分析について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。企業を取り巻く環境、環境を分析するための考え方などについて答えられること。	25%
消費者行動とマーケティング戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。消費者を購買に導く、動機づけやそのフレームワーク、個人的な要因について答えられること。	25%
製品戦略とブランドについて理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。製品のとらえ方、製品開発に関わる考え方、ブランドについて答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	マーケティングのコンセプトと基本用語	コンセプトの変遷について
3	マーケティング・ミックス	4 P の概念について
4	マーケティングの範囲	マーケティングの対象について
5	市場環境の分析 (1)	企業のマイクロ環境、SWOT分析について
6	市場環境の分析 (2)	企業のマクロ環境、人口動態環境などについて
7	消費者行動 (1)	消費者の意思決定プロセスについて
8	消費者行動 (2)	意思決定に影響する要因について
9	マーケティング戦略の基礎	市場細分化、ターゲティング、ポジショニングについて
10	製品戦略 (1)	製品のとらえ方について
11	製品戦略 (2)	サービスや組織のマーケティングについて
12	事例研究	製品戦略の事例について
13	製品開発	製品開発と製品ライフサイクルについて
14	ブランドマネジメント	ブランド・エクイティとブランド・アイデンティティについて
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『現代マーケティング論』第2版 実教出版

【履修条件等】

◇「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」などの関連科目を受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本やニュースで関連した資料について目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に集中すること。態度が悪い場合には、退出を命じる場合もある

マーケティング概論 II	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Principles of Marketing II	基本科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

この授業では、マーケティングを実践するための基本的な戦略と理論について学習する。製品戦略、価格戦略、流通戦略、プロモーション戦略というパートに分け、それぞれの戦略を立案するための基本的な知識を習得するのが狙いである。実在の企業例を取り上げ、マーケティングを現実的な問題として理解していくとともに、新しいマーケティングの流れについても解説する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティング戦略に関わる専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略のアプローチ方法を理解し、マーケティング戦略に関する用語を答えられること。	20%
マーケティングにおける製品戦略と価格戦略について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略における製品戦略の手法やブランド理論、価格戦略等について理解し、答えられること。	25%
マーケティングにおけるプロモーション戦略と流通戦略について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略におけるプロモーションの種類やアプローチ方法、流通の仕組み、流通戦略の手法等について理解し、答えられること。	25%
マーケティングの最新の動向や理論について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略の最新の動向やソーシャルマーケティング、関係性マーケティングの理論について理解し、答えられること。	15%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	マーケティング戦略とは	授業の内容とマーケティング戦略について
2	製品の基礎知識	製品の中核便益と付随機能、新製品の種類
3	新製品開発戦略	新製品の開発プロセスと事例
4	製品ミックス戦略	製品のアイテムとライン、製品ライン戦略
5	ブランド・マネジメント 1	ブランドの役割、ブランドロイヤルティ
6	ブランド・マネジメント 2	ブランド名戦略、ブランド拡張戦略
7	価格戦略 1	価格の決定方法、新製品の価格戦略
8	価格戦略 2	製品ミックス、心理面を考慮した価格戦略
9	流通の仕組み	流通の仕組みと役割、日本の流通システムの特徴
10	流通チャネル管理	チャネルの選択と管理、パワーコンフリクト
11	プロモーション戦略の基礎	プロモーションの種類、プロモーション・ミックス
12	広告戦略	目的設定と媒体の選択、メディア・ミックス戦略
13	販売促進とPR活動	販売促進の目的設定と手段、PR戦略
14	ソーシャルマーケティング 関係性マーケティング	非営利組織のマーケティングと社会志向のマーケティング、顧客との関係作りの戦略
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇私語を慎み周囲に迷惑をかけないこと。

◇「マーケティング概論Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

マーケティング概論 II	ヒノ タカオ 日野 隆生
Principles of Marketing II	基本科目 / 半期 / 2 単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能の一つであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

本科目では、伝統的なマーケティング論をもとに、サービス業を中心としたマーケティングの理論と具体的なケースをとりあげる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
サービス・マーケティングの基本的用語を理解する	授業内の小レポートによって評価する。 講義内容の要約を記述した小レポートによって、サービス・マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	40%
サービス・マーケティングの特質を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容のケースから、サービス・マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	20%
現代におけるサービス・マーケティングの意義を理解する	期末試験によって評価する。 サービス・マーケティング論の現代における意義について、記述内容によって評価する。	40%
評価の方法 授業内小レポート40%、レポート20%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	サービスの特性	サービスの概念・サービス業とは
3	サービスの構造	サービス・マーケティング論の特性
4	サービスの生産	サービス生産とモノ製品の違い
5	サービス・エンカウンター	サービス・エンカウンターとは何か
6	サービス・プロフィット・チェーン	従業員満足と顧客満足の関係
7	サービス・ブランド	ロイヤルティとリレーションシップ
8	サービス・ドミナント・ロジック	価値共創のマーケティング
9	スポーツ・マーケティング	スポーツをマーケティング論の視点から考える
10	観光マーケティング	観光をマーケティング論の視点から考える
11	医療サービス	医療におけるサービスとマーケティング
12	介護サービス	介護サービスのマーケティング
13	テーマパーク	テーマパークのマーケティング
14	宿泊施設	ホテル、旅館、ゲストハウスのマーケティング
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇日野隆生編著『サービス・マーケティング—理論と実践—』五紘舎、2018年

【履修条件等】

◇さまざまなメディアによってマーケティングに関するニュースを見つけてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当部分を読んでくる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

マーケティング概論 II	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principles of Marketing II	基本科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

マーケティングの実際までを理解する。マーケティングは、商品やサービスの販売を促進する手段として捉えられがちであるが、企業の戦略や非営利組織の活動とも深く関わっている。製品を開発する企業、製品を消費者に届ける流通業、製品を購入し利用する消費者など、さまざまな視点からマーケティングを学習する。テキストだけでなく、事例なども用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
価格戦略と流通戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。価格戦略、流通チャンネルの構造、流通に関連する組織、チャンネルの設計について答えられること。	25%
広告戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。広告の種類、広告目標、媒体戦略、表現戦略について答えられること。	25%
販売促進、PR、人的販売、リレーションシップ・マーケティングについて理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。販売促進の種類、PRの仕組み、人的販売の役割、リレーションシップ・マーケティングに関連するコンセプトについて答えられること。	25%
グローバルマーケティングとインターネット・マーケティングについて、理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。グローバルマーケティングの課題、インターネット・マーケティングの可能性と問題点について答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、価格、流通、販売促進戦略について
2	価格戦略	価格の設定方法について
3	流通チャネル(1)	流通チャネルの構造と関連する組織について
4	流通チャネル(2)	チャネルの設計、小売業と卸売業について
5	事例研究(1)	流通の事例について
6	広告戦略(1)	目標や媒体の選択について
7	広告戦略(2)	広告の表現について
8	販売促進とPR	プロモーションの種類とPR活動について
9	事例研究(1)	広告の事例について
10	人的販売とリレーションマーケティング	人的販売、リレーションシップ、顧客満足について
11	グローバルマーケティング	グローバル環境とマーケティングミックスについて
12	事例研究(3)	リレーションシップマーケティングについて
13	インターネット・マーケティング(1)	インターネットを用いたマーケティングについて
14	インターネット・マーケティング(2)	インターネットを用いたマーケティングについて
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『現代マーケティング論』第2版 実教出版

【履修条件等】

◇「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」などの関連科目を受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本やニュースで関連した資料について目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に集中すること。態度が悪い場合には、退出を命じる場合もある。

企業論 I	<small>エンジョウジ タカヒロ</small> 円城寺 敬浩
Modern Corporation I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では「企業論Ⅱ」で扱う諸問題を考えるための基礎的知識等の修得を目的とする。現代企業の諸形態やその役割を、またとくに株式会社におけるその基本的な仕組みや特徴等を理解することに重点をおく。必要に応じて、VTR等を利用することもある。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業の意義および企業形態に関して理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で企業の果たす役割やさまざまな企業形態の基本的な仕組みを理解しているか。	10%
株式会社の意義とその基本的な仕組みを理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で株式会社の果たす役割や株式会社の基本的な仕組みを理解しているか（例えば会社機関など）。	30%
大企業の意義と日本企業の支配構造に関して理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で大企業が果たす役割や、日本企業の支配構造に関して理解できているか。	30%
大企業のコーポレート・ガバナンスに関する基本枠組みを理解していること	設問に関する回答によって評価する。大企業のコーポレート・ガバナンスに関する仕組み等を理解しているか。	30%
評価の方法 本試験70%、出席状況（受講態度含む）30%、レポート等（+α）で総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「企業論Ⅰ」の意義と内容等に関する紹介
2	企業の役割	現代社会における企業の意義に関する理解
3	企業の諸形態①	企業形態に関する理解
4	企業の諸形態②	3回目のつづき
5	株式会社の誕生	株式会社の意義に関する理解
6	株式会社の仕組み①	株式会社に関する基本的な仕組みの理解
7	株式会社の仕組み②	株式に関する理解
8	株式会社の仕組み③	会社機関に関する理解
9	株式会社の仕組み④	8回目のつづき
10	大企業とは何か①	現代社会における大企業の意義に関する理解
11	大企業とは何か②	大企業の支配構造に関する理解
12	大企業とは何か③	日本企業の支配構造に関する理解
13	大企業とは何か④	大企業のコーポレート・ガバナンスに関する理解①
14	大企業とは何か⑤	大企業のコーポレート・ガバナンスに関する理解②
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：風間信隆編著『よくわかるコーポレート・ガバナンス』ミネルヴァ書房、2019年

◇参考書：三戸浩・池内秀己・勝部伸男編著『企業論』有斐閣アルマ、2018年
高橋俊夫編著『コーポレート・ガバナンスの国際比較―米、英、独、仏、日の企業と経営―』中央経済社、2006年
高橋俊夫著『企業論の史的展開』中央経済社、2007年

【履修条件等】

◇他の受講生に迷惑を掛ける行為（私語等）をした場合、受験停止にする。

なお、1年生の受講生は毎年かなりのものが単位を落としているので、その点を留意して履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも復習を重視する。講義開始時に前回の復習を簡単にするが、各自その都度、理解するように復習しておくこと。予習は教科書や参考書等を利用して、事前に講義関連箇所を読んでおくことをすすめる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

企業論 I	シミズ タイヨウ 清水 太陽
Modern Corporation I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、複雑かつ多面的な現代企業の全体像と課題を理解し、それに関する関心と問題意識を醸成できるようになることを目標とする。具体的には、現代企業の諸形態や役割について、とくに株式会社に注目し、主に大企業の構造について学ぶ。また、いわゆる「日本的経営」や現代企業の役割に関しても、考えてみたい。必要に応じて、映像資料等も活用する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
用語の理解	テストで評価する。企業社会や株式会社の実態について、専門用語を用いて正確に説明できるか。	20%
理論の内容理解	テスト、レポートで評価する。企業社会や株式会社制度の内容とその基本的な仕組みを理解し、説明できるか。	20%
理論と制度の理解	テスト、レポートで評価する。企業とそれを取り巻く株式会社制度と企業制度の結びつきを理解し、説明できるか。	20%
知識の応用	テスト、レポートで評価する。本講義で学んだ知見を活かし、現代企業に関して、自分の意見を論理的に説明できるか。	40%
評価の方法 テスト70% レポート20% 受講態度10%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	企業論を学ぶ意義と内容に関する説明
2	現代企業を見る視点	6つの企業観
3	「財・サービスの提供 機関」としての企業	経済発展と生活の変化、大企業の実態、企業の長期戦略
4		企業の広告活動、企業の国際化、むすび
5	「株式会社」としての 企業	株式会社の機能と構造、株式会社の現実
6	「大企業」としての企 業	大企業とは何か、大企業の支配構造、大企業の性格と機能
7		日本の大企業の経営者、大企業のコーポレート・ガバナンス
8	「組織」としての企業	企業と官僚制、企業組織の諸形態
9		企業の組織と管理論の展開、管理の革命
10	「家」としての日本企 業	日本企業と従業員、日本型株式会社制度の構造と実態
11		日本型企业結合様式の独自性、日本企業をみる視点、揺らぐ日本的経営
12	「社会的器官」として の企業	企業の社会的責任論、企業市民、日本企業の社会的貢献活動
13		近年のCSR活動とCSR指標・CSRランキング、企業統治、企業倫理
14		社会のための企業、個人・社会・自然と調和した企業
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論(第4版)』有斐閣アルマ、2018年

◇参考書：高橋俊夫編著『コーポレート・ガバナンスの国際比較—米、英、独、仏、日の企業と経営—』中央経済社、2006年

高橋俊夫著『企業論の史的展開』中央経済社、2007年

【履修条件等】

◇とくにないが、「経営史」を受講済みだと、講義での理解が深まるであろう。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書を使って、その日やる内容を事前に読んでおくと講義での理解が深まるであろう。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

企業論Ⅱ	エンジョウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
Modern Corporation II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、主として日本の大企業に焦点を当て、それに関わる諸問題を取り上げていく。大企業に関わる諸問題の考察を通して、現代企業の実像に迫りたい。

必要に応じてVTR等を利用する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コーポレート・ガバナンスのドイツ・モデルに関する理解①	設問に関する回答によって評価する。ドイツ・モデルの特徴を理解できているか。	20%
コーポレート・ガバナンスのドイツ・モデルに関する理解②	設問に関する回答によって評価する。ドイツ・モデルの意義について理解できているか。	10%
日本型企业システムに関する理解	設問に関する回答によって評価する。日本型企业システムの理解と近年の動向に関して理解できているか。	40%
企業と社会との関係および企業の社会的責任に関する理解	設問に関する回答によって評価する。企業と社会との関係および企業の社会的責任の内容および意義について理解できているか。	30%
評価の方法	本試験70%、出席状況（受講態度含む）30%、レポート等（+α）で総合的に評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	「企業論Ⅱ」の講義内容等の紹介
2	ドイツのガバナンス①	ガバナンスのドイツ・モデルの特徴
3	ドイツのガバナンス②	2回の続き
4	ドイツのガバナンス③	3回の続き
5	ガバナンスのまとめ	ガバナンス問題の総まとめ
6	日本型企业システムの動向①	企業システムの日本型とは何か①
7	日本型企业システムの動向②	企業システムの日本型とは何か②
8	日本型企业システムの動向③	「日本型」を醸成する基盤に関する考察
9	日本型企业システムの動向④	「日本型」の近年の動向
10	企業と社会①	「企業と社会」に関する概論
11	企業と社会②	企業の社会的責任の基礎概念の理解①
12	企業と社会③	企業の社会的責任の基礎概念の理解②
13	企業と社会④	企業の社会的責任の動向に関する考察
14	「企業論Ⅱ」の総括	「企業論Ⅱ」の総括と本試験に関して
15	本試験	「企業論Ⅱ」の内容の理解度を確認する為に、ペーパー試験を実施

【使用教材】

- ◇教科書：風間信隆編著『よくわかるコーポレート・ガバナンス』ミネルヴァ書房、2019年
- ◇参考書：三戸浩・池内秀己・勝部伸男編著『企業論』有斐閣アルマ、2018年
高橋俊夫編著『コーポレート・ガバナンスの国際比較—米、英、独、仏、日の企業と経営—』中央経済社、2006年
高橋俊夫著『企業論の史的展開』中央経済社、2007年

【履修条件等】

- ◇他の受講生に迷惑を掛ける行為（私語等）をした場合、本試験の受験を停止にする。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇予習よりも復習を重視する。講義開始時に前回の復習を簡単にするが、各自その都度、理解するように復習しておくこと。予習は参考書等を利用して、事前に講義関連箇所を読んでおくことをすすめる。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

企業論Ⅱ	シミズ タイヨウ 清水 太陽
Modern Corporation II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、日本の企業が現在、どのような状況に置かれているのか、そしてどのような強みや課題を抱えているのかを、主要産業全体の動向を鳥瞰しつつ考えていく。企業の競争力の構築は、産業全体にかかわる要因の影響を強く受けるからである。

また、本講義では歴史を重視して、それを踏まえて奥行きのある現在像を示すので、就職活動または入社準備に少しは役立つ面もあるかと思われる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎知識の理解	テストおよびレポートによって評価する。 産業の基礎知識を正確に理解し、説明することができるか。	20%
歴史の理解	テストおよびレポートによって評価する。 産業全体の歴史を正確に理解し、説明することができるか。	20%
内容の理解	テストおよびレポートによって評価する。 「企業論Ⅱ」の内容を正確に理解し、説明することができるか。	20%
知識の応用	テストおよびレポートによって評価する。 講義での知見を生かし、現代の企業が置かれている状況、諸問題に関して、自分の意見を論理的に説明することができるか。	40%
評価の方法 テスト70% レポート20% 授業態度など10%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	講義内容の説明、なぜ学ぶのか、いかに学ぶのか
2	消費財製造業	食品
3		ビール・飲料
4		アパレル
5		自動車
6		電機・電子
7		素材・エネルギー産業
8	化学	
9	電力	
10	石油	
11	サービス産業	商社、住宅
12		銀行
13		保険、鉄道
14		携帯電話、コンテンツ、日本の産業と企業の未来
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：橘川武郎・平野創・板垣暁編『日本の産業と企業—発展のダイナミズムをとらえる』有斐閣アルマ、2014年

【履修条件等】

◇とくにないが、「企業論Ⅰ」、「経営史」をあらかじめ受講しておく、講義での理解が深まるものと思われる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇あらかじめ、教科書で、その日の講義内容を読んでおくと、講義での理解が深まるであろう。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営管理論	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Business Management	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、大規模化・複雑化が進行する現代企業を運営する上で必要な「管理」に関する知識を習得し、現代企業が抱える諸問題を考察する。講義の最終到達目標は、経営管理の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるようになることである。講義は、主に経営管理論史の変遷を概観し、経営管理に関する基礎理論を学ぶ。具体的な企業事例なども参考にすが、経営管理の諸理論を中心に学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。経営管理の専門用語を正確に理解し説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。経営管理の諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。経営管理と現代企業制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。経営管理の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明	40%
評価の方針 本試験およびレポート等を80%、受講態度を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法等について
2	産業革命以前の管理	産業革命以前の社会変化とマネジメント
3	産業革命	産業革命と管理
4	アメリカの産業発展	ビッグビジネスの成立
5	科学的管理①	テイラーシステムとは何か
6	科学的管理②	能率主義と科学的管理の普及
7	全社的管理	ウェーバーの官僚制論、ファヨールの管理論
8	ホーソン研究①	ホーソン研究の概要
9	ホーソン研究②	人間関係論の展開
10	経営管理と経営組織①	チェスター・バーナードの組織論的管理論
11	経営管理と経営組織②	メアリー・フォレットの管理論
12	意思決定の科学	意思決定の諸理論
13	リーダーシップ研究	リーダーシップの諸研究
14	モチベーション研究	モチベーションの諸研究
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男編著『経営管理』有斐閣アルマ、2009

【履修条件等】

◇経営学全般の基礎知識を必要とするため3年次以降の履修が望ましい。経営学の関連基礎科目を修得済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇参考書や関連書籍の内容を予習、復習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営組織論 I	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Organization Theory I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経営学は、一般に企業を研究対象としますが、企業にもさまざまなものがあります。そこで組織という抽象概念を用いてどのような企業にでも適用できるようにしています。しかし、この組織というものがどのようなものかはまだはっきりとはわかっていません。この授業では、さまざまな角度からこの組織について考えていきます。

「経営組織論 I」では、社会学から見た組織論の位置づけ、組織論の歴史、組織とは何か、システムとしての組織、組織の具体的な形態について学びます。

授業は一方向的に講義してもあまり効果がないと考えています。したがって、授業は講義と質問を織り交ぜて行います。質問には積極的に答えるようにしてください。その方が理解が早いと思います。

また授業は出席するのが基本です。怠けて授業を休みすぎたり教室を抜け出したりして単位をもらえることは絶対にありませんから、怠けたい人は受講しない方がよいでしょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
組織の概念を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな概念に説明できること。	25%
組織に関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな学説を説明できること。	25%
さまざまな組織モデルの違いを理解していること	設問に対する回答によって評価。パラダイムの違いを説明できること。	25%
組織理論を応用して、具体的な方法を提案できること	設問に対する回答によって評価。理論を理解し具体的な方法を提案できること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度5%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	経営組織論とは	マクロ、ミクロの違い、社会学における位置づけ
2	学説(1)	科学的管理法
3	学説(2)	官僚制
4	学説(1)、(2)の問題点	ビデオによる解説
5	学説(3)	人間関係論
6	学説(4)	バーナードの組織論
7	学説(5)	サイモンの意思決定論
8	学説(6)	コンティンジェンシー理論とネオコンティンジェンシー理論
9	学説(7)	情報処理モデルと資源依存モデル
10	メタファー	メタファーとしての組織モデル
11	学説(8)	J. D. トンプソンの組織理論
12	組織構造	ライン、ファンクショナル、ライン・アンド・スタッフ
13	組織形態	職能別組織、事業部制組織、その他
14	まとめ	非合理的組織論
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：高橋、山口、磯山、文著『経営組織論の基礎』中央経済社、1998年

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

経営組織論 I	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Organization Theory I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、経営学の学問領域の中でも「人と組織」の関係に注目し、組織における人間行動についての基礎的知識を学ぶことによって、現代企業社会に対する個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。とくにマネジメントと経営組織論の成立の歴史を振り返ることで、現代における「人と組織」の関係の在り方を模索する。講義は主に学説史を中心に取り上げるが、現代の企業組織の問題に照らし合わせ考えることで、理解を深められるように進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。経営組織の専門用語を正確に理解し説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。経営組織の諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。経営組織と現代企業制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。経営組織の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
<p>評価の方法 本試験およびレポート等を80%、受講態度および出席状況を20%とする。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	経営組織の展開について
2	経営学のはじまり	産業革命とアメリカ経営学の発展について
3	経営管理論の展開	科学的管理について
4	全社的管理論の展開	大規模組織の管理について
5	ホーソン研究	初期の集団研究について
6	バーナード組織論①	人間とは何か、協働とは何か
7	バーナード組織論②	組織とは何か、管理とは何か
8	バーナード組織論③	ケーススタディ
9	モチベーション研究①	初期のモチベーション理論について
10	モチベーション研究②	近年のモチベーション理論について
11	リーダーシップ研究①	初期のリーダーシップ理論について
12	リーダーシップ研究②	近年のリーダーシップ理論について
13	モチベーションとリーダーシップ	ケーススタディ
14	まとめ	全体総括、ポイントの整理
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：指定なし。

◇参考書：岸田民樹・田中政光著『経営学説史』有斐閣、2009年

【履修条件等】

◇「経営組織論Ⅱ」も併せて履修することが望ましい。

◇経営学の関連基礎科目を修得済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇参考書や経営組織論の関連書籍によって、毎回予習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇ケーススタディにおいては積極的な発言を求める。

経営組織論Ⅱ	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Organization Theory II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経営学は、一般に企業を研究対象としますが、企業にもさまざまなものがあります。そこで組織という抽象概念を用いてどのような企業にでも適用できるようにしています。しかし、この組織というものがどのようなものかはまだはっきりとはわかっていません。この授業では、人間を中心に組織をとらえていきます。

「経営組織論Ⅱ」では、個人行動、モチベーション（動機づけ）、リーダーシップ、非合理的意思決定、暗黙知などについて学びます。

授業は一方的に講義してもあまり効果がないと考えています。したがって、授業は講義と質問を織り交ぜて行います。質問には積極的に答えるようにしてください。その方が、理解が早いと思います。

また授業は出席するのが基本です。怠けて授業を休みすぎたり教室を抜け出したりして単位をもらえることは絶対にありませんから、怠けたい人は受講しない方がよいでしょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
個人行動の傾向を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな概念に説明できること。	25%
動機づけに関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな学説を説明できること。	25%
リーダーシップに関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。パラダイムの違いを説明できること。	25%
各理論を応用した、具体的な施策を提案できること	設問に対する回答によって評価。理論を理解し具体的な方法を提案できること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度5%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経営組織論とは	ミクロの組織論とは
2	個人行動(1)	個人行動とは、知覚
3	個人行動(2)	態度、パーソナリティー、
4	個人行動(3)	学習
5	モチベーション(1)	マレーの欲求リスト
6	モチベーション(2)	マクレランドらの達成欲求他
7	モチベーション(3)	マズローの欲求5段解説
8	モチベーション(4)	アージェリスの不適合理論
9	モチベーション(5)	ハーズバーグの二要因理論
10	モチベーション(6)	ハルの動因理論と期待理論
11	モチベーション(7)	ポーター＝ローラーの期待理論とアダムスの公平理論
12	リーダーシップ(1)	特性理論と行動理論
13	リーダーシップ(2)	状況理論
14	認知的不協和	センスメーカー他
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：高橋、山口、磯山、文著『経営組織論の基礎』中央経済社、1998年

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

経営組織論Ⅱ	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Organization Theory II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、経営学の学問領域の中でも「システムとしての組織」に注目し、組織の構造についての基礎的知識を学ぶことによって、現代企業社会に対する個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。とくに、マネジメントと経営組織論の成立の歴史を振り返ることで、現代における「システムとしての組織」の在り方を模索する。講義は主に学説史を中心に取り上げるが、現代の企業組織の問題に照らし合わせ考えることで、理解を深められるように進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。経営組織の専門用語を正確に理解し説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。経営組織の諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。経営組織と現代企業制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。経営組織の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法 本試験およびレポート等を80%、受講態度および出席状況を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	経営組織の展開について
2	アメリカ経営学の潮流	経営組織論の基礎について
3	意思決定①	個人の意思決定について
4	意思決定②	組織の意思決定について
5	組織と環境①	環境適応の理論について
6	組織と環境②	取引コスト理論について
7	組織と環境③	組織間関係の資源依存モデルについて
8	組織と戦略	事業戦略と組織のライフサイクルについて
9	知の経営学	知識創造型経営について
10	組織と学習①	組織における学習過程について
11	組織と学習②	実践的学習について
12	組織と文化	組織文化論、日本的経営論
13	ポストモダンの組織論	近年の経営組織論の研究動向について
14	まとめ	全体総括、ポイントの整理
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：指定なし

◇参考書：岸田民樹・田中政光著『経営学説史』有斐閣、2009年

【履修条件等】

◇「経営組織論Ⅰ」も併せて履修することが望ましい。

◇経営学の関連基礎科目を修得済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと参考書や経営組織論の関連書籍によって、毎回予習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇ケーススタディにおいては積極的な発言を求める。

経営戦略論 I	オガワ タツヤ 小川 達也
Strategic Management I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経営戦略に関する基礎的理論と実践的知識を修得し、現代企業が戦略を策定・実行する際に直面する諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を適宜取り入れることで理論と実践のバランスを図り、経営戦略への理解を深められるように工夫します。受講生の質問には解説を加えて回答し、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。経営戦略の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題をしっかりと論述できること。	20%
評価の方法	授業回数に対して出席回数が3分の2以上の受講生に限り評価します。成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	【重要】ガイダンス	授業の概要と評価方法、学び方について
2	経営戦略の意義	なぜ経営戦略が必要なのか
3	経営戦略の体系①	経営戦略と戦術の役割
4	〃 ②	経営理念とビジョンの役割
5	〃 ③	経営戦略の3つのタイプ
6	〃 ④	経営戦略の構成要素
7	製品・市場戦略①	アンゾフの成長ベクトル
8	〃 ②	多角化戦略と相乗効果（シナジー）
9	〃 ③	市場細分化戦略
10	〃 ④	新製品開発と新市場開拓
11	競争戦略の要点①	ポーターの競争戦略と5つの競争要因
12	〃 ②	競争戦略の基本モデル(1) コストリーダーシップ
13	〃 ③	競争戦略の基本モデル(2) 差別化と集中化
14	〃 ④	価値連鎖（バリューチェーン）
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施します

【使用教材】

◇教科書：岸川善光著『経営戦略要論』同文館出版、2006年

◇参考書：大滝精一、金井一頼、ほか著『新版・経営戦略—論理性・創造性・社会性の追求』有斐閣アルマ、2006年

【履修条件等】

◇この科目は、秋学期開講の「経営戦略論Ⅱ」の基礎となる科目です。「経営戦略論Ⅱ」の履修を希望する場合は、まず「経営戦略論Ⅰ」の単位を修得してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出しますが、授業中にその都度、用語を解説することはできません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第1回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項など重要な内容を説明をしますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

経営戦略論Ⅱ	オガワ タツヤ 小川 達也
Strategic Management Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経営戦略に関する基礎的理論と実践的知識を修得し、現代企業が戦略を策定・実行する際に直面する諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を適宜取り入れることで理論と実践のバランスを図り、経営戦略への理解を深められるように工夫します。受講生の質問には解説を加えて回答し、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。経営戦略の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題方針をしっかりと論述できること。	20%
評価の方法	授業回数に対して出席回数が3分の2以上の受講生に限り評価します。成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	【重要】ガイダンス	授業の概要と評価方法、学び方、本試験の結果について
2	競争優位の構築①	競争優位の源泉とコア・コンピタンス経営
3	〃 ②	特許を活用した戦略展開
4	〃 ③	知的財産権の役割と戦略的重要性
5	経営資源の展開①	経営戦略と経営資源の関係
6	〃 ②	経営資源の蓄積と経験効果の戦略的活用
7	〃 ③	P P M（プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント）の意義
8	〃 ④	P P Mの基本戦略とG Eのビジネススクリーン
9	〃 ⑤	P P Mの応用展開：M&A（企業の合併と買収）の意思決定
10	ドメインの意義①	ドメインの役割
11	〃 ②	ドメインの物理的定義と機能的定義
12	〃 ③	ドメイン・コンセンサス
13	〃 ④	ドメインの再定義
14	〃 ⑤	ドメインの選択と集中の重要性
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施します

【使用教材】

◇教科書：岸川善光著『経営戦略要論』同文館出版、2006年

◇参考書：大滝精一、金井一頼、ほか著『新版・経営戦略—論理性・創造性・社会性の追求』有斐閣アルマ、2006年

【履修条件等】

◇この科目は、春学期開講の「経営戦略論Ⅰ」の単位修得者を対象に進めます。「経営戦略論Ⅱ」を履修する場合は、まず「経営戦略論Ⅰ」の単位を修得してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出しますが、授業中にその都度、用語を解説することはできません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第1回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項の説明に加えて、春学期に実施した「経営戦略論Ⅰ」の本試験の結果を解説します。今後、学習する上で参考になる内容を取り上げますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

<h2 style="margin: 0;">近代経済学</h2>	<small>シミズ ヨシキ</small> 清水 良樹
Modern Economics	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経済はわたしたちの生活に密着しています。経済現象は日常生活にあふれていますが、これに疑問をもったことはありませんか？たとえば、商品には必ず価格がついていますが、そもそもこの価格というのは何でしょうか？あなたならどう答えますか？こうした疑問に答えるためには、経済学を学ばなければいけません。

本講義では経済学の基礎理論を学ぶことを通して、わたしたちが生活している社会の仕組み、そして現代の経済問題を分析していきます。経済問題を議論できるエコノミストの視点を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経済学の基礎理論の理解を通じて、現代の経済問題に対する経済学的視点を養う	定期試験の結果と授業参加度状況等によって成績を評価する。	定期試験70%、授業参加度10%、課題やリアクションペーパー等の平常点20%
<p>評価の方法 定期試験70%、授業参加度10%、課題やリアクションペーパー等の平常点20%により総合的に判断して成績を評価します。</p> <p>ただし、全講義の3分の1以上（5回以上）欠席（考慮すべき理由のないもの）した場合、単位取得を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	経済学の対象	最適化する個人
3	最適化戦略	需要曲線・供給曲線・無差別曲線
4	リスク	大数の法則、逆選択
5	費用	機会費用・サンクコスト
6	雇用	労働市場の現状
7	労働法	労働者の権利
8	ブラック企業	働くということ
9	ゲーム理論	囚人のジレンマ
10	企業行動	企業の「ベストな判断」
11	市場	独占市場と寡占市場
12	G P I F	年金の管理と運用
13	政府の役割	外部性、公共財、情報の非対称性
14	国際貿易	外国との取引の分析
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：指定しない。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ミクロ経済学の入門書に目を通しておくと良い。

【その他の注意事項】

- ◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

経営史	シミズ タイヨウ 清水 太陽
Business History	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

現代の経済活動の中枢を担う主体のなかで、企業に焦点をあてて学んでいきます。この授業では、企業の変貌と発展の歴史を見ていき、現代企業の抱える課題とその行く末を展望します。また、それぞれの「時代」や「金融」についてもあわせて考えることで経営史を多面的に理解できる授業にしたいと考えています。映像資料や音楽動画などを活用することにより、経営史を学習することの楽しさと意義を理解できるような授業を行います。

堅苦しい授業を行うつもりはないので、授業では受講者の積極的な参加を期待します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎知識の理解	期末試験およびレポートによって評価する。 経営史の基礎知識を正確に理解し、説明することができる。	30%
内容の理解	期末試験およびレポートによって評価する。 経営史の内容を正確に理解し、説明することができる。	30%
時代の理解	期末試験およびレポートによって評価する。 時代の流れをとらえ、それぞれの時代と経営史の結びつきを理解し、説明することができる。	10%
知識の応用	期末試験およびレポートによって評価する。 経営史の知見を生かし、現代の企業が抱える諸問題に関して、自分の意見を論理的に説明することができる。	30%
評価の方法 期末試験70%、レポート20%、受講態度10%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	講義内容についての説明、経営史はなぜ必要か
2	戦略商品と経済覇権 の変遷	市場と商品、第一次産業革命
3		第二次産業革命、第三次産業革命
4		企業と企業家、工場と会社の誕生
5	会社の誕生	重工業における技術革新と市場、エネルギー革命
6		パートナーシップから株式会社へ、取引コストの削減、イギリスにおける企業誕生の意義
7		第二次産業革命、インフラストラクチャーの整備、企業家精神と戦略
8	ビッグ・ビジネスの 成立	垂直統合戦略と企業形態、アメリカ的組織と経営手法
9		競争戦略とマーケット・セグメンテーション、ビッグ・ビジネスの成立とその限界
10		先発国と後発国、財閥の形成と解体
11	大競争時代	日本的生産システムの確立、エレクトロニクス革命とグローバル化
12		IT革命、国際競争の象徴としての自動車産業
13		R&Dと大競争、サブプライム危機と金融革命
14		ものづくりとファイナンス
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：安部悦生『経営史<第2版>』日経文庫、2010年
- ◇参考文献：授業で随時指示する。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇あらかじめ、教科書で、その日の授業内容を読んでおくと、授業での理解が深まるであろう。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

中小企業論	アオヤマ カズマサ 青山 和正
Theory of Small Business	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

中小企業は、大企業とともに一国の経済社会の発展の原動力の大きな柱の1つであり、かつ地域経済や経営革新の担い手として大きな役割を果たしている。その歴史的な発展や中小企業の構造変化、日本経済におけるその存立条件と中小企業固有の問題点を解明する。さらにアジア諸国の中小企業についても、その構造や政策について日本と比較しながら解明していく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
中小企業に関する基礎的な知識と位置づけを理解していること	小テストを行い、中小企業に関する基礎的な用語と経済・産業との関わりを習得しているかを評価する。	15%
中小企業に関する分野ごとの基礎的な知識と課題を理解していること	小テストを行い、中小企業に関する分野別の基礎的な用語と知識を習得しているかを評価する。	15%
中小企業に関する分野ごとの問題を深く理解し、自分で課題を理解していること	中小企業に関して、特定分野の内容と課題を把握しているかどうかを論述試験により評価を行う。論旨の体系化、内容、課題などが理解しているかを回答しているかを評価する。	30%
中小企業問題の全体像と各分野の関連を理解し、中小企業問題の基礎から応用まで理解していること	中小企業に関して、基礎から応用までの内容と課題を把握しているかどうかを論述試験により評価を行う。中小企業問題は経済社会問題として幅広いので、どの程度深く理解できたかを評価する。	40%
評価の方法	70%以上の出席を前提として試験75%、演習15%、出席10% 試験は論述により、演習は小テストにより基礎的な学習成果を評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス なぜ中小企業が重要か	本授業のねらいと進め方、評価基準等について説明、中小企業の役割と重要性を見る
2	中小企業の定義	日本、米国などの中小企業の捉え方と実態
3	中小企業政策の変遷	日本の中小企業政策の変遷と内容
4	中小企業の存立形態(Ⅰ)	中小企業の構造変化と存立分野の変革
5	中小企業の存立形態(Ⅱ)	中小企業の業種別の構造変化と特徴
6	創業・開業(Ⅰ)	各国の創業・開業の実態と創業の重要性
7	創業・開業(Ⅱ)	創業促進政策、インキュベーション
8	中小企業と製造業(Ⅰ)	日本の下請構造の歴史的変遷と特徴
9	中小企業と製造業(Ⅱ)	日本の下請構造の変化と課題
10	中小企業と製造業(Ⅲ)	中小製造業の生き残り条件業
11	中小企業の国際化(Ⅰ)	中小企業の国際化の変遷
12	中小企業の国際化(Ⅱ)	中小企業の国際化とアジア分業体制
13	地域経済と中小企業(Ⅰ)	地域経済と中小企業の関わり方
14	地域経済と中小企業(Ⅱ)	地場産業における中小企業の役割
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括・学習達成度の確認

【使用教材】

◇参考書：青山和正著『精解中小企業論』同友館

中小企業白書、新事業開業白書、通商白書

【履修条件等】

◇日頃から中小企業にも絶えず関心や疑問をもつこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇レジメをあらかじめ読んでおくこと。

◇中小企業のテーマごとに基礎的な知識を理解しておくこと。

【その他の注意事項】

◇日本経済新聞など、中小企業に関する記事を読むこと。

中小企業論	ヤマオカ ジュンイチロウ 山岡 淳一郎
Theory of Small Business	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義は、私がノンフィクション作家として取材、執筆してきた企業と経営者、社員の方々とのやりとりなどを基に、社会の変化のありよう、ニーズの移り変わり、今後の方向性などを解説。メディアから眺めた中小企業論を展開し、現象の奥の構造を見抜く力を養います。併せて日本語での読み書き、コミュニケーションの力を磨きます。

国の中小企業白書によれば、全国382万社のうち中小企業が99.7%を占めます。身近な企業の活動を手がかりに思考を深めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会の変化を、論理的に把握して理解できる	講義中に解説する中小企業の問題や人物のエピソードなどを通して、社会の変化を論理的に整理し、理解できているか。講義中の質疑や討論、期末試験で客観的に評価。	20%
日本語で読み、書き、話すための基礎的な力を身につける	講義に使うテキスト、レジュメなどにそって、読み、書き、話すことに積極的にチャレンジし、自らの能力を高めようとしているか。ワークシート、試験等で客観的に評価。	35%
情報の読解力を高め、ものごとを複眼的にとらえられる力をつける	社会に氾濫する情報をうのみにせず、自分の頭で正確に理解しようと努め、さまざまな視点からの分析ができているか。講義中の質疑や期末試験で客観的に評価。	25%
経営に欠かせない先見性やリーダーシップが理解できているか	講義で触れる経営者たちの判断、選択について、その根底にある先見性やリーダーシップの基本概念が理解できるか。講義中の質疑や期末試験で客観的に評価。	20%
評価の方法 評価配分は授業参加の姿勢、態度を50%、期末試験を50%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	導入講義
2	エンターテインメント界の老舗 木下サーカス株式会社のビジネス像 「一場所、二根、三ネタ」とは？
3	木下サーカス、百余年の軌跡
4	UTグループの起業と、製造業派遣の移り変わり。働き方はどうなる？
5	UTグループの成長と変化、将来戦略
6	飲食界の新星、物語コーポレーション
7	物語コーポレーション会長の経営観
8	中小企業の落とし穴－銀行の行動
9	航空機産業を支える中小企業
10	多摩川精機と飯田市の中小企業
11	脱炭素革命と原子力ビジネス
12	エネルギー地産地消－小田原の鈴廣
13	農業の最先端－舞台ファーム
14	元受刑者を雇用-北洋建設
15	総括・達成度の確認

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメ、ワークシートなど準備し、教材にします。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業中に次回の内容を予告し、予習すべき内容を指示します。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語、無断で教室の外に出ることは慎んでください。授業では、グループごとのディスカッションやワークシートの記入なども実施します。

中小企業論	ヤマカワ サトル 山川 悟
Theory of Small Business	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、「東京中小企業家同友会」に加盟している会社の役員（主に経営者）を毎回講師に招き、経営内容やご自身の経験談を中心にした講演を通じて中小企業経営の実際を学びます。また、講演後の議論により、対象企業の経営課題を経営者と同じ目線で考えるきっかけを提供します。本学からの新卒採用を考慮に入れている企業もありますので、就職活動前の企業研究としても格好の場です。

今年度は、製造業2社、建設業2社、サービス業4社、商社1社、ソフトウェア会社3社の12社の講演を予定しています。進路をまだ決め切れていない、企業研究がまだできていないという学生は積極的に履修登録し、自らの指針づくりに役立ててください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
レポート提出と内容	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートが期限までに提出されている。 ・レポートの仕様（ページ数、サイズ、対象企業数など）が順守されている。 ・レポートに講演内容が簡潔にまとめられている。 ・レポートに自分自身の言葉で、感銘を受けたことまたは印象に残ったことが明記されている。 ・講義中にミニレポートを課すことがあります。 	50%
講義への参加姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴姿勢がある。 ・話を聞きながら、きちんとメモがとれている。 ・積極的に質問した（講義中に質問した人には加点評価を行います）。 ・講義後の議論に積極的に参加した。 	50%
<p>評価の方法 約70%以上の出席を前提に評価</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要、評価方法等の説明
2	中小企業を学ぶ	中小企業の定義と意義および今後の展開について
3	製造業	電子磁気工業株式会社 取締役総務部長
4	製造業	株式会社 吉村 代表取締役社長
5	建設業	メトロ設計株式会社 代表取締役
6	建設業	株式会社 タキズミ 代表取締役会長
7	サービス業	大谷清運株式会社 代表取締役
8	サービス業	東京魚類容器株式会社 代表取締役
9	サービス業	株式会社ワイズ・インフィニティ 代表取締役社長
10	サービス業	株式会社 富士国際旅行社 代表取締役
11	商社	株式会社ディレクターズ アイエスビー 代表取締役
12	ソフトウェア業	株式会社 エム・ソフト取締役会長
13	ソフトウェア業	株式会社 ソアーシステム 代表取締役
14	ソフトウェア業	株式会社 コンピュータネットワーク 代表取締役会長
15	まとめ	これまでのまとめとレポート課題の提示

【使用教材】

- ◇企業概要や講演レジュメなど、各回資料を配布します。
- ◇講演者が使用したパワーポイントのスライドは配布しませんので、講義用ノートを作成し、講演者の発言のキーワードをメモしてください。

【履修条件等】

- ◇社会人としての基本的マナー（遅刻しない、途中退席しないなど）を守り、授業を受けられる人。
- ◇企業の話を通じて、進路決定に役立てたいと考える人。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇当日の企業・業界に関して事前研究をしておくことを勧めます。
- ◇質問事項を準備しておいてください。

【その他の注意事項】

- ◇配布資料は、自身で整理、管理してください。
- ◇出席管理は自ら行い、自身の出席率を把握しておいてください。
- ◇黙って聞くだけでなく、積極的に質問を行うことがマナーです。企業経営者と直接対話する絶好のチャンスだと思って参加してください。

中小企業経営論	アオヤマ カズマサ 青山 和正
A Medium and Small Sized Management Theory	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

中小企業は大企業に比べヒト・モノ・カネの経営資源が乏しく、大企業（強者）とは異なる戦略や知恵と工夫により、新たな市場開拓を見出し、経済社会に貢献している。本講座では、大企業経営とは異なる中小企業の経営的な側面を経営戦略から財務までの基礎から応用まで学ぶ。講義を聴くだけでなく、事前に配布した演習を、自分ならどう解決していくかを考えることで中小企業経営をより深く解明する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業経営に関する基礎的な知識と考え方を理解していること	小テストを行い、企業経営に関する基礎的な用語や知識を習得しているかを評価する。	15%
中小企業経営に関するテーマごとの基礎的な知識と課題を理解していること	中小企業経営に関する基礎的な知識を習得しているかを評価する。中小企業経営の戦略ツールや思考体系の理解がされているかを小演習により評価する。	15%
中小企業経営に関する分野ごとの問題を深く理解し、自分で課題を理解していること	中小企業経営に関して、テーマごとにその内容と課題を把握しているかどうかを演習により評価を行う。論旨の体系化、内容、課題などが理解しているかを回答しているかを評価する。	30%
中小企業問題の全体像と各分野の関連を理解し、中小企業問題の基礎から応用まで理解していること	中小企業経営に関して、基礎から応用までの内容と課題を把握しているかどうかを論述試験により評価を行う。中小企業経営をテーマごとに、どの程度深く理解できたかを評価する。	40%
評価の方法	70%以上の出席を前提として試験70%、演習20%、出席10% 試験は論述により、演習は小テストにより基礎的な学習成果を評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 中小企業経営とは	本講座の目的と授業の進め方、評価基準等を説明。 中小企業経営の特性と独自性
2	中小企業経営者の条件	中小企業は経営者の条件とは何か
3	中小企業の経営戦略(Ⅰ)	中小企業の経営戦略の基本
4	中小企業の経営戦略(Ⅱ)	中小企業の差別化戦略の進め方
5	中小企業の経営戦略(Ⅲ)	中小企業のNO1戦略とは何か
6	中小企業のマーケティング(Ⅰ)	中小企業のマーケティングの進め方
7	中小企業のマーケティング(Ⅱ)	中小企業のブランドづくりの基本
8	中小企業の組織づくり(Ⅰ)	組織づくりの基本と中小企業の組織形態
9	中小企業の組織・人材(Ⅱ)	中小企業に最適な組織づくり
10	中小企業の財務(Ⅰ)	中小企業の財務データの基本
11	中小企業の財務(Ⅱ)	中小企業の財務データの活用
12	中小企業の財務(Ⅲ)	中小企業の資金調達と中小企業金融制度
13	ファミリービジネス(Ⅰ)	ファミリービジネスの概要
14	ファミリービジネス(Ⅱ)	後継者育成と事業承継
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括・学習達成度の確認

【使用教材】

◇教科書：とくになし。

◇参考書：山田英二著『競争しない競争戦略』日経出版

岩崎邦彦著『小さな会社を強くするブランドづくりの教科書』日経出版社

【履修条件等】

◇モノづくり、小売業、サービス業などの経営に関心をもつこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に演習(10問)を配布するので、その演習を自分なりに回答し、授業に臨むこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

中小企業経営論	ヤマオカ ジュンイチロウ 山岡 淳一郎
A Medium and Small Sized Management Theory	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義は、私がノンフィクション作家として取材、執筆してきた企業と経営者、社員の方々とのやりとりなどを基に、社会の変化のありよう、ニーズの移り変わり、今後の方向性などを解説。メディアから眺めた中小企業論を展開し、現象の奥の構造を見抜く力を養います。併せて日本語での読み書き、コミュニケーションの力を磨きます。

国の中小企業白書によれば、全国382万社のうち中小企業が99.7%を占めます。身近な企業の活動を手がかりに思考を深めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会の変化を、論理的に把握して理解できる	講義中に解説する中小企業の問題や人物のエピソードなどを通して、社会の変化を論理的に整理し、理解できているか。講義中の質疑や討論、期末試験で客観的に評価。	20%
日本語で読み、書き、話すための基礎的な力を身につける	講義に使うテキスト、レジュメなどにそって、読み、書き、話すことに積極的にチャレンジし、自らの能力を高めようとしているか。ワークシート、試験等で客観的に評価。	35%
情報の読解力を高め、ものごとを複眼的にとらえられる力をつける	社会に氾濫する情報をうのみにせず、自分の頭で正確に理解しようと努め、さまざまな視点からの分析ができているか。講義中の質疑や期末試験で客観的に評価。	25%
経営に欠かせない先見性やリーダーシップが理解できているか	講義で触れる経営者たちの判断、選択について、その根底にある先見性やリーダーシップの基本概念が理解できるか。講義中の質疑や期末試験で客観的に評価。	20%
評価の方法 評価配分は授業参加の姿勢、態度を50%、期末試験を50%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	導入講義
2	医療・介護と経営 「地域包括ケア」の実践 仙台の医療法人－清山会
3	精神科医理事長の理論と実践
4	健康とビジネス－健康機器メーカー・タニタの「モノ」から「コト」への転換
5	タニタ「健康をつくる」社内改革
6	チェーン病院－徳洲会の足跡
7	徳洲会創業者の「理念の力」
8	ヤマト運輸－宅急便が生まれた背景
9	産業を支える海運業
10	リーダーの発想－土光敏夫
11	東日本大震災と「みらい造船」
12	沖縄の経済変化－かりゆし、金秀
13	休耕地を生かす－多田自然農場の手法
14	企画コンペー「こんな本をつくりたい」
15	総括・達成度の確認

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメ、ワークシートなど準備し、教材にします。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業中に次回の内容を予告し、予習すべき内容を指示します。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語、無断で教室の外に出ることは慎んでください。授業では、グループごとのディスカッションやワークシートの記入なども実施します。

経営情報学	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Management Information	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

情報化社会と言われる今、情報の価値は益々高まってきており情報システムの果たす役割はきわめて大きいと言えます。本授業では経営情報システムの基本原理、しくみを理解し、ビジネスでの応用について具体的な事例に基づき学んでいきます。経営情報システムの活用方法、インターネットを用いたビジネス、データベースシステム等を理解することでビジネスにおいて役立つ知識の習得を目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータ、ハードウェア、補助記憶装置について理解する	設問に対する解答によって評価する。 コンピュータの5大装置を説明することができる。 さらにコンピュータ、ハードウェア、補助記憶装置の基本構造を理解する。	30%
データの取り扱い方法、データベースシステムについて理解する	設問に対する解答によって評価する。 データの圧縮、データ量について把握し、データの基本的な取り扱い方法を説明できる。さらにデータベースシステムについて学び、データの検索、抽出方法などを理解する。	20%
経営情報システム、通信ネットワークを理解する	設問に対する解答によって評価する。 経営情報システムの定義、役割、価値について説明できる。さらに通信ネットワーク、インターネットの特徴を理解する。	30%
セキュリティ管理方法、情報倫理、情報リテラシーを理解する	設問に対する解答によって評価する。 セキュリティの管理方法、情報倫理の重要性などについて説明できる。また、情報リテラシーについて理解し、その活用方法を説明できる。	20%
評価の方法 授業時間内の設問に対する解答30%、課題30%、定期試験40%。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義内容についての説明、経営情報学の概要
2	コンピュータの構造	コンピュータの基礎知識、種類、構成について学ぶ
3	パソコンの構造	パソコンの構造について学ぶ
4	5大装置	入力装置、出力装置、記憶装置、制御装置、演算装置について学ぶ
5	データの取り扱い	データの圧縮、データ量について学ぶ
6	データベースシステム	データベースシステムの役割、活用法について学ぶ
7	経営情報システム	経営情報システムの定義、役割について学ぶ
8	通信ネットワーク	通信ネットワーク、インターネットビジネス、クラウドコンピューティングについて学ぶ
9	情報とコミュニケーション	情報の分析とコミュニケーションの必要性について学ぶ
10	セキュリティ管理	セキュリティ管理、ファイルのバックアップについて学ぶ
11	企業の情報化と情報倫理	情報化社会における情報の扱い方と情報倫理について学ぶ
12	情報リテラシー	情報リテラシーとプレゼンテーション技術について学ぶ
13	次世代の経営情報学	経営情報学の今後について学ぶ
14	まとめ	全体像を総括し、ポイントを整理する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用しない。

経営情報学で取り扱う事例は最新のものが多いため、パワーポイントの資料にて講義を行う。

◇講義資料は電子データで配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の授業の資料を予めデータで配布しておくので事前に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎回授業の最後に課題を出すのでしっかり行っておくこと。

人的資源管理論 I	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Human Resource Management I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

働く人間というのは生産のための手段であると同時に感情を持つ存在でもあります。人間を「資源」として捉えると、モノ扱いしてしまうように聞こえてしまいます。やはり感情を持つ存在という点を無視してはいけません。感情を持つ資源という認識のもとでいかに管理するのか、この点について講義していきます。講義はレジュメに沿って進めていきます。また、DVDなどの映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人的資源管理の「目的・歴史・制度」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「人的資源管理の目的・歴史・制度」に関連する用語とその意味を答えられること。	25%
「終身雇用・年功序列・企業別労使」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「終身雇用・年功序列・企業別労使」に関連する用語とその意味を答えられること。	25%
「多様な働き方・ワークライフバランス」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「多様な働き方・ワークライフバランス」に関連する用語とその意味を答えられること。	25%
「バブル経済後の人的資源管理の状況」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「バブル経済後の人的資源管理の状況」に関連する用語とその意味を答えられること。	25%
評価の方法 期末試験55点、レポート・小テストなど30点、出席15点 ※レポート試験を1回行う予定。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法など
2	人的資源管理の目的	人的資源管理の役割と目的とは何か
3	人的資源管理の歴史①	人的資源管理はどのように生まれてきたか
4	人的資源管理の歴史②	人的資源管理はどのように発達してきたか
5	人的資源管理の制度	人的資源管理の制度
6	日本の人的資源管理①	日本の人的資源管理はどのように発展してきたか
7	日本の人的資源管理②	終身雇用慣行とは何か
8	日本の人的資源管理③	年功序列慣行とは何か
9	日本の人的資源管理④	企業別労使関係とは何か
10	多様な働き方	パート・アルバイト・限定正社員
11	多様な職業人生	ワークライフバランス
12	現代日本の人的資源管理	【レポート課題】
13	現代の人的資源管理①	バブル経済後の人的資源管理
14	現代の人的資源管理②	経営戦略と人的資源管理
15	試験	試験および解説

【使用教材】

◇教科書：岩出博著『新・これからの人事労務（改訂版）』泉文堂

※レジュメを配布します。

レジュメには教科書にない情報も追加していきます。

【履修条件等】

◇必ず「人的資源管理論Ⅱ」と併せて履修するように。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所を事前に目を通してくること。

◇配布資料に記載したキーワードを調べること。

【その他の注意事項】

◇基本的にレジュメの再配布はしませんので注意してください。

◇レポートの提出を求めます。詳細は初回授業時に連絡します。

<h2 style="margin: 0;">人的資源管理論 II</h2>	<small>タカハシ テツヤ</small> 高橋 哲也
Human Resource Management II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

働く人間というのは生産のための手段であると同時に感情を持つ存在でもあります。人間を「資源」として捉えると、モノ扱いしてしまうように聞こえてしまいます。やはり感情を持つ存在という点を無視してはいけません。感情を持つ資源という認識のもとでいかに管理するのか、この点について講義していきます。講義はレジュメに沿って進めていきます。また、DVDなどの映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「従業員の採用・雇用調整」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「従業員の採用・雇用調整」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「従業員の配置と育成」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「従業員の配置と育成」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「従業員能力の発揮と活用」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「従業員能力の発揮と活用」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「従業員の評価と処遇」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「従業員の評価と処遇」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
評価の方法 期末試験55点、レポート・小テストなど30点、出席15点 ※レポート試験を1回行う予定。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法など
2	人的資源管理の機能	経営における人的資源管理の機能
3	従業員の採用①	新卒採用の手続き
4	従業員の採用②	新卒者の早期離職と雇用のミスマッチ
5	雇用調整	従業員の離職・退職と雇用調整
6	従業員の配置と育成①	人事異動制度の内容
7	従業員の配置と育成②	教育訓練・能力開発
8	従業員能力の発揮と活用①	従業員業績の向上の公式とメカニズム
9	従業員能力の発揮と活用②	職場管理者のリーダーシップ
10	従業員能力の発揮と活用③	労働環境の快適化と新たな勤務形態
11	現代日本の人的資源管理	【レポート課題】
12	従業員の働きぶりの評価と処遇①	人事評価制度の手続き
13	従業員の働きぶりの評価と処遇②	処遇評価の成果主義化
14	従業員の働きぶりの評価と処遇③	今日の福利厚生
15	試験	試験および解説

【使用教材】

◇教科書：岩出博著『新・これからの人事労務（改訂版）』泉文堂

※レジュメを配布します。

レジュメでは教科書にない情報も追加していきます。

【履修条件等】

◇必ず「人的資源管理論Ⅰ」と併せて履修するように。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所を事前に目を通してくること。

◇配布資料に記載したキーワードを調べること。

【その他の注意事項】

◇基本的にはレジュメの再配布はしませんので注意してください。

◇レポートの提出を求めます。詳細は初回授業時に連絡します。

マーケティングプランニング I	ヤマカワ サトル 山川 悟
Marketing Planning I	基本科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

創造性の高い人材を求める企業が増えてきています。ただしこの創造性は特定の才能から生まれるわけではなく、技術や経験、環境などを通じて養成されていくべきものです。

本講義では、プランニングやクリエイティブ業務のベースとなる「考え方」のトレーニングを実践します。広告会社などで応用されている創造性開発技法を取り入れることで、発想力や構想力、表現力の向上を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
発想法メソッドについて理解・実践できるようなる	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験(レポート)により評価。 「講義で採り上げた手法を個人で実践し、課題に対応した独自アイデアを創出できるか」を評価ポイントとする。	50%
グループワークを通じて、アイデアの創出ができるようになる	講義中のワークショップおよびアウトプットにより評価。 「講義中のグループワークに積極的に参加し、課題に対応した独自アイデアを提案できるか」を評価ポイントとする。	50%
<p>評価の方法</p> <p>評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、授業中アウトプットおよび受講姿勢50%、試験50%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	創造性開発技法とその意義	創造性開発技法とその意義
2	刺激語法	意外な言葉の組み合わせによる発想法
3	属性列挙法	対象商品の属性を分解して考える発想法
4	焦点法	ヒット要因を分析し、他の分野に応用する発想法
5	逆設定法、リフレーミング	「あべこべ」「反対視点」から考える発想法
6	一対関連法	異質な情報を強制的に組み合わせる発想法
7	中間試験	1～6回までの学習達成度確認のための試験
8	ブレインストーミング	自由なディスカッションによるアイデア抽出法
9	ブレインライティング法	書き込み型のブレインストーミング発想法
10	物語発想法	映画や漫画の主人公に向けたアイデア提案手法
11	遊笑美化法	企業活動を笑い・遊び・アートにする方法
12	アイデアボックス法	複数のパラメータの組み合わせによる発想法
13	入社試験対策	変化球E S 対策に創造開発技法を生かす
14	プレゼンテーション力	プレゼンテーションに関する理論と実践
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

- ◇教科書：教科書は使用せず、適時資料をプリントして配布。
- ◇参考書：山川悟著『企画のつくり方入門』かんき出版

【履修条件等】

- ◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を受講していること、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていることが望ましい。
- ◇新製品や広告、メディア、店舗、デザインなどに興味があり、将来、マーケティングに関わる仕事に就きたいという希望を持っていること。
- ◇PowerPoint で、ある程度のドキュメント作成ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくに留学生は、日本の企業名や商品名についての知識を深めておくこと。
- ◇新聞を読むことや、テレビCMなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

- ◇リラックスした雰囲気では進めるが、内容はマーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。
- ◇講義中にグループ討議や前回テーマの確認等を行う予定なので、能動的な態度、連続的な受講が条件となる。
- ◇遅刻者はグループワークへの参加が難しいため、出席を認めないことがある。

マーケティングプランニングⅡ	ヤマカワ サトル 山川 悟
Marketing Planning II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングの実務は、知識以上に技術やセンスが問われます。本講義は座学にとどまることなく、現状分析から企画立案、プレゼンテーションまで含めたトレーニングによって、マーケティング実務技能の養成を目的とします。グループワーク、課題提出など、講義の連続性を重視したプログラムとし、最終的には自ら発案したプランを企画書にまとめることを目標とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングプランニングのメソッドについて理解・実践できるようになる	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験（レポート）により評価。 「講義で採り上げた手法を個人で実践し、課題に対応した独自アイデアを創出できるか」を評価ポイントとする。	25%
グループワークを通じて、アイデアの創出ができるようになる	講義中のワークショップおよびアウトプットにより評価。 「講義中のグループワークに積極的に参加し、課題に対応した独自アイデアを提案できるか」を評価ポイントとする。	25%
初歩的なマーケティング企画書が書けるようになる	本試験（レポート）により評価。 「講義で採り上げたメソッドを活用し、課題に対応した魅力的なマーケティング企画書を作成できるか」を評価ポイントとする。	50%
<p>評価の方法</p> <p>評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、授業中アウトプットおよび受講姿勢50%、試験50%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マーケティングの考え方	100年前と今日のマーケティング観の違い
2	マーケティングの仕事とは	商品開発、販売促進、広告宣伝、ブランディング等
3	製造業のマーケティング	製品開発を軸に4P、プロダクトポートフォリオ等
4	流通業のマーケティング	立地、陳列、品揃え、プライベートブランド等
5	サービス業のマーケティング	無形性、変動性、複合性、継続性
6	ターゲット設定の考え方	ターゲットセグメンテーションの事例研究と実践
7	調査設計と分析手法	調査の種類と目的、仮説設定、分析
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	消費者インサイトの探索	消費者の無意識や本音を発見する手法
10	コンセプトワークの手法	ニーズ×シーズクロス表によるコンセプト開発
11	販売促進計画	消費者向けプロモーションミックスの立案
12	広告計画	広告メディアへの理解と新メディアの考案
13	広報計画	広報、広聴、社会文化活動、社内広報、SNS活用
14	企画書とプレゼンテーション	企画書の構造理解、表現と伝え方の技法
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

- ◇教科書：教科書は使用せず、適時資料をプリントして配布。
- ◇参考書：山川悟著『企画のつくり方入門』かんき出版

【履修条件等】

- ◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を受講していること、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていることが望ましい。また「マーケティングプランニングⅠ」との連続受講が望ましい。
- ◇新製品や広告、メディア、店舗、デザインなどに興味があり、将来、マーケティングに関わる仕事に就きたいという希望を持っていること。
- ◇PowerPointで、ある程度のドキュメント作成ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくに留学生は、日本の企業・商品名、日本文化についての知識を深めておくこと。
- ◇新聞を読むことや、テレビCMなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

- ◇リラックスした雰囲気では進めるが、内容はマーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。
- ◇講義中にグループ討議や前回テーマの確認等を行う予定なので、能動的な態度、連続的な受講が条件となる。
- ◇遅刻者はグループワークへの参加が難しいため、出席を認めないことがある。

広告論 I	アライ マコト 荒井 誠
Principle of Advertising I	基本科目 / 半期 / 2 単位

【授業概要】

広告によって人々の意識がいかに変容するかというメカニズムから、広告メディアの変遷や、企業のブランド戦略における広告の役割などを、実際の広告やプロモーションの分析を通し学びます。

皆さんが実際に広告を創作する機会が3回あります。広告コピーの書き方やデザインングとともに、広告の楽しさや難しさを体験することができます。ここで培われるコミュニケーション力は、社会人となる皆さんにきっと役に立ちます。

長年広告ビジネスに携わっている広告マンならではの話も飛び出す授業です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告によって、人々の購買への意識がいかに変容するかを理解する	実際の広告を事例として分析し、この意識変容のメカニズムにあてはめることで確認する。	20%
多様なメディアの特徴を活かした広告展開を理解する	各メディアの実際の広告を事例として比較・分析することで、メディアごとの広告の特徴を確認する。	20%
広告づくりを通し、自らの意思をいかにして表現するか、コミュニケーション力を培う	実際の広告創作の機会を3回設け、自ら考え、手を動かすことで、表現の組み立てる上での知見・工夫を会得したことを確認する。	30%
広告制作で重要な世の中の流行に対し、日ごろから着目する意識を培う	毎回、授業で取り上げる広告・プロモーション事例や、タイムリーな世の中の動きを、どのように受け止めたか、各自よりコメントを提出してもらうことで確認する。	30%
評価の方法 毎回授業後に提出する授業のポイントへのコメントと、3回実施する広告創作への取組姿勢、最終回の学習達成度の確認テストを総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	広告論アウトライン	広告論の授業内容と広告創作のオリエンテーション
2	広告表現	広告表現における3つの力
3	広告による意識変容	「購買への意識変容メカニズム」における広告の役割
4	ブランディング①	企業にとってのブランド戦略
5	広告創作①	受講生の広告創作へのフィードバック
6	ブランディング②	企業と顧客のブランドプロミス
7	ネーミング	商品・サービスや企業のネーミングの力
8	広告と音楽	広告におけるサウンド・音楽の力
9	メディア①	広告メディアの変遷と進化
10	広告創作②	受講生の広告創作へのフィードバック
11	メディア②	テレビ局や新聞社の挑戦
12	広報・PR	広報・PRの特徴と企業コミュニケーション
13	インターネット広告	SNS時代の広告・プロモーション
14	広告創作③	受講生の広告創作へのフィードバック
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇とくにありません。

【履修条件等】

◇自分の考えをどのように表現したらいいか、広告に限らず、日ごろの生活の中でどのようにコミュニケーションしたらいいか、に関心のある学生にとって、役に立つ授業となります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇皆さんの周りには多種多様な広告が溢れています。普段意識することは少ないと思いますが、自分の好きな広告、嫌いな広告に対し、何故好きなのか、どこが気に入らないのか、を考えるようにしてください。

【その他の注意事項】

◇とくにありません。

広告論 I	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principle of Advertising I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

広告の基礎知識から広告管理の考え方までを理解する。現代社会において、広告はなくてはならない存在となっている。広告を行う広告主の立場だけでなく、広告ビジネスに関わる媒体社や広告会社の存在、広告の受け手である消費者の立場など、幅広い視点から広告を学ぶ。テキストだけでなく、実際の広告物やケースも用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告関連の専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告の定義、広告の種類、広告に関わる組織に関する用語を答えられること。	25%
広告と社会がどのように結びついているかを理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告主、広告会社、メディア、消費者が、どのように広告に関わっているかを答えられること。	25%
マーケティング活動と広告活動の関係から理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。マーケティングにおける広告の位置づけ、広告主の展開する広告活動がどのようなプロセスを経ているのかを答えられること。	25%
広告効果測定の方法と方法を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告効果の捉え方と測定方法について答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業目的、授業の進め方、評価基準についての説明を行う
2	最近の広告事情	広告に関連する最新のトピックを取り上げ説明する。
3	広告の定義と種類(1)	広告の定義と種類について説明する
4	広告の定義と種類(2)	同上
5	マーケティング活動と活動広告	マーケティングにおける広告の位置づけについて説明する
6	広告に関わる組織(1)	広告会社の機能と存在意義、種類について説明する
7	広告に関わる組織(2)	媒体社の機能と存在意義、種類について説明する
8	事例研究(1)	優れた広告活動の事例を取り上げて説明する
9	広告計画(1)	広告計画における概要と基礎を説明する
10	広告計画(2)	ターゲティング、予算計画、目標設定について説明する
11	広告計画(3)	媒体計画と表現計画について説明する
12	広告効果測定(1)	広告効果測定の枠組みを説明する
13	広告効果測定(2)	広告効果測定の具体的な方法について説明する
14	事例研究(2)	広告に関連するビジネスの具体例を説明する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『新しい広告』電通

※購入の必要はありません。

【履修条件等】

◇講義内容には、マーケティングの知識が含まれているので、マーケティングや消費者行動に関連した講義を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の担当箇所に通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

広告論Ⅱ	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principle of Advertising II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

広告活動の具体的な側面に焦点を当てて学ぶ。具体的には、メディアプランニング、アカウントプランニング、グローバルコミュニティにおける広告活動、広告と規制などを取り上げる。テキストだけでなく、実際の広告物やケースも用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
メディアプランニングの専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。メディアプランニングのプロセスとメディアごとの用語を答えられること。	25%
アカウントプランニングの背景と用語を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。アカウントプランニングの背景と意義、専門用語を答えられること。	25%
グローバル広告の背景を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。グローバルなマーケティングや広告活動の発達過程や専門用語を答えられること。	25%
広告の法規や規制の背景と専門用語を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告規制の背景と専門用語について答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業目的、授業の進め方、評価基準についての説明を行う
2	メディアプランニング(1)	マスメディアを中心としたメディアプランニングについて説明する
3	メディアプランニング(2)	OOHやスポンサーシップについて説明する
4	事例研究(1)	インターネットと広告との関係について学習する
5	アカウントプランニング	アカウントプランニングの背景とプロセスを説明する
6	日本の広告表現	日本における広告表現について説明する
7	グローバルコミュニティと広告	グローバルな広告主の広告活動について説明する
8	海外の広告表現	海外における広告表現について説明する
9	広告規制(1)	広告規制の概要と意義について説明する
10	広告規制(2)	広告に関する法規制について説明する
11	広告規制(3)	広告に関する自主規制と景品表示について説明する
12	比較広告	比較広告について説明する
13	プロフェッショナルサービスと広告	プロフェッショナルサービスにおける広告について説明する
14	医薬品と広告	医薬品における広告について説明する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『新しい広告』電通

※購入の必要はありません。

【履修条件等】

◇講義内容には、マーケティングの知識が含まれているので、マーケティングや消費者行動に関連した講義を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の担当箇所に通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

ブランドマーケティング論	ヤマカワ サトル 山川 悟
Brand Marketing	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

現代企業における大きなマーケティング課題のひとつである「ブランド戦略」の問題を扱います。ブランドとはロゴマーク等の表示体系に限らず、企業理念やビジョンとも深く関わりのあるテーマです。また、企業や商品だけでなく、地域や国家、学校、個人もブランドが求められる時代といわれています。前半はブランド戦略のフレームワークと諸要素（ブランドマネジメント）について、後半は具体的な事例からブランド構築（ブランディング）の方法論について検討していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
今日におけるブランドの役割や機能について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げた理論やケースを理解したうえで、自分なりの言葉で記述できるか」を評価ポイントとする。	30%
ブランド管理の考え方や手法について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたブランド管理の方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	30%
ブランディング戦略の考え方や手法について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたブランディングの方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	40%
評価の方法		
評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、試験80%・小テストおよび受講姿勢20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ブランドとは何か？	授業内容の説明、ブランドの定義と歴史
2	ブランドマネジメントについて	ブランド管理の基本的な考え方とその手法
3	ブランディングについて	ブランド力を強化する戦略についての方法論
4	ネーミングと商標	ネーミングによる差別化戦略の実例研究
5	ロゴタイプとシンボルマーク	シンボルマークによる差別化戦略の実例研究
6	ブランドステートメント	企業理念とブランドスローガン
7	ブランドとデザイン	C I、商品やパッケージデザインとブランド
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	インターナルブランディング	社内活性化に向けたブランディング活動
10	地域ブランディング	地域活性化とブランディング
11	応援されるブランド①	崇拜型・愛着型・同志型・共歓型・賛助型
12	応援されるブランド②	ブランドコミュニティ、価値競争、C S V
13	音楽活用のブランディング	店頭音楽、サウンドロゴ、MPV、社歌など
14	五感ブランディング	聴覚、嗅覚、味覚、触覚で伝えるブランド戦略
15	まとめ	総括と本試験

【使用教材】

◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

◇参考書：山川悟、他著『応援される経営』光文社刊

【履修条件等】

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を受講していること、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていることが望ましい。

◇新製品や広告、メディア、店舗、デザインなどに興味があること。

◇講義中に議論や質問、ミニ試験を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくに留学生は、日本の企業・商品名、日本文化についての知識を深めておくこと。

◇新聞を読むことや、テレビCMなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

◇マーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

入門簿記 I	キタイ フジオ 北井 不二男
Elementary Bookkeeping I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味、伝票の集計手続きを理解していること。	10%
評価の方法	小テストあるいは課題20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数分の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素(資産・負債・純資産)
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素(収益・費用)、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
8	決算(2)	6桁精算表の作成
9	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
10	簿記一巡の確認	演習
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票、伝票の集計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。
- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為(私語等)は厳に禁止する。携帯電話の使用(メール・ウェブの閲覧も含む)も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓(12桁以上)を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

<h1 style="margin: 0;">入門簿記 I</h1>	ドイ ミツル 土井 充
Elementary Bookkeeping I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味、伝票の集計手続きを理解していること。	10%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として試験70%、レポートないし小テスト30%で評価する。 レポートないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、1～2回程度課す。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素(資産・負債・純資産)
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素(収益・費用)、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
8	決算(2)	6桁精算表の作成
9	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
10	簿記一巡の確認	演習
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票、伝票の集計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。
- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為(私語等)は厳に禁止する。携帯電話の使用(メール・ウェブの閲覧も含む)も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓(12桁以上)を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

<h2 style="margin: 0;">入門簿記 I</h2>	<small>フクヤマ トモキ</small> 福山 倫基
Elementary Bookkeeping I	基本科目 / 半期 / 2 単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、今日では必須のビジネススキルの1つとなっている。本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、財務諸表作成までの簿記一巡の手続きの理解から出発し、その後は基本的な商取引に関する会計処理を一通り習熟する事を最たる目的としている。さらに、仕訳を行う過程には、社会人基礎力に求められる批判的思考を育成する手続きが含まれている。仕訳の手続きを、グループワークなどを通して、グループメンバーと協力しながら解を導出する訓練を行う。単に、簿記に関する知識や技能を習得するだけでなく、今後の大学における学習を行う上での必要な学習方法や問題解決能力を育てて頂ければ幸いである。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、帳簿を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、商品有高帳などの帳簿に関する手続きを理解していること。	10%
評価の方法	中間テスト30%、本試験70%にて絶対評価を行う。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数 ³ の2分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素(資産・負債・純資産)
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素(収益・費用)、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	中間テスト	今までの講義内容の確認
8	商品売買取引(1)	仕入・売上、返品取引、掛取引
9	商品売買取引(2)	前払・前受取引、諸係に関する取引
10	商品売買取引(3)	売上原価と商品有高帳
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	試算表(1)	試算表の意義、試算表の種類、作成手続き
14	試算表(2)	合計残高試算表の作成演習
15	本試験および解説	

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。
- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた課題演習はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為(私語等)は厳に禁止する。携帯電話の使用(メール・ウェブの閲覧も含む)も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓(12桁以上)を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

<h1 style="margin: 0;">入門簿記 I</h1>	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Elementary Bookkeeping I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得することを目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味を理解していること。	10%
評価の方法	中間試験30%、本試験70%、および授業への貢献度を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法等についての説明
2	簿記の基礎概念(1)	簿記の意義と目的、簿記の前提、貸借対照表の意味と構造、損益計算書の意味と構造
3	簿記の基礎概念(2)	貸借対照表および損益計算書の作成、財産法と損益法
4	取引と仕訳	簿記一巡の手続き、会計の取引、勘定科目と勘定口座、取引の8要素
5	仕訳と転記(1)	要素分解と仕訳、勘定口座と転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	中間試験および解説	
8	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
9	決算(2)	精算表の種類、6桁精算表の作成
10	決算(3)	帳簿の締切り、決算振替仕訳、繰越試算表
11	現金および現金過不足	現金の範囲、現金過不足勘定と過不足の処理
12	銀行預金等	預金の種類、当座借越とその処理
13	商品売買	分記法と三分法、掛取引、人名勘定
14	総復習	問題演習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：『レクチャー初級簿記』中央経済社
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。
- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【そのたの注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記 I	ムラカミ ショウイチ 村上 翔一
Elementary Bookkeeping I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味、伝票の集計手続きを理解していること。	10%
評価の方法	中間テスト30%、本試験70%で判断。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素(資産・負債・純資産)
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素(収益・費用)、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
8	決算(2)	6桁精算表の作成
9	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
10	簿記一巡の確認	中間テスト
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票、伝票の集計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：使用しない。毎授業、資料を配布する。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為(私語等)は厳に禁止する。携帯電話の使用(メール・ウェブの閲覧も含む)も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓(12桁以上)を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記Ⅱ	キタイ フジオ 北井 不二男
Elementary Bookkeeping II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、一般にビジネスの言語であるといわれています。本講義は、将来、経済社会で活躍する諸君たちにとって必要不可欠な基礎知識であるビジネス言語としての複式簿記の処理手続きの基礎を、体系的知識として習得することを目的とします。

本講義では、複式・商業簿記の基礎となる個人企業の会計処理を中心とした複式簿記一巡の処理を習得します。なお、講義は毎時間、1. 教科書により複式簿記の処理手続を観察したうえで、2. その確認・理解のために記帳練習を行う、という順序で進めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として出席10%、試験70%、課題ないし小テスト20%で評価する。 課題ないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、授業中に1～2回程度課す。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳	約束手形の記帳
8	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
9	有価証券	有価証券の取得・売却の記帳
10	収益・費用の繰延	収益・費用の繰り延べ処理
11	収益・費用の見越	収益・費用の見越し処理
12	資本金・引出金・税金	引出金ならびに個人企業の税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。
- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと

【その他の注意事項】

- ◇電卓が必要です（12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可）。

<h2 style="margin: 0;">入門簿記Ⅱ</h2>	ドイ ミツル 土井 充
Elementary Bookkeeping II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、一般にビジネスの言語であるといわれています。本講義は、将来、経済社会で活躍する諸君たちにとって必要不可欠な基礎知識であるビジネス言語としての複式簿記の処理手続きの基礎を、体系的知識として習得することを目的とします。

本講義では、複式・商業簿記の基礎となる個人企業の会計処理を中心とした複式簿記一巡の処理を習得します。なお、講義は毎時間、1. 教科書により複式簿記の処理手続を観察したうえで、2. その確認・理解のために記帳練習を行う、という順序で進めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として試験70%、レポートないし小テスト30%で評価する。 課題ないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、1～2回程度課す。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳	約束手形の記帳
8	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
9	有価証券	有価証券の取得・売却の記帳
10	収益・費用の繰延	収益・費用の繰り延べ処理
11	収益・費用の見越	収益・費用の見越し処理
12	資本金・引出金・税金	引出金ならびに個人企業の税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。
- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと

【その他の注意事項】

- ◇電卓が必要です（12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可）。

入門簿記Ⅱ	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Elementary Bookkeeping II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、今日では必須のビジネススキルの1つとなっている。本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、財務諸表作成までの簿記一巡の手続きの理解から出発し、その後は基本的な商取引に関する会計処理を一通り習熟する事を最たる目的としている。さらに、仕訳を行う過程には、社会人基礎力に求められる批判的思考を育成する手続きが含まれている。仕訳の手続きを、グループワークなどを通して、グループメンバーと協力しながら解を導出する訓練を行う。単に、簿記に関する知識や技能を習得するだけでなく、今後の大学における学習を行う上での必要な学習方法や問題解決能力を育てて頂ければ幸いである。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
検定範囲改定に伴う追加された取引に関する理解	設問に対する回答によって評価。 電子記録債権債務などに関する取引を適切に仕訳出来ること。	25%
<p>評価の方法 中間テスト30%、本試験70%にて絶対評価を行う。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買取引の復習	前期学習した商品売買取引の復習
3	債権債務(1)	手形取引・掛取引
4	債権債務(2)	金銭貸借取引・利息の計算
5	債権債務(3)	未収金・未払金・仮払金・仮受金・立替金・預り金
6	固定資産	固定資産の購入から除却・売却まで
7	追加論点	差入保証金、電子記録債権債務、クレジット売掛金
8	中間テスト前の振り返り	中間テストまでの各論を復習
9	中間テスト	
10	資本・税金	資本金、引当金、税金取引
11	決算(1)	決算手続きの一連の流れ、決算整理仕訳1
12	決算(2)	決算整理仕訳2
13	決算(3)	精算表の作成、振替処理
14	前期・後期総まとめ	前後期の振り返り
15	復習	講義内容の復習課題ならびにその解説

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。
- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇電卓が必要です(12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可)。

入門簿記Ⅱ	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Elementary Bookkeeping II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は原則として、「入門簿記Ⅰ」を履修済みの者、あるいは高等学校在学時に既に簿記の学習を経験済みの者を対象としており、ほぼ日商簿記検定3級の範囲の商業簿記を取り扱う。具体的には商品売買、売掛金と買掛金、手形、有価証券、その他の債権・債務、固定資産、資本（純資産）などの個別論点と、収益・費用の見越・繰延を含む期末の決算整理手続、および8桁精算表の作成と財務諸表の作成である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。	20%
日々の取引を仕訳できるようにする	設問に対する回答によって評価。個別論点について取引の内容を仕訳で示すことができること。	50%
決算整理事項を理解し、財務諸表を作成できるようにする	設問に対する回答によって評価。決算整理事項の内容を理解し、費用および収益の見越しや繰延べを含んだ決算整理手続ができ、8桁精算表および財務諸表を作成できること。	30%
<p>評価の方法 中間試験30%、本試験70%、授業への貢献度を総合的に判断。</p> <p>「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法などの説明、「入門簿記Ⅰ」の復習
2	各種補助簿	売掛金元帳・買掛金元帳、得意先元帳・仕入先元帳、商品有高帳、小口現金出納帳
3	手形	約束手形とは、処理、割引、裏書譲渡、手形による借入／貸付
4	有価証券	有価証券とは、株式の取得と売却、公社債の取得と売却
5	有形固定資産	有形固定資産の意義、取得と売却、減価償却
6	その他債権・債務(1)	債権・債務とは、借入金と貸付金、未収入金と未払金、仮払金と仮受金
7	その他債権・債務(2)	前払金と前受金、立替金と預り金、演習
8	中間試験および解説	
9	伝票会計	三伝票制、企業の仕方、仕訳日計表
10	決算(1)	試算表の作成、売掛金明細表、買掛金明細表
11	決算(2)	決算整理(売上原価の算定、貸倒引当金)
12	決算(3)	決算整理(収益と費用の見越し・繰延べ)
13	決算(4)	決算整理(資本金と引出金)、精算表の作成
14	決算(5)	財務諸表の作成と総復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：『レクチャー初級簿記』中央経済社
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇「入門簿記Ⅰ」をすでに履修済みか同程度の知識を有することを履修の条件とする。
- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけないため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇予習は特に要求しないが、復習をしっかりと、自習課題をこなすこと。自らが実際に手を動かさないことには始まらないので、とにかく習ったことはすぐに復習し、確実に身につけるよう努力してほしい。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為(私語等)は厳に禁止する。携帯電話の使用(メール・ウェブの閲覧も含む)も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓(12桁以上)を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記Ⅱ	ムラカミ ショウイチ 村上 翔一
Elementary Bookkeeping II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、一般にビジネスの言語であるといわれています。本講義は、将来、経済社会で活躍する諸君たちにとって必要不可欠な基礎知識であるビジネス言語としての複式簿記の処理手続きの基礎を、体系的知識として習得することを目的とします。

本講義では、複式・商業簿記の基礎となる個人企業の会計処理を中心とした複式簿記一巡の処理を習得します。なお、講義は毎時間、1. 教科書により複式簿記の処理手続を観察したうえで、2. その確認・理解のために記帳練習を行う、という順序で進めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として試験70%、課題ないし小テスト30%で評価する。 課題ないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、授業中に1～2回程度課す。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳	約束手形の記帳
8	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
9	有価証券	有価証券の取得・売却の記帳
10	収益・費用の繰延	収益・費用の繰り延べ処理
11	収益・費用の見越	収益・費用の見越し処理
12	資本金・引出金・税金	引出金ならびに個人企業の税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：使用しない。毎授業、資料を配布する。

【履修条件等】

◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと

【その他の注意事項】

◇電卓が必要です（12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可）。

財務会計 I	コモリ ヒデト 小森 秀人
Financial Accounting I	基本科目 / 半期 / 2 単位

【授業概要】

企業会計には、企業外部の株主、金融機関、取引相手、社会等の利害関係者に報告するための財務会計と、企業内部の経営者・管理者に報告するための管理会計がある。外部に報告する以上、企業によって異なる勝手な基準で作った数字を勝手な表示で報告されては、外部はこまる。業界内での他社との公正な比較や理解と評価ができないからである。故に財務会計には明確なルールがありそれによって作成・情報開示・報告するわけである。

財務会計の報告数字は、企業の戦略と活動の結果である。故に、この数字を通して自社やG会社、顧客企業・潜在顧客企業、投資先企業等とその活動を把握し理解することも、分析することもできる。故に現代では、ビジネスマンの基礎インフラといわれる。学生の皆さんは、これを学ぶことによって、卒業後の社会人としての基礎的力を身につけることになる。講義は、世界の代表的金融機関と日本の事業会社財務部門での双方（企業内外からの視点）の実務経験をふまえ、わかりやすく楽しく、事例を交えながら実践的に理解を深めるべく務めたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営と財務会計の関係、財務諸表の意味・体系とルール・法制度の理解	設問に対する回答で評価	20%
企業活動と B/S の関係、B/S の構成と主たる科目、資産と負債の本質理解	設問に対する回答で評価	30%
企業活動と P/L の関係、段階利益の意味、収益費用の認識測定の基本の理解	設問に対する回答で評価	30%
P/L と B/S の関係、外貨換算・リースの基本、会計方針株主総会・定款の意味理解	設問に対する回答で評価	20%
評価の方法 確認テスト20%、平常点10% 試験70% 単位評価は3分の2以上の出席が前提（病気入院等の正式な欠席届—証明付きおよび4年生の就職面接での正式な届けがあれば配慮する）。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	概要、会計とは何か	講義の概要、会計の種類、企業活動（経営）と財務会計
2	財務諸表とは何か	財務諸表の体系、3種類の財務諸表、法制度、
3	会計原則と会計基準	企業活動と情報開示・報告のルール、(各国基準の例)
4	B/S とは何か 資産 1	企業活動と B/S B/S 全体構造、資産の本質、流動資産事例
5	資産 2	固定資産、繰り延べ資産、事例 貸倒引当金と減価償却
6	資産 3、負債とは何か	資産の評価方法、負債の本質、流動負債と固定負債
7	純資産とは何か	出資と利益留保の各表示科目、評価換算差額等 包括利益
8	P/L とは何か	企業活動と P/L、段階利益と意味 費用の見方 事例
9	P/L II	製造原価と売上原価、製造原価明細書、収益費用の認識測定
10	B/S と P/L の関係	収益費用の認識測定、企業活動と決算、B/S と P/L の関連
11	外貨換算会計	外貨の換算会計
12	リース取引の会計	ファイナンスリースとオペレーティングリース
13	会計方針等	資産理論評価、会計方針の種類、注記事項、時価会計経過
14	株主総会と財務会計	計算書類の体系、総会の通知、定款の重要性、決算公告
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※（予定は以上であるが、受講生の状況によっては、取捨選択、基本知識導入、前後調整等あることを了解されたい）

【使用教材】

◇テキストや参考書は開講時に紹介予定。
クラスでは必要に応じて各種資料を配布する。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」を履修した学生、または「入門簿記Ⅰ」と「会計学概論」（または「経営学概論」）を履修した学生を対象とする。
◇本講義は、「財務会計Ⅰ」と「財務会計Ⅱ」を連続して履修することを条件。
将来社会人（就職、起業含め）として、グローバルな社会で生き延びる力の1つの基礎知識インフラを身につけたい学生、さらに将来資格（証券アナリスト、税理士、公認会計士）をとることに興味や関心がある学生一従って出席を重視する。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記」や「会計学概論」、「経営学概論」の復習。
経営や会計、さらにその事業環境としての日本とアジア、世界の経済・金融と産業の動向に興味を持って、新聞や専門誌等を読む癖を身につけてください。

【その他の注意事項】

◇私語、携帯電話の使用（メール、ウェブ閲覧含む）は厳禁。
注意しても聞かない悪質な場合は退場の処置をとることを留意されたい（退場が重なると大変残念ではあるが単位は付与されないことになるので注意されたい）。

財務会計Ⅱ	コモリ ヒデト 小森 秀人
Financial Accounting II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

財務会計は、企業外部に報告するための会計である。外部に報告する以上、企業によって異なる勝手な基準で作った数字を勝手な表示で報告されては、外部はこまる。故に財務会計には明確なルールがありそれにとって作成・情報開示・報告するわけである。

財務会計の報告数字は、企業の戦略と活動の結果である。故に、この数字を通して自社やG会社、顧客企業・潜在顧客企業、投資先企業等とその活動を把握し理解することも、分析することもできる。故に現代では、ビジネスマンの基礎インフラといわれる。「財務会計Ⅱ」では、「財務会計Ⅰ」の内容を踏まえ、連結と資産負債等の各論の会計処理、ROE等財務分析に焦点が当たる。合わせて国際会計基準にも言及している。学生の皆さんは、これを学ぶことによって、卒業後に、グローバル化し行く現代と未来において、必要な社会人としての基礎的力を身につけることになる。講義は、世界の代表的金融機関と日本の事業会社財務部門での双方（企業内外からの視点）の実務経験をふまえ、わかりやすく楽しく、事例を交えながら実践的に理解を深めるべく務めたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
個別と連結の違い、連結財務諸表の体系、連結CF表の見方を理解する	設問に対する回答によって評価	30%
資産会計、負債会計、純資産会計のの基本の理解	設問に対する回答によって評価	30%
総合指標 ROE と ROA と各指標の理解 分解方法と関連の理解	設問に対する回答によって評価	30%
国際会計基準とは何か、それと日本基準の大きな違いの理解	設問に対する回答によって評価	10%
評価の方法	確認テスト20点、平常点10点、試験70% 単位評価は3分の2以上の出席が前提（病気入院等の正式な欠席届—証明付きおよび4年生の就職面接での正式な届けがあれば配慮する）。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概要、連結とは何か	講義の概要、連結と個別の違い、子会社、関連会社等
2	連結財務諸表とは何か	被支配株主、連結 G 資本戦略、日米財務諸表の体系等
3	連結財務諸表Ⅱ	連結決算への流れ、連結 CF 計算書解説、見方と分析 事例
4	企業会計原則	会計基準 1
5	企業会計原則	会計基準 2
6	資産会計各論Ⅰ	金融商品、金融資産、金銭債権 有価証券
7	資産会計各論Ⅱ	棚卸資産、有形固定資産、減価償却、無形固定資産
8	資産会計各論Ⅲ	固定資産の減損会計
9	負債会計各論	金銭債務、引当金、退職給付の会計
10	純資産会計	株主資本、配当、自己株式、新株予約権、包括利益
11	財務分析Ⅰ	定量分析と定性分析、傾向分析と比率分析、総合指標 ROEROA
12	財務分析Ⅱ	収益性と効率性、生産性、安全性と財務格付け、セグメント分析
13	国際会計基準Ⅰ	世界の 2 大基準、その体制、財務諸表の体系、早期適用状況
14	国際会計基準Ⅱ	日本基準との違い、見方における大事な論点
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※（予定は以上であるが、受講生の状況によっては、取捨選択、基本知識導入、前後調整等あることを了解されたい）

【使用教材】

- ◇テキストや参考書は開講時に紹介予定。
クラスで必要に応じて各種資料を配布予定。

【履修条件等】

- ◇「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」を履修した学生、または「入門簿記Ⅰ」と「会計学概論」（または「経営学概論」）を履修した学生を対象とする。
- ◇本講義は、「財務会計Ⅰ」と「財務会計Ⅱ」を連続して履修することを条件。
将来社会人（就職、起業含め）として、グローバルな社会で生き延びる力の 1 つの基礎知識インフラを身につけたい学生、さらに将来資格（証券アナリスト、税理士、公認会計士）をとることに興味や関心がある学生一従って出席を重視する。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「財務会計Ⅰ」の復習（必要な場合、入門簿記・経営学概論も復習）。
経営や会計、更にはその事業環境としての日本とアジア、世界の経済・金融と産業の動向に興味を持って、新聞や専門誌等を読む癖を身につけてください。

【その他の注意事項】

- ◇私語、携帯電話の使用（メール、ウェブ閲覧含む）は厳禁。
注意しても聞かない悪質な場合は退場の処置をとることを留意されたい（退場が重なると大変残念ではあるが単位は付与されないことになるので注意されたい）。

管理会計 I	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Management Accounting I	基本科目 / 半期 / 2 単位

【授業概要】

管理会計とは、組織管理・経営企画等に不可欠な経営情報を提供する理論と技術であると言えます。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に数値情報を算出するだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるか、数値情報をどう経営管理に用いるかについて理解する必要があります。その中で春学期は、管理会計に用いる経営情報の作成方法および、計算手法が開発された背景に焦点を当て学習を行います。

講義は、解説→演習の流れで行い、講義ごとのテーマが講義中に理解できるよう進めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
総合原価計算と標準原価計算を理解する	設問に対する回答により評価します。 とくに、同じ計算手続きに用いるデータの違い・データの違いにより生じる差が、経営管理上でどのように活用されるか理解してください。	30%
直接原価計算と全部原価計算を理解する	設問に対する回答により評価します。 直接原価計算と全部原価計算の計算手続き上の特徴を理解することが重要です。	30%
CVP分析とその利活用に関して	設問に対する回答により評価します。 CVP分析が必要になる場面、得られた情報をどう解釈するかを理解することと、計算手続きの一連の流れを理解することが必要になります。	30%
経営シミュレーションゲームを通して管理会計上で使われる経営情報の有用性を確認する	講師が作成した経営シミュレーションゲームを受講者全員でプレイしてもらいます。そのゲームを通して生じるデータから管理会計上で生じる経営情報を作成し、その活用を実体験することで、管理会計が経営管理を行う上で必要であることを理解ください。	10%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、課題および小テスト点30%、期末試験60%で評価します。※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 課題および小テストは、テーマごとに行うので2～3回の実施を予定しております。 貢献点は、経営シミュレーションゲームを行った講義後および、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	本講義に関連する日商簿記検定試験に関する説明、本講義の進め方、評価方法などに関する説明
2	CVP分析(1)	損益分岐点売上高に関する説明と計算演習
3	CVP分析(2)	利益計画で行うCVP分析の実践
4	CVP分析(3)	CVP分析総まとめ
5	標準原価計算(1)	標準原価計算が開発された背景に関する説明と標準原価計算の基本的な計算手続きの実践
6	標準原価計算(2)	標準原価計算から得られる情報と実際原価計算から得られる情報を比べることにより算出される情報の活用
7	標準原価計算(3)	予算管理と業績管理に関する説明
8	標準原価計算(4)	標準原価計算総まとめ
9	直接原価計算(1)	直接原価計算が開発された背景に関する説明
10	直接原価計算(2)	直接原価計算による計算手続きの実践
11	意思決定会計(1)	短期的な経営意思決定を支援する情報作成
12	意思決定会計(2)	中・長期的な経営意思決定を支援する情報作成
13	講師が開発した講義の実践	経営シミュレーションゲームを用いた管理会計情報の必要性の認識
14	春学期講義内容まとめ	期末テスト前に春学期で学習した内容を総括して復習を行う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。
- ◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。
- ◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

- ◇「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」もしくは、日商簿記2級同等の知識を有することを前提とします。難易度の高い計算演習を行うため、その事を念頭に講義を受講してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇講義中だけでは問題演習をこなすことは出来ないため、必要に応じて講義終了後に課題を出します。必ず課題を行うようにしてください。

【その他の注意事項】

- ◇電卓は、PCや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。
- ◇講義内容は講義の進捗や受講生の理解度に応じて変更がある場合があります。
- ◇講義の妨げになる行為を行った場合、講師から指導が入ります。指導の回数次第で履修停止となる旨、ご了承ください。

管理会計Ⅱ	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Management Accounting II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

管理会計とは、組織管理・経営企画等に不可欠な経営情報を提供する理論と技術であると言えます。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に数値情報を算出するだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるか、数値情報をどう経営管理に用いるかについて理解する必要があります。秋学期は、管理会計に関する情報や手法をいかに使いマネジメントを行うか理論的に学習し、その後に興味のあるテーマを元にグループワークを行ってもらいます。このグループワークという作業を通して管理会計上のマネジメント手法の理解を深めるとともに、グループワークの難しさを理解し習得していただければ幸いです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
管理会計がなぜ必要なのかを理解する	管理会計情報でなぜ経営管理を行うことや業績管理を行うことなどが可能になるのかを理解しましょう。	30%
会計情報と業績管理の関連性を理解する	業績管理をするときに、どのような会計情報が求められるのか、会計情報をどの様に使うのかを理解しましょう。	20%
管理会計を行う上での組織の在り方との関係を理解する	企業の組織構成というものはさまざまな形があることは言うまでもないでしょう。さまざまな組織がある中で、管理会計手法に違いはあるのか、それとも共通性があるのか設例を通して学びましょう。	20%
グループワークを通して、管理会計の事例を研究しよう	管理会計の理論を講義で学んだあとに、興味のある管理会計手法に関してグループワークを行うことで理解を深めましょう。その中で、プレゼンの仕方・資料の作り方など指導します。	30%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、期末試験30%、グループワーク60%で評価します。※期末試験・グループワークに関しては講義中に補足説明します。 グループワークのグループ決めは講義第2回目に行います。必ず出席するようにしてください。 貢献点は、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の進め方、評価方法などに関して
2	管理会計総論	なぜ管理会計が必要なのか等を講義
3	管理会計の組織構造と管理者	管理会計上の組織構造やそれに伴う管理者の在り方に関して講義
4	予算管理	原価情報と予算管理に関して
5	原価計算の限界	原価計算を行って管理を行う上での限界に関して
6	事業管理会計	細分化された企業組織を管理する事に関して
7	プロフィットセンター	企業内の組織が利益計算を行う意義に関して
8	アメーバ経営	細分化された企業組織をマネジメントする手法の一つ
9	同じ経営戦略をとる企業の違い	低価格戦略をとる企業でも管理会計の視点から細かく分析すれば違いが見える。事例を通して講義
10	さまざまな管理会計情報作成	既存の管理会計情報の上に成り立つ情報作成手法を説明
11	J I T (ジャストインタイム)	J I Tに関して講義
12	J コスト論	J コストに関して講義
13	グループワーク発表(1)	グループで調べた内容のプレゼンおよび評価
14	グループワーク発表(2)	グループで調べた内容のプレゼンおよび評価
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。
- ◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

- ◇「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」もしくは、日商簿記2級同等の知識を有することを前提とします。また、グループワークを行いますので途中で履修を取りやめる方はご遠慮ください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇グループワークの内容が決まり次第、各グループで報告に向けてリサーチをすること。

【その他の注意事項】

- ◇電卓は、P Cや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。
- ◇講義内容は講義の進捗や受講生の理解度に応じて変更がある場合があります。
- ◇講義の妨げになる行為を行った場合、講師から指導が入ります。指導の回数次第で履修停止となる旨、ご了承ください。

<p>専門演習 I</p>	<p>ドイ ミツル 土井 充</p>
<p>Specialized Seminar I</p>	<p>基本科目／通年／4単位</p>

【授業概要】

このゼミでは、株主など企業に利害関係を持っている外部の人たちに情報を提供するための会計、すなわち財務会計を中心テーマとします。企業は、この財務会計を一定のルールに従って行っています。ゼミでは、この会計ルール（複式簿記、会計基準など）や、ルールに従い作成された情報を読み解くための知識（経営分析など）を習得するとともに、こうした知識を用いて、現代経済社会において財務会計がどのようなはたらきを持っているのかを探究していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計に関する基本的な知識を有していること	ゼミ活動やゼミレポートの内容によって評価。 簿記（2級程度）、会計理論（財務会計Ⅰ、「財務会計Ⅱ」程度）、および個別研究テーマに関する知識を有している。	40%
アカデミックリテラシーを修得していること	ゼミ活動によって評価。 「プロフェッショナルセミナー」で取得したリテラシーをもちいて、(a)情報を整理・分析することができる。(b)効果的な報告手法を選択し、報告する（自分の意見を相手に伝える）ことができる。(c)グループの意見を纏めることができる。	20%
レポートを作成することができること	レポートによって評価。 「プロフェッショナルセミナー」で学修したレポートの形式要件を満たしながら、(a)問題を自ら発見し、(b)「(a)」に対する答えを考察することができる。	20%
ゼミ活動の方針を理解していること	ゼミ活動によって評価。 (a)自主的・積極的な姿勢でゼミに出席している。(b)グループワークに貢献する。(c)理論が仮説であること理解し、「なぜ」「どうして」という問題意識をもって課題に取り組むことができる。	20%
評価の方法	発表や討論などへの参加度合や出席状況など、演習への取り組む姿勢や貢献度などから総合的に評価します。	

【授業計画】

<春学期>

春学期は、財務会計の基本原理に関することを全員で討議する形で進めていきます。具体的には、毎回、報告者が担当範囲についてレジュメを作成し、演習で発表します。この発表を基に、全員で討論を行い全体の理解を深めていきます。

<秋学期>

秋学期は、演習で協議し決定したいいくつかのテーマについて、討論を行い演習の意見を形成し、報告を行います。春学期同様、演習では、レジュメを作成し全員で討論を行い、アドバイスや報告の問題点を指摘し、テーマの理解を深めていきます。

【使用教材】

- ◇教科書：使用せず。
- ◇参考書：必要に応じて演習中に配付します。

【履修条件等】

- ◇常に積極的・継続的に参加する学生の履修を望みます。
- ◇「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」、「税務会計Ⅰ」、「税務会計Ⅱ」、「管理会計Ⅰ」、「管理会計Ⅱ」、「経営分析」を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇簿記（3級程度）、会計理論（「会計学概論」、「財務会計Ⅰ」、「財務会計Ⅱ」）の知識を確認すること。
- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇本ゼミの準備（予習・事前学習）のため、サブゼミを開くことがあります。
- ◇研究テーマによって「専門演習Ⅲ」と合同でゼミを行うことがあります。
- ◇ゼミ生全員で協議し、学外でのゼミ行事（ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門演習 I	ヒノ タカオ 日野 隆生
Specialized Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能の一つであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

「専門演習 I」では、まずテキストを輪読し、マーケティング論の歴史から現代社会におけるマーケティングとは何か、適宜、レポート作成と発表、質疑、ディスカッションにより理解を深めていく。そしてどのように活用するか、具体的事例とともに学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	小レポートによって評価する。 テキストの要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	30%
戦略としてのマーケティング論を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容の製品戦略、価格戦略、チャネル戦略、プロモーション戦略など、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	30%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	レポートおよび発表によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、発表内容によって評価する。	40%
評価の方法	演習態度（出席・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポート・発表などで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	プレゼンテーション
2	輪読	17	プレゼンテーション
3	プレゼンテーション	18	ゼミ発表大会の準備
4	輪読	19	ゼミ発表大会の準備
5	プレゼンテーション	20	ゼミ発表大会の準備
6	輪読	21	ゼミ発表大会の準備
7	プレゼンテーション	22	ゼミ発表大会の準備
8	輪読	23	ゼミ発表大会の準備
9	プレゼンテーション	24	ゼミ発表大会の準備
10	輪読	25	ケーススタディ
11	プレゼンテーション	26	ケーススタディ
12	輪読	27	ケーススタディ
13	プレゼンテーション	28	プレゼンテーション
14	プレゼンテーション	29	プレゼンテーション
15	まとめ（学んだことと反省）	30	まとめ（学んだことと各自テーマ発表）

【使用教材】

- ◇『マーケティング戦略論』学文社
- 『サービス・マーケティング ー理論と実践ー』五絃舎

【履修条件等】

- ◇遅刻・無断欠席などは禁止です。
- ◇「演習の時間」以外の時間でのワーク（レポート作成等）が必要です。
- ◇ディスカッションや発表に積極的に取り組んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇次の演習への下調べ、レポート作成、発表の準備等。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

専門演習 I	マツダ タカシ 松田 岳
Specialized Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：「投資を通じて社会的課題を解決する」

本専門演習は「経済・金融」をテーマに研究を行います。「世を経（おさ）め、民を済（すく）う」のが「経済（学）」の役割です。投資によって現代日本が抱える課題を解決することを目標に、研究を行います。学生諸君の意見を聞き、実際の研究テーマは選定する予定です。どのようなテーマであっても、投資（金融）の力を用いて社会的課題の解決を目指すのが本セミナーのミッションです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
真摯にかつ主体的に物事に取り組むことができる	研究・課題に真摯に取り組んでいるか否か、積極的に課題に取り組んでいるか否か、主体的に取り組んでいるか否かによって評価を行う。	60%
論理的思考力を身につけ、論理的な発言をしたり、文章を書けたりする	レポートやプレゼンテーション、ディスカッションでのパフォーマンスを見ることで、論理的に思考できるか否か、論理的な発言ができていないか否か、論理的な文章が書けるか否かの評価を行う。	40%
評価の方法 平常点100%（演習における振る舞い、取り組む姿勢を評価する）。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	目論見書の作成(1)
2	社会的課題(1)	17	目論見書の作成(2)
3	社会的課題(2)	18	目論見書の作成(3)
4	社会的課題(3)	19	目論見書の作成(4)
5	社会的課題(4)	20	プレゼンの準備(1)
6	社会的課題(5)	21	プレゼンの準備(2)
7	投資テーマの決定(1)	22	プレゼンの準備(3)
8	投資テーマの決定(2)	23	プレゼンの準備(4)
9	レポート提出(1)	24	プレゼンの準備(5)
10	スクリーニング(1)	25	目論見書の総仕上げ(1)
11	スクリーニング(2)	26	目論見書の総仕上げ(2)
12	スクリーニング(3)	27	目論見書の総仕上げ(3)
13	レポート提出(2)	28	目論見書の総仕上げ(4)
14	バーチャル投資(1)	29	目論見書の総仕上げ(5)
15	バーチャル投資(2)	30	目論見書の総仕上げ(6)

【使用教材】

- ◇教科書：ガイダンス時に指示する。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇10回以上欠席すると評価対象外になる。
- ◇事前修得が望ましい科目はない。
- ◇授業を妨害する行為（遅刻、欠席、私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。
- ◇3回以上注意を要するような行為をした学生には退席を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇毎回の講義、教科書などを通じて指示する。
- ◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

- ◇経済・社会の動向を勘案して授業計画は変更する場合がある。
- ◇発言や質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢を持っていることが望ましい。
- ◇質問は口頭、書面、メールで受け付けている。

専門演習 I	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Specialized Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：経営学

この専門演習では、「経営学」をテーマとして、それぞれの問題意識を深めることを目的とします。初年次に学習した経営学の基礎的な内容をふまえ、「事業とは何か」、「企業とは何か」、という経営学の基本課題について学び、現代の企業社会についての理解を深めます。

座学によるテキストの講読、レジュメの作成や討論に平行して、特定の共通テーマを設定し、自分たちで資料調査やフィールドリサーチなどを行い、グループ学習を実施します。最終的に、ひとつのプレゼン資料にまとめ、学内のゼミ報告大会にて研究報告します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1. 経営学の基礎的知識の習得	毎回の授業での討論、レジュメの作成、レポート作成によって評価をします。	20%
2. 個々の問題意識の醸成	同上。	20%
3. チームで働く力の養成	特定のテーマに基づいたグループ学習での、チームへの貢献度、ディスカッション能力等によって評価します。	30%
4. 創造的な思考力の養成	同上。	30%
評価の方法	ゼミナール活動全般を通じて、上記の4項目において、自己成長できたか、設定した目標に到達できたかを、評価の主な方針とします。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	オリエンテーション
2	課題の設定(1)	17	資料調査(1)
3	課題の設定(2)	18	資料調査(2)
4	資料調査(1)	19	資料調査(3)
5	資料調査(2)	20	報告資料の作成(1)
6	資料調査(3)	21	報告資料の作成(2)
7	レジュメ報告(1)	22	報告資料の作成(3)
8	レジュメ報告(2)	23	プレゼンテーション演習(1)
9	レジュメ報告(3)	24	プレゼンテーション演習(2)
10	レジュメ報告(4)	25	レポート作成(1)
11	レジュメ報告(5)	26	レポート作成(2)
12	レジュメ報告(6)	27	レポート作成(3)
13	フィールドリサーチ事前学習(1)	28	レポート作成(4)
14	フィールドリサーチ事前学習(2)	29	レポート作成(5)
15	前期ふりかえりおよびまとめ	30	秋学期ふりかえりおよびまとめ

【使用教材】

◇テキストは初回オリエンテーションにて指示します。

【履修条件等】

◇「企業論Ⅰ」、「企業論Ⅱ」、「経営管理論」等、経営学の専門科目を必ず履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指定されたテキストの予習を必須とします。主体的な参加が求められますので、予習を心がけてください。

【その他の注意事項】

◇自分の考えや興味関心を大事にしてください。楽しんで学べるように努力してください。

専門演習Ⅱ	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Specialized Seminar II	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：管理会計

「管理会計」は、経営管理に役立つデータ（＝企業内部における業績評価や意思決定に資する）を提供するための会計です。本演習においては、実際の経営活動に的を絞り、これら経営活動に惹起する諸問題に対し「管理会計」をどのように把握し、使いこなしていくかを、経営者の立場に立って主体的に考え、管理会計上必要な問題探求能力と問題解決能力を養うことまでを目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的前提に関する知識の修得の有無の確認	管理会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認	30%
管理会計に関する基礎的な理解の確認	管理会計に関する基礎的な知識について、毎回の基礎的な理解の程度 授業での質疑応答により、その修得の確認をする。	30%
管理会計に対する理解の深度の程度の確認	管理会計の意義、必要性、現状においての問題点の把握とその解決のための素養を修得しているか否かにつき、毎回のディスカッションと課題レポートにより確認する。	40%
<p>評価の方法 授業への参加度60%、課題レポート30%、試験10%により総合的に評価する。</p>		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	管理会計の基礎(1)オリエンテーション	16	管理会計の応用(4) ケーススタディ(3)
2	管理会計の基礎(2)会計の意義(1)財務会計&管理会計	17	管理会計の応用(5) ケーススタディ(4)
3	管理会計の基礎(3)会計の意義(2)財務会計&管理会計	18	管理会計の応用(6) ケーススタディ(5)
4	管理会計の基礎(4)会計の意義(3)財務会計&管理会計	19	管理会計の応用(7) ケーススタディ(6)
5	管理会計の基礎(5)管理会計の役割&機能(1)	20	管理会計の応用(8) ケーススタディ(7)
6	管理会計の基礎(6)管理会計の役割&機能(2)	21	管理会計の応用(9) ケーススタディ(8)
7	管理会計の基礎(7)管理会計の役割&機能(3)	22	管理会計の応用(10) テーマ別発表準備(1)
8	管理会計の基礎(8)管理会計の役割&機能(4)	23	管理会計の応用(11) テーマ別発表準備(2)
9	管理会計の基礎(9)管理会計の役割&機能(5)	24	管理会計の応用(12) テーマ別発表準備(3)
10	管理会計の基礎(10)管理会計の役割&機能(6)	25	管理会計の応用(13) テーマ別発表(1)
11	管理会計の基礎(11) ケーススタディにむけての準備(1)	26	管理会計の応用(14) テーマ別発表(2)
12	管理会計の基礎(12) ケーススタディにむけての準備(2)	27	管理会計の応用(15) テーマ別発表(3)
13	管理会計の応用(1) 応用に向けてのオリエンテーション	28	管理会計の総まとめ(1)
14	管理会計の応用(2) ケーススタディ(1)	29	管理会計の総まとめ(2)
15	管理会計の応用(3) ケーススタディ(2)	30	管理会計の総まとめ(3)

【使用教材】

- ◇教科書：演習中に指示します。
- ◇参考書：とくになし。

【履修条件等】

- ◇会計の基本（授業としては、「会計学概論」）科目は、履修していることが望ましい。履修していない場合には、会計全般に関する基本的な知識を会得していることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇基礎1～12までは、管理会計の基礎について基本的論点、課題を提示する。応用1～15では、ゼミ生各自（グループ別）研究テーマの決定、各テーマについての調査、中間発表、レポートの作成および秋学期のゼミ発表大会への準備を中心に作業する。履修者は、あらかじめ、少なくとも、会計に関する基礎的知識を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇成績評価としては、出席状況とゼミディスカッションにおける「貢献度」を重視する。

専門演習Ⅱ	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Specialized Seminar II	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

「情報システム学」

情報化社会と言われる昨今、企業において情報をどのように収集、解析、活用していくかが大変重要となってきています。本専門演習では、情報システムを切り口として「会社では何をしているのか?」「何が求められているのか?」「どのように問題を解決していくのか?」などを議論し、企業社会についての理解を深めていきます。

また、各自テーマを選定し、論文を作成していきます。その中で、資料作成の方法、論文の書き方、参考文献の検索の仕方、アジェンダの作り方、論文のまとめ方などを学んでいきます。本専門演習においては、卒業論文の作成を基本とし、論文提出後にはプレゼンテーションの方法を学び、専門演習内で論文の発表会を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報システムに関する基本的知識の習得	演習で取り上げたテーマにおける用語の定義、概念を理解し、説明できること。	20%
チームで考える力の育成	グループワークにおけるチームへの貢献度、積極性、ディスカッション能力等を評価する。	30%
問題解決に向けた発想力の向上	課題を見つける力、解決策を考える力、解決への実行力を評価する。新しい発想力をつける力も養っていく。	20%
プレゼンテーション力の向上	発表や質疑応答の内容で評価を行う。ゼミ発表大会や演習の中での発表において、その進行、態度、発表資料の完成度などが評価のポイントとなる。	30%
評価の方法	演習態度（発言、積極性など）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	論文概略作成
2	情報の集め方、扱い方について学ぶ	17	GMT企業研究
3	プレゼン技術について学ぶ	18	GMT企業訪問
4	関心のあるテーマについて研究	19	参考文献調査
5	〃	20	〃
6	〃	21	論文作成作業
7	論文テーマ選定	22	〃
8	論文テーマに関する情報検索	23	論文仮提出
9	〃	24	論文修正作業
10	〃	25	〃
11	〃	26	〃
12	〃	27	論文まとめ
13	〃	28	論文発表資料作成
14	論文アジェンダ作成	29	論文発表会
15	まとめ（気づき、反省、決意）	30	まとめ（気づき、反省、決意）

【使用教材】

◇教科書は使用しません。

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）を使うことがあります。

【履修条件等】

◇出席を重視します。演習に積極的、継続的に参加してください。

◇多くのことに興味を持ち、発想力の向上に努めてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題が出た時には、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇学外でのゼミ行事（企業訪問、ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門演習Ⅱ	オガワ タツヤ 小川 達也
Specialized Seminar II	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：ロボットとAIが創る「おもてなし」のサービス戦略

企業が提供する「おもてなし」のサービスは、ロボットやAIの進化に伴い大きく変貌しようとしています。ヒトと共創する新しい「おもてなし」とは何か。

特に、接客を伴うサービス業では、従来は「おもてなし」の人材育成が重要でしたが、さらにロボットやAIという先端技術を駆使した新サービスが脚光を浴びています。

小川ゼミでは、こうした新たな動向や革新的技術を学ぶ目的で展示会の見学や企業訪問を実施し、机上だけでは得られない「おもてなし」サービスの実際と可能性を探ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
演習で取り上げた理論や用語を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げた理論や用語の定義・概念、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた企業組織の実践的知識を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げた企業組織の実践的知識や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた理論と知識を広く理解し、応用して説明・議論できる	企業組織の実践的知識を複数把握し、演習で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題に対する解決策をしっかりと議論できること。	20%
プレゼンテーション・スキルが身についている	演習の時間やゼミ発表大会で担当したプレゼンテーションで、しっかりと報告できること。	20%
レポートやレジюмеを作成するスキルが身についている	演習の時間やゼミ発表大会で担当したセクションのレポート・レジюмеをしっかりと作成し、期限内に提出できること。	20%
評価の方法	演習の実施回数に対して出席回数が3分の2以上に限り評価します。なお、2回連続して欠席したり、レジюме発表時に欠席した場合には厳しく評価し、単位取得が困難となるので注意してください。演習への積極的な参加姿勢を前提として、総合的な学習・研究成果に基づいて評価します。	

【授業計画】

小川ゼミは、おもてなし（ホスピタリティ）を提供するサービス産業の戦略について研究を進めています。特に、ロボットとAIを駆使した新しいサービス戦略とビジネスモデルの在り方を議論し、これからの「おもてなし」企業が目指すべき戦略や方向性を検討します。今年度は、ロボットとAIに関わる広範囲の業界を考察します。

演習への参加は事前準備が重要です。まず、文献・資料を各自で熟読し、記述内容を確認することから始まります。経営学やビジネスで必須の専門用語の把握も必要です。文献・資料にある重要な指摘や問題点、さらに考察が必要な論点を見出します。各人が上記のプロセスで得た知見と追究すべき論点を要約し、レジュメにまとめ、口頭で発表します。ゼミ生全員が質疑応答と議論に参加し、建設的かつ有意義な議論ができるよう十分に資料収集を行い、各人が深く検討できるような姿勢で臨む必要があります。

また、展示会見学や企業訪問を実施し、12月に開催される「ゼミ発表大会」に向けた実地調査を行います。秋学期は、春学期で学んだ知識と、実地調査で得られた「生きた情報」をもとにゼミ生が一丸となって研究発表の準備を進め、ゼミ発表大会でその成果を披露します。

学年末には、各自で「ゼミ単位取得レポート」を作成し、提出します。各々が興味のある企業や事例を選択し、おもてなしのサービス戦略に関する研究成果をまとめます。

小川ゼミでは、2年間にわたり一貫して「おもてなしのサービス戦略」を探究しますが、同時にプレゼンテーション（発表）やディスカッション（議論）、レジュメ・レポートの作成といった、卒業後に必要なスキルを身につけることも目標としています。

【使用教材】

◇教科書：本田幸夫著『ロボット革命—なぜグーグルとアマゾンが投資するのか』祥伝社新書、2014年

◇参考書：議論や考察に必要な文献・資料を適宜紹介します。

【履修条件等】

◇レジュメとレポートはWordで作成し、発表はPowerPointのスキルが必要です。

◇単位を取ることが目的ではなく、大学生として充実した成果を残すために3年間継続して専門演習を履修できる方にお勧めします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出します。

わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、演習内での議論に備える必要があります。また、日頃から経済新聞や経済雑誌等をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇専門演習は通常の講義形式の授業と異なり、履修者が自ら疑問を見出し、調査分析し、その疑問をどのように解決するのか、モノの考え方を学び、発表し議論を行う場です。専門演習の主体は履修者自身にあることを自覚してください。常に向上心と修学意欲を高め、積極的な参加姿勢が不可欠となります。

専門演習Ⅱ	スミダ コウジ 隅田 浩司
Specialized Seminar II	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

【研究テーマ】 経済法（競争政策）、国際経済法（貿易・通商法）、交渉学

この授業では、3つの領域を取り扱います。経済法では、経済法に関する最新論点についてディスカッションを行います。国際経済法では、貿易・通商法の基礎について学びます。そして、交渉学では、模擬交渉を中心として交渉に関するトレーニングを行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎知識の習得	経済法、国際経済法および交渉学の基礎知識を適切に習得し、理解できているかどうか？	20%
論点発見能力	経済法、国際経済法および交渉学の論点を適切に抽出し、その論点の射程範囲を理解しているか？	20%
プレゼンテーション能力	自分たちが調査した内容をわかりやすく、プレゼンテーションとしてまとめて発表できるか？	20%
コミュニケーション能力	ゼミのメンバー同士での良好なコミュニケーション、基礎的なマナーや社会人になるためにふさわしい振る舞い・態度ができるか	40%
評価の方法	ゼミへの積極的参加、そして、ゼミの仲間と協力して課題に取り組み姿勢を重視します。 評価は、出席と参加姿勢が80%、提出物、成果物が20%です。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	秋学期の課題の確認
2	経済法に関する演習	17	交渉学に関する演習
3		18	
4		19	
5		20	
6		21	
7		22	
8		23	
9	国際経済法の基礎に関する演習	24	紛争解決に関する演習
10		25	
11		26	
12		27	
13		28	
14		29	
15	春学期のまとめ	30	秋学期のまとめ、1年間の振り返り

【使用教材】

◇教科書はとくに指定しません。

【履修条件等】

◇専門演習でしっかり勉強したいという意欲がある人。

◇交渉学や経済法（企業不祥事の法的な研究）、貿易・国際経済法に興味がある人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ゼミの場合、必ず、予習をして講義に出席する必要があります。

【その他の注意事項】

◇とくにありません。

専門演習Ⅱ	ドイ ミツル 土井 充
Specialized Seminar II	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

このゼミでは、株主など企業に利害関係を持っている外部の人たちに情報を提供するための会計、すなわち財務会計を中心テーマとします。企業は、この財務会計を一定のルールに従って行っています。ゼミでは、この会計ルール（複式簿記、会計基準など）や、ルールに従い作成された情報を読み解くための知識（経営分析など）を習得するとともに、こうした知識を用いて、現代経済社会において財務会計がどのようなはたらきを持っているのかを探究していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計に関する基本的な知識を有していること	ゼミ活動やゼミレポートの内容によって評価。 簿記（2級程度）、会計理論（財務会計Ⅰ/Ⅱ程度）、および個別研究テーマに関する知識を有している。	40%
アカデミックリテラシーを修得していること	ゼミ活動によって評価。 「専門演習Ⅰ」で取得したリテラシーをもちいて、 (a)情報を整理・分析することができる。 (b)効果的な報告手法を選択し、報告する（自分の意見を相手に伝える）ことができる。 (c)グループの意見を纏めることができる。	20%
レポートを作成することができること	レポートによって評価。 「専門演習Ⅰ」で学修したレポートの形式要件を満たしながら、 (a)問題を自ら発見し、 (b)「(a)」に対する答えを考察することができる。	20%
ゼミ活動の方針を理解していること	ゼミ活動によって評価。 (a)自主的・積極的な姿勢でゼミに出席している。 (b)サブゼミなどへ貢献する。 (c)理論が仮説であること理解し、「なぜ」「どうして」という問題意識をもって課題に取り組むことができる。	20%
評価の方法	発表や討論などへの参加度合や出席状況など、演習への取り組む姿勢や貢献度などから総合的に評価します。	

【授業計画】

<春学期>

春学期は、財務会計の基本原理に関することを全員で討議する形で進めていきます。具体的には、毎回、報告者が担当範囲についてレジュメを作成し、演習で発表します。この発表を基に、全員で討論を行い全体の理解を深めていきます。

<秋学期>

秋学期は、演習で協議し決定した幾つかのテーマについて、討論を行い演習の意見を形成し、報告を行います。春学期同様、演習では、レジュメを作成し全員で討論を行い、アドバイスや報告の問題点を指摘し、テーマの理解を深めていきます。

【使用教材】

- ◇教科書：使用せず。
- ◇参考書：必要に応じて演習中に配付します。

【履修条件等】

- ◇習に積極的・継続的に参加する学生の履修を望みます。
- ◇「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」、「税務会計Ⅰ」、「税務会計Ⅱ」、「管理会計Ⅰ」、「管理会計Ⅱ」、「経営分析」を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇簿記（3級程度）、会計理論（「会計学概論」、「財務会計Ⅰ」、「財務会計Ⅱ」）の知識を確認すること。
- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇本ゼミの準備（予習・事前学習）のため、サブゼミを開くことがあります。
- ◇研究テーマによって「専門演習Ⅲ」と合同でゼミを行うことがあります。
- ◇ゼミ生全員で協議し、学外でのゼミ行事（ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門演習Ⅱ	ヒノ タカオ 日野 隆生
Specialized Seminar II	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能の1つであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

「専門演習Ⅱ」では、テキスト・論文などを輪読しながら、現代社会におけるマーケティングとは何か、そして、現代におけるマーケティングの問題について適宜、レポート作成と発表、質疑、ディスカッションにより論文を作成していく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの専門的用語を理解する	小レポートによって評価する。 小レポートによって、マーケティング論の専門的用語の理解度を判定する。	30%
戦略としてのマーケティング論を理解する	レポート提出によって評価する。 製品戦略、価格戦略、チャネル戦略、プロモーション戦略など、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	30%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	レポートおよび発表によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、発表内容によって評価する。	40%
<p>評価の方法 演習態度（積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポート・発表などで総合的に判断します。</p>		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	卒業論文中間発表
2	論文の書き方	17	卒業論文中間発表
3	テーマ設定	18	卒業論文中間発表
4	テーマ設定	19	卒業論文作成
5	テーマ設定	20	卒業論文作成
6	資料収集	21	卒業論文作成
7	資料収集	22	卒業論文作成
8	資料収集	23	卒業論文作成
9	プレゼンテーション	24	卒業論文作成
10	プレゼンテーション	25	プレゼンテーション
11	プレゼンテーション	26	プレゼンテーション
12	プレゼンテーション	27	プレゼンテーション
13	プレゼンテーション	28	プレゼンテーション
14	プレゼンテーション	29	プレゼンテーション
15	中間まとめ	30	まとめ

【使用教材】

◇『マーケティング戦略論（第2版）』学文社、2019年

◇参考文献：日野隆生編著『サービス・マーケティング—理論と実践—』五紘舎、
2018年

【履修条件等】

◇遅刻・無断欠席などは禁止です。

◇「演習の時間」以外の時間でのワーク（レポート・論文作成等）が必要です。

◇ディスカッションや発表に積極的に取り組んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、レポート作成、発表の準備等。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門演習Ⅱ	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Specialized Seminar II	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：広告と企業のコミュニケーション活動

広告やマーケティングの学習理論を学び、企業が展開する実際の活動を対象に学習をする。データの収集、分析、発表といったリテラシーについても学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告やマーケティング関連の用語を理解し、説明できる	授業時間における発表、議論によって評価。広告やマーケティングの基本的な用語が説明できること。	25%
目的に応じた資料を図書館やインターネットを活用して見つけられる	課題によって評価。与えられた課題に関連する資料を、適切な方法によってこなせること。	25%
目的に応じた適切な分析方法を用いて、資料の分析ができること	課題によって評価。エクセルやSPSSなどのソフトを用いて、適切な分析ができること。	25%
分析結果や考察をまとめて、説明できること	課題によって評価。まとめた資料を文章や図表を用いて、他の人にわかりやすく伝えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度50%、課題50%		

【授業計画】

<春学期>

アカデミックリテラシーの獲得。資料収集、レポート作成を中心に行う。

<秋学期>

設定した課題について、文章やスライドにまとめ発表する。

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

- ◇広告やマーケティングに興味を持っていること。
- ◇他人との共同作業ができること。
- ◇コンピュータの基礎的な操作ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門演習Ⅱ	フジモリ ダイスケ 藤森 大祐
Specialized Seminar II	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：企業による社会問題の解決について考える

主に以下のテーマについて研究し、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成を行う。

- ・ 企業による環境問題の解決
- ・ L G B Tと企業
- ・ 障害者と企業

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
環境問題に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
持続可能な観光に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ソーシャルビジネスに関する理解	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ディスカッションとプレゼンテーション力の向上	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	40%
評価の方法 問題設定、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、および各種ゼミ活動への主体的な取り組みなどから総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	ゼミ発表大会のテーマ検討
2	研究テーマの検討	17	ゼミ発表大会への準備
3	研究テーマの設定	18	調査
4	調査およびディスカッション	19	
5	プレゼンテーション準備	20	ディスカッション
6	プレゼンテーション、振り返り	21	
7	研究テーマの検討	22	ゼミ発表大会の準備
8	研究テーマの設定	23	
9	調査およびディスカッション	24	
10	プレゼンテーション準備	25	
11		26	ゼミ発表大会の振り返り
12		27	研究テーマの設定
13		28	プレゼンテーション準備
14	プレゼンテーション	29	プレゼンテーション
15	振り返り	30	振り返り

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しないが研究の過程で必要となったものを購入してもらうことがある。

その他、必要に応じて資料を提供したり、参考書を紹介する。

【履修条件等】

◇あらゆるゼミ活動に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇各自が自発的に調査研究をする。

【その他の注意事項】

◇個々人が力をつけるよう努力するとともに、ゼミのメンバーを尊重し、ゼミ全体のパフォーマンスを向上させるよう心がけてもらいたい。

専門演習Ⅱ	マツダ タカシ 松田 岳
Specialized Seminar II	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：「投資を通じて社会的課題を解決する」

本専門演習は「経済・金融」をテーマに研究を行います。「世を経(おさ)め、民を済(すく)う」のが「経済(学)」の役割です。2019年度は「投資によってニッポンを子育て先進国にするためには」というテーマで研究を行う予定にしていますが。学生諸君の意見を聞き、実際の研究テーマは選定する予定です。どのようなテーマであっても、投資(金融)の力を用いて社会的課題の解決を目指すのが本セミナーのミッションです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
真摯にかつ主体的に物事に取り組むことができる	研究・課題に真摯に取り組んでいるか否か、積極的に課題に取り組んでいるか否か、主体的に取り組んでいるか否かによって評価を行う。	60%
論理的思考力を身につけ、論理的な発言をしたり、文章を書けたりする	レポートやプレゼンテーション、ディスカッションでのパフォーマンスを見ることで、論理的に思考できるか否か、論理的な発言ができているか否か、論理的な文章が書けるか否かの評価を行う。	40%
評価の方法 平常点100% (演習における振る舞い、取り組む姿勢を評価する)。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	就職活動報告(1)	16	目論見書の作成(1)
2	就職活動報告(2)	17	目論見書の作成(2)
3	就職活動報告(3)	18	目論見書の作成(3)
4	就職活動報告(4)	19	目論見書の作成(4)
5	就職活動報告(5)	20	プレゼンの準備(1)
6	就職活動報告(6)	21	プレゼンの準備(2)
7	就職活動報告(7)	22	プレゼンの準備(3)
8	就職活動報告(8)	23	プレゼンの準備(4)
9	就職活動報告(9)	24	プレゼンの準備(5)
10	就職活動報告(10)	25	目論見書の総仕上げ(1)
11	就職活動報告(11)	26	目論見書の総仕上げ(2)
12	就職活動報告(12)	27	目論見書の総仕上げ(3)
13	就職活動報告(13)	28	目論見書の総仕上げ(4)
14	就職活動報告(14)	29	目論見書の総仕上げ(5)
15	就職活動報告(15)	30	目論見書の総仕上げ(6)

【使用教材】

- ◇教科書：ガイダンス時に指示する。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇10回以上欠席すると評価対象外になる。
- ◇事前修得が望ましい科目はない。
- ◇授業を妨害する行為（遅刻、欠席、私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。
- ◇3回以上注意を要するような行為をした学生には退席を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇毎回の講義、教科書などを通じて指示する。
- ◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

- ◇経済・社会の動向を勘案して授業計画は変更する場合がある。
- ◇発言や質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢を持っていることが望ましい。
- ◇質問は口頭、書面、メールで受け付けている。

専門演習Ⅱ	ヤマカワ サトル 山川 悟
Specialized Seminar II	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：文化の方法（笑い、遊び、アート、物語）を利用したマーケティング

ビジネスの場における情報の収集、分析、創出、表現、伝達の技術を磨くことを目標とします。春期においては、マーケッターとしての基本的なリテラシーの取得を目指したトレーニングプログラムを実践します。秋期にはマーケティングプランニング（商品開発、プロモーション開発、新事業開発など）を自ら行なえるようなスキル獲得を目指します。学生コンテストへの参加や、企業訪問、学外視察、外部講師の招聘も行う予定です。

本ゼミ学生が過去に取り組んだ研究テーマとしては、次のようなものがあります。

「企業のユニークな風習・制度と企業理念との関わりに関する研究」「ゲームを通じた地域活性化の研究」「手塚コンテンツを活用した地域活性化の可能性に関する研究」「ローカル線のマーケティング」「社歌の研究」「高田馬場観光地化計画案」「Social Smile Business（ユーモアで社会を変える方法）に関する研究」「ご当地ヒーローの研究」等。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケッターとしての基本的なリテラシーを取得していること	講義中の受講姿勢、質疑応答、ワークショップ、提出物等により評価。 「情報の収集、分析、創出、表現、伝達についての技術力」を評価ポイントとする。	50%
マーケティングプランニング（商品開発、プロモーション開発、新事業開発など）を自ら行なえるようなスキルを獲得していること	講義中の受講姿勢、質疑応答、ワークショップ、提出物、企画書等のアウトプット等により評価。 「発想力、企画書作成能力、グループワーク推進能力、他者や社会に働きかける力」を評価ポイントとする。	50%

評価の方法

評価の配分：80%以上の出席を条件に、授業中アウトプット50%、ゼミ運営に対する貢献度50%

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	秋期オリエンテーション
2	相互理解プログラム	17	企業訪問準備①
3	ビジネスリテラシートレーニング①	18	企業訪問準備②
4	ビジネスリテラシートレーニング②	19	企業訪問準備③
5	ビジネスリテラシートレーニング③	20	企業訪問
6	ビジネスリテラシートレーニング④	21	グループワーク①
7	創造的思考法トレーニング①	22	グループワーク②
8	創造的思考法トレーニング②	23	グループワーク③
9	創造的思考法トレーニング③	24	グループワーク④
10	創造的思考法トレーニング④	25	グループ研究発表①
11	消費者理解トレーニング①	26	グループ研究発表②
12	消費者理解トレーニング②	27	グループ研究発表③
13	消費者理解トレーニング③	28	グループ研究発表④
14	消費者理解トレーニング④	29	流通視察・ショールーム見学
15	総括と達成度の確認	30	総括と達成度の確認

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：山川悟、他著『応援される経営』光文社、等

【履修条件等】

◇マーケティング、商品開発、広告宣伝などの分野に興味があること。

◇PCである程度のドキュメント作成ができること。

◇好きでこだわりを持っている分野があり、それをビジネスやマーケティングと結びつけてみたいと思っている人が望ましい。

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を受講していること。

◇担当教員の専門科目を前向きに受講しようとする意思のある人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇大学時代の日常的な読書やメディア接触（新聞購読等）、商品の使用体験などは、基礎トレーニングと一緒に。10年20年後に、そうした基礎体力がモノをいいます。本ゼミでは、そうしたことを重視したいと思います。

【その他の注意事項】

◇ゼミにおける研究活動について詳細を知りたい人は、下記を参照してください。

<http://yamakawaseminar.jimdo.com/>

専門演習Ⅱ	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Specialized Seminar II	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：経営学

この専門演習では、「経営学」をテーマとして、それぞれの問題意識を深めることを目的とします。「専門演習Ⅰ」での学習内容をふまえ、「組織とは何か」、「管理とは何か」、という経営学の基本課題について学び、現代の企業社会についての理解を深めます。

座学によるテキストの講読、レジュメの作成や討論に平行して、特定の共通テーマを設定し、自分たちで資料調査やフィールドリサーチなどを行い、グループ学習を実施します。最終的に、ひとつのプレゼン資料にまとめ、学内のゼミ報告大会にて研究報告します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1. 経営学の基礎的知識の習得	毎回の授業での討論、レジュメの作成、レポート作成によって評価をします。	20%
2. 個々の問題意識の醸成	同上。	20%
3. チームで働く力の養成	特定のテーマに基づいたグループ学習での、チームへの貢献度、ディスカッション能力等によって評価します。	30%
4. 創造的な思考力の養成	同上。	30%
評価の方法	ゼミナール活動全般を通じて、上記の4項目において、自己成長できたか、設定した目標に到達できたかを、評価の主な方針とします。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	オリエンテーション
2	課題の設定(1)	17	資料調査(1)
3	課題の設定(2)	18	資料調査(2)
4	資料調査(1)	19	資料調査(3)
5	資料調査(2)	20	報告資料の作成(1)
6	資料調査(3)	21	報告資料の作成(2)
7	レジュメ報告(1)	22	報告資料の作成(3)
8	レジュメ報告(2)	23	プレゼンテーション演習(1)
9	レジュメ報告(3)	24	プレゼンテーション演習(2)
10	レジュメ報告(4)	25	レポート作成(1)
11	レジュメ報告(5)	26	レポート作成(2)
12	レジュメ報告(6)	27	レポート作成(3)
13	フィールドリサーチ事前学習(1)	28	レポート作成(4)
14	フィールドリサーチ事前学習(2)	29	レポート作成(5)
15	春学期ふりかえりおよびまとめ	30	秋学期ふりかえりおよびまとめ

【使用教材】

◇テキストは初回オリエンテーションにて指示します。

【履修条件等】

◇「経営組織論Ⅰ」、「経営組織論Ⅱ」、「経営管理論」等、経営学の専門科目を必ず履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指定されたテキストの予習を必須とします。主体的な参加が求められますので、予習を心がけてください。

【その他の注意事項】

◇自分の考えや興味関心を大事にしてください。楽しんで学べるように努力してください。

専門演習Ⅲ	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Specialized Seminar III	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：管理会計

「管理会計」は、経営管理に役立つデータ（＝企業内部における業績評価や意思決定に資する）を提供するための会計です。本演習においては、実際の経営活動に的を絞り、これら経営活動に惹起する諸問題に対し「管理会計」をどのように把握し、使いこなしていくかを、経営者の立場に立って主体的に考え、管理会計上必要な問題探求能力と問題解決能力を養うことまでを目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的前提に関する知識の修得の有無の確認する。	管理会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認	30%
管理会計に関する基礎的な理解の確認	管理会計に関する基礎的な知識について、毎回の基礎的な理解の程度 授業での質疑応答により、その修得の確認をする。	30%
管理会計に対する理解の深度の程度の確認	管理会計の意義、必要性、現状においての問題点の把握とその解決のための素養を修得しているか否かにつき、毎回のディスカッションと課題レポートにより確認する。	40%
評価の方法 授業への参加度60%、課題レポート30%、試験10%により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	管理会計の基礎(1)オリエンテーション	16	管理会計の応用(4) ケーススタディ(3)
2	管理会計の基礎(2)会計の意義(1)財務会計&管理会計	17	管理会計の応用(5) ケーススタディ(4)
3	管理会計の基礎(3)会計の意義(2)財務会計&管理会計	18	管理会計の応用(6)ケーススタディ(5)
4	管理会計の基礎(4)会計の意義(3)財務会計&管理会計	19	管理会計の応用(7)ケーススタディ(6)
5	管理会計の基礎(5)管理会計の役割&機能(1)	20	管理会計の応用(8)ケーススタディ(7)
6	管理会計の基礎(6)管理会計の役割&機能(2)	21	管理会計の応用(9)ケーススタディ(8)
7	管理会計の基礎(7)管理会計の役割&機能(3)	22	管理会計の応用(10)テーマ別発表準備(1)
8	管理会計の基礎(8)管理会計の役割&機能(4)	23	管理会計の応用(11)テーマ別発表準備(2)
9	管理会計の基礎(9)管理会計の役割&機能(5)	24	管理会計の応用(12)テーマ別発表準備(3)
10	管理会計の基礎(10)管理会計の役割&機能(6)	25	管理会計の応用(13)テーマ別発表(1)
11	管理会計の基礎(11)ケーススタディにむけての準備(1)	26	管理会計の応用(14)テーマ別発表(2)
12	管理会計の基礎(12)ケーススタディにむけての準備(2)	27	管理会計の応用(15)テーマ別発表(3)
13	管理会計の応用(1) 応用に向けてのオリエンテーション	28	管理会計の総まとめ(1)
14	管理会計の応用(2)ケーススタディ(1)	29	管理会計の総まとめ(2)
15	管理会計の応用(3)ケーススタディ(2)	30	管理会計の総まとめ(3)

【使用教材】

- ◇教科書：演習中に指示します。
- ◇参考書：とくになし。

【履修条件等】

- ◇会計の基本（授業としては、「会計学概論」）科目は、履修していることが望ましい。履修していない場合には、会計全般に関する基本的な知識を会得していることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇予習をすべき事前学習の内容】
- ◇基礎1～12までは、管理会計の基礎について基本的論点、課題を提示する。
- 応用1～15では、ゼミ生各自（グループ別）研究テーマの決定、各テーマについての調査、中間発表、レポートの作成および秋学期のゼミ発表大会への準備を中心に作業する。
- 履修者は、あらかじめ、少なくとも、会計に関する基礎的知識を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇成績評価としては、出席状況とゼミディスカッションにおける「貢献度」を重視する。

専門演習Ⅲ	オガワ タツヤ 小川 達也
Specialized Seminar III	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：ロボットとAIが創る「おもてなし」のサービス戦略

企業が提供する「おもてなし」のサービスは、ロボットやAIの進化に伴い大きく変貌しようとしています。ヒトと共創する新しい「おもてなし」とは何か。

特に、接客を伴うサービス業では、従来は「おもてなし」の人材育成が重要でしたが、さらにロボットやAIという先端技術を駆使した新サービスが脚光を浴びています。

小川ゼミでは、こうした新たな動向や革新的技術を学ぶ目的で展示会の見学や企業訪問を実施し、机上だけでは得られない「おもてなし」サービスの実際と可能性を探ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
演習で取り上げた理論や用語を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げた理論や用語の定義・概念、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた企業組織の実践的知識を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げた企業組織の実践的知識や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた理論と知識を広く理解し、応用して説明・議論できる	企業組織の実践的知識を複数把握し、演習で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題に対する解決策をしっかりと議論できること。	20%
プレゼンテーション・スキルが身についている	演習の時間やゼミ発表大会で担当したプレゼンテーションで、しっかりと報告できること。	20%
レポートやレジюмеを作成するスキルが身についている	演習の時間やゼミ発表大会で担当したセクションのレポート・レジюмеをしっかりと作成し、期限内に提出できること。	20%
評価の方法	演習の実施回数に対して出席回数が3分の2以上に限り評価します。なお、2回連続して欠席したり、レジюме発表時に欠席した場合には厳しく評価し、単位取得が困難となるので注意してください。演習への積極的な参加姿勢を前提として、総合的な学習・研究成果に基づいて評価します。	

【授業計画】

小川ゼミは、おもてなし（ホスピタリティ）を提供するサービス産業の戦略について研究を進めています。特に、ロボットとAIを駆使した新しいサービス戦略とビジネスモデルの在り方を議論し、これからの「おもてなし」企業が目指すべき戦略や方向性を検討します。今年度は、ロボットとAIに関わる広範囲の業界を考察します。

演習への参加は事前準備が重要です。まず、文献・資料を各自で熟読し、記述内容を確認することから始まります。経営学やビジネスで必須の専門用語の把握も必要です。文献・資料にある重要な指摘や問題点、さらに考察が必要な論点を見出します。各人が上記のプロセスで得た知見と追究すべき論点を要約し、レジュメにまとめ、口頭で発表します。ゼミ生全員が質疑応答と議論に参加し、建設的かつ有意義な議論ができるよう十分に資料収集を行い、各人が深く検討できるような姿勢で臨む必要があります。

また、展示会見学や企業訪問を実施し、12月に開催される「ゼミ発表大会」に向けた実地調査を行います。秋学期は、春学期で学んだ知識と、実地調査で得られた「生きた情報」をもとにゼミ生が一丸となって研究発表の準備を進め、ゼミ発表大会でその成果を披露します。

学年末には、各自で「ゼミ単位取得レポート」を作成し、提出します。各々が興味のある企業や事例を選択し、おもてなしのサービス戦略に関する研究成果をまとめます。

小川ゼミでは、2年間にわたり一貫して「おもてなしのサービス戦略」を探究しますが、同時にプレゼンテーション（発表）やディスカッション（議論）、レジュメ・レポートの作成といった、卒業後に必要なスキルを身につけることも目標としています。

【使用教材】

◇教科書：本田幸夫著『ロボット革命—なぜグーグルとアマゾンが投資するのか』祥伝社新書、2014年

◇参考書：議論や考察に必要な文献・資料を適宜紹介します。

【履修条件等】

◇レジュメとレポートはWordで作成し、発表はPowerPointのスキルが必要です。

◇単位を取ることが目的ではなく、大学生として充実した成果を残すために3年間継続して専門演習を履修できる方にお勧めします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出します。

わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、演習内での議論に備える必要があります。また、日頃から経済新聞や経済雑誌等をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇専門演習は通常の講義形式の授業と異なり、履修者が自ら疑問を見出し、調査分析し、その疑問をどのように解決するのか、モノの考え方を学び、発表し議論を行う場です。専門演習の主体は履修者自身にあることを自覚してください。常に向上心と修学意欲を高め、積極的な参加姿勢が不可欠となります。

専門演習Ⅲ	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Specialized Seminar III	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

「情報システム学」

情報化社会と言われる昨今、企業において情報をどのように収集、解析、活用していくかが大変重要となってきました。本専門演習では、情報システムを切り口として「会社では何をしているのか?」「何が求められているのか?」「どのように問題を解決していくのか?」などを議論し、企業社会についての理解を深めていきます。

また、各自テーマを選定し、論文を作成していきます。その中で、資料作成の方法、論文の書き方、参考文献の検索の仕方、アジェンダの作り方、論文のまとめ方などを学んでいきます。本専門演習においては、卒業論文の作成を基本とし、論文提出後にはプレゼンテーションの方法を学び、専門演習内で論文の発表会を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報システムに関する基本的知識の習得	演習で取り上げたテーマにおける用語の定義、概念を理解し、説明できること。	20%
チームで考える力の育成	グループワークにおけるチームへの貢献度、積極性、ディスカッション能力等を評価する。	30%
問題解決に向けた発想力の向上	課題を見つける力、解決策を考える力、解決への実行力を評価する。新しい発想力をつける力も養っていく。	20%
プレゼンテーション力の向上	発表や質疑応答の内容で評価を行う。ゼミ発表大会や演習の中での発表において、その進行、態度、発表資料の完成度などが評価のポイントとなる。	30%
評価の方法	演習態度（発言、積極性など）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	論文概略作成
2	情報の集め方、扱い方について学ぶ	17	GMT企業研究
3	プレゼン技術について学ぶ	18	GMT企業訪問
4	関心のあるテーマについて研究	19	参考文献調査
5	〃	20	〃
6	〃	21	論文作成作業
7	論文テーマ選定	22	〃
8	論文テーマに関する情報検索	23	論文仮提出
9	〃	24	論文修正作業
10	〃	25	〃
11	〃	26	〃
12	〃	27	論文まとめ
13	〃	28	論文発表資料作成
14	論文アジェンダ作成	29	論文発表会
15	まとめ（気づき、反省、決意）	30	まとめ（気づき、反省、決意）

【使用教材】

◇教科書は使用しません。

◇P C（パワーポイント、エクセル、ワードなど）を使うことがあります。

【履修条件等】

◇出席を重視します。演習に積極的、継続的に参加してください。

◇多くのことに興味を持ち、発想力の向上に努めてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題が出た時には、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇学外でのゼミ行事（企業訪問、ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門演習Ⅲ	スミダ コウジ 隅田 浩司
Specialized Seminar III	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

【研究テーマ】 経済法（競争政策）、国際経済法（貿易・通商法）、交渉学

この授業では、3つの領域を取り扱います。経済法では、経済法に関する最新論点についてディスカッションを行います。国際経済法では、貿易・通商法の基礎について学びます。そして、交渉学では、模擬交渉を中心として交渉に関するトレーニングを行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎知識の習得	経済法、国際経済法および交渉学の基礎知識を適切に習得し、理解できているかどうか？	20%
論点発見能力	経済法、国際経済法および交渉学の論点を適切に抽出し、その論点の射程範囲を理解しているか？	20%
プレゼンテーション能力	自分たちが調査した内容をわかりやすく、プレゼンテーションとしてまとめて発表できるか？	20%
コミュニケーション能力	ゼミのメンバー同士での良好なコミュニケーション、基礎的なマナーや社会人になるためにふさわしい振る舞い・態度ができるか	40%
評価の方法	ゼミへの積極的参加、そして、ゼミの仲間と協力して課題に取り組み姿勢を重視します。 評価は、出席と参加姿勢が80%、提出物、成果物が20%です。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	秋学期の課題の確認
2	経済法に関する演習	17	交渉学に関する演習
3		18	
4		19	
5		20	
6		21	
7		22	
8		23	
9	国際経済法の基礎に関する演習	24	紛争解決に関する演習
10		25	
11		26	
12		27	
13		28	
14		29	
15	春学期のまとめ	30	秋学期のまとめ、1年間の振り返り

【使用教材】

◇教科書はとくに指定しません。

【履修条件等】

◇専門演習でしっかり勉強したいという意欲がある人。

◇交渉学や経済法（企業不祥事の法的な研究）、貿易・国際経済法に興味がある人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ゼミの場合、必ず、予習をして講義に出席する必要があります。

【その他の注意事項】

◇とくにありません。

専門演習Ⅲ	ドイ ミツル 土井 充
Specialized Seminar III	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

このゼミでは、株主など企業に利害関係を持っている外部の人たちに情報を提供するための会計、すなわち財務会計を中心テーマとします。企業は、この財務会計を一定のルールに従って行っています。ゼミでは、この会計ルール（複式簿記、会計基準など）や、ルールに従い作成された情報を読み解くための知識（経営分析など）を習得するとともに、こうした知識を用いて、現代経済社会において財務会計がどのようなはたらきを持っているのかを探究していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計に関する専門知識を有していること	ゼミ活動やゼミレポートの内容によって評価。 簿記（2級程度）、会計理論（「財務会計Ⅰ」、「財務会計Ⅱ」、「管理会計Ⅰ」、「管理会計Ⅱ」、「税務会Ⅰ」、「税務会計Ⅱ」、「経営分析」程度）、および個別研究テーマに関する知識を有している。	40%
アカデミックリテラシーを修得していること	ゼミ活動によって評価。 「専門演習Ⅱ」で取得したリテラシーをもちいて、 (a)問題を発見し、解決法を模索し、グループを目標達成に導くことができる。	20%
レポートを作成することができること	レポートによって評価。 (a)問題を自ら発見し、(b)適切な科学的手法を用いて、(c)レポートの形式要件を満たしつつ、(d)「(a)」に対する答えを論証することができる。	20%
ゼミ活動の方針を理解していること	ゼミ活動によって評価。 (a)自主的・積極的な姿勢でゼミに出席している。 (b)サブゼミなどへ貢献する。(c)理論が仮説であること理解し、「なぜ」「どうして」という問題意識をもって課題に取り組むことができる。	20%
評価の方法	発表や討論などへの参加度合や出席状況など、演習への取り組む姿勢や貢献度などから総合的に評価します。	

【授業計画】

<春学期>

春学期は、財務会計の基本原理に関することを全員で討議する形で進めていきます。具体的には、毎回、報告者が担当範囲についてレジュメを作成し、演習で発表します。この発表を基に、全員で討論を行い全体の理解を深めていきます。

<秋学期>

秋学期は、演習で協議し決定したいいくつかのテーマについて、討論を行い演習の意見を形成し、報告を行います。春学期同様、演習では、レジュメを作成し全員で討論を行い、アドバイスや報告の問題点を指摘し、テーマの理解を深めていきます。

【使用教材】

- ◇教科書：使用せず。
- ◇参考書：必要に応じて演習中に配付します。

【履修条件等】

- ◇演習に積極的・継続的に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇簿記（3級程度）、会計理論（「会計学概論」、「財務会計Ⅰ」、「財務会計Ⅱ」）の知識を確認すること。
- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇本ゼミの準備（予習・事前学習）のため、サブゼミを開くことがあります。
- ◇研究テーマによって、「専門演習Ⅱ」と合同でゼミを行うことがあります。
- ◇ゼミ生全員で協議し、学外でのゼミ行事（ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門演習Ⅲ	ヒノ タカオ 日野 隆生
Specialized Seminar III	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能の1つであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

「専門演習Ⅲ」では、テキスト・論文などを輪読しながら、現代社会におけるマーケティングとは何か、そして、現代におけるマーケティングの問題について適宜、レポート作成と発表、質疑、ディスカッションにより論文を作成していく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの専門的用語を理解する	小レポートによって評価する。 小レポートによって、マーケティング論の専門的用語の理解度を判定する。	30%
戦略としてのマーケティング論を理解する	レポート提出によって評価する。 製品戦略、価格戦略、チャネル戦略、プロモーション戦略など、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	30%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	レポートおよび発表によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、発表内容によって評価する。	40%
<p>評価の方法 演習態度（積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポート・発表などで総合的に判断します。</p>		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	卒業論文中間発表
2	論文の書き方	17	卒業論文中間発表
3	テーマ設定	18	卒業論文中間発表
4	テーマ設定	19	卒業論文作成
5	テーマ設定	20	卒業論文作成
6	資料収集	21	卒業論文作成
7	資料収集	22	卒業論文作成
8	資料収集	23	卒業論文作成
9	プレゼンテーション	24	卒業論文作成
10	プレゼンテーション	25	プレゼンテーション
11	プレゼンテーション	26	プレゼンテーション
12	プレゼンテーション	27	プレゼンテーション
13	プレゼンテーション	28	プレゼンテーション
14	プレゼンテーション	29	プレゼンテーション
15	中間まとめ	30	まとめ

【使用教材】

- ◇『マーケティング戦略論（第2版）』学文社、2019年
- ◇参考文献：日野隆生編著『サービス・マーケティング—理論と実践—』五紘舎、2018年

【履修条件等】

- ◇遅刻・無断欠席などは禁止です。
- ◇「演習の時間」以外の時間でのワーク（レポート・論文作成等）が必要です。
- ◇ディスカッションや発表に積極的に取り組んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇次の演習への下調べ、レポート作成、発表の準備等。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

専門演習Ⅲ	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Specialized Seminar III	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：広告と企業のコミュニケーション活動

広告やマーケティングの学習理論を学び、企業が展開する実際の活動を対象に学習をする。データの収集、分析、発表といったリテラシーについても学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告やマーケティング関連の用語を理解し、説明できる	授業時間における発表、議論によって評価。広告やマーケティングの基本的な用語が説明できること。	25%
目的に応じた資料を図書館やインターネットを活用して見つけられる	課題によって評価。与えられた課題に関連する資料を、適切な方法によってこなせること。	25%
目的に応じた適切な分析方法を用いて、資料の分析ができること	課題によって評価。エクセルやSPSSなどのソフトを用いて、適切な分析ができること。	25%
分析結果や考察をまとめて、説明できること	課題によって評価。まとめた資料を文章や図表を用いて、他の人にわかりやすく伝えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度50%、課題50%		

【授業計画】

<春学期>

アカデミックリテラシーの獲得。資料収集、レポート作成を中心に行う。

<秋学期>

設定した課題について、文章やスライドにまとめ発表する。

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

- ◇広告やマーケティングに興味を持っていること。
- ◇他人との共同作業ができること。
- ◇コンピュータの基礎的な操作ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門演習Ⅲ	フジモリ ダイスケ 藤森 大祐
Specialized Seminar III	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：企業による社会問題の解決について考える

主に以下のテーマについて研究し、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成を行う。

- ・ 企業による環境問題の解決
- ・ L G B Tと企業
- ・ 障害者と企業

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
環境問題に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
持続可能な観光に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ソーシャルビジネスに関する理解	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ディスカッションとプレゼンテーション力の向上	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	40%
評価の方法 問題設定、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、および各種ゼミ活動への主体的な取り組みなどから総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	ゼミ発表大会のテーマ検討
2	研究テーマの検討	17	ゼミ発表大会への準備
3	研究テーマの設定	18	調査
4	調査およびディスカッション	19	
5	プレゼンテーション準備	20	ディスカッション
6	プレゼンテーション、振り返り	21	
7	研究テーマの検討	22	ゼミ発表大会の準備
8	研究テーマの設定	23	
9	調査およびディスカッション	24	
10	プレゼンテーション準備	25	
11		26	ゼミ発表大会の振り返り
12		27	研究テーマの設定
13		28	プレゼンテーション準備
14	プレゼンテーション	29	プレゼンテーション
15	振り返り	30	振り返り

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しないが研究の過程で必要となったものを購入してもらうことがある。

その他、必要に応じて資料を提供したり、参考書を紹介する。

【履修条件等】

◇あらゆるゼミ活動に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇各自が自発的に調査研究をする。

【その他の注意事項】

◇個々人が力をつけるよう努力するとともに、ゼミのメンバーを尊重し、ゼミ全体のパフォーマンスを向上させるよう心がけてもらいたい。

専門演習Ⅲ	マツダ タカシ 松田 岳
Specialized Seminar III	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：「投資を通じて社会的課題を解決する」

本専門演習は「経済・金融」をテーマに研究を行います。「世を経(おさ)め、民を済(すく)う」のが「経済(学)」の役割です。2019年度は「投資によってニッポンを子育て先進国にするためには」というテーマで研究を行う予定にしていますが。学生諸君の意見を聞き、実際の研究テーマは選定する予定です。どのようなテーマであっても、投資(金融)の力を用いて社会的課題の解決を目指すのが本セミナーのミッションです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
真摯にかつ主体的に物事に取り組むことができる	研究・課題に真摯に取り組んでいるか否か、積極的に課題に取り組んでいるか否か、主体的に取り組んでいるか否かによって評価を行う。	60%
論理的思考力を身につけ、論理的な発言をしたり、文章を書けたりする	レポートやプレゼンテーション、ディスカッションでのパフォーマンスを見ることで、論理的に思考できるか否か、論理的な発言ができているか否か、論理的な文章が書けるか否かの評価を行う。	40%
評価の方法 平常点100% (演習における振る舞い、取り組む姿勢を評価する)。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	就職活動報告(1)	16	目論見書の作成(1)
2	就職活動報告(2)	17	目論見書の作成(2)
3	就職活動報告(3)	18	目論見書の作成(3)
4	就職活動報告(4)	19	目論見書の作成(4)
5	就職活動報告(5)	20	プレゼンの準備(1)
6	就職活動報告(6)	21	プレゼンの準備(2)
7	就職活動報告(7)	22	プレゼンの準備(3)
8	就職活動報告(8)	23	プレゼンの準備(4)
9	就職活動報告(9)	24	プレゼンの準備(5)
10	就職活動報告(10)	25	目論見書の総仕上げ(1)
11	就職活動報告(11)	26	目論見書の総仕上げ(2)
12	就職活動報告(12)	27	目論見書の総仕上げ(3)
13	就職活動報告(13)	28	目論見書の総仕上げ(4)
14	就職活動報告(14)	29	目論見書の総仕上げ(5)
15	就職活動報告(15)	30	目論見書の総仕上げ(6)

【使用教材】

- ◇教科書：ガイダンス時に指示する。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇10回以上欠席すると評価対象外になる。
- ◇事前修得が望ましい科目はない。
- ◇授業を妨害する行為（遅刻、欠席、私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。
- ◇3回以上注意を要するような行為をした学生には退席を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇毎回の講義、教科書などを通じて指示する。
- ◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

- ◇経済・社会の動向を勘案して授業計画は変更する場合がある。
- ◇発言や質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢を持っていることが望ましい。
- ◇質問は口頭、書面、メールで受け付けている。

専門演習Ⅲ	ヤマカワ サトル 山川 悟
Specialized Seminar III	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：文化の方法（笑い、遊び、アート、物語）を利用したマーケティング

ビジネスの場における情報の収集、分析、創出、表現、伝達の技術を磨くことを目標とします。春期においては、マーケッターとしての基本的なリテラシーの取得を目指したトレーニングプログラムを実践します。秋期にはマーケティングプランニング（商品開発、プロモーション開発、新事業開発など）を自ら行なえるようなスキル獲得を目指します。学生コンテストへの参加や、企業訪問、学外視察、外部講師の招聘も行う予定です。

本ゼミ学生が過去に取り組んだ研究テーマとしては、次のようなものがあります。

「企業のユニークな風習・制度と企業理念との関わりに関する研究」「ゲームを通じた地域活性化の研究」「手塚コンテンツを活用した地域活性化の可能性に関する研究」「ローカル線のマーケティング」「社歌の研究」「高田馬場観光地化計画案」「Social Smile Business（ユーモアで社会を変える方法）に関する研究」「ご当地ヒーローの研究」等。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケッターとしての基本的なリテラシーを取得していること	講義中の受講姿勢、質疑応答、ワークショップ、提出物等により評価。 「情報の収集、分析、創出、表現、伝達についての技術力」を評価ポイントとする。	50%
マーケティングプランニング（商品開発、プロモーション開発、新事業開発など）を自ら行なえるようなスキルを獲得していること	講義中の受講姿勢、質疑応答、ワークショップ、提出物、企画書等のアウトプット等により評価。 「発想力、企画書作成能力、グループワーク推進能力、他者や社会に働きかける力」を評価ポイントとする。	50%
評価の方法 評価の配分：80%以上の出席を条件に、授業中アウトプット50%、ゼミ運営に対する貢献度50%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	秋期オリエンテーション
2	相互理解プログラム	17	企業訪問準備①
3	ビジネスリテラシートレーニング①	18	企業訪問準備②
4	ビジネスリテラシートレーニング②	19	企業訪問準備③
5	ビジネスリテラシートレーニング③	20	企業訪問
6	ビジネスリテラシートレーニング④	21	グループワーク①
7	創造的思考法トレーニング①	22	グループワーク②
8	創造的思考法トレーニング②	23	グループワーク③
9	創造的思考法トレーニング③	24	グループワーク④
10	創造的思考法トレーニング④	25	グループ研究発表①
11	消費者理解トレーニング①	26	グループ研究発表②
12	消費者理解トレーニング②	27	グループ研究発表③
13	消費者理解トレーニング③	28	グループ研究発表④
14	消費者理解トレーニング④	29	流通視察・ショールーム見学
15	総括と達成度の確認	30	総括と達成度の確認

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：山川悟、他著『応援される経営』光文社、等

【履修条件等】

◇マーケティング、商品開発、広告宣伝などの分野に興味があること。

◇PCである程度のドキュメント作成ができること。

◇好きでこだわりを持っている分野があり、それをビジネスやマーケティングと結びつけてみたいと思っている人が望ましい。

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を受講していること。

◇担当教員の専門科目を前向きに受講しようとする意思のある人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇大学時代の日常的な読書やメディア接触（新聞購読等）、商品の使用体験などは、基礎トレーニングと一緒に。10年20年後に、そうした基礎体力がモノをいいます。本ゼミでは、そうしたことを重視したいと思います。

【その他の注意事項】

◇ゼミにおける研究活動について詳細を知りたい人は、下記を参照してください。

<http://yamakawaseminar.jimdo.com/>

専門演習Ⅲ	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Specialized Seminar III	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：経営学

この専門演習では、卒業後の具体的な進路に向けた問題設定をふまえ、それぞれの問題意識や関心にしがった産業や企業の研究を深めることを目的とします。「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」での学習内容をふまえ、大学での4年間の学びの集大成として、経営学の基本課題について学び、現代の企業社会についての理解を深めます。

座学によるテキストの講読、レジュメの作成や討論に平行して、就職活動で得た知見や経験をふまえながら、各自の調査研究の報告等を実施します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1. 経営学の基礎的知識の習得	毎回の授業での討論、レジュメの作成、レポート作成によって評価をします。	20%
2. 個々の問題意識の醸成	同上。	20%
3. チームで働く力の養成	特定のテーマに基づいたグループ学習での、チームへの貢献度、ディスカッション能力等によって評価します。	30%
4. 創造的な思考力の養成	同上。	30%
評価の方法	ゼミナール活動全般を通じて、上記の4項目において、自己成長できたか、設定した目標に到達できたかを、評価の主な方針とします。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	オリエンテーション
2	課題の設定(1)	17	課題の設定(1)
3	課題の設定(2)	18	課題の設定(2)
4	資料調査(1)	19	資料調査(1)
5	資料調査(2)	20	資料調査(2)
6	資料調査(3)	21	資料調査(3)
7	報告資料の作成(1)	22	報告資料の作成(1)
8	報告資料の作成(2)	23	報告資料の作成(2)
9	報告資料の作成(3)	24	報告資料の作成(3)
10	報告資料の作成(4)	25	報告資料の作成(4)
11	報告資料の作成(5)	26	報告資料の作成(5)
12	報告資料の作成(6)	27	報告資料の作成(6)
13	プレゼンテーション演習(1)	28	プレゼンテーション演習(1)
14	プレゼンテーション演習(2)	29	プレゼンテーション演習(2)
15	春学期ふりかえりおよびまとめ	30	秋学期ふりかえりおよびまとめ

【使用教材】

◇テキストは初回オリエンテーションにて指示します。

【履修条件等】

◇「経営組織論Ⅰ」、「経営組織論Ⅱ」、「経営管理論」等、経営学の専門科目を必ず履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指定されたテキストの予習を必須とします。主体的な参加が求められますので、予習を心がけてください。

【その他の注意事項】

◇自分の考えや興味関心を大事にしてください。楽しんで学べるように努力してください。

卒業論文	
Graduation Thesis	基本科目／通年／2単位

【授業概要（内容、到達、教授法）】

連続演習の研究の総まとめとしての卒業論文作成の指導を行う。

演習の学習過程で得られたテーマを卒業論文として完成させるため、資料・文献の検索から仮説構築や論理構成、論文形式での執筆などを個別に指導する。

1、2週間に1回程度、オフィス・アワーの時間帯に指導する。

【使用教材】

◇教科書：必要に応じて指示する。

◇参考書：必要に応じて指示する。

【評価方法】

◇論文執筆過程の努力および完成した卒業論文により評価する。

論文は20,000字（400字詰原稿用紙50枚）以上。

【履修条件・提出締切日】

◇連続演習の担当者が履修を認め、2・3年次（3年次編入生は3年次のみ）に「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」の単位を修得したもの。

提出締切日：2020年1月17日（金） 15:00まで

提出先：学務部

【授業計画】

<春学期>

1. 卒業論文の作成概要指導
2. 各自のテーマ決定の確認・助言
3. 論文の形式、構成の指導
4. テーマに関する資料・情報の収集法指導
5. 論文作成（中間）の指導
6. 中間発表

<秋学期>

1. 夏期休暇中の研究成果の確認
2. 論文完成に向けての指導
3. 最新のデータとの照合
4. 論文要旨に対するディスカッション
5. 論文の完成・最終稿のチェック
6. 卒業論文発表会

環境経営学	フジモリ 藤森 ダイスケ 大祐
Environmental Management	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

環境問題は現代の企業において積極的に対応すべき必須の課題となっている。近年話題となっている環境問題としては、地球温暖化やエネルギー問題が挙げられるが、本講義ではそれらの現代的な環境問題よりも以前から起きていた問題にも焦点を当てて講義を展開していく。具体的には、初期の公害問題として知られている足尾銅山問題や四大公害問題などから考察していくことで、環境問題と企業の本質的問題を捉えていく。それらをベースにして、地球環境問題の代表的な問題を考察しながら、現代の企業の課題を考えていきたい。また、後半では廃棄物問題への対応、リサイクルの推進、エネルギー問題などに関する企業の取り組みを見ていく。最後に、環境マネジメントシステムなど、環境経営の代表的なツールについて論じる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
さまざまな環境問題の基礎知識を習得する	試験やレポートによって知識を問う。	30%
環境問題と企業との関係を理解する	試験やレポートによって企業と環境問題がどのような関係にあるかを問う。	30%
環境問題への企業のあり方を理解する	試験やレポートによって、企業が環境問題に対してどのような取り組みをしているか、またどのような取り組みをしていく必要があるかについての理解を問う	40%
評価の方法	70%以上の出席を前提とし、試験60%、レポート30%、平常点10%で評価する。 試験は定期試験によって評価し、平常点は講義内での態度やコメントなどで評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	講義ガイダンス	講義の概要、進め方、評価方法など
2	足尾銅山問題	銅山による鉱毒と煙害、問題の構造
3	水俣病問題	水銀汚染と企業の対応、問題の構造
4	四大公害	四大公害の概略と企業の対応
5	公害対策の進展と後退	四大公害の反省としての対策とその後退
6	公害輸出問題	公害輸出の事例とその概要
7	地球環境問題の概要	地球環境問題の特質、現状の把握、企業の役割
8	オゾンホール問題	オゾンホールの原因と防止策
9	地球温暖化問題	温暖化のメカニズム、温暖化対策
10	エネルギー問題	自然エネルギーと化石燃料、原発
11	廃棄物問題	廃棄物の現状と問題点、適正処理の取り組み
12	リサイクル	リサイクル社会に向けてのさまざまな取り組み
13	環境マネジメントシステム	環境マネジメントシステムの概要、効果と問題点
14	環境コミュニケーション	環境コミュニケーションの概要、実践事例
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しない。随時必要な資料を配布する。

【履修条件等】

◇少なくとも「経営学概論」を取得していること。できれば他の経営学の主要科目を取得していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇シラバスに従い、次回の内容について簡単に調べ、予備知識を得ておいてもらいたい。

【その他の注意事項】

◇講義内容を参考にさまざまな問題に関心を持って自発的に学んでもらいたい。

ベンチャービジネス	アオヤマ カズマサ 青山 和正
Venture Business	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

ベンチャー企業概念、歴史の変遷を理解した上で、ベンチャー企業の起業家の特性と行動、アイデア発想や事業機会の認識、ビジネスモデルのパターンと工夫、マーケティング、組織づくり、ベンチャーファイナンス、新興株式市場への上場条件、ベンチャー支援策の活用などを学ぶ。

講義に加えて、ベンチャー企業に関わる事例研究や演習を行う。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ベンチャー企業、起業家の基礎的な知識や進め方の考えを理解していること	ベンチャー企業の社会経済における重要性、特性、起業家の条件・行動などの基礎的な知識を理解しているかを評価する。	10%
ベンチャー企業のビジネスモデル形成のための基本的な要件やフレームワークを理解していること	ベンチャー企業の事業展開をする上でのビジネスモデルの形成とその要件やフレームワークが理解されているかどうかを演習による評価する。	10%
ベンチャー企業の成長段階での経営のあり方を理解していること	ベンチャー企業の成長段階（アーリー、ミドル、レーター）での、経営戦略、マーケティング、組織、ファイナンスの専門的知識を習得しているかを評価する。	20%
ベンチャー企業の基礎から応用までの成長ステップと各成長段階のベンチャー経営の専門知識を理解していること	起業家精神の涵養とベンチャービジネスの仕組みを十分に習得しているかを試験により評価する。	70%
<p>評価の方法 70%以上の出席を前提として試験70%、演習20%、出席10% 試験は論述により、演習は小テストにより基礎的な学習成果を評価する。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方
2	起業家の特性と行動	起業家の資質、条件、起業行動
3	ビジネスモデルの基本(1)	アイデア発想からビジネスモデルの構築
4	ビジネスモデルの基本(2)	優れたビジネスモデルのパターン (演習1) ビジネスモデルの検討
5	ビジネスモデルの基本(3)	ブルーオーシャン戦略とベンチャー企業
6	マーケティング①	ベンチャー企業のマーケティング活動
7	マーケティング②	サービスマーケティング活動 (演習2) 事例分析
8	組織マネジメント①	ベンチャー企業の組織行動とマネジメント
9	組織マネジメント②	ベンチャー企業の人材育成と社員のモチベーション策 (演習3) 急成長する組織づくり
10	ファイナンス①	ベンチャー企業の多様な資金調達 (演習4) ベンチャーファンナンス
11	ファイナンス②	ベンチャーキャピタルの仕組みと目利き
12	ファイナンス③	企業価値と株価の決め方 (演習5) 企業価値の算定
13	ファイナンス④	株式公開と資本構成
14	ベンチャー支援策	ベンチャー支援政策、制度の活用
15	まとめ	

【使用教材】

- ◇教科書：随時、講義時間中に資料等を配布する。
- ◇参考書：金井一頼他著『ベンチャー企業経営論』有斐閣

【履修条件等】

- ◇「新事業創造論」を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に演習問題を配布するので、事前に学習しておくこと

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

ベンチャービジネス	<small>カタヤマ ゲンジロウ</small> 片山 源治郎 眞山香織・児玉陽平 ・隅田浩司
Venture Business	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

テーマ：事業を授業に！ アイスクリーム事業から創業について学ぶ

この講義では、本学五号館に設置されたアイスクリームラボ（株式会社ジャスピコ）を中心とするアイスクリーム事業の創業からその事業展開の進行に合わせて、起業するとはどのような意味を有するのか、ベンチャービジネスとは何か、そして事業展開を目指す上で経営学はどのように活用されているのかを実践的に学びます。したがって、この授業では、講義と演習が組み合わさる形の授業です。この講義を受講することによって、ベンチャービジネスに自分が参加する形で実践的に経営学のあらゆる要素について学ぶことができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1. 経営学に関する基礎知識を応用できる	経営学で学んだそして学んでいる知識を実践の中でどのように応用できているか否かを講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の20%
2. ベンチャービジネスの特徴を理解する	ベンチャービジネスとは何か、そしてそのビジネス上の特徴、課題そして困難な問題について、経営戦略、マーケティング、ファイナンスなどが有機的に連携していることを理解しているか否かを講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の30%
3. 創業のための創造性を身につける	ベンチャービジネスは、ゼロからの創業を含みます、最初のアイデアをどう実践し、事業創造につなげるための方法論を理解しているか否かについて、講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の20%
4. 協働性を身につける	この講義は演習型の講義であり、他の受業生とのグループ学習を行います。他の受業生および講師と一体となってプロジェクトに取り組むという協働性を身につけているかどうかを、講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の30%
評価の方法	毎回の講義での受講態度、プレゼンテーション・レポート評価および期末試験の成績によって評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入講義	開講に際して注意点および導入講義を実施
2	ベンチャーとは？	ベンチャービジネスに関する解説講義
3	事業計画とは？	事業計画の立案に関する講義
4	事業計画演習 1	アイスクリーム市場に関する演習
5	事業計画演習 2	事業アイデアに関する演習
6	事業計画演習 3	顧客・ポジショニングに関する演習
7	事業価値	事業価値に関する講義
8	食品と健康	オーガニック、ヴィーガンの概念について解説
9	資金・コスト	事業計画における資金・コストに関する講義
10	資金・コスト演習 1	利益モデルに関する演習
11	資金・コスト演習 2	調達、コスト管理に関する演習
12	資金・コスト演習 3	キャッシュフローモデルに関する演習
13	事業計画立案演習	学生による事業計画立案
14	事業計画プレゼン	学生による事業計画のプレゼンテーション、評価
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教材はとくに使用しません、講義中に参考文献を指示します。

【履修条件等】

◇原則として秋学期の「新事業創造論（片山源治郎）」の履修が条件です。

◇この授業は単なる講義ではありません、遅刻、欠席はもとより授業途中で居眠りや講義と関係ない作業を行った学生は即時履修停止になります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義中に課題が提示されますので、期日までに課題を実施してください。

◇課外学習を行う場合があります、詳細は講義で説明します。

【その他の注意事項】

◇この講義を履修すれば、ビジネスそのものに触れることができます。

皆さんにとって大きなチャンスです。

しかし、単位取得だけを目的に履修する学生はこの講義は適していません。

ベンチャービジネス	<small>キン ヒロムネ</small> 金 弘宗
Venture Business	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

企業は日々直面する課題に対して解決策を見出し社会に価値を提供する存在です。企業活動を通じて得られた経験や大学の研究成果等を統合させた有益な技術を社会に普及させることで、より賢慮に満ちた未来社会が創り出せると考えます。

本授業はその担い手として期待されるベンチャー企業を創業したい、また企業に就職してリーダーシップを発揮したいという夢を持つ学生を対象とします。授業では時にゲスト講師を迎えつつ、プレゼンテーションを繰り返すスタイルで技術や必要な知識を理解しながらビジネスを考えます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)ベンチャービジネス論の方法論	ベンチャービジネス論の講義・演習中に登場する概念の意義および研究手法の理解度を講義中の質疑、レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
2)ベンチャービジネス論の最新論点の理解	ベンチャービジネス論で紹介する最新論点を理解し、課題などを正確に理解しているか、講義・演習中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
3)分析力	学習・到達目標(1)、(2)を前提として、ベンチャービジネス論で習得した知識を活用し、企業の経営課題を発見できるか、講義・演習中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
4)ベンチャービジネス論を生かした事業創造の方法論の理解	学習・到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、経営情報を生かした事業の方法論を理解しているかについて、講義・演習中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
評価の方法	評価配分は、演習での発表内容、期末試験・レポートを60%、演習参加姿勢、演習参加態度を40%として評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入講義	開講に際して注意点および導入講義を実施
2	ベンチャー企業の意義	ベンチャー企業、ビジネスの概要について解説
3	事業計画総論	事業計画とは何かについて解説
4	市場調査	事業計画の前提となる市場調査の解説
5	市場分析	市場データに基づく市場分析の解説
6	事業アイデア総論	事業アイデア創造に関する解説
7	事業価値	事業価値に関する講義
8	事業価値評価	事業価値の定量評価に関する解説
9	資金・コスト	事業計画における資金・コストに関する講義
10	資金計画	資金計画に関する講義
11	コスト管理	事業に関するコスト計算の講義
12	キャッシュフロー	キャッシュフローに関する解説
13	売上予想	事業計画における売上げ予想について解説
14	事業評価	事業計画の評価方法について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇演習で取り扱う情報技術、事例は最新のものが多く、テキストの内容がすぐに陳腐化するため教科書を指定しない。その代わりに、関係資料、講義資料などを配付する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇演習において指示された資料やウェブサイトを必ず事前に調べ、その内容について簡単にまとめておくこと。なお、予習課題を提示する場合もあるので、授業中の指示に従うこと。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語、無断退席、私用でのスマートフォンなどの携帯端末の使用、内職は厳禁、これを守れない社会常識のない学生は履修停止とする。

新事業創造論	<small>カタヤマ ゲンジロウ</small> 片山 源治郎 <small>マコト ヤマノ</small> ・ <small>ヒメタマ ヒロユキ</small> <small>・ 隅田 浩司</small>
New Business Creation Theory	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

テーマ：事業を授業に！ アイスクリーム事業を創造する

この講義では、本学五号館に設置されたアイスクリームラボ（株式会社ジャスコ）を中心とするアイスクリーム事業の創業からその事業展開の進行に合わせて、新事業の創造を実際に体験しながら、経営の現場で発生するさまざまな問題を皆さんと一緒に解決していきます。したがって、この授業では、講義と演習が組み合わさる形の授業です。この講義を受講することによって、新事業に自分が参加する形で実践的に経営学のあらゆる要素について学ぶことができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1. 経営学に関する基礎知識を応用できる	経営学で学んだそして学んでいる知識を実践の中でどのように応用できているか否かを講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の20%
2. 事業創造の特徴を理解する	事業創造とは何か、そしてその特徴、課題そして困難な問題について、経営戦略、マーケティング、ファイナンスなどが有機的に連携していることを理解しているか否かを講義及び演習そして期末試験によって評価します。	評価の30%
3. 創造性と継続性という事業創造の重要ポイントを身につける	事業は、立ち上げるだけでは意味がありません。事業継続の中で、日々事業の創造が求められます。事業創造や改善のアイデアをどう実践し、事業を継続するのか、その方法論を理解しているか否かについて、講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の20%
4. 協働性を身につける	この講義は演習型の講義であり、他の受業生とのグループ学習を行います。他の受業生および講師と一体となってプロジェクトに取り組むという協働性を身につけているかどうかを、講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の30%
評価の方法	毎回の講義での受講態度、プレゼンテーション・レポート評価および期末試験の成績によって評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入講義	開講に際して注意点および導入講義を実施
2	事業創造とは？	事業創造に関する解説講義
3	創造とは？	創造性の科学に関する解説講義
4	事業創造の方法論	事業創造の方法論に関する講義
5	事業創造演習	アイスクリーム事業に関する事業創造の方法論演習
6	事業創造評価	事業創造に関する学生のプレゼンおよび評価
7	事業展開	アイスクリーム事業の事業展開について解説
8	販売促進	販売促進に関する解説
9	事業展開演習	アイスクリーム事業展開に関する演習
10	事業展開演習	アイスクリーム事業展開に関する演習・質疑応答
11	事業展開評価	事業展開に関する学生のプレゼンおよび評価
12	新事業創造論	新事業創造に関する演習
13	新事業発想演習	学生による新事業創造演習
14	演習の評価	学生による新事業のプレゼント評価
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教材はとくに使用しません、講義中に参考文献を指示します。

【履修条件等】

◇原則として春学期の「ベンチャービジネス（片山源治郎）」の履修が条件です。

◇この授業は単なる講義ではありません、遅刻、欠席はもとより授業途中で居眠りや講義と関係ない作業を行った学生は即時受講停止になります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義中に課題が提示されますので、期日までに課題を実施してください。

◇課外学習を行います、詳細は講義で説明します。

【その他の注意事項】

◇この講義を履修すれば、ビジネスそのものに触れることができます。

皆さんにとって大きなチャンスです。

しかし、単位取得だけを目的に履修する学生はこの講義は適していません。

新事業創造論	キン ヒロムネ 金 弘宗
New Business Creation Theory	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネスは、創造であり、そして事業家は常に挑戦を続けなければなりません。新事業創造論は、起業家精神（アントレプレナーシップ）を発揮する上で不可欠となる新事業の創造をいかにして行うか、その具体的な方法論について学びます。

新事業は、単なる思いつきだけでは創造できません、かといって、型にはまった方法に基づいて自動的に作り出されるものでもありません、この新事業創造を効果的にすすめていくための着眼点、基礎知識、そして具体的な方法論について学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 経営学に関する基礎知識を応用できる	経営学の基礎知識を実践の中でどのように応用できているか否かについて講義、授業での発言および期末試験によって評価します。	評価の25%
2) 事業創造の特徴を理解する	事業創造における経営戦略、マーケティング、ファイナンスの有機的連携を理解しているか否かについて、講義、授業での発言および期末試験によって評価します。	評価の25%
3) 事業創造の基礎的な方法論を習得する	事業創造において、さまざまな関連する発想や、市場動向を踏まえ、深い洞察に基づく事業創造力の基礎が習得できているか否かについて、講義、授業での発言および期末試験によって評価します。	評価の25%
4) 新事業の事業継続性の方法論を理解する	新事業を創造するにとどまらず、持続的成長を目指す上で必要となる知識や方法論の基礎を理解しているか否かについて、講義、授業での発言および期末試験によって評価します。	評価の25%
評価の方法	毎回の講義での受講態度、プレゼンテーション・レポート評価および期末試験の成績によって評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	導入講義	開講に際して注意点および導入講義を実施
2	IoT と事業創造	IoT と事業創造について解説
3	IoT とセキュリティ	IoT を活用した実際の事業創造事例の分析
4	IoT、データと事業	IoT 関連事業創造におけるデータの重要性について解説
5	先端技術と事業創造	先端技術と事業創造について解説
6	産学連携	大学の知恵、知見から生み出す事業創造について解説
7	災害と事業創造	日本における地震・災害の復興に貢献する事業創造について解説
8	地震と事業創造	免震を軸とした事業創造について解説
9	津波と事業創造	シミュレーション技術を中心とした事業創造について解説
10	人命と事業創造	災害からの避難を改善する事業創造について解説
11	地方と事業創造	自治体と企業との協働による事業創造について解説
12	ネットワーク	情報通信技術を活用した事業創造について解説
13	電波と事業創造	経済を支える電波の利活用と事業創造について解説
14	センサーと事業創造	21世紀の必須技術であるセンサーと事業創造について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇演習で取り扱う情報技術、事例は最新のものが多く、テキストの内容がすぐに陳腐化するため教科書を指定しない。その代わりに、関係資料、講義資料などを配付する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇演習において指示された資料やウェブサイトを必ず事前に調べ、その内容について簡単にまとめておくこと。なお、予習課題を提示する場合もあるので、授業中の指示に従うこと。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語、無断退席、私用でのスマートフォンなどの携帯端末の使用、内職は厳禁、これを守れない社会常識のない学生は履修停止とする。

銀行論	シミズ タイヨウ 清水 太陽
Bank Theory	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

今日、我々は生活の際に何らかの形で銀行を利用しているであろう。本講義では、日本の金融システムについて、銀行の役割や機能を中心にして考える。具体的には、中央銀行（日本では日本銀行）、不良債権問題、貸し渋り・貸し剥がし問題、銀行規制の問題、さらにはデリバティブと呼ばれる金融派生商品についても考えてみたい。この講義を通じて、日本の銀行が抱える問題について、自分なりに考えることができるであろう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎知識の理解	テストによって評価する。基礎知識を理解しているか。	20%
内容の理解	テストおよびレポートによって評価する。講義での内容を理解しているか。	20%
制度の理解	テストおよびレポートによって評価する。銀行に関する制度を理解しているか。	20%
知識の応用	テストおよびレポートによって評価する。講義で学んだ知見を生かし、自分の考えを論理的に説明することができるか。	40%
評価の方法 テスト60%、レポート30%、受講態度10%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	講義内容、評価方法についての説明
2	貨幣	貨幣とは何か、貨幣の機能
3	銀行の業務①	預金
4	銀行の業務②	手形貸付と手形割引
5	為替	内国為替と外国為替
6	中央銀行	中央銀行の役割
7	金融機関の種類	民間金融機関、公的(政府系)金融機関
8	金融市場	短期金融市場、資本市場
9	銀行規制	事前的規制と事後的規制
10	セーフティネット	預金保険制度
11	不良債権処理	不良債権処理とは何か
12	為替リスク	為替リスクとは何か
13	デリバティブ	先物、先渡し、オプション、スワップなど
14	新しい銀行論	フィンテックなど
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：指定しない。
- ◇参考書：講義の中で適宜紹介する。

【履修条件等】

- ◇あらかじめ、金融論を受講しておくこと、本講義での理解が深まるであろう。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日頃から、銀行に限らず金融に関する新聞記事やニュースをチェックしておくこと、理解が深まるであろう。

【その他の注意事項】

- ◇授業計画の順番および内容は変更することがある。

証券論	シミズ タイヨウ 清水 太陽
Securities Theory	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

リーマンショックの引き金を引いたのは、「サブプライム・ローン」を組み込んだ証券化商品の破綻であった。このことから明らかなように、証券投資はグローバルに広がっている。日本政府も「貯蓄から投資へ」というスローガンを掲げ、預金から投資へのシフトを推奨していたが、その流れは広がらなかった。

その一方で、個人向け国債、NISA（少額投資非課税制度）などこれからの伸びが期待される商品もある。本講義では、証券の種類や仕組み、証券市場の構造に関して説明する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
証券に関する基礎知識の理解	テストによって評価する。証券に関する基礎知識が身についているか。	20%
証券に関する内容の理解	テストおよびレポートによって評価する。講義での内容を理解しているか。	20%
市場に関する理解	テストおよびレポートによって評価する。債券市場・株式市場について、理解しているか。	20%
知識の応用	これからの証券市場の見通しについて、自分の考えを説明できるか。	40%
評価の方法 テスト60%、レポート30%、受講態度など10%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	講義内容、評価方法についての説明
2	証券の種類	証券の種類と役割
3	市場の種類	短期金融市場と資本市場（長期金融市場）
4	株式市場	発行市場と流通市場
5	株式の分析方法	インカムゲインとキャピタルゲイン、ケインズの美人投票など
6	債券と市場	債券価格と利回りとの関係、債券市場の歴史など
7	金利	現在価値と将来価値など
8	国債	国債についてなど
9	社債	社債の役割など
10	投資	リスクとリターン、リスクと不確実性
11	証券投資理論	ポートフォリオ・マネジメントなど
12	投資信託	投資信託の仕組みなど
13	さまざまな投資対象	E T F など
14	これからの証券市場	これからの証券市場についてなど
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：指定しない。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日頃から、株式や債券に関する新聞記事やニュースをチェックしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇授業計画の順番ならびに講義内容は変更することがある。

生活金融論	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Financial Economics	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、社会において必要とされる金融に関する基礎的な知識を中心に修得する。急速なテクノロジーの発展は銀行業に強い影響を及ぼしている。仮想通貨の誕生や金利のマイナス化といった金融環境の激変は、従来の銀行業を窮地に追い込んでいる。もはや、私たちがお金を銀行に預けておくことは、運用の主要な手段ではなくなった。

社会において、お金と無関係ではいられない。したがって、金融知識は修得が必至である。”金融リテラシー”を身につけ、変化する金融環境において適切な自己判断ができるようになりましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
<ul style="list-style-type: none"> ・ 金融に関する基礎理論と各種テクニカルタームの習得 ・ 金融現象に関する分析能力を身につける 	定期試験の結果、平常点（課題やリアクションペーパーの提出など）、授業参加度を基準に成績を評価する。	定期試験70%、平常点20%、授業参加度10%
<p>評価の方法 本試験の結果および課題等の平常点で成績を評価する。</p> <p>課題例) 復習を兼ねて講義内容に関する練習問題を提出する。基本的に翌週の講義にフィードバック。授業参加度は成績評価に加えないが、全講義の3分の1、5回以上欠席（正当な理由のない欠席）した場合、単位取得は認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	お金の話	貨幣の歴史
3	銀行組織	バランスシートの仕組み
4	金利	単利と複利
5	貨幣の時間価値	係数をつかってみよう
6	社会保険制度	年金制度
7	為替リスクとデリバティブ	先物、オプション・スワップ
8	為替レート分析	円ドルレートの変動を分析する
9	金融資産運用①	株式、債券、投資信託
10	金融資産運用②	E T F
11	タックスプランニング	各種税金と控除
12	不動産	不動産取引、不動産に関する権利や法規制
13	相続・事業継承	贈与と相続
14	保険の話	生命保険と損害保険
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：指定しない。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇5回以上の欠席は評価の対象外とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日頃から金融に関する新聞記事やニュースをチェックして現状を把握すること。

【その他の注意事項】

- ◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

流通論 I	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Channel Management I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

現代の小売・流通企業は、国際的運輸・交通手段の発展、情報通信技術の飛躍的発展、消費者ライフスタイルの多様化といった時代的な環境変化、そして市場変化の加速化、競争の多次元化（コスト、品質、スピード）といった競争環境の変化への戦略的対応が要請されている。本講義では、流通に関する基礎的な知識の習得を目指すとともに、上記環境下における小売・流通企業の戦略について最新のケースを用いながら理論的に検討する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会における流通と商業に関する基本用語を正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。流通と商業の社会における役割に関する設問に答えられること。	25%
日本において発展してきたさまざまな小売業態について説明できること	設問に対する回答によって評価。百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンス・ストア、ディスカウント・ストアなどの業態の特徴に関する設問に答えられること。	25%
日本において発展してきたさまざまな小売業態が起こしたイノベーションについて説明できること	設問に対する回答によって評価。百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンス・ストア、ディスカウント・ストアなどの業態がこれまで起こしてきたイノベーションに関する設問に答えられること。	25%
流通理論に関して正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。流通や商業者の行動原理としての流通理論（売買集中の原理、延期と投機の理論など）に関する設問に答えられること。	25%
評価の方法	全15回の授業のうち3分の2にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	流通とは	現代社会における流通の様相
3	各種小売業態の特徴(1)	食品スーパーとCVSについて
4	各種小売業態の特徴(2)	ディスカウント・ストアとSPAについて
5	各種小売業態の特徴(3)	商店街とショッピングセンターについて
6	変化する流通構造	流通構造の分析
7	小売業態とは何か	業態理論について
8	日本型取引慣行	日本型取引の特徴（流通系列化、建値、リベート）
9	ロジスティクス	現代流通を支える3PL
10	売買集中の原理と品揃え形成	商業の存在意義について
11	商業の外部性と商業集積	商業集積における競争と協調メカニズム
12	投機的流通から延期的流通へ	延期投機理論について
13	生産と流通の分業関係の変化	流通系列化から製販連携へ
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：石原武政・竹村正明編『1からの流通論』碩学舎、2008年

【履修条件等】

◇小売・流通企業に興味・関心を持っていること。

◇遅刻および講義中の私語は厳禁。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、小売流通企業の動向について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

流通論Ⅱ	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Channel Management II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

現代の小売・流通企業は、国際的運輸・交通手段の発展、情報通信技術の飛躍的発展、消費者ライフスタイルの多様化といった時代的な環境変化、そして市場変化の加速化、競争の多次元化（コスト、品質、スピード）といった競争環境の変化への戦略的対応が要請されている。本講義では、「流通論Ⅰ」で学習した内容をベースに、より専門度の高い流通理論のみならず、制度・実態・政策について最新のケースを用いながら理論的に検討する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
流通と商業の社会的役割および流通機能の分類と機能について正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。流通機能の分類と機能に関する設問に答えられること。	25%
現代流通業の実態について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。オペレーションコスト、取引コスト、パワー関係、延期と投機SCMなどの理論に関する設問に答えられること。	25%
ICT化、国際化などの流通業を取り巻く今日的課題について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。流通におけるICT機能の役割、インターネット販売、流通業が国境を越える際に生じる課題に関する設問に答えられること。	25%
流通と公共政策との関連性について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。今日までになされてきた具体的な公共政策内容、およびそれが流通にいかなる影響を及ぼしてきたのかについての設問に答えられること。	25%
評価の方法	全15回の授業のうち3分の2にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	流通を読み解く視点(1)	流通と商業
3	流通を読み解く視点(2)	流通機能の分類と機能
4	流通における機能分担(1)	垂直的分化と統合
5	流通における機能分担(2)	オペレーションコスト、取引コスト
6	流通における組織間関係(1)	チャネルの組織化とパワー関係
7	流通における組織間関係(2)	製販提携と延期型流通、SCMの進展
8	小売業の行動とダイナミクス(1)	小売業態の開発と競争
9	小売業の行動とダイナミクス(2)	小売業の製品開発とブランド・マネジメント
10	卸売業の現状と課題	卸売業界の再編成と“機能強化”競争
11	流通におけるICT活用の展開	ICTの導入、流通ICT化の進展と意義
12	インターネット販売の可能性	インターネット販売の特徴
13	流通と公共政策	まちづくり・公正競争
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：渡辺達朗・原頼利・遠藤明子・田村晃二著『流通論をつかむ』有斐閣、2008年

【履修条件等】

- ◇小売・流通企業に興味・関心を持っていること。
- ◇遅刻および講義中の私語は厳禁。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、小売流通企業の動向について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

商品論	タグチ フユキ 田口 冬樹
Product Management	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

市場には多くの新しい商品が提供されているが、ヒット商品として支持され、ロングセラーにまで発展できる商品は限られている。この講義では、新商品の開発と提供のプロセスを中心に理解を深めることをねらいとしている。一般の消費財だけでなく、企業に必要なビジネス財、飲食やエンターテインメントのようなサービス、アニメや小説などのようなコンテンツ、さらには観光地や水族館のような場所や施設といった商品も対象とし、また商品の安全性確保・資源保全・環境保護の視点からも広く検討を加え、現代に求められる商品論を提案したい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
商品とサービスの役割を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。商品とサービスの関係、商品の構成要件と分類、商品化の仕組み、サービスの商品特性について答えられること。	20%
新製品開発と製品ライフサイクルの両プロセスを関連づけて説明できること	設問に対する解答によって評価。消費者サイドのニーズと企業サイドのシーズの役割、新製品の市場導入による普及のプロセス（キャズムの意味）、コモディティ化について理解し、説明ができること。	20%
現代の商品に求められる社会的条件として、環境・資源・安全性について課題を考察し、理解を深める	設問に対する解答によって評価。現代の商品に求められる品質、エコや安全性、下取りといった問題について、その背景になっている課題を整理し、製品開発や提供の問題点を指摘できること。	30%
商品に対する調査と課題発見および改善提案を行う	設問に対する解答によって評価。身近な商品を取り上げて、企業サイドからはSWOT分析、消費者サイドからは購入・利用・処分の問題点の発見を通してその商品の改善提案書が作成できること。	30%
評価の方法 定期試験70%、授業内実施の小テスト20%、授業への貢献10%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義のねらいと進め方
2	商品とは何か	商品の意味と商品化の仕組み、便益の束とは
3	現代の商品概念	商品とイノベーション：顧客が片づけたい仕事とは
4	消費財とビジネス財	使用目的・顧客対象の違いとは：ミシュランガイドのねらい
5	サービス商品	サービスの商品特性とサービス・ドミナント・ロジック
6	製品計画	ニーズとシーズ、マーチャンダイジングとSPA
7	新製品開発の戦略	ケーススタディ：ユーザー・イノベーション、SNSの活用
8	製品ライフサイクル	新製品の普及とコモディティ化
9	市場細分化	STPとは何か
10	フリーのねらい	商品と価格の関係
11	ブランドと商品	ブランドの役割と戦略のタイプ、ブランドロイヤルティの意味
12	ブランド戦略	ケーススタディ：NBとPB、OEM、地域ブランドの展開
13	日本市場とブランド	日本人のブランド観、新興国のケース
14	商品企画&改善提案	各自が考える商品企画および改善の提案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：田口冬樹著『マーケティング・マインドとイノベーション』白桃書房

◇参考書：田口冬樹著『流通イノベーションへの挑戦』白桃書房

授業開始時ならびに必要なに応じて紹介、とくに「リテールマーケティング（販売士）」資格の受験講座の解説書なども授業時に紹介。

【履修条件等】

◇マーケティング関連科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「ブランドマーケティング論」、「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」、「販売管理論Ⅰ」、「販売管理論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「コンテンツビジネス論Ⅰ」、「コンテンツビジネス論Ⅱ」など）を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時に予告した問題に関し、教科書をよく読んで関連する事例を調べ関心を高めておくこと。

【その他の注意事項】

◇身近な問題を取り上げるとはいつでも、自分で課題を発見し、よく調べて授業に出席すること。

経済法	スミダ コウジ 隅田 浩司
Economic Law	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義は、市場経済を支える経済法（競争法）の法理論と政策を取り扱います。授業では、談合やカルテルを規制する不当な取引制限、独占規制、そして合併や買収が競争に与える影響を分析する企業結合規制、そして不公正な取引方法を取り上げます。この講義を受講することによって、経営に必要な法的知識や法的思考力を習得することができます。またこの講義では、さまざまな業界を取り扱いますので、業界研究に役立つだけでなく、企業の経営戦略やマーケティング戦略についても理解を深めることができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 経済や経営と法の関係の基礎を理解できる	講義中に登場する法概念の意義および要件・効果の理解度を講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
2) 法的論点を正確に理解し、議論することができる	法的論点を理解し、判例・学説の議論状況を把握しているか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
3) 法的論点を含む実例に対して、法知識を応用し、問題解決を導くことができる	学習・到達目標(1)、(2)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の25%
4) 実践的な応用事例に対して、講義内容を活用し解決策を導出することができる	学習・到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む難易度の高い事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の15%

評価の方法 評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%として評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経済法概論	経済法の基礎概念の解説
2	共同行為(1)	不当な取引制限における意思の連絡について解説
3	共同行為(2)	不当な取引制限の諸要件について解説
4	共同行為(3)	不当な取引制限の事例研究
5	事業者団体	事業者団体規制について解説
6	企業結合規制の概要	企業結合規制の概要について解説
7	単独行動規制	単独行動規制について解説
8	協調行動規制	協調行動規制について解説
9	私的独占(1)	排除行為について解説
10	私的独占(2)	排除に関する最新事例について解説
11	私的独占(3)	排除と支配行為について解説
12	不公正な取引(1)	不公正な取引方法の概要の説明
13	不公正な取引(2)	ボイコット、差別対価、不当廉売など
14	不公正な取引(3)	再販売価格維持行為、優越的地位の濫用など
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：教科書は指定しません、資料はすべて CoursePower で配布します。

◇参考書：法律の授業ですので、法律の条文を参照します、条文はインターネットでも参照できます（「e-Gov 法令検索」を使用してください）。ただし紙で参照したい人は、『六法』を購入する方法もあります、たとえば宇賀克也、佐伯仁志（編集）『ポケット六法平成31年度版』（有斐閣、2018年）ISBN：978-4641009196が大学生向けにはおすすめです。（六法は教科書ではありませんので購入の義務はありません）。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業中、予習範囲を指示します。

【その他の注意事項】

◇私語は厳禁です、違反者は、履修停止となります。

労働法	クロイワ ヨウコ 黒岩 容子
Labor Law	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義では、労働法の基本的枠組みや考え方、基礎知識を学びます。現代社会では、人々の多くが雇用されて働き賃金を得て生活し、また、企業は人を雇うことによって営業活動をしています。人を雇うとき、雇われるときの基本的なワーキングルールやその考え方を知っておくことは、自らが尊厳をもって生きていくためにも、公正な社会を築くうえでも必要不可欠なことです。この授業で、是非、生きた労働法の知識を身につけてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
労働法の理念・基本的枠組み・考え方を理解する	基本的な理解ができているかを、テストおよび授業中の質疑の中で判定します。	40%
労働法の基礎的知識を習得する	基礎的知識を取得できているかを、テストおよび授業中の質疑の中で判定します。	40%
事実に基づいて論理的に思考する姿勢の習得	テストおよび授業中の質疑のなかで判定します。	20%
<p>評価の方法 期末テスト50%の他、授業中に中間小テスト40%を行います。 また授業中の質疑等への貢献度10%も評価します。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	労働法の特徴。労働法の学び方。
2	労働法の歴史と機能	雇用システムと労働法
3	労働法上の当事者。 労働条件の決定	労働者、使用者、労働組合。 労働法・労働契約・就業規則・労働協約
4	労働契約の成立	就職・採用に関する法的ルール
5	賃金	賃金に関する法的ルール
6	労働時間・休日・休暇	労働時間・休日・休暇に関する法的ルール
7	人事異動	配転、出向、移籍に関する法的ルール
8	労働契約の終了	退職、解雇、雇止めに関する法的ルール
9	差別・ハラスメント	職場の差別やハラスメントの撤廃と法
10	ワーク・ライフ・バランス	ワーク・ライフ・バランスに関する法的ルール
11	非正規雇用問題	パート・アルバイト・契約社員・派遣社員と法的ルール
12	集团的労使関係	労働組合、団体交渉と労働協約
13	職場の安全衛生	労働災害、過労死問題
14	労働をめぐる紛争	職場のトラブルとその解決手段
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用しません。授業の際にレジュメおよび資料を配付します。
- ◇参考書として、浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子『ベーシック労働法 第6版補訂版』有斐閣アルマ、2016年。
また、授業のなかで参考文献を紹介します。

【履修条件等】

- ◇とくに条件はありませんが、「法学Ⅰ」、「法学Ⅱ」等の法律科目をすでに履修済み、ないし同時に履修していることが望ましいです。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇現実の社会で、労働に関してどのような問題が生じているのか、新聞報道などに注意を払い、問題関心を持って授業に臨んでください。また、しっかり復習して、基本的知識を確実に習得してください。

【その他の注意事項】

- ◇進行状況および受講生の問題関心等によって、スケジュールを変更することがあります。
- ◇また、授業中は私語厳禁です。

消費者法	スミダ コウジ 隅田 浩司
Consumers Law	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、消費者法を学びます。世の中には悪徳商法や、いかがわしいビジネスにだまされて大金を巻き上げられてしまう人が沢山います。皆さんがそうならないためには、消費者法を学び、どんな悪徳商法があるのかをよく知る必要があるのです。特に景品表示法は、ビジネスをする上でも大切な法律です。なぜなら、景品表示法に違反した企業は、消費者の信頼を失うだけでなく、消費者庁又は関係省庁から行政命令や、課徴金という制裁を受け、さらに消費者団体から訴えられるからです。景品表示法違反等消費者法違反は、マスコミで報道されることもあります。ビジネスにおいて重要な消費者法を学ぶことによって、1)自分自身が、悪徳商法にだまされなくなり、2)消費者に配慮したビジネスを行うことができるようになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 経済や経営と法 の関係の基礎を 理解できる	講義中に登場する法概念の意義および要件・効果の理解度を講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
2) 法的論点を正確 に理解し、議論 することができる	法的論点を理解し、判例・学説の議論状況を把握しているか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
3) 法的論点を含む 実例に対して、 法知識を応用し、 問題解決を導く ことができる	学習・到達目標(1)、(2)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の25%
4) 実践的な応用事 例に対して、講 義内容を活用し 解決策を導出す ることができる	学習・到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む難易度の高い事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の15%
評価の方法 評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	消費者法総論	消費者問題と消費者法の全体構造を解説
2	消費者契約法	消費者契約法について解説
3	景品表示法総論	表示規制の前提となる理論的背景の説明
4	表示規制	表示、広告の与える影響と表示規制について解説
5	優良誤認表示の理論	優良誤認表示の法構造について解説
6	優良誤認表示の事例	優良誤認表示の事例分析
7	有利誤認表示の理論	有利誤認表示の法構造について解説
8	有利誤認表示の事例	有利誤認表示の事例分析
9	表示と広告	原産地表示など表示規制について解説
10	各業界と表示	各業界特有の規制と公正競争規約について解説
11	課徴金	景品表示法における課徴金制度について解説
12	表示規制と企業	企業の表示規制対策について解説
13	景品規制総論	景品規制の理論的背景について解説
14	景品規制各論	コンプガチャなど景品規制の解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：教科書は指定しません、資料はすべて CoursePower で配布します。

◇参考書：法律の授業ですので、法律の条文を参照します、条文はインターネットでも参照できます（「e-Gov 法令検索」を使用してください）。ただし紙で参照したい人は、『六法』を購入する方法もあります、たとえば宇賀克也、佐伯仁志（編集）『ポケット六法平成31年度版』（有斐閣、2018年）ISBN：978-4641009196が大学生向けにはおすすめです。（六法は教科書ではありませんので購入の義務はありません）。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義中に予習の指示をします。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁です。守れない学生は、他の学生に迷惑となりますので、見つけ次第、直ちに履修停止とします。

経済政策	シミズ タイヨウ 清水 太陽
Economic Policy	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

経済政策とは、現実直面する経済の課題に、どのように対処するかを考える学問である。その土台となるのは、経済学の基礎知識である。

本講義では、基礎知識の確認を行いつつ、金融政策、財政政策、国際経済の問題などを検討することを通じて、経済政策に関する理解を深めてもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎知識の習得	テストによって評価する。経済政策の基礎知識が身についているか。	20%
内容の理解	テストおよびレポートによって評価する。講義の内容を理解できているか。	20%
制度の理解	テストおよびレポートによって評価する。経済政策に関する制度を理解できているか。	20%
知識の応用	テストおよびレポートによって評価する。講義で身につけた知識を使って、実際に採るべき経済政策について、説明できるか。	40%
評価の方法 テスト60%、レポート30%、授業態度など10%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	講義内容、評価方法についての説明
2	金融政策①	金融論の基礎知識
3	金融政策②	中央銀行の役割
4	金融政策③	金利について
5	金融政策④	金融政策の手段について
6	財政政策①	財政論の基礎知識
7	財政政策②	年金について
8	財政政策③	税金について
9	財政政策④	財政政策の手段について
10	国際経済①	国際経済についての基礎知識
11	国際経済②	国際経済の問題をいかに解決するか
12	エネルギー政策	エネルギー問題の概観
13	エネルギー政策②	原発と新エネルギー
14	経済政策	経済政策論について
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：指定しない。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇その日学習する分野について、経済学のテキストを読んでおくと、講義での理解が深まるであろう。

【その他の注意事項】

- ◇授業計画および内容は変更することがある。

消費者行動論 I	ナカジマ レイコ 中嶋 励子
Consumer Behavior I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

消費者は、どのようなことを考え、どのように購買行動を行っているのでしょうか。消費者行動は、経営学をはじめとして、心理学、社会学、行動経済学等、広い分野と関わっています。この授業では、消費者行動の基本的な理論を学びながら、事例をもとに理解を深めていきます。

また、企業が国内外でマーケティング活動を行うためには、その国・地域の文化や消費者行動を理解する必要があります。最近の事例を通して、マーケティングについても学んでいきます。

事例や課題への取り組み等の参加型の授業を通して、自分達で考えながら理解する力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と、主な研究方法について、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者行動に対する基本的な考え方、消費者行動研究の主要なアプローチ方法を理解し、答えられること。	30%
消費者行動に影響を与える内的・外的要因について理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者の知覚、記憶、態度形成等について理解し、答えられること。 消費者行動が周囲の人々や社会から受ける影響要因について理解し、答えられること。	30%
企業の経営企画・マーケティング活動と消費者行動の関連を理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者の行動を理解することが、企業のマーケティング活動にどのように関わるのか、具体例を通じて理解し、答えられること。	40%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、平常点20%（授業時に提出を求めるペーパーの内容で評価）、課題20%、試験60%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、内容について、消費者行動とは何か
2	研究の主要アプローチ方法	消費者行動研究の主な理論とモデル
3	消費者の知覚	消費者の知覚のプロセス等
4	消費者の記憶	消費者の記憶のプロセス
5	消費者の知識と記憶	消費者の知識・記憶
6	消費者の個人特性	消費者の個人特性
7	意思決定プロセス	消費者の意思決定プロセス
8	問題認識・情報探索	問題認識段階と情報探索段階
9	選択評価	選択・代替品の評価
10	購買意思決定	購買意思決定と状況要因
11	購買後の評価	購買後の評価とその影響
12	消費者行動と文化(1)	文化による影響
13	消費者行動と文化(2)	文化に適合させた製品開発事例について
14	消費者調査	マーケティング・リサーチの主な手法と事例
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用せず（授業時に配布する授業資料を使用）
- ◇参考図書：青木幸弘著『消費者行動の知識』日経新書
平久保仲人著『消費者行動論』ダイヤモンド社
他（授業内で順次紹介）。

【履修条件等】

- ◇マーケティング関連の科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「アパレル経営」（他学科科目）、「ショップ経営」（他学科科目）など）を受講していることが望ましい。
- ◇授業内課題および授業外課題は、必ず提出すること（提出期限厳守）。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業内容に関して指定する資料（配布資料、新聞記事など）に目を通しておくこと。
- ◇自らも消費者であることを認識し、自分の購買行動に関心を持ち、考察すること。

【その他の注意事項】

- ◇授業中の私語や遅刻については、厳重に注意する。

消費者行動論 I	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Consumer Behavior I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、消費者行動の基本的な考え方について学んだあと、購買行動に影響を及ぼす心理的要因について解説を行う。具体的には、商品を購入する際の意味決定プロセスや欲求との関わり、商品への関与度や態度形成が購買行動に与える影響などについて説明をする。自身の購買行動について理論的に理解できるようになるとともに、消費者行動と企業のマーケティング戦略との関わりについても理解できるようになることが目標である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者行動の基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、消費者行動に関する用語を答えられること。	20%
消費者の認知を理解し、購買行動に与える影響について説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者の知覚が商品選択や情報理解に与える影響、商品知識の構造と購買行動へ与える影響などについての理論を理解し、答えられること。	25%
消費者の心理的要因について理解し、購買行動との関わりについて説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者の欲求と動機づけが購買行動に与える影響、商品に対する関与や態度の概念を正確に理解し、情報探索行動や購買行動に与える影響について答えられること。	25%
消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。自身の消費者行動を科学的に理解し、企業のマーケティング活動との関わりについて答えられること。	15%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	消費者行動の定義と基本的な考え方について
2	問題解決としての購買行動	購買行動の考え方と消費者行動のアプローチ方法
3	購買意思決定プロセス	消費者の購買意思決定プロセスについての解説
4	消費者の欲求と動機づけ	欲求が購買行動に与える影響と動機づけの形成
5	知覚のプロセスと特徴	知覚のメカニズムと知覚が消費者行動に与える影響
6	記憶の種類と役割	消費者の記憶の種類と記憶が消費者行動に与える影響
7	知識の種類と役割	消費者の知識の種類と知識が消費者行動に与える影響
8	知識の高低による違い	消費者の商品知識の高低が購買行動に与える影響
9	製品関与と購買への影響	製品関与が商品購入に与える影響
10	購買関与と広告関与	購買関与と広告関与が消費者に与える影響
11	消費者の態度形成	態度概念と購買行動との関わり
12	態度変容と説得	多属性態度モデル、態度変容とコミュニケーション
13	価格の心理	心理的財布、価格判断の状況依存性
14	購買後の心理	購買後の心理と次購買へ与える影響
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて、資料等を配布する。

【履修条件等】

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常生活における自身や他者の購買行動を理論的、科学的に考察すること。

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

消費者行動論Ⅱ	ナカジマ レイコ 中嶋 励子
Consumer Behavior II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、消費者行動の基本的な理論の理解を踏まえ、消費者行動に関する社会的、文化的、個人内要因の理解を深めていきます。

また、データ分析をもとにした消費者行動分析について学び、データ分析や観察を通して、理解を深めていきます。さらに、消費者行動の分析が企業のマーケティングに活用されている事例から、マーケティング活動との関連についての理解も深めていきます。

最近の動向や事例を通して、考えながら、消費者行動を理解する力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動のプロセスを説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者行動のプロセスについて、研究事例および自分自身の行動と関連させて理解し、説明できること。	20%
消費者行動の影響要因を理解し、自分の行動に関連して説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者を取り巻く外的および個人内要因が消費行動に与える影響について、自分の行動と関連させて理解し、説明できること。	40%
企業のマーケティング活動との関連を説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者の行動と企業のマーケティング活動の関連を、具体例を通じて理解し、答えられること。	40%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、平常点20%（授業時に提出を求めるペーパーの内容で評価）、課題20%、試験60%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、授業内容について
2	消費者行動の影響要因	意思決定の主要モデルとさまざまな要因について
3	外的要因	消費者を取り巻く外的要因と影響
4	内的要因	消費者の個人属性、ライフスタイルと消費行動
5	消費者行動とリサーチ(1)	質的調査の主な手法について
6	購買前行動・状況要因	計画購買と非計画購買
7	非計画購買	非計画購買の行動観察
8	購買後評価とその影響	購買後の評価、購買後の評価の影響
9	無店舗販売と消費者行動	無店舗販売における影響要因と購買後評価
10	消費者行動とリサーチ(2)	量的調査の主な手法について
11	マーケティング活動の影響	マーケティング活動が消費者行動に与える影響
12	マーケティング事例(1)	広告の役割・効果、ブランド・イメージ等
13	マーケティング事例(2)	消費者行動を考慮したマーケティング戦略の事例
14	最新の消費者行動研究の動向	観察法、ビッグデータ分析などの最近の事例を学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用せず（授業時に配布する授業資料を使用）
- ◇参考図書：青木幸弘著『消費者行動の知識』日経新書
平久保仲人著『消費者行動論』ダイヤモンド社
他（授業内で順次紹介）。

【履修条件等】

- ◇マーケティング関連の科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「アパレル経営」（他学科科目）、「ショップ経営」（他学科科目）など）を受講していることが望ましい。
- ◇授業内課題および授業外課題は、必ず提出すること（提出期限厳守）。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業内容に関して指定する資料（配布資料、新聞記事など）に目を通しておくこと。
- ◇自らも消費者であることを認識し、自分の購買行動に関心を持ち、考察すること。

【その他の注意事項】

- ◇授業中の私語や遅刻については、厳重に注意する。

消費者行動論 II	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Consumer Behavior II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、購買行動に影響を及ぼす心理的な要因を学ぶとともに、消費者を取り囲む環境要因や状況要因など、消費者行動に影響を与える要因について多面的な視点から解説を行う。また、消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて考察できるようになるとともに、自身の購買行動について理論的に理解できるようになることが目標である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方や専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者行動の基本的な考え方やアプローチ方法を理解し、消費者行動に関する用語を答えられること。	20%
消費者行動に影響を与える環境要因について理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者を取り囲む環境要因である他者や社会が購買行動に与える影響、店舗内環境要因などの影響について理解し、答えられること	25%
消費者行動にみられる近年の変化や消費者問題について説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。インターネットの普及による消費者行動の変化、消費者問題の現状等を消費者心理とともに理解し、答えられること。	25%
消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。自身の消費者行動を科学的に理解し、企業のマーケティング活動との関わりについて答えられること。	15%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方と授業内容について
2	消費者の個人特性	個人特性による類型論と購買行動への影響
3	消費者のライフスタイル	新製品の普及過程理論とライフスタイルの変化
4	環境要因の影響	環境要因の考え方と環境が消費者行動に与える影響
5	店舗内消費者行動	計画購買と非計画購買、店舗内要因の影響
6	対人的影響(1)	口コミによる購買行動への影響
7	対人的影響(2)	オピニオンリーダー、口コミを利用した企業戦略
8	集団と社会の影響	社会的規範と準拠集団の影響
9	ネット上の購買行動(1)	インターネットの普及による購買行動の変化
10	ネット上の購買行動(2)	インターネットを利用したアプローチと広告戦略
11	カラーの心理と影響(1)	色やデザインが消費者行動に与える影響
12	カラーの心理と影響(2)	色やデザインの戦略的応用について
13	消費者問題(1)	近年の傾向と消費者が巻き込まれやすいトラブル
14	消費者問題(2)	近年の消費者問題対策とトラブル対応
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇「消費者行動論Ⅰ」および「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常生活における自身や他者の購買行動を理論的、科学的に考察すること。

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

販売管理論 I	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Sales Management I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、企業経営におけるマーケティング管理の役割と内容について取り上げる。具体的には、市場調査、製品計画、価格設定、広告、販売員活動、販売促進、販売経路設定、物的流通などがマーケティング管理の対象となる。「販売管理論 I」では、マーケティング管理の全体的枠組みおよび組織デザインについて最近の企業事例を交えながら学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの役割とマーケティングに関する基本用語を正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。マーケティングの内容、マーケティングの役割、マーケティング・マネジメントの機能とプロセスに関する設問に答えられること。	25%
企業が価値を創造し実現するためにはどうアクションを起こすべきか説明できること	設問に対する回答によって評価。新製品・新サービスの開発プロセス、価格の役割、流通チャネル、の機能と類型、プロモーション方法の選択という4P戦略に関する設問に答えられること。	25%
企業の組織体制および資源配分について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。分業、部門化、リーダーの役割といった組織行動、そして職能志向組織と市場志向組織の特徴に関する設問に答えられること。	25%
企業による事業定義および事業目的の多様性について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。事業の定義が多様なことを理解し、マーケティングの近視眼およびマーケティングの遠視眼という事業目的の射程に関する問題についての設問に答えられること。	25%
評価の方法	全15回の授業のうち3分の2にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	市場をつくり出す企業活動(1)	マーケティングの役割と基本枠組み
3	市場をつくり出す企業活動(2)	マーケティング・マネジメントの機能とプロセス
4	価値形成のマネジメント(1)	製品・サービスの開発プロセス
5	価値形成のマネジメント(2)	価格の役割と戦略的価格デザイン
6	価値実現のマネジメント(1)	流通チャネルの機能と類型
7	価値実現のマネジメント(2)	メッセージとメディアの選択
8	マーケティング組織(1)	分業、部門化、リーダーの役割
9	マーケティング組織(2)	職能志向組織と市場志向組織
10	マーケティング資源の配分(1)	市場シェア、規模の経済性、経験効果
11	マーケティング資源の配分(2)	製品ポートフォリオ管理
12	事業の定義(1)	事業の定義による戦略の違い
13	事業の定義(2)	マーケティングの近視眼と遠視眼
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎『ゼミナールマーケティング入門』
日本経済新聞社、2004年

【履修条件等】

◇マーケティング関連の科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」など）のいずれかを並行して履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、企業のマーケティング活動について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

販売管理論Ⅱ	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Sales Management II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

「販売管理論Ⅱ」では、「販売管理論Ⅰ」で習得したことをベースに、消費者行動や競争構造といった市場の論理、産業別の競争要因、そして市場資源構築のマネジメントについて最近の企業事例を交えながら講義をすすめる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティング活動における消費者行動分析の意義について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。マーケティング活動における消費者行動分析の意義、消費者行動を分析するフレームワークについて理解し、さらにはマーケティング・リサーチの分類や手順に関する設問に答えられること。	25%
企業間の競争を規定している要因、およびその動態性について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。産業や戦略グループという枠組みについてバリューチェーン・バリューネットワークの観点から動的に理解し、それが企業の収益性にどのように結びついているのかについての設問に答えられること。	25%
企業外部に蓄積される資源として、チャンネル資産について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。企業のマーケティング活動におけるチャンネル資産の構築の役割と意義について理解し、製販連携や系列店システムのメリットとデメリットについての設問に答えられること。	25%
企業外部に蓄積される資源として、顧客との関係性、ブランドについて正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。企業のマーケティング活動における顧客との信頼関係の構築やブランド構築の役割と意義について理解し、それらに関する設問に答えられること。	25%
評価の方法	全15回の授業のうち3分の2にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	消費者行動の理解(1)	企業と消費者との関係、購買意思決定メカニズム
3	消費者行動の理解(2)	市場細分化とマーケティング・リサーチ
4	競争構造の理解(1)	産業の枠組みと収益性の決定要因
5	競争構造の理解(2)	戦略グループの枠組み
6	取引関係の理解(1)	バリューチェーンとバリューネットワーク
7	取引関係の理解(2)	取引コスト
8	プロセスとしての競争	競争環境の変移性と企業戦略
9	産業のライフサイクル(1)	ライフサイクル初期の競争行動
10	産業のライフサイクル(2)	ライフサイクル後期の競争行動
11	チャネル資産のマネジメント	系列店システムおよび製版連携
12	顧客関係のマネジメント	顧客関係のマネジメントと組織体制
13	ブランドのマネジメント	ブランドの効果とマネジメント
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎『ゼミナールマーケティング入門』
日本経済新聞社、2004年

【履修条件等】

◇マーケティング関連の科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」など）のいずれかを並行して履修していることが望ましい。

あわせて、「販売管理論Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、企業のマーケティング活動について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

コンテンツビジネス論 I	ヤマカワ サトル 山川 悟
Content Business Theory I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

映画・ドラマ・アニメ・マンガ・小説・音楽・ゲーム…といったエンタテインメントコンテンツが経済的価値を生み出すという認識が高まっており、「クールジャパン」の名の下に、日本政府も戦略的産業領域と位置づけています。しかしこうした分野のマーケティングに関する理論的な先行実績は乏しく、これからの研究分野とされています。ここでは、実際の作品および事例を見ながら、実践的な取り組み方を一緒に考えてみたいと思います。また、「コンテンツ体験」をキーワードとした新たな戦略についても考察します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンテンツビジネスの概要や影響力について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げた理論やケースを理解し、自分なりの言葉で記述できるか」を評価ポイントとする。	20%
コンテンツのマーケティング独自の考え方について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたコンテンツマーケティングの方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	40%
コンテンツ体験の持つ意義とその効果について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げた方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	40%
評価の方法		
評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、試験80%・小テストおよび受講姿勢20%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コンテンツとは何か	作品型、知識型、ライブ型、データ型、海外動向
2	コンテンツビジネスの現状と展望	映画、音楽、放送、出版、ゲーム業界の状況
3	コンテンツ消費の実態と特性	ソーシャル視聴、つながり消費、波及関連消費
4	無形性からのアプローチ	ブランド化、エントリー商品、有形化
5	可変性からのアプローチ	マルチユース、バンドリング、クロスメディア
6	芸術性からのアプローチ	スポンサード、アーティスト活用、希少価値化
7	権利性からのアプローチ	ライセンスング、権利保護、二次利用
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	偶有性への対応戦略	関心拡張、既知情報の活用、未知の創出
10	嗜好選択性への対応戦略	ターゲット戦略、選択肢多様化、異文化対応
11	コンテンツ体験の創造①	「見る・聴く・読む」消費観からの解放
12	コンテンツ体験の創造②	近代以前のコンテンツ接触スタイルの見直し
13	コンテンツ体験の創造③	模倣・追体験、応援的関与、制作参加
14	コンテンツ体験の創造④	ファンダム、二次創作促進、まとめ
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

- ◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。
- ◇参考書：山川悟、他著『コンテンツマーケティング』同文館出版
山川悟、他著『コンテンツがブランドを創る』同文館出版

【履修条件等】

- ◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を受講していること、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていることが望ましい。
- ◇映画・ドラマ・アニメ・マンガ・小説・音楽などに興味があること。
- ◇講義中に議論や質問、ミニ試験を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇留学生は、日本の企業名や商品名、主要映画やドラマ、アニメなど日本文化についての知識を深めておくこと。
- ◇テレビ番組や映画などを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

- ◇マーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

コンテンツビジネス論Ⅱ	ヤマカワ サトル 山川 悟
Content Business Theory II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は「コンテンツビジネス論Ⅰ」の発展的応用として「コンテンツを活用したビジネス」について学びます。前半はコンテンツを活用した商品開発・広告宣伝・地域開発の事例を通じ、コンテンツの持つコミュニケーション効果について確認します。後半は、日本文化の特性を今日のビジネスに活かす方法論について考察し、真の「クールジャパン」とは何かについて議論します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンテンツを活用したマーケティング手法とその効果について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたコンテンツ活用マーケティングの方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	50%
日本文化と今日のビジネス発想について、その意義と方法論について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げた文化アプローチマーケティングの方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	50%
評価の方法		
評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、試験80%・小テストおよび受講姿勢20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	コンテンツ活用への考え方	概論、ケーススタディ
2	コンテンツと商品開発	タイアップ、世界観商品、独自ストーリー
3	コンテンツと広告宣伝	ブランデッドエンタテインメントの方法論
4	コンテンツと地域ブランディング	聖地巡礼、地域アニメ、伝説・民話・偉人活用
5	キャラクターマーケティング	キャラクターとは何か、活用事例研究
6	ゲーム活用マーケティング	ゲーム内広告、ARG、ソーシャルゲーム活用
7	スポーツコンテンツ論	スポーツ産業、スポーツコンテンツ活用戦略
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	日本文化と今日のビジネス①	江戸の商いの近代性、売り手の芸能力
10	日本文化と今日のビジネス②	「あはひ(間)」の概念と今日のビジネス
11	日本文化と今日のビジネス③	「かぶく(傾く)」の概念と今日のビジネス
12	日本文化と今日のビジネス④	「らうたし(労多し)」の概念と今日のビジネス
13	日本文化と今日のビジネス⑤	「見立て」の概念と今日のビジネス
14	日本におけるアニメ受容史	「鉄腕アトム」から「ポプテピピック」まで
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

- ◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。
- ◇参考書：山川悟、他著『コンテンツがブランドを創る』同文館出版

【履修条件等】

- ◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「コンテンツビジネス論Ⅰ」を受講していること、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていることが望ましい。
- ◇コンテンツおよび日本文化に興味があること。
- ◇講義中に議論や質問、ミニ試験を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇留学生は、日本の企業名や商品名、主要映画やドラマ、アニメなど日本文化についての知識を深めておくこと。
- ◇テレビ番組や映画などを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

- ◇マーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

経営心理学	サトウ エミ 佐藤 恵美
Business Psychology	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

経営心理学は、産業場面における人間の心理や行動を科学的視点から研究する学問である。経営や産業に関連する人間行動は、産業と消費という2つの側面から捉えることが可能である。これは具体的に、“労働”、“職業”、“集団・組織”、“販売・広告”、“購買・消費”の5領域に集約される。「経営心理学」では、職業適性と採用、労働を考えるワークモチベーション、集団と組織、組織でのコミュニケーション、仕事の能率と安全の観点から詳しく解説し、経営や産業場面における人間行動を科学的に理解することを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
職業適性と採用	「自分はどのような職業に向いているのか」という職業適性の概念を理解し、自分の能力・パーソナリティから職業適性を考え、企業に必要とされる人材像を理解する。	20%
労働の心理学	働くための動機づけに関する歴史的経緯から、科学的管理法、ホーソン研究、職務満足、プロセス理論を理解し、経営者の人間観と働く人のワークモチベーションを理解する。	30%
組織心理学	集団を形成し、組織に参加していく過程から、形成された組織・集団その内部に作り出す人間関係とコミュニケーション、コンフリクト、意思決定システム、職場ストレスを理解する。	30%
仕事の能率と安全	産業場面における時間研究と動作研究から、心理的な時間感覚を理解し、人間の疲労や認知的エラーによって引き起こされるヒューマンエラーをなくし、作業現場での事故防止を考える。	20%
評価の方法 本試験70%、レポート30%、平常点（授業態度など）10%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の取り組み方、評価方法
2	職業適性と採用(1)	人間の能力とは、知能と職業との関係
3	職業適性と採用(2)	パーソナリティとは、パーソナリティと面接
4	ワークモチベーション	仕事への外発的動機づけと科学的管理法
5	ワークモチベーション	仕事への内発的動機づけと職務満足
6	ワークモチベーション	仕事への達成動機、組織コミットメント
7	組織・集団(1)	職場集団の特性
8	組織・集団(2)	職場の人間関係と対人認知
9	組織・集団(3)	組織におけるコミュニケーション
10	組織・集団(4)	組織におけるコンフリクトと意思決定
11	職場の快適性と疲労(1)	職場ストレスとその対処
12	職場の快適性と疲労(2)	職場環境とハラスメント
13	仕事の能率と安全(1)	時間研究と動作研究
14	仕事の能率と安全(2)	ヒューマンエラーと事故防止対策
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：山口裕幸・芳賀繁・高橋潔・竹村和久著『一経営とワークライフに生かそう
一産業・組織心理学』有斐閣アルマ、2012年。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

◇教科書は必ず持参すること。レポート等、提出物は必ず提出すること。

イベント学	オク 奥	マサタカ 正孝
Eventology		応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントの時代と言われて久しい現代において、イベントの入門である、定義、形態、意義、機能、役割等について理解する。その上で、イベントが持つ社会や地域や産業における存在について検証する。続いて、イベントの持つ非日常性、感性価値、体験価値等にスポットライトを当て、新たなイベントを創造するためにどうすればよいか、イベント・イノベーションへと講義を進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 イベントとは何か、イベントに必要な要素について答えられる。	20%
幅広いイベントカテゴリーを説明できる	カテゴリーごとに成立する機能と役割について、基本的な構造を答えられる。	20%
イベントの役割が理解できる	実際のイベント事例を通して、イベントが起こせる波及効果と果たさねばならない義務について理解できる。	30%
実際のイベントで発見したことを表現できる	イベントアイデア、企画のレポートにより評価。 イベント発想で課題に対し、ユニークで斬新なアイデアが提供できる。	30%
評価の方法 毎回の授業ごとにレポートを提出70%、期末の確認テスト30%。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イベント学概論 I	イベントの正体（基礎と基本）
2	〃 II	イベントの正体（歴史と業界）
3	イベントと地域ブランド I	イベントで変わる地域のイメージ
4	〃 II	地域が創るコンテンツイベント
5	イベントと企業プロモーション I	ヒットさせるイベントプロモーション
6	〃 II	イベント戦略で日本を売り込む
7	イベントと社会トレンド I	ソーシャルメディアがイベントを変える
8	〃 II	サステナビリティでイベントが変わる
9	イベントと祭り I	イベントと祭りの違いと共通点
10	〃	フェスティバルイベントと体験価値
11	イベントと美学 I	驚きと感動のイベントの公式
12	〃 II	心を動かすイベントの方程式
13	新時代のイベント I	時代が求める新しいイベント
14	〃 II	イベントが変わるイノベーション
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず。オリジナルテキスト・資料を配布する。

【履修条件等】

◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

サービス産業論	ヒノ タカオ 日野 隆生
Service Industry Theory	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

これまでの長い間、わが国の経済社会システムは、製造業を念頭において動いてきた。このことが起因して「サービス産業」がわが国の経済発展を担う重要な産業であるとの位置づけが曖昧になりがちであった。「サービス産業」はわが国にとって製造業と両輪となって経済を牽引している。製造業と比較すると、サービス業は多種多様な縦割りの個別産業毎に活動している。なかなか把握しにくい点がここに存在するのであるが、よく究明してみると、実はこのような処に価値を生産する機会がいっぱいある。新たなサービス機能へのニーズの高まりを捉えて欲しい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「経済のサービス化」に関して理解する	レポート提出により評価する。 「サービス産業化」は、経済全般に及んでおり、農業も工業も例外なく進んでいることを説明できる。	20%
経済記事を読む能力	レポート提出により評価する。 経済記事を読み、その内容を要約できる。	30%
経済記事を論評する能力	レポート提出により評価する。 経済記事を読んだのちに、自らの論評を文章化し論評できる。	30%
「付加価値提案」の重要性を理解する	レポート提出により評価する。 メーカーもサービス業も「従来にないサービスや機能」を実現するために、常に付加価値提案が求められていることを説明できる。	20%
評価の方法 レポート50%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	オリエンテーション・授業の進め方
2	サービスの概念	サービスの意味
3	サービス産業	サービス産業とは
4	サービス産業の現状(1)	伝統的なサービス業
5	サービス産業の現状(2)	新たなサービス業
6	サービス産業の分類(1)	日本標準産業分類におけるサービス業(1)
7	サービス産業の分類(2)	日本標準産業分類におけるサービス業(2)
8	サービス産業の分類(3)	日本標準産業分類におけるサービス業(3)
9	サービスの構造	サービス商品と付随サービス
10	サービスに対する評価	サービスの品質と満足
11	サービスの生産	サービスの生産と品質
12	サービス・エンカウンター	顧客と従業員の相互作用
13	サービス・プロフィット・チェーン	従業員満足による顧客満足
14	ケーススタディ	新たなサービス業
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇プリントの配布。

◇参考書：日野隆生編著『サービス・マーケティング―理論と実践―』五紘舎、2018年

【履修条件等】

◇日常的にサービス業について関心を持っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇サービス業界の動向についてニュースなどで知ること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

商業簿記 I	ムラカミ ショウイチ 村上 翔一
Commercial Bookkeeping I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本授業は、複式簿記の基本的知識を理解している学生を対象に、商業簿記の個別の論点についてより理解を深めることを目的としている。また、本授業は日商簿記検定2級程度に相当する内容を中心としている。

各授業は、各テーマの説明の後、当該テーマに関連する問題を解く時間を設けたうえで解答・解説を持って進められる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
商業簿記の意義を理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価する。商業簿記の意義や目的を理解し、商業簿記に関する専門用語を答えられること。	10%
商業簿記の体系を理解する	設問に対する解答によって評価する。財務諸表の構成要素や簿記一巡の手続を理解し、作成できるようになること。	10%
日々の取引記録ができるようにする	設問に対する解答によって評価する。各種債権やリース会計などの個別論点について仕訳ができること。	80%
評価の方法 中間テスト30%、確認テスト（期末試験）70%。「出席点」は設定しない。 全講義回数数の3分の2以上の出席が成績評価の対象となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、成績評価方法の説明など
2	棚卸資産(1)	取得原価、原価配分
3	棚卸資産(2)	期末評価(棚卸減耗、評価替)
4	収益認識	収益計上基準、役務収益・原価
5	金融商品(1)	銀行勘定調整表
6	金融商品(2)	手形、債務保証、クレジット売掛金、電子記録債権
7	有価証券	分類、取得原価、期末評価、利息
8	中間テスト	学習達成度の中間テストおよび解説
9	固定資産(1)	割賦購入、圧縮記帳、減価償却、除却・廃棄
10	固定資産(2)	建設仮勘定、ソフトウェア
11	固定資産(3)	リース取引
12	引当金(1)	貸倒引当金(個別評価・一括評価)、
13	引当金(2)	製品保証引当金、退職給付引当金など
14	外貨建取引	為替差損益、為替予約
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

- ◇教科書：桑原知之著『サクッとわかる日商2級 商業簿記 テキスト+問題集』
ネットスクール株式会社
- ◇適宜資料等を配布する。

【履修条件等】

- ◇「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」を履修して単位習得済みであるか、日商簿記検定3級を取得済み、もしくは同程度の簿記の知識を有することを履修の条件とする。
- ◇また、「商業簿記Ⅰ」と「商業簿記Ⅱ」を連続して履修することを条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇状況により多少前後することもあるが、概ね先に示した授業計画に従って進めていくので、講義を受ける前までにテキストの該当箇所に通しておくこと。
- ◇簿記は知識の積み重ねが大切であるため、授業で取り上げた項目に対する復習を行い、確実に身につけてほしい。

【その他の注意事項】

- ◇簿記の学習は積み重ねが必要であるため、講義には毎回出席し、積極的に参加することを望む。また、他者に迷惑となる行為(私語等)は禁止する。
- ◇なお、受講の際には電卓(12桁以上)を準備すること。算盤でもかまわない。確認テストの際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

商業簿記Ⅱ	ムラカミ ショウイチ 村上 翔一
Commercial Bookkeeping II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本授業は、複式簿記の基本的知識を理解している学生を対象に、商業簿記の個別の論点についてより理解を深めることを目的としている。また、本授業は日商簿記検定2級程度に相当する内容を中心としている。

各授業は、各テーマの説明の後、当該テーマに関連する問題を解く時間を設けたうえで解答・解説を持って進められる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
商業簿記の意義を理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価する。商業簿記の意義や目的を理解し、商業簿記に関する専門用語を答えられること。	10%
商業簿記の体系を理解する	設問に対する解答によって評価する。財務諸表の構成要素や簿記一巡の手続を理解し、作成できるようになること。	10%
日々の取引記録ができるようにする	設問に対する解答によって評価する。税効果会計、本支店会計や連結会計などの個別論点について仕訳ができること。	80%
評価の方法 中間テスト30%、確認テスト（期末試験）70%。「出席点」は設定しない。 全講義回数数の3分の2以上の出席が成績評価の対象となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、成績評価方法の説明など
2	純資産	株式発行、剰余金、株主資本等変動計算書
3	税金(1)	租税公課、法人税等、消費税
4	税金(2)	課税所得の算定、税効果会計
5	企業結合	合併、のれん
6	伝票会計	3伝票制と仕訳日計表の作成
7	決算手続(1)	試算表、決算整理、帳簿の締切
8	決算手続(2)	精算表、勘定式と報告式、区分表示、月次決算
9	中間テスト	学習達成度の中間テストおよび解説
10	本支店会計(1)	本支店会計の処理
11	本支店会計(2)	合併財務諸表の作成
12	連結会計(1)	資本連結、のれん、子会社の配当など
13	連結会計(2)	連結会社間取引、未実現利益の消去(ダウンストリーム)
14	連結会計(3)	まとめ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：桑原知之著『サクッとわかる日商2級 商業簿記 テキスト+問題集』
ネットスクール株式会社
- ◇適宜資料等を配布する。

【履修条件等】

- ◇「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」を履修して単位習得済みであるか、日商簿記検定3級を取得済み、もしくは同程度の簿記の知識を有することを履修の条件とする。
- ◇また、「商業簿記Ⅰ」と「商業簿記Ⅱ」を連続して履修することを条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇状況により多少前後することもあるが、概ね先に示した授業計画に従って進めていくので、講義を受ける前までにテキストの該当箇所を目を通しておくこと。
- ◇簿記は知識の積み重ねが大切であるため、授業で取り上げた項目に対する復習を行い、確実に身につけてほしい。

【その他の注意事項】

- ◇簿記の学習は積み重ねが必要であるため、講義には毎回出席し、積極的に参加することを望む。また、他者に迷惑となる行為(私語等)は禁止する。
- ◇なお、受講の際には電卓(12桁以上)を準備すること。算盤でもかまわない。確認テストの際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

工業簿記 I	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Industrial Bookkeeping I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、日商簿記3級等で勉強する商業簿記を、商品を自社で製造して販売する活動、つまり工業に当てはめた簿記の形態である、「工業簿記」を重点的に取り扱います。

工業簿記と名は打っていますが、工業簿記は突き詰めて言いますと、製品1個の原価を計算するということとなりますので、原価計算と考えて頂いて結構です。

講義は、解説→演習の流れで行い、講義ごとのテーマが講義中に理解できるよう進めていきます。最終的に、日商簿記2級の工業簿記レベルの知識の習得が目標となります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
工業簿記に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 商業簿記と工業簿記の違いを理解してください。 とくに工業簿記の計算一巡に関する手続きの理解に努めてください。	20%
費目計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 費目別計算を行う意義と製造間接費の配賦処理を理解してください。	20%
部門別計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 部門別計算を行う意義と補助部門費などの配賦処理を理解してください。	20%
製品別計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 製品別計算の意義と財務諸表との連動を理解してください。また、原価集計の視点を変えるとさまざまな原価情報を作成できるということに関する理解が必要です。	40%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、課題および小テスト点30%、期末試験60%で評価します。※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 課題および小テストは、テーマごとに行うので3回の実施を予定しております。 貢献点は、講師が開発した講義を受講し、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の進め方、評価方法などに関して
2	原価と原価計算(1)	原価計算の意義に関して説明
3	原価と原価計算(2)	原価計算の目的に関して説明
4	費目別計算(1)	原価要素の分類測定に関しての説明
5	費目別計算(2)	製造間接費の配賦に関しての説明
6	部門別計算(1)	個別費・共通費の集計に関しての説明
7	部門別計算(2)	補助部門費の配賦に関しての説明
8	部門別計算(3)	部門別計算の総まとめ
9	製品別計算(1)	個別原価計算に関しての説明
10	製品別計算(2)	総合原価計算に関しての説明①
11	製品別計算(3)	総合原価計算に関しての説明②
12	製品別計算(4)	個別と総合の違いに関しての説明
13	製品別計算(5)	製品別計算の総まとめ
14	春学期試験の説明	当期の総まとめと春学期試験に関する説明
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。
- ◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。
- ◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

- ◇上述した授業概要は、「工業簿記Ⅰ」および「工業簿記Ⅱ」と併せて受講することで達成されます。そのため、「工業簿記Ⅰ」と「工業簿記Ⅱ」を連続して受講して頂きたいと思っております。「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記3級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇講義中だけでは問題演習をこなすことはできないため、必要に応じて講義終了後に課題を出します。必ず課題を行うようにしてください。

【その他の注意事項】

- ◇電卓は、PCや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。
- ◇講義内容は講義の進捗や受講生の理解度に応じて変更がある場合があります。
- ◇講義の妨げになる行為を行った場合、講師から指導が入ります。指導の回数次第で履修停止となる旨、ご了承ください。

工業簿記Ⅱ	<small>フクヤマ トモキ</small> 福山 倫基
Industrial Bookkeeping II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、「工業簿記」を重点的に取り扱っており、「工業簿記Ⅰ」の発展的講義となります。「工業簿記Ⅰ」と併せて受講することで日商簿記2級レベルの工業簿記の知識の習得を最終目標としております。また、講義初回に検定重視の講義にするか、会計学の知識とPCスキルがどのように連動するかに焦点を置いた講義にするか選択を行います。多数決で決まりますが、どちらにしても日商簿記2級レベルの知識の習得は実現されますのでご安心ください。会計学をPCで実装する楽しさを体験していただければ幸いです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
標準原価計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 標準原価計算を元にどの様に管理活動が行われるかを理解してください。	20%
直接原価計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 直接原価計算の計算手続きに関する基本的な理解をしてください。	20%
CVP分析に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 直接原価計算を応用することで可能になる経営分析があることを理解ください。	20%
工業簿記をPC上で行うために必要なスキルを身につける	講義や検定試験では、会計学は電卓を用いて手書きでやるのが主流となっておりますが、実際に社会に出ると経理などの会計のお仕事はPC上で行うこととなります。企業によっては専門ソフトではなく、自身で会計手続きをPC上に実装することが求められます。その際に有用な知識を身につけてください。	40%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、課題30%、期末試験60%で評価します。※課題・期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 課題は、Excel上に工業簿記を実装する課題を出します。講義を聞いていれば簡単な問題となると思います。 貢献点は、講師が開発した講義を受講し、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	本講義の進め方、評価方法などに関して
2	工業簿記をPC上で行うための確認事項	受講者のPCスキルの確認と、基本的なPCスキルの講習を行います。
3	前期の内容をPC上でやってみる(1)	前期に学習した、費目別・部門別・製品別計算を第2回で学んだ内容を元の実装していきます。
4	前期の内容をPC上でやってみる(2)	簡便的なDBを用いることで第3回の内容をブラッシュアップします。
5	前期の内容をPC上でやってみる(3)	前期の内容をPC上で行うことの総まとめを行います。
6	標準原価計算(1)	基本思考に関する説明とスキーマの構築
7	標準原価計算(2)	原価差異分析を行うために必要なプロシージャ①
8	標準原価計算(3)	原価差異分析を行うために必要なプロシージャ②
9	標準原価計算(4)	Excelで原価計算関連の報告書を作ってみよう
10	標準原価計算(5)	標準原価計算総まとめ
11	直接原価計算(1)	直接原価計算の概要とスキーマ構築
12	直接原価計算(2)	直接原価計算を実装してみる
13	直接原価計算()	報告書関連を作ってみる
14	秋学期試験の説明	当期の総まとめと秋学期試験
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。
- ◇本講義ではPCを使用します。学務にITルーム活用の申請を出しておきます。
- ◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

- ◇上述した授業概要は、「工業簿記Ⅰ」および「工業簿記Ⅱ」と併せて受講することで達成されます。そのため、「工業簿記Ⅰ」と「工業簿記Ⅱ」を連続して受講して頂きたいと思っております。「入門簿記Ⅰ」・「入門簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記3級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「工業簿記Ⅰ」の講義内容を復習しつつ講義に望んで頂けたら幸いです。復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

- ◇電卓は、PCや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。
- ◇講義内容は講義の進捗や受講生の理解度に応じて変更がある場合があります。
- ◇講義の妨げになる行為を行った場合、講師から指導が入ります。指導の回数次第で履修停止となる旨、ご了承ください。

経営分析	サカイリ リョウ 坂入 遼
Financial Analysis	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

経営分析に必要な資料や情報を見極めて正しく指標を算出し、総合的な分析を行える能力を身につけてもらう。これが本授業の目的である。具体的に本授業では、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の役割をそれぞれ理解するとともに、それら財務3表から各種の指標を導き出して総合的に企業の経営状況を分析するための学習、実践を行う。

企業の経営状況を分析する能力は、金融機関で働く人だけでなく、事業会社で働く多くの人々に求められる。本授業は、そうした必要スキルを身につけるための場となる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 経営分析に使われる資料の役割や指標の意味を理解する	授業中の質疑応答の状況、小テスト、定期試験によって理解度を評価する。決められた時間内での正確な説明が求められる。	20%
2) 資料を正しく読み込み、分析に必要な指標を算出できるようになる	授業中の質疑応答の状況、小テスト、定期試験によって到達度を評価する。決められた時間内での正しい指標算定が求められる。	30%
3) 資料から経営に影響する定性的な情報を読み取り、分析に生かせるようになる	授業中の質疑応答の状況、小テスト、定期試験によって到達度を評価する。決められた時間内で、資料から必要な定性的情報を読み取り、分析に反映することが求められる。	10%
4) 学んだ分析手法を使い、総合的な経営分析をできるようになる	半期の総括として授業内に行う総合演習への取り組み状況、定期試験の結果にもとづき総合的に評価する。定量的、定性的な分析の両方を駆使し、論理的な結果を導くことが求められる。	40%
評価の方法	成績評価に占める割合は、授業中の議論への貢献度・授業内の小テストの結果が40%、期末の確認テスト（定期試験）の点数が60%である。ただし、出席回数が全回数の3分の2以上であることが、成績評価を受ける条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の全体像・進め方、成績評価方法に関して説明する
2	経営分析の手掛かり	分析に臨む上での基本姿勢を身につける
3	損益計算書 (P/L)	損益計算書 (P/L) の構造を理解する
4	貸借対照表 (B/S)	貸借対照表 (B/S) の構造を理解する
5	キャッシュフローとは	キャッシュフロー計算書の構造を理解する
6	収益性の分析	企業の収益性を評価するための指標について学ぶ
7	損益分岐点分析	利益の確保に必要な売上高を算出する方法などを学ぶ
8	生産性の分析	企業の生産性を評価するための指標について学ぶ
9	成長性の分析	企業の成長を評価するための分析手法を学ぶ
10	安全性の分析	企業の安全性を評価するための指標について学ぶ。
11	キャッシュフロー分析	現金の動きに着目して事業の持続性を評価する手法を学ぶ
12	定性的な分析	財務諸表からは明らかにならない情報を分析に生かす姿勢を学ぶ
13	総合演習 (1)	学習した内容を踏まえて実践にあたる
14	総合演習 (2)	学習した内容を踏まえて実践にあたる
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用せず、教員が配信する教材にもとづいて授業を進める。
- ◇ただし、自学自習の参考となる文献については、適宜授業の中で紹介する。

【履修条件等】

- ◇経営分析の学習では、一定程度の簿記や会計学の知識が前提となる。したがって、簿記や会計学の学習をすでに進めていることが求められる。
- ◇授業では、受講生にさまざまな計算を実施してもらうこととなる。そのため、筆記用具、ノート等の紙媒体、電卓を持参すること。
- ◇携帯電話やスマートフォン、タブレット端末などでの電卓の使用は、本授業では認めない。電卓は、12桁以上を表示可能なもので、かつ、印刷機能、音声機能、プログラム機能、辞書機能のないものを持参すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇小テストの実施について前もって告知する。その範囲に応じて事前学習を行うこと。

【その他の注意事項】

- ◇講義中の私語は厳禁とする。その他、授業態度は成績に影響することとなる。

財務諸表論	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Financial-Statements Theory	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、税理士や公認会計士の試験科目である「財務諸表論」の基本的な考え方を習得するために、各会計基準の背景にある会計原則や会計理論について学ぶ。したがって財務会計の全般的な知識を有している学生を対象としており、その内容は発展的なものであることに留意が必要である。各テーマについて、テキストを中心に講義形式で解説を行う。必要に応じてレジュメを配布する予定である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務3表の意義と内容を理解している	設問に対する回答によって評価。財務諸表の役割および国政を理解していること。また、その各財務諸表に記載される会計情報について、それらが示す意味を理解していること。	20%
会計を行う上での前提条件や諸概念について理解し、説明できる	設問に対する回答によって評価。会計公準や発生主義といった内容を説明できること。	40%
会計基準や、会計手続きとその背景にある会計理論について説明できる	設問に対する回答によって評価。各種会計基準の理論的意義、	40%
<p>評価の方法 授業への貢献度20%、本試験80%。「出席点」は設定しない。 ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法、財務諸表論の学び方
2	会計の目的と法規制	会計の目的、役割、会社法・金商法・税法
3	企業会計原則	一般原則、損益計算書原則、貸借対照表原則
4	資産会計	資産の分類、資産の評価、
5	金融商品会計	金融商品の分類、デリバティブ取引、有価証券の評価、評価損益の処理と実現概念
6	棚卸資産会計	棚卸資産の原価配分、低価法
7	固定資産会計	固定資産の原価配分、無形資産の分類、リース取引の分類と処理
8	繰延資産会計	企業会計原則上の繰延資産と会社法上の繰延資産
9	引当金	企業会計原則（注・18）の設定要件、各種引当金
10	資産除去債務	資産除去債務の意義と会計処理、個別財務諸表上の取り扱いとの違い
11	資本金	株式会社の資本制度、資本金と準備金、剰余金の配当
12	損益計算	3つの損益計算、一致の原則、収益の発生と実現
13	特殊商品販売	収益の計上基準と特殊商品販売の収益認識、工事進行基準と工事完成基準
14	減損会計	減損とは、減損の兆候と減損損失の計上、回収可能価額
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

- ◇教科書：田中弘著『財務諸表論の考え方—会計基準の背景と論点—』税務経理協会
- ◇参考書：田中弘著『新財務諸表論』税務経理協会、など

【履修条件等】

- ◇「会計学概論」、「財務会計Ⅰ」および「財務会計Ⅱ」をすでに履修済みであることを条件とする。また、本講義には日商簿記2級程度の簿記の知識を要する。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「会計学Ⅰ」、「会計学Ⅱ」、「財務会計論Ⅰ」、「財務会計論Ⅱ」の復習をしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

租税概論 I	ミセキ 三関 キミオ 公雄
Tax Introduction I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

生活の中に身近に存在するけれども、普段見過ごされている税金について興味を持っており、この機会に学んでみたいという方やこれから税の専門家を目指したいけれどもほとんど税について知識を持っていない方達を対象にして、租税法を体系的に学んでいける内容にしていきたいと考えています。特に租税概論 I では、所得税と法人税の基本的な事項に関して理解を得ることを目標とします。

講義の中では、適宜プリントを配布して理解度のアップに努めたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
租税法の基本原則の理解	租税法の根底にある基本的な原則や法体系について理解する。 設問により評価する。	30%
所得税の基礎的知識の習得	所得税の基本的な考え方について理解する。 簡単な計算問題又は設問により評価する。	35%
法人税の基礎的知識の習得	法人税の基本的な考え方について理解する。 簡単な計算問題又は設問により評価する。	35%
評価の方法 受講状況と試験結果により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政の仕組みと役割
2	租税の意義	わが国における租税の発達、租税法の基本原則
3	租税法の体系	租税の分類、租税に関する述語、税法の法体系
4	所得税(1)	所得税の基礎、所得の概念
5	所得税(2)	所得の分類
6	所得税(3)	所得の分類、所得控除
7	所得税(4)	所得控除
8	所得税(5)	課税所得の計算
9	法人税(1)	法人税の基礎、法人の概念
10	法人税(2)	法人税の益金概念、法人税と企業会計の相違点
11	法人税(3)	法人税の損金概念、法人税と企業会計の相違点
12	法人税(4)	法人税の損金概念、法人税と企業会計の相違点
13	法人税(5)	申告調整、課税所得の計算
14	講義のまとめ	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。必要に応じてプリントを配布します。

◇参考書：イントロダクションの時に紹介します。

【履修条件等】

◇とくにありませんが、財務会計の知識があれば、理解し易いと考えます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に配布プリントを読み、理解できない点をチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇忘れずに配布プリントを持参してください。

租税概論Ⅱ	ミセキ 三関 キミオ 公雄
Tax Introduction II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

生活の中に身近に存在するけれども、普段見過ごされている税金について興味を持っており、この機会に学んでみたいという方やこれから税の専門家を目指したいけれどもほとんど税について知識を持っていない方達を対象にして租税法を体系的に学んでいける内容にしていきたいと考えています。とくに「租税概論Ⅱ」では、「租税概論Ⅰ」で学んだ所得税と法人税以外の税金の分野やシステムについて学んでいくことを目標とします。

講義の中では、適宜プリントを配布して理解度のアップに努めたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
相続税・贈与税の基礎的知識の習得	相続税・贈与税の概要を理解する。 設問により評価する。	45%
消費税の基礎的知識の習得	消費税の計算構造や概要について理解する。 設問により評価する。	45%
納税者の権利救済制度の理解	制度の概要の理解。 設問により評価する。	10%
評価の方法 受講状況と試験結果により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
2	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
3	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
4	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
5	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
6	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
7	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
8	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
9	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
10	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
11	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
12	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
13	納税者の権利救済	加算税、延滞税、争訟制度の概要
14	講義のまとめ	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。必要に応じてプリントを配布します。

◇参考書：イントロダクションの時に紹介します。

【履修条件等】

◇「租税概論Ⅰ」を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配布プリントを読み、理解できない点をチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇忘れずに配布プリントを持参してください。

税務会計 I	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Tax Accounting I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

税務会計は、租税法、会計学および財政学にまたがる、きわめて広範囲な領域を占める学問である。また、税務会計は、税を徴収する政府の視点ではなく、納税者である国民・企業の視点に立脚した「あるべき租税体系」を会計的アプローチに沿って探求する学問である。

講義では、当該会計的アプローチに従いながら「租税のあるべき姿」を探求する上で、問題となる論点を発見し、当該論点を解決していく素養を会得することを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の修得の有無	税務会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
税務会計に関する基礎的な知識の修得の確認	税務会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
税務会計に関する理解の深度の確認	税務会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、出席点30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション1	税務会計の概要等についての講義
2	税務会計の概要	税務会計の意義
3	租税と会計	税法と会計の関係性について
4	税務会計の種類	所得税務会計、財産税務会計、消費税務会計
5	税務会計の機能と実態	税務会計の機能・役割・実態
6	税務会計学	税務会計学の研究領域・学問的使命
7	税務会計の基礎理論(1)	税務会計の課題と役割
8	税務会計の基礎理論(2)	課税所得概念
9	税務会計の基礎理論(3)	税務会計に関する基準
10	課税所得の計算(1)	課税所得計算の通則
11	課税所得の計算(2)	課税所得計算の個別計算
12	課税所得の計算(3)	課税所得計算の基本構造
13	課税所得の計算(4)	申告書について
14	税務会計	その他の論点まとめ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇1年次に「会計学概論」を履修していることが望ましい。また、会計全般に対する基本的な知識をひと通り会得していることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

税務会計Ⅱ	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Tax Accounting II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

税務会計は、租税法、会計学および財政学にまたがる、きわめて広範囲な領域を占める学問である。また、税務会計は、税を徴収する政府の視点ではなく、納税者である国民・企業の視点に立脚した「あるべき租税体系」を会計的アプローチに沿って探求する学問である。

講義では、「税務会計Ⅰ」で修得した税務会計総論の知識をもとに、典型的な各論の問題を取り上げる。各テーマでは、各人が実際に手を動かして、税法の趣旨に沿った計算に取り組み、税額算定のプロセスを理解することを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の修得の有無	税務会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
税務会計に関する基礎的な知識の修得の確認	税務会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
税務会計に関する理解の深度の確認	税務会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、出席点30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	税務収益会計(1)	販売収益
2	税務収益会計(2)	役務収益
3	税務収益会計(3)	請負収益
4	税務収益会計(4)	譲渡収益
5	税務収益会計(5)	受取配当等
6	税務収益会計(6)	受贈益・債務免除益
7	税務収益会計(7)	受取利息他
8	税務収益会計(8)	給与
9	税務収益会計(9)	交際費等
10	税務収益会計(10)	販促費
11	税務収益会計(11)	寄付金
12	税務収益会計(12)	租税公課他
13	税務資産会計(1)	有価証券・棚卸資産・固定資産
14	税務資産会計(2)	その他資産
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇「税務会計Ⅰ」を履修していることが望ましい。また、会計全般に対して応用的判断ができることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

法人税	ワガツマ ジュンコ 我妻 純子
Corporation Tax Law	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

近時は、法人が利益追求の経済活動を行うにあたって、どれだけ租税負担があるかを考えることは避けられない状況になっています。さらに、グローバル化が進む中で、国境を越えて活動する法人・企業グループに対する課税が各国共通の問題にもなっています。

本講義では、以上のような法人に対する課税の問題について、基本的な理解が得られるように、わかりやすい講義を進めたいと考えております。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
法人税の基礎的知識の習得	企業課税と個人課税の違い、企業会計と租税法会計、納税義務者について理解する。	30%
法人所得の計算の理解	益金、損金、それぞれについての別段の定めを理解する。	40%
法人株主間、法人相互間の取引に対する課税の理解	出資と分配、組織再編税制、グループ法人税制、連結納税制度の概要を理解する。また、外国親会社・外国子会社が関わる税制についても理解する。	30%
評価の方法 試験60%、授業態度40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	法人税法の概要	沿革、法人税法の構成
2	法人税の基礎	法人税の特色、個人課税との相違、納税義務者
3	法人所得の計算	法人の所得、企業会計と租税法会計
4	益金(1)	益金の規定の構造、資産の販売等
5	益金(2)	無償取引
6	損金(1)	損金の規定の構造、原価、費用
7	損金(2)	損失、資本等取引との区別
8	別段の定め(1)	受取配当、評価益、還付金
9	別段の定め(2)	役員給与
10	別段の定め(3)	寄附金、交際費
11	法人株主間取引(1)	出資
12	法人株主間取引(2)	分配
13	法人税制度の各論(1)	組織再編税制、グループ法人税制、連結納税制度
14	法人税制度の各論(2)	移転価格税制、タックス・ヘイブン対策税制
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず、プリントを配布します。

◇参考書：初回に示します。

【履修条件等】

◇法律の知識は問いませんが、法人税法に興味を持っていることを望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の予告をしますので、該当箇所について確認してきてください。

【その他の注意事項】

◇配布プリントはすべて毎回持参してください。

所得税	ワガツマ ジュンコ 我妻 純子
Income Tax Law	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

所得税は、個人の生活に密接に関係している租税であり、どういうときにどのような課税がなされるのかを知っておくことは大切です。しかし、所得税について定めている所得税法を理解することは難しいといわれています。その理由としては、普段使わないような用語や、独特の考え方や言い回しがみられることなどが挙げられます。

本講義では、法律の観点から見た所得税について、できるだけわかりやすい講義をしたいと考えております。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
所得税の基礎的知識の習得	所得の概念、納税義務者および所得分類について理解する。	50%
所得計算の通則と税額算出の手順の理解	収入金額と費用控除、所得の年度帰属および所得控除について理解する。	30%
所得税にかかわる手続の理解と判例の読み方の習得	税額確定手続、修正手続、源泉徴収制度および不服申立制度について理解するとともに、納税者と課税庁の争いに対する裁判所の判断の読み方を習得する。	20%
評価の方法 試験60%、授業態度40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	所得税法の概要	沿革、租税法の基本原則、
2	所得税の基礎	所得の概念、納税義務者
3	所得分類(1)	利子所得、配当所得
4	所得分類(2)	譲渡所得
5	所得分類(3)	給与所得、退職所得、事業所得
6	所得分類(4)	不動産所得、一時所得、雑所得
7	所得計算の通則(1)	収入金額、課税のタイミング
8	所得計算の通則(2)	必要経費、損失の扱い、費用控除のタイミング
9	所得計算の通則(3)	所得控除
10	手続法(1)	税額確定手続、修正手続、源泉徴収制度
11	手続法(2)	徴収手続、不服の申立て、租税訴訟
12	総合・判例を読む(1)	租税とは何か？
13	総合・判例を読む(2)	事業所得か給与所得か？ 給与所得とは？
14	総合・判例を読む(3)	一時所得か雑所得か？
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず、プリントを配布します。

◇参考書：初回に示します。

【履修条件等】

◇法律の知識は問いませんが、所得税法に興味を持っていることを望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の予告をしますので、該当箇所について予習してきてください。

【その他の注意事項】

◇配布プリントはすべて毎回持参してください。

ビジネス英語 I	シシド カール 宍戸 カール
Business English Basics I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

グローバル化が進んでいるなか、ビジネスの世界では英語は不可欠です。日本の企業であっても、社内会議および他者とコミュニケーションを英語で行うことが多くあります。学生が今からこのような環境になれるように基本的なビジネス英語を学んでいただきます。テキストまたは教師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること。	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として下記のように評価。 授業参加度：60%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction, Class Policy	General Introduction of class
2	Unit 1 “You and You Job”	Countries, nationalities, jobs
3	Unit 1 “You and You Job”	Saying hello
4	Unit 1 “You and You Job”	Jobs and computers
5	Unit 2 “Products and Services”	Company types and activities
6	Unit 2 “Products and Services”	Ordering products
7	Unit 2 “Products and Services”	Telemarketing
8	Unit 3 “Location”	Company building and region
9	Unit 3 “Location”	Meeting people
10	Unit 3 “Location”	Office location
11	Unit 4 “Help and Advice”	Equipment
12	Unit 4 “Help and Advice”	Suggestions
13	Unit 4 “Help and Advice”	Buying help
14	Review	Review for Final Examination
15	Final Examination	

【使用教材】

◇ Business Result

Elementary

Oxford University Press

ISBN : 978-0-19-473937-5

【履修条件等】

◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

ビジネス英語Ⅱ	シシド カール 宍戸 カール
Business English Basics II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

グローバル化が進んでいる中、ビジネスの世界では英語は不可欠です。日本の企業であっても、社内会議および他者とコミュニケーションを英語で行うことが多くあります。学生が今からこのような環境になれるように基本的なビジネス英語を学んでいただきます。テキストまたは教師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること。	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として下記のように評価。 授業参加度：60%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Summer Vacation	General Introduction of class
2	Unit 5 “Decision”	E-mail ordering
3	Unit 5 “Decision”	Quick decision
4	Unit 5 “Decision”	Difficult decision
5	Unit 6 “Socializing”	Eat in or take out
6	Unit 6 “Socializing”	Café conversation
7	Unit 6 “Socializing”	Business lunch
8	Unit 7 “Workplace”	Department and responsibilities
9	Unit 7 “Workplace”	Company visits
10	Unit 7 “Workplace”	Perfect workplace
11	Unit 8 “Colleague”	Describing people
12	Unit 8 “Colleague”	Voicemail
13	Unit 8 “Colleague”	Family business
14	Review	Review for Final Examination
15	Final Examination	

【使用教材】

◇ Business Result

Elementary

Oxford University Press

ISBN : 978-0-19-473937-5

【履修条件等】

◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

<p>経営学特講 I 地域マネジメント</p>	<p>イシワタ マサト 石渡 正人</p>
<p>Special Lecture on Management I</p>	<p>応用科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

地方創生、観光立国などの政策に見られるよう、これから地域マネジメントが重要視されます。地域マネジメントは行政だけが行うものではありません。企業にとっても地域ブランド商品やサービスの開発、観光やイベントなど沢山のビジネスチャンスに溢れています。またCSRが重要視される今日、企業市民として地域にどうかかわるかは大事な課題であり、地域ブランドの創出では企業のもつノウハウも含め大いに期待されています。

本講義では、事例検証を交え、地域ブランドビジネスの特性やビジネスモデルなどを学びます。さらに、後半の講義は実務IQの観点から、高田馬場を題材に地域デザイン（ここでいうデザインは目的をもって具体的に立案・設計することの意）についてフィールドワークを交え学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
地域社会の問題点や解決のための施策について理解できる	講義中に解説する地域社会の問題点や必要とされる施策について理解しようと努め、積極的に興味を持てるか。講義中の質疑や討論で客観的に評価。	20%
地域社会での問題点からビジネスを構築するための手法を理解する	地域ブランドビジネスの特性や、商品（サービス）の開発方法、問題点などを理解しているかを、授業中の質疑応答やテストで評価。	40%
地域社会での問題点を解決するために自分なりのビジネスプランをまとめる	地域を対象にしたビジネスプランを指定フォーマットの企画書にまとめる。地域の問題点への考察と課題解決に向けたプランを戦略的に組み立てられているかを評価ポイントとする。実現性は問わない。	40%
<p>評価の方法 70%以上の出席を条件に、出席評価（受講態度も含む）20%、中間テスト40%、本試験（指定フォーマット企画書）40%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	地方を取り巻く状況	人口減少社会、高齢化、産業空洞化、地域コミュニティの分断など現状の問題点を解説
2	地域活性化について 社会学的アプローチ	地域コミュニティとソーシャルキャピタル、地域の個性、差別化など
3	地域活性化について 経済学的アプローチ	地域ブランドの考え方、手法などの解説 地域商業（商店街）活性化など
4	地域ブランド開発①	地域ブランド商品、食文化、B級グランプリなど
5	地域ブランド開発②	文化・環境ブランド＝テーマ型集客施設、道の駅など
6	地域ブランド開発③	観光ブランド＝コンテンツツーリズム、インバウンド
7	地域ブランド開発④	キャラクター住民、ゆるきゃら、ご当地ヒーローなど
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	高田馬場の地域デザインを考える①	地域デザイン（目的をもって具体的に立案・設計すること） のためのフィールドワークの手法を学ぶ
10	高田馬場の地域デザインを考える②	地域の問題点の洗い出しと文献調査
11	高田馬場の地域デザインを考える③	フィールドワーク～調査対象：高田馬場周辺の商店街や企業施設、自治体など
12	高田馬場の地域デザインを考える④	手塚キャラクター発想支援カードを使い、フィールドワークで学んだことを活かしたブレインストーミング
13	高田馬場の地域デザインを考える⑤事例紹介	高田馬場発祥、日本で一番発行額の多い地域通貨「アトム通貨」に見るソーシャルキャピタルの醸成
14	高田馬場の地域デザインを考える⑥事例紹介	江戸伝統野菜「内藤とうがらし」再興プロジェクトとまちバルイベント「バル辛フェスタ」に見る地域ネットワーク
15	学習達成度の確認	学習達成度確認のための地域デザインをテーマにした、指定フォーマットによる企画書の作成

【使用教材】

◇教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

【履修条件等】

◇みなさんの身の回りにあることが題材になります。

そのため講義中に質問や議論を行うことがあり、能動的な出席態度で望んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業終了時に次回の授業内容を予告します。その観点から自分の住んでいる街や、大学のある高田馬場の街を眺めておくと授業の理解度が増すでしょう。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営学特講Ⅱ（囲碁）	ハラ アキコ 原 晶子
Special Lecture on Management II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】**《自己実現のためのコミュニケーション能力向上と人間力アップ講座》**

この授業では、囲碁の簡単なルールを用いて、コミュニケーション能力を高めていくスキルを学びます。

囲碁は、世界中の人々が楽しんでいるゲームです。

囲碁を通してさまざまな人と関わり、互いに学び合い、視野を広げ、自己実現に向けてディスカッションをしていきます。

グループワークを中心とした、体験型授業です。

さまざまな立場のゲスト、プロの囲碁棋士を招き、受講生と共に授業に参加していただきます。

囲碁で楽しく、コミュニケーション能力向上、人間力アップを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「囲碁」を通じた対人関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生全員との対戦 ・受講生以外の人に、囲碁でコミュニケーションを取る実践 	30%
ディスカッション ・発表のスキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに即した発言や発表 ・内容 ・聞き手に伝わる話し方 	30%
話を聞く姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・ディスカッションでの人の話を聞き理解する力 	20%
レポート	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の感じたこと意見を記述する 	20%

評価の方法 正解、不正解はありません。

一人ひとりの考えや意見を尊重しながら進めていきます。

グループワーク、ディスカッション、発表、レポート全てにおいて、積極的な参加度を重視します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	囲碁とコミュニケーション	受講生同士で囲碁対局 日本、海外での囲碁事情
2	なぜコミュニケーション囲碁 なのか	講義 ディスカッション
3	ふるさと自慢	自分のふるさと自慢を発表
4	自分史	自分の過去を振り返る
5	自分マップ	自分を知る
6	夢大会 1回目	夢を語り合う
7	違いを認め合う	体験型グループワーク
8	チームビルディング	ジャンボ碁盤を作成・団体戦体験
9	囲碁大会準備	受講生が囲碁大会をプロデュース
10	囲碁大会	囲碁大会
11	ゲスト自分史	ゲストの人生体験を聞く
12	未来予想図	自分の未来を考える
13	夢大会 2回目	夢を語り合う
14	発表	テーマ発表
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：囲碁セットとテキスト 1,000円

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇必要な場合、その都度伝える。

【その他の注意事項】

◇グループワークが基本で段階を追って構成しているプログラムです。

グループメンバーに迷惑をかけないためにも、遅刻や欠席は極力しないようにお願いします。止むを得ず欠席の場合は事前連絡をしてください。

経営学特講Ⅲ 【電通寄付講座】 イベント先端戦略	オオヤマ トシエイ 大山 利栄
Special Lecture on Management III	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

2019ラグビーW杯、東京2020オリンピック・パラリンピック大会、ワールドマスタースゲームズ2021関西など、全世界が注目するスポーツイベントが日本国内で開催されます。日本が全世界から注目され、訪日外国人も増加するなか、イベントは日本のあらゆるチカラを全世界にアピールする最高の機会になります。

スマホやネットが前提の社会になるなか、「Moment of Truth」＝イベントが本来持つ力に、注目が集まっており、その最前線で多様なイベントを企画プロデュースしている電通グループのメンバーが「イベントとは何か」「どんなイベントがあるのか」「どうつくるのか」という基礎的内容から、テクノロジーで進化している最先端事例まで、実体験に基づいたイベントの現在と未来を講義します。

講師は電通、電通ライブより、孫生京、武田淳一郎ほか5～6名がオムニバスで努めます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントの本質・目的と企画戦略	設問に対する回答によって評価。イベントの本質や目的、戦略的なきかかについて理解し、それぞれの形態ごとについて答えられること。	20%
イベント実施、演出、運営とテクノロジー融合の理解	設問に対する回答によって評価。イベントの実施・運営や演出などに加え、それらを取り巻くテクノロジーについて理解すること。	20%
国、グローバル、スポーツなど大型プロジェクト型イベントの実態	設問に対する回答によって評価。国家が行う大規模プロジェクトやグローバルに行われるスポーツイベントなどの大型イベントについて理解し、その特徴について答えられること。	30%
イベント企画の実際：ワークショップ	実際にイベントの企画をワークショップ形式で立案し、その企画が目的を達成するものであるか、実際に実施が可能かなどを検証し有効的なプランを提案できること。	30%
評価の方法 授業態度30%、成果物（企画書作成など）30%、試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション&イントロダクション	電通にとってのイベントとは。 「Moment of Truth」=イベントが本来持つ力に注目が集まっている
2	イベント概論	イベントの種類と概要、時代毎の役割変遷、進化するイベント、各種法令とコンプライアンス
3	マーケティングにおけるイベント	目的・期待効果／ KPI 設定・効果測定、統合ソリューションにおけるイベントの役割と単体機能
4	イベントのつくり方	イベントを構成する要素の詳細説明 (企画、運営、演出、造作、施工、etc.)
5	イベントのトレンド	社会・経済・技術の変化に伴い生じている最新のトレンド (事例とともに紹介)
6	イベント×テクノロジー	体験装置としてのテクノロジーとマーケティング活用のための IT (事前～本番中～事後のデータ取得・分析まで)
7	ワークショップ①	TBD / イベントを企画する、進行台本を書く、演出プランを考える
8	代表的なイベント具体事例①	TBD / 大型コンテンツ・文化イベント (国際的スポーツイベント、音楽ライブ等)
9	代表的なイベント具体事例②	TBD / 博覧会・展示会 (万博、モーターショー等)
10	代表的なイベント具体事例③	TBD / 販促イベント・PRイベント (新商品発表会、商品体験型イベント等)
11	代表的なイベント具体事例④	TBD / エリアイベント・全国横断イベント (六魂祭、シティマラソン、サンプリング等)
12	代表的なイベント具体事例⑤	TBD / セミナーイベント・インナーイベント (事業フォーラム、周年、事業方針説明会等)
13	代表的なイベント具体事例⑥	TBD / 商業施設イベント・期間限定イベント (オープニング、ポップアップストア等)
14	ワークショップ②	TBD / 想定クライアントの競合プレゼン演習 事前オリエンを行った上で、複数チームによる競合プレゼンを行い、勝利チーム選定および講評
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇各テーマごとに必要に応じて用意します。

【履修条件等】

◇2020東京大会に興味を持っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースなど、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営学特講Ⅲ（将棋）	ホリグチ コウジ 堀口 弘治
Special Lecture on Management III	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

将棋のゲームとしての面白さ・奥深さはもちろん、伝統文化としての位置付けとして、世界における日本、日本文化自体を興味深く紹介していきます。

また将棋は次の一手を誰にも頼らず盤面の情報処理をして、自分なりに結論を出していくプロセスの連続です。対局の実技のみならず、授業全般にわたっても「自分の頭で考える」をテーマに展開していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
実技（主に対局）に集中することによりじっくり考える楽しみを知る	受講者同士の対戦を基に評価 受講当初より、どれくらい将棋に対する理解度が高まったか。	30%
課題やレポートに取り組み、自分が納得するまで考える力を養う	将棋関連のテーマに対する受講者のレポートの内容や詰将棋・将棋パズル等の課題への理解がどれだけ行われたか。	20%
各カリキュラムの理解度を問う	最終のテストで確認する	20%
評価の方法 出席100%を前提として授業参加度30%、上記の学習内容70%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	駒遊び	五角形の駒で様々な遊び方が創造できることを知る
2	ゴロゴロ将棋	5×6の小さな将棋盤で将棋の基本ルールを説明する
3	将棋とは?	将棋界の基礎知識を習得する
4	駒・盤作り DVD 鑑賞	職人技を鑑賞し、実際に駒に触れ、伝統文化の理解を深める
5	将棋の歴史(1)日本	平安～江戸時代にかけての将棋の歴史を知る
6	将棋の歴史(2)世界	世界のキングハンティングゲームの歴史を知る
7	青空将棋	歩のない激しい将棋でルール習得を促進する
8	スミワケ将棋	彼我の駒の利きを即時認識する能力を養成する
9	寄せ将棋	ゲームの最終目的である、王様を追い詰める技を習得する
10	プロ棋士の礼儀作法	プロ棋士の礼儀作法を学び、正しい駒の扱い方を習得する
11	プロ棋士の考え方	羽生善治の DVD を鑑賞し、プロ棋士の勝負哲学を知る
12	棋譜を取る	将棋を指しながら、自分で棋譜を書く
13	将棋トーナメント	真剣勝負の雰囲気味わい、集中力を高める
14	対局の大盤解説	生徒の代表同士の対局を講師が大盤解説する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇将棋の教科書ならびに各種プリント。

【履修条件等】

◇とくにありませんが、敢えて言えば、初心者程本講座に適しています。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇受講期間中、対面やネット、対局ソフトで対戦をしたり、情報を取得したりするように心がけるようにしてください。

【その他の注意事項】

◇遅刻や欠席には気をつけてください。止むを得ず欠席の場合は事前連絡を必ずしてください。

<p>経営学特講Ⅳ IoT・AI の経営戦略への活用</p>	<p>オカザキ ショウイチ 岡崎 正一</p>
<p>Special Lecture on Management IV</p>	<p>応用科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

経営戦略を考える上で、AI を含む IoT の活用は必須事項となっている。本講義では、IoT システムを構成する技術と導入事例を基に、AI を含む IoT 技術がどのように経営に活用できるのかについて理解する。

講義は、システム事例をもとにビジネスモデルを分析、利用されている技術の理解、最新技術のトレンドなど、演習を通して経営戦略への AI および IoT の活用について理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
IoT 用語の理解	IoT システムの基礎的な仕組みと特徴を説明できるレベル。	30%
IoT システムの構成要素の理解	IoT システム全体が俯瞰でき、システムへの AI 活用の検討ができるレベル。	30%
IoT・AI のビジネスへの展開	IoT・AI をビジネス分野へ展開できるかどうかの検討ができるレベル。	40%
<p>評価の方法 (1) 毎回の出席状況およびレポートによる評価30% (2) 演習問題30% (3) 試験40%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	IoT 概論	IoT・AI 等の動向、産業界の IoT・AI への取り組み状況
2	IoT の仕組み	技術トレンド、システム事例
3	IoT システム構成	標準的な IoT システム構成、データ駆動型モデル、第 4 次産業革命、Society5.0
4	IoT デバイス	センサの種類と活用方法、ロボット・ドローンの現状 プロトタイピング
5	模擬試験(1)	1 回～4 回の模擬試験および問題の解説
6	インターネットの仕組み	インターネットの概要、サービスプロバイダーの役割
7	IoT 通信方式	IoT 通信方式の概要、無線 LAN
8	モバイル環境	モバイル通信、位置情報、ウェアラブルデバイス
9	IoT データ活用	データの活用方法と事例、代表的なデータ分析手法
10	AI でできること	機械学習／深層学習、AI 適用システム事例
11	模擬試験(2)	6 回から10回の模擬試験および問題の解説
12	情報セキュリティ	IoT セキュリティ対策、システムの安全運用
13	ビジネスモデル	IoT プラットフォーム、イノベーション
14	IoT エコシステム	IoT サービスプラットフォーム、IoT システム事例
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する。

【使用教材】

- ◇教科書：とくになし。
- ◇参考書：授業時に指示する。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇その都度指示する。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

経営学特講Ⅳ 現代の産業と企業戦略	ハヤシ タクジ 林 倬史
Special Lecture on Management IV	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

大手企業の経営に実際に携わってきた方々による「業界における競争環境の変化」、「企業組織」、「職務内容」、「必要な職務上の能力」等々について具体的に解説し、学生諸君との質疑応答を通してビジネスマンとして要求される諸知識を習得していく。

講義は、総合商社・自動車・小売り・食品・飲料・精密・建設機械・ホテル・航空業界大手企業の業界構造とビジネスについて言及して解説していく。

【学習の到達目標と評価基準】【授業計画】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
講義で概説する主な日本の業界・産業の構造、競争環境を理解していること	主な業界・産業の構成企業、競争状況、収益状況などの基礎的な知識を理解しているかを評価する。	10%
講義で概説する主な日本の業界・産業の構造・競争環境が国際的な競争環境下において、何が求められているかを理解すること	講義で概説する主な日本企業の業界・産業と主要構成企業が国際的におかれている競争上のポジションを、競争優位性の観点からどの程度理解しているかを評価する。	10%
講義で取り扱った産業の主要企業における、歴史・組織・戦略に関する基本的知識を習得すること	それぞれの講義で扱われた企業の特徴を、歴史・組織・戦略・技術開発力と国際的競争優位性等に関する基本的知識を習得しているかを評価する。	20%
それぞれの講義で説明した産業・企業の特徴を競争環境・産業組織・主要企業の組織・戦略に関する専門知識を習得し、それら産業や企業で要求される職務能力を理解すること	それぞれの講義で説明された業界・企業の特徴を、内外における競争上のポジションの視点からどの程度理解しているか、そしてそれら業界・企業で必要となる職務上の能力はどのようなものかを試験（客観テストの予定）により評価する。	60%
評価の方法	70%以上の出席を前提として試験(客観テストを予定)60%、小テスト20%、出席と授業への参加の程度20%の配分予定。 試験は客観テスト、小テストは論述により基礎的な学習成果を評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	各講義の概要説明	それぞれの講義内容の概説および各担当者の紹介
2	総合商社	総合商社の事業概要と主要企業の特質
3	自動車産業	自動車産業の課題と、主要企業の戦略
4	小売り産業	小売り産業の特質と国際的競争環境
5	イオン社	イオン社の戦略と競争優位性
6	建設機械産業	建設機械産業の事業構造と国際的ポジション
7	コマツ社	コマツ社の事業概要と国際的競争優位性の源泉
8	食品産業	食品産業の事業内容と構成企業の多様性
9	企業とマーケティング戦略	食品事業でとくに必要なマーケティング戦略
10	精密機械産業	精密機械産業の事業概要・構成企業・競争環境
11	キヤノン社	キヤノン社の事業概要と戦略
12	飲料産業	飲料産業の構成企業群と事業の特殊性
13	コカ・コーラ社	コカ・コーラ社の世界戦略と日本コカ・コーラ社
14	航空会社・企業	業界構造と世界的競争環境下における航空会社
15	ホテル産業・企業	観光業界とホテル産業の事業内容

【使用教材】

- ◇教科書：とくになし。
- ◇参考書：配布資料。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に各講義で説明する業界・企業を紹介するので、授業中の質疑に対応できる知識を事前に学習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇この授業はそれぞれの業界の役員経験者による授業となるため、本学学生の業界における評価に直結することになる。したがって、授業態度には十分気をつけ、積極的に討議に参加することは求められる。

簿記技能 I (日商 3 級)	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Bookkeeping I	応用科目／集中／2 単位

【授業概要】

本講義は、2019年度日商簿記3級、6月試験合格を目指す方のための講義です。そのため、「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」の履修が終わっている、もしくはご自身で日商簿記3級の自学を行っている方を対象とします。

本講義では、検定試験特有の問題の解き方、および素早く回答を行うためのテクニック、受講者の苦手とする設問に対する個別指導などを行います。次の点にご注意ください。それは、本講義を受けるだけで検定試験合格ができるわけではないという点です。試験に合格するためには、自分で問題演習をこなす自学の時間が必須です。あくまで、本講義は検定試験全般の補助的な役割として活用してください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
検定試験の各問の傾向を理解する	検定試験の問1から問5までの傾向を理解し、自分の得意分野・不得意分野を明確にする。	10%
仕訳問題に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験を解く上で、範囲内の仕訳が解けないことにはどうにもなりません。しっかりと理解しましょう。	30%
試算表に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験上で配点が高い項目となります。また、検定試験特有の問の出し方があるため、その特徴も理解しましょう。	30%
精算表に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験上で配点が高い項目となります。また、検定試験特有の問の出し方があるため、その特徴も理解しましょう。	30%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、期末試験90%で評価します。 ※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 貢献点は、講師が開発した講義を受講し、講義のいずれかの段階で、講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	問1対策講座	仕訳問題全般で、特に注意が必要な仕訳に関して
2	問2対策講座	補助簿全般の解き方、T字勘定を使った解答法
3	問3対策講座	試算表全般の解き方
4	問4対策講座	伝票などの解き方
5	問5対策講座	精算表および財務諸表問題の解き方
6	問1問題演習	問1問題の演習徹底的にやります
7	問2問題演習	問2問題の演習徹底的にやります
8	問3問題演習	問3問題の演習徹底的にやります
9	問4問題演習	問4問題の演習徹底的にやります
10	問5問題演習	問5問題の演習徹底的にやります
11	過去問演習(1)	過去問は最低3年分はする必要があるので内1回を
12	過去問演習(2)	過去問は最低3年分はする必要があるので内1回を
13	予想問題演習	今回の6月試験に出そうな予想問題を演習
14	検定試験前講座	試験前に各受講者の苦手項目を個別に対応
15	検定試験後解説	今回の検定試験の解説

*授業時間等については、資料配布時にお知らせします。

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、問題演習用の教材は、開講時に指示をします。

◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記3級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇会計の講義全般に言えることですが、復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、PCや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。また、日商簿記3級6月検定試験に合格された方に関しては、成績評価に反映させます。詳しくは、開講時にお知らせします。また、講義はオフィスアワー時間帯（16：30～）に行います。時間帯にご注意ください。

簿記技能Ⅱ（日商2級）	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Bookkeeping II	応用科目／集中／2単位

【授業概要】

本講義は、2019-20年度の日商簿記2級（2月）試験合格を目指す者を対象とし、複式簿記の発展的な内容を整理・確認することを目的とした集中講義である。そのため、「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ」および「工業簿記Ⅱ」の履修が終了している、もしくは自身で日商簿記2級受験に向けた学習をすでに行っている必要がある。

簿記検定に合格するためには検定特有の問題の解き方が必要となるため、本講義では検定の解答のテクニックも含め、検定試験の各問の傾向を理解し、検定試験の問題に慣れることを目的としている。受講者の苦手な設問に対し個別指導などを行うが、本講義を受けるだけで検定試験に合格できるわけではないという点には注意が必要である。あくまで、本講義は2級の範囲全般にわたる内容の確認をテーマとしており、検定試験の補助的な役割として活用されるものである。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
検定試験の各問の傾向を理解する	検定試験の問1から問5までの傾向を理解し、自分の得意分野・不得意分野を明確にする。	10%
仕訳問題に関して理解すること	設問に対する回答によって評価 試験範囲の仕訳は確実に解けるように、しっかり理解することが必要。	30%
原価計算に関して理解すること	設問に対する回答によって評価 原価計算の仕組みを理解し、計算に慣れる。	30%
精算表等に関して理解すること	設問に対する回答によって評価	30%
<p>評価の方法 全講義回数数の3分の2以上の出席を前提として、授業への貢献度20%、期末試験80%にて総合的に判断。 ※期末試験に関しては授業中に説明をする。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および評価方法の説明、2級の概要（30分）
2	問1 対策講座(1)	問1のポイント<商業簿記の仕訳全般>（120分）
3	問1 対策講座(2)	演習と解説（120分）
4	問2 対策講座(1)	問2のポイント<特殊仕訳帳、伝票会計など>（120分）
5	問2 対策講座(2)	演習と解説（120分）
6	問3 対策講座(1)	問3のポイント<精算表、本支店会計など>（120分）
7	問3 対策講座(2)	演習と解説（120分）
8	問4 対策講座(1)	問4のポイント<費目別計算・部門別計算など>（120分）
9	問4 対策講座(2)	演習と解説（120分）
10	問5 対策講座(1)	問5のポイント<総合原価計算・標準原価計算など>（120分）
11	問5 対策講座(2)	演習と解説（120分）
12	まとめと総復習	総合演習（120分）

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

◇開講時に指示する。

【履修条件等】

◇以下の条件を満たしていること。

- ①日商簿記検定3級の資格を取得していること。
- ②「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ」および「工業簿記Ⅱ」をすでに履修済み、もしくは日商簿記2級レベルの商業簿記・工業簿記の知識を事前に得ていること（まったく知識のないままの受講はできない）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。毎回の復習に力点を置くことが望ましい。

【その他の注意事項】

◇受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

◇本講義は集中講義につき、開講日程および時間帯については別途掲示する。



東京富士大学

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-1

入 試 広 報 部 TEL 03-3368-0351

キ ャ リ ア 支 援 部 TEL 03-3362-8479

学 生 支 援 部

学生支援担当 TEL 03-3362-2252

留学生担当 TEL 03-3368-1761

学 務 部

学務課 TEL 03-3368-2154

図書館 TEL 03-3368-8826